



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

北翔大学 御中

基礎力測定テスト

PROG 全体傾向報告書 (2021)

2022.03.16
株式会社リアセック

受験日： 2021年6月 ～ 2022年2月

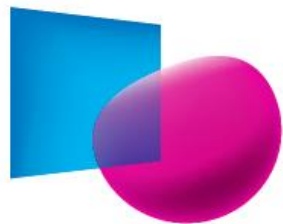
学部	学科	1年	2年	3年	4年	合計
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	201	0	178	0	379
	健康福祉学科	29	0	24	0	53
		230	0	202	0	432
教育文化学部	教育学科	147	0	130	0	277
	芸術学科	39	0	27	0	66
	心理カウンセリング学科	51	0	47	0	98
		237	0	204	0	441
合計		467	0	406	0	873

※リテラシー受験時間45分のところ20分未満で解答終了、または問題数30問のところ解答数が10問以下の118名をリテラシー集計から除外いたしました。

※受験期間内にコンピテンシー全195問を解答していなかった1名をコンピテンシー集計から除外いたしました。
(コンピテンシー受験に時間制限はございません。)
除外対象者の内訳は以下の通りです。

学部	学科	1年	3年	合計
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	28	38	66
	健康福祉学科	3	2	5
教育文化学部	教育学科	3	23	26
	芸術学科	4	8	12
	心理カウンセリング学科	4	6	10
合計		42	77	119

■2021年度貴学受験者873名のリテラシー平均解答時間は34分58秒、リテラシー平均解答数は29.12問です。



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.1

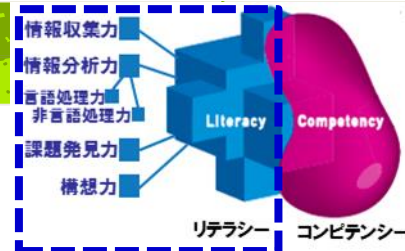
スポーツ教育学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

Generic Skills

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。



凡例 (リテラシー総合)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 低・中位層が多く、平均が基準値より低い
(問題が内在している可能性がある)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立四年制大学全体(体育学系／偏差値45未満)

11校 N=5,761

× 2乗値 有意確率

スポーツ教育学科1年

7.60

0.02

スポーツ教育学科3年

17.00

0.00

【ご参考基準集団】

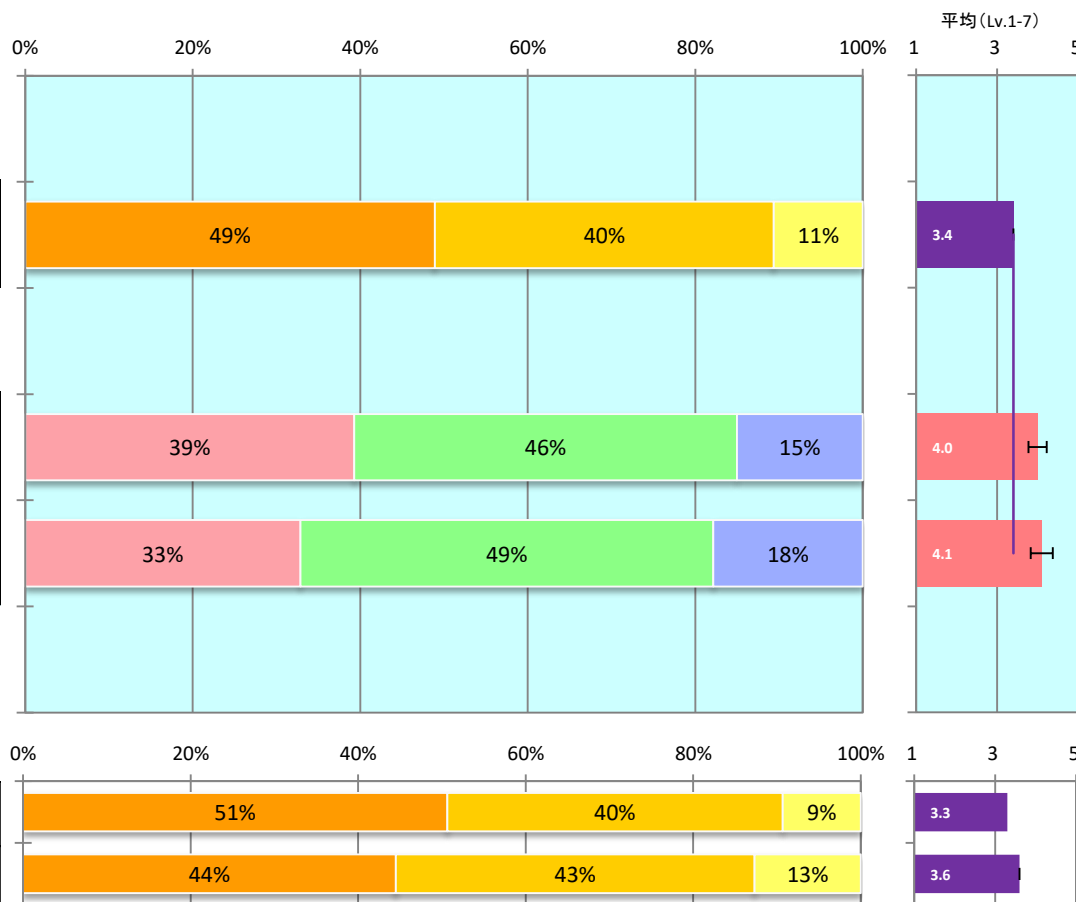
私立四年制大学1年(体育学系／偏差値45未満)

9校 N=3,012

私立四年制大学3年(体育学系／偏差値45未満)

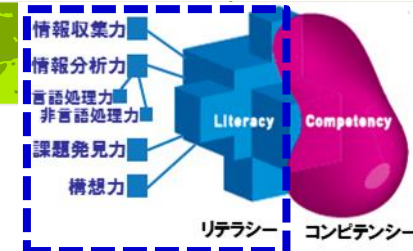
10校 N=2,030

リテラシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向



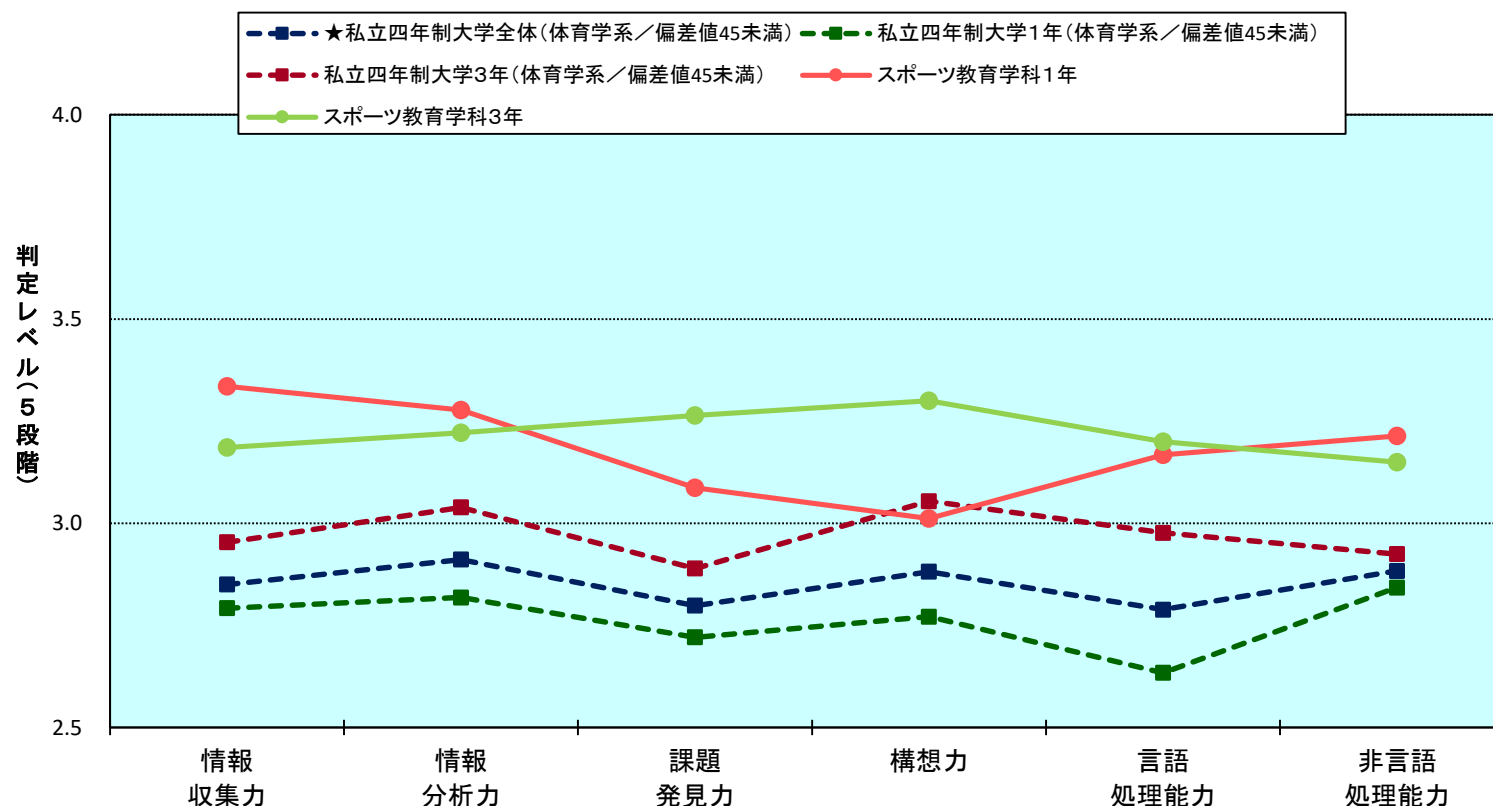
【スポーツ教育学科1年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

【スポーツ教育学科3年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

リテラシー要素



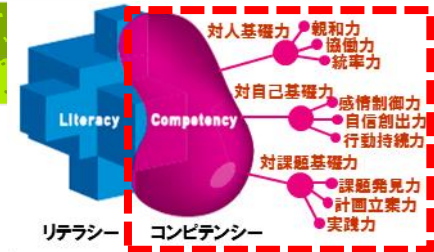
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」



【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）			
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）			
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

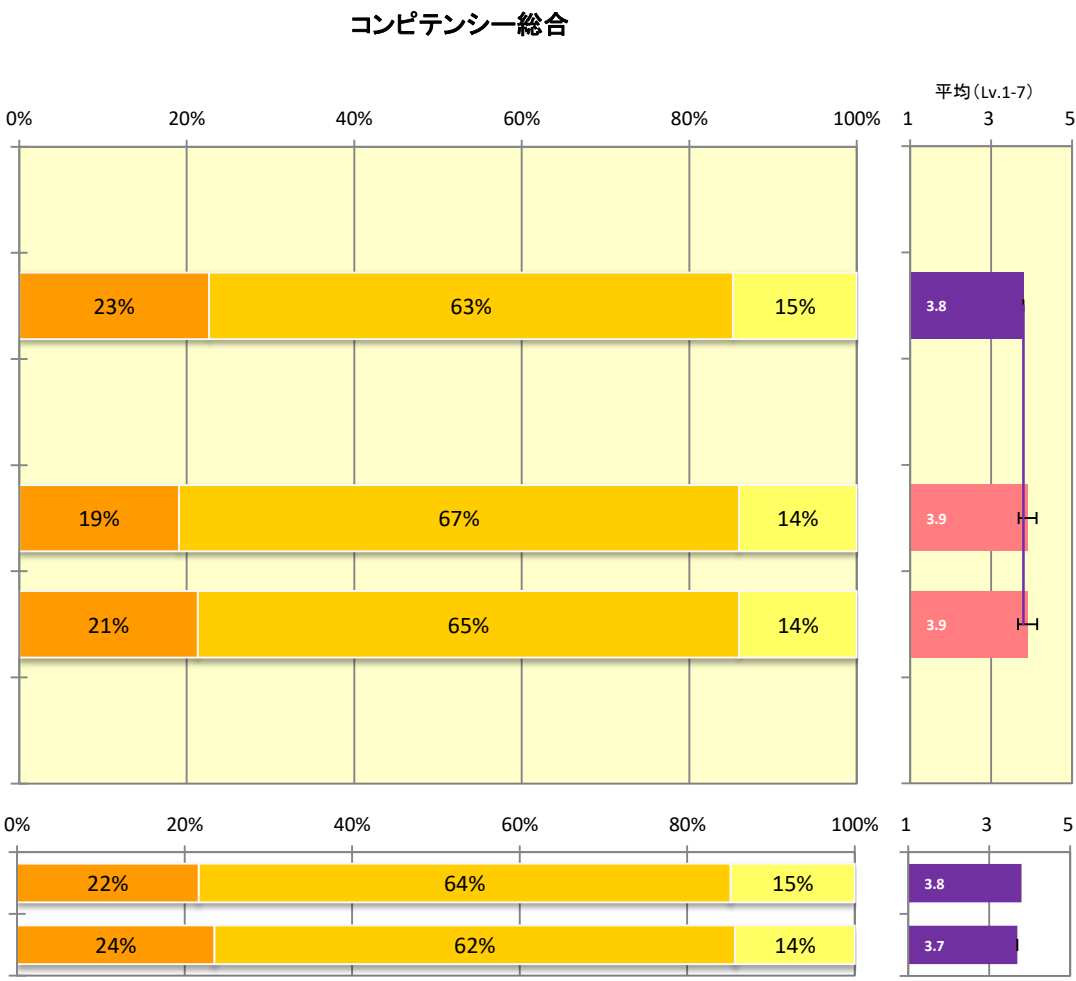
【基準集団】

★私立四年制大学全体(体育学系／偏差値45未満)	13校 N=13,591
--------------------------	--------------

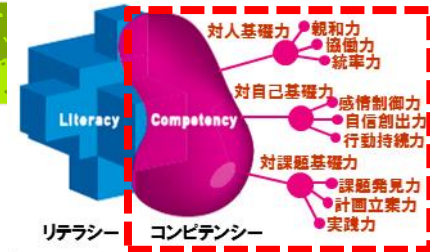
	× 2乗値	有意確率
スポーツ教育学科1年	1.76	0.42
スポーツ教育学科3年	0.31	0.86

【ご参考基準集団】

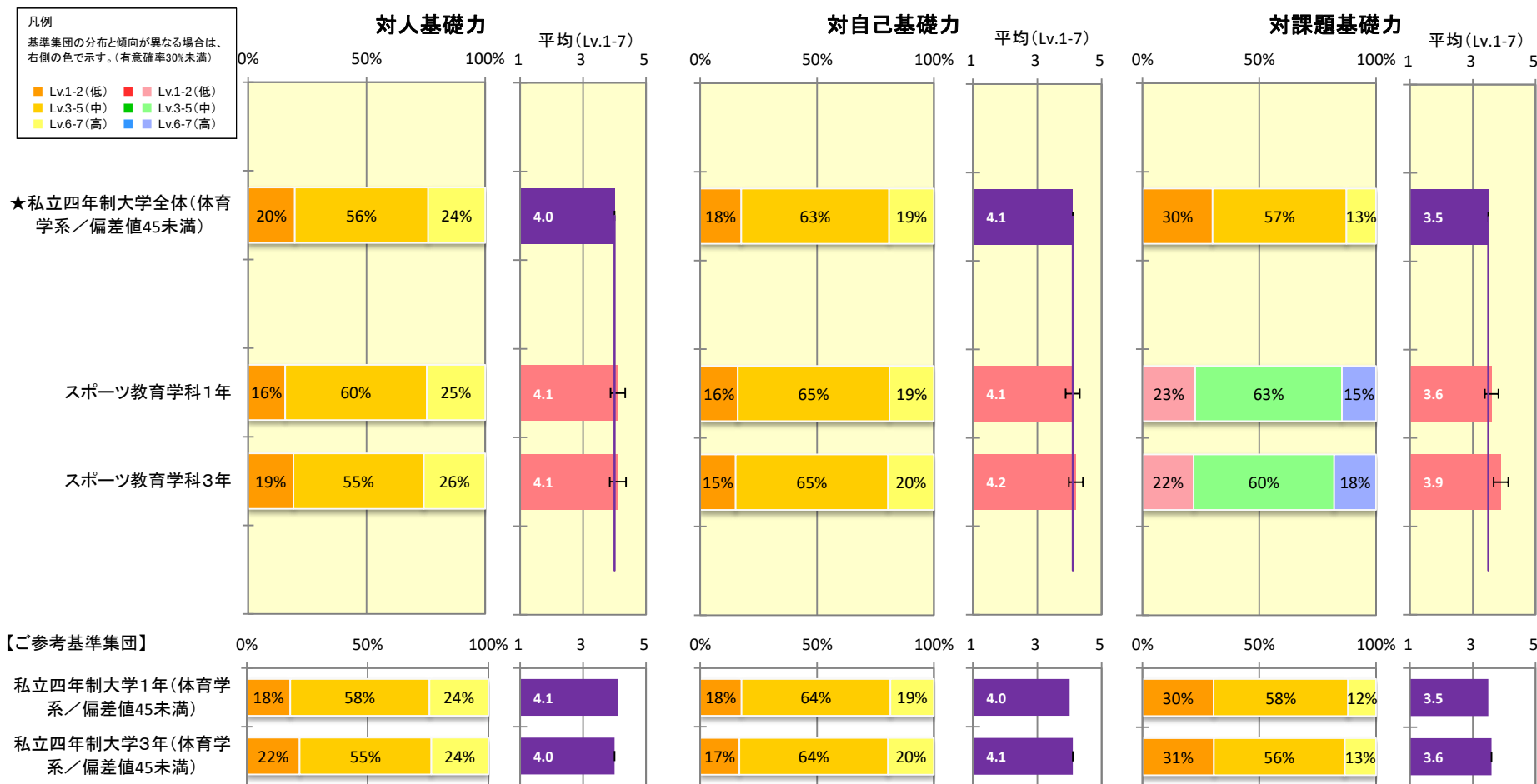
私立四年制大学1年(体育学系／偏差値45未満)	13校 N=7,332
私立四年制大学3年(体育学系／偏差値45未満)	12校 N=4,212

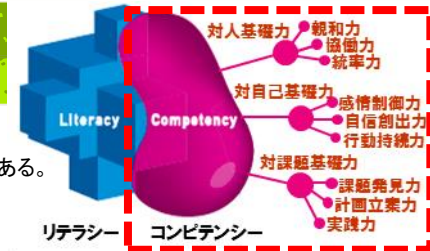


※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
 ※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。



- 【対人基礎力】
●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。
- 【対自己基礎力】
●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。
- 【対課題基礎力】
●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。





【スポーツ教育学科1年】

基準集団(★印)と比較して、協働力、統率力、課題発見力、計画立案力の平均値は高く、親和力、自信創出力、行動持続力、実践力の平均値は上回る傾向にある。

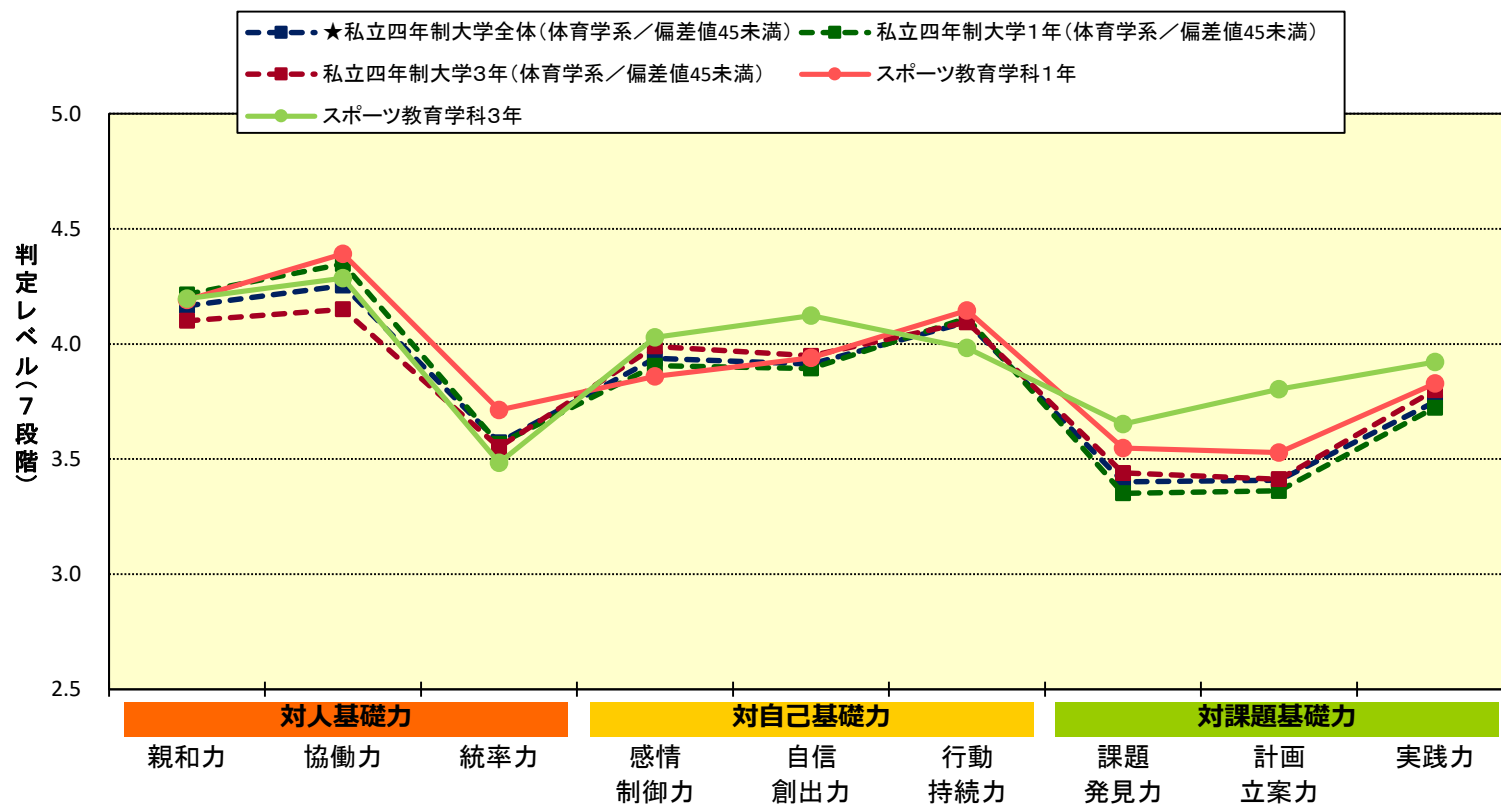
一方、感情制御力の平均値は下回る傾向にある。

【スポーツ教育学科3年】

基準集団(★印)と比較して、自信創出力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は高く、親和力、協働力、感情制御力の平均値は上回る傾向にある。

一方、統率力、行動持続力の平均値は下回る傾向にある。

コンピテンシー中分類要素



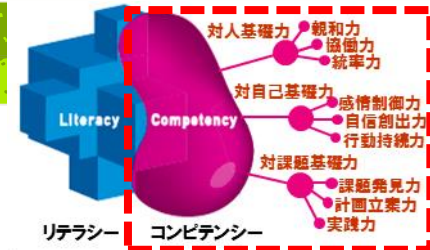
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

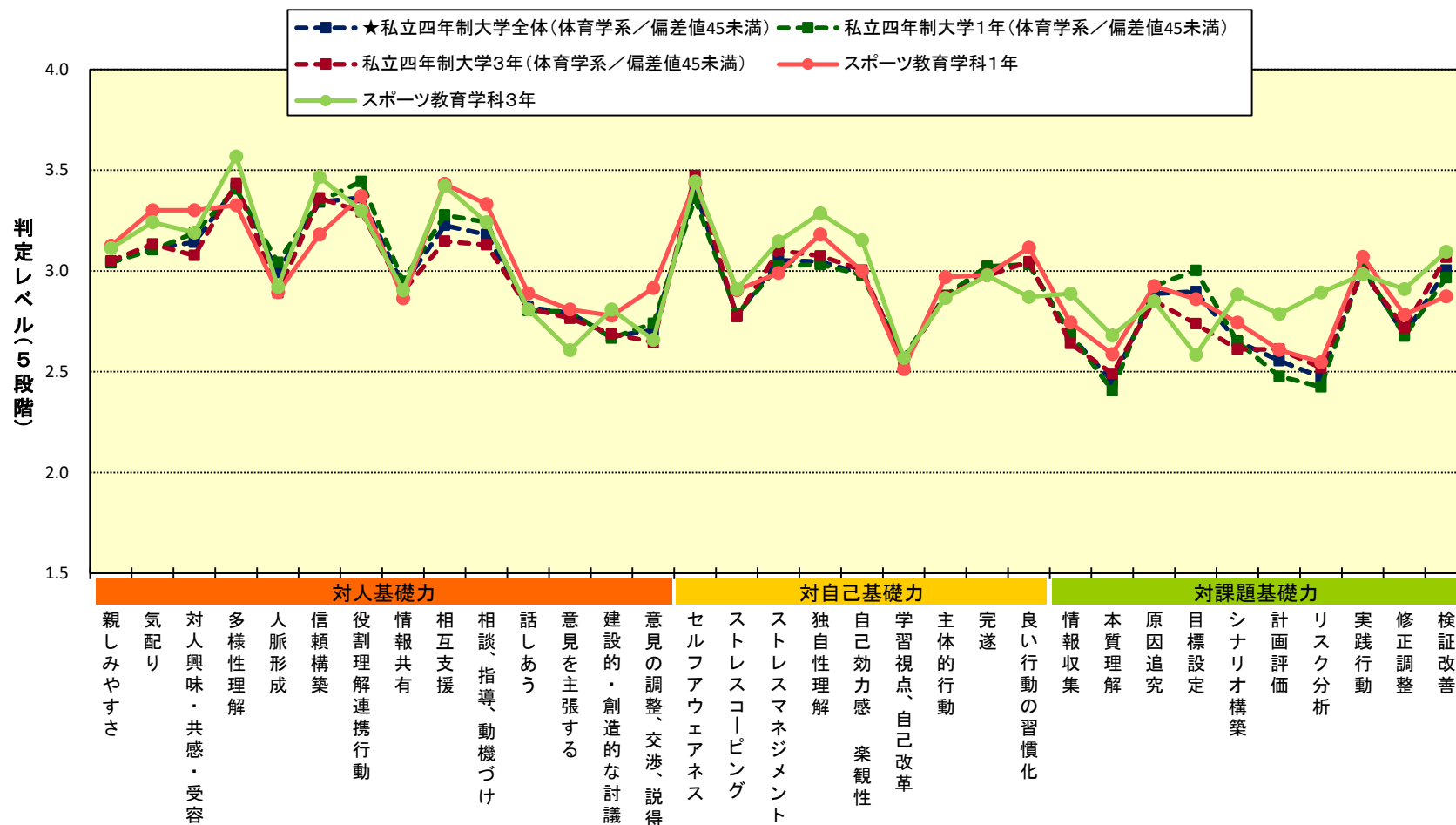
3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」



コンピテンシー小分類要素



	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
スポーツ教育学科 1 年	-	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	◎	-	-	-	◎	◎	-
スポーツ教育学科 3 年	-	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	-	◎	-	◎	◎	◎

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策

【スポーツ教育学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
---------	-------	---------

■リテラシー
基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる

■コンピテンシー

基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる

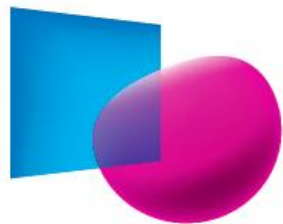
【スポーツ教育学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
---------	-------	---------

■リテラシー
基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる

■コンピテンシー

基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる



PROG

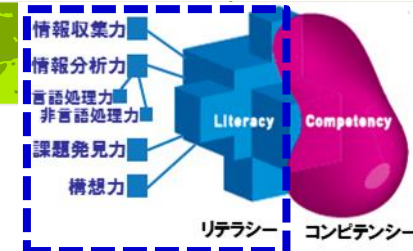
PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.2

健康福祉学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

Generic Skills



【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※健康福祉学科1年、健康福祉学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例 (リテラシー総合)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 低・中位層が多く、平均が基準値より低い
(問題が内在している可能性がある)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立四年制大学全体(福祉学系／偏差値45未満)

8校 N=1,469

× 2乗値 有意確率

健康福祉学科1年

1.27

0.53

健康福祉学科3年

0.36

0.84

【ご参考基準集団】

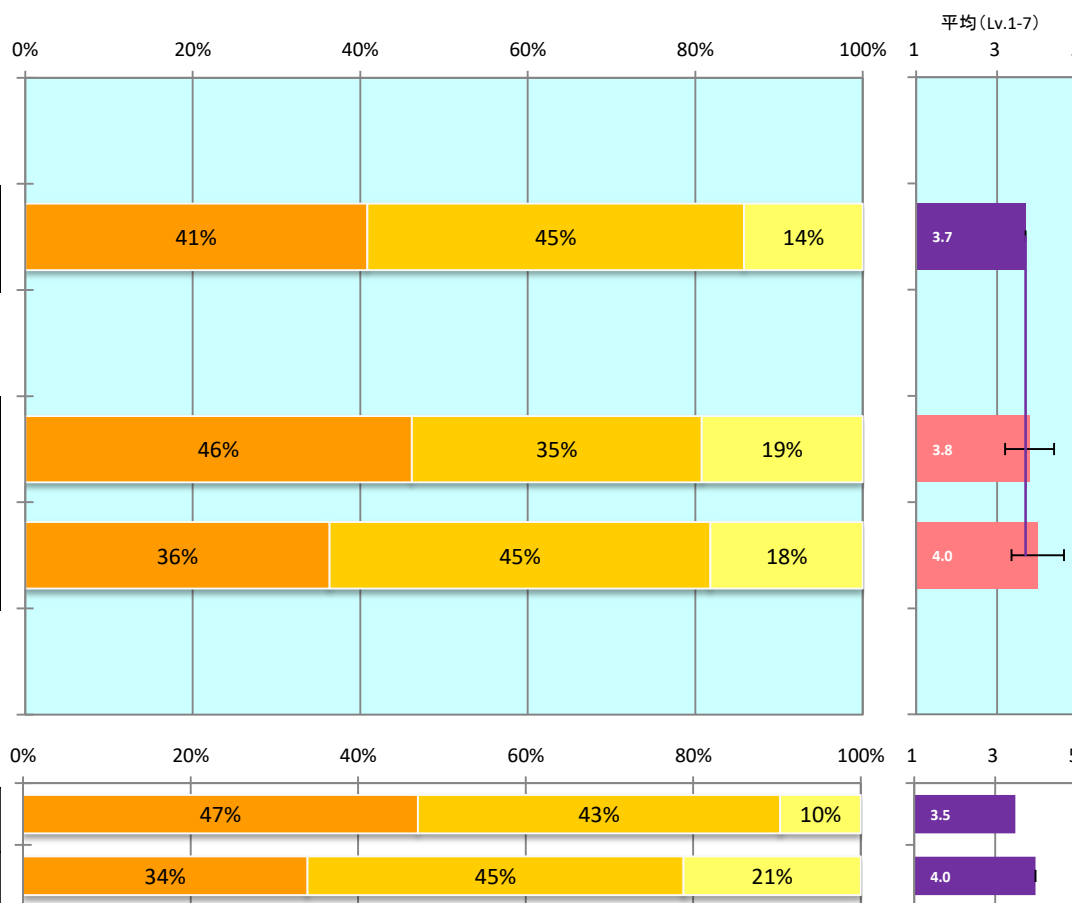
私立四年制大学1年(福祉学系／偏差値45未満)

6校 N=696

私立四年制大学3年(福祉学系／偏差値45未満)

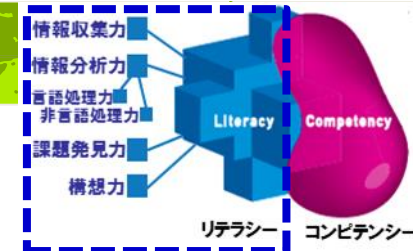
7校 N=430

リテラシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向



【健康福祉学科1年】

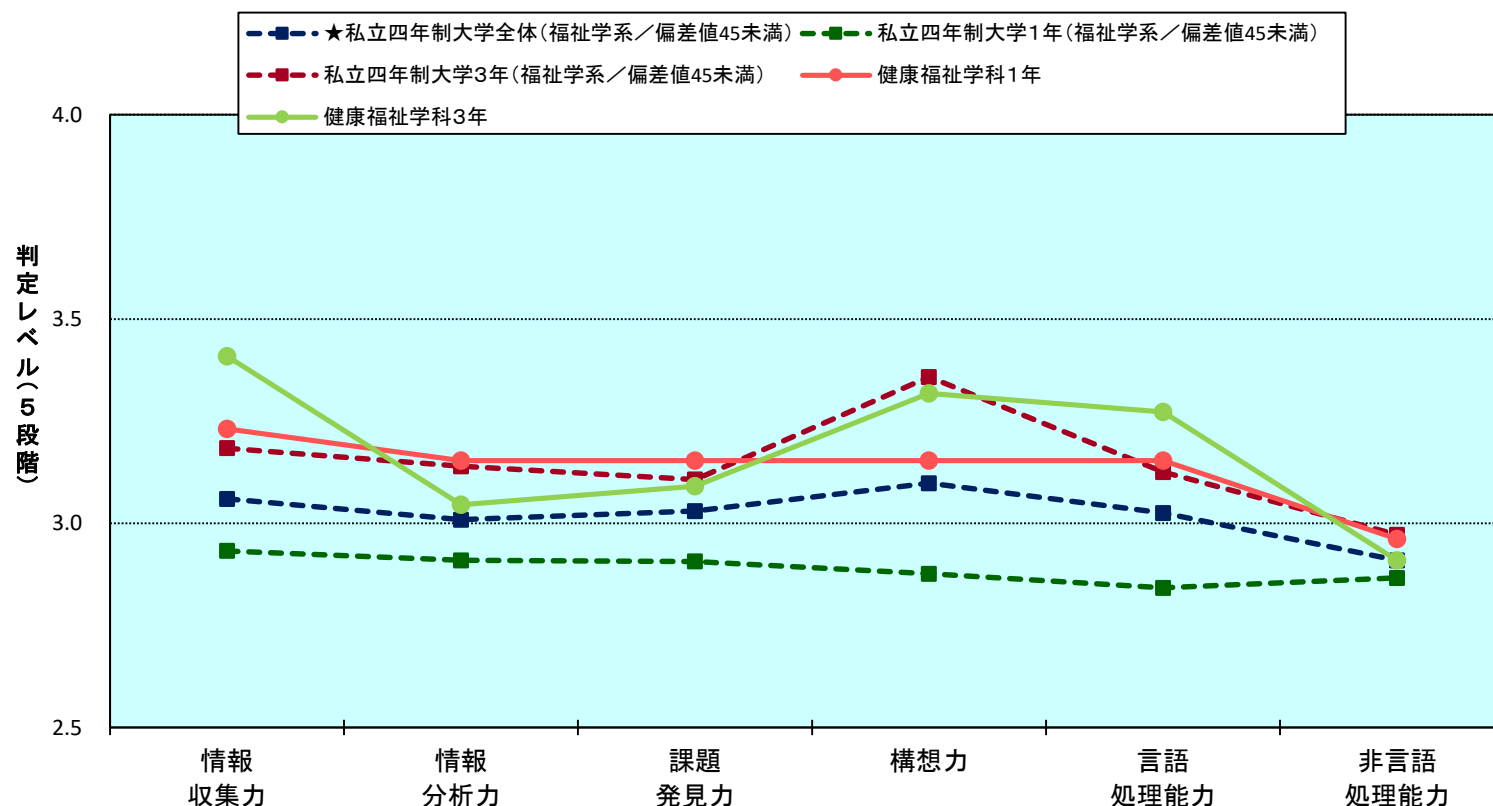
基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。

【健康福祉学科3年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力の平均値は高く、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。

一方、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。

リテラシー要素



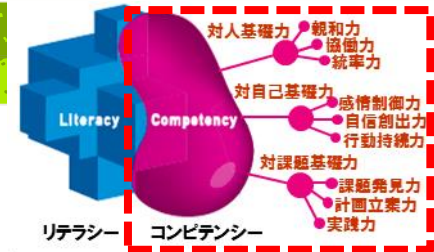
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」



【コンピテンシー総合】

- 基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。
- ※健康福祉学科1年、健康福祉学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）			
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）			
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

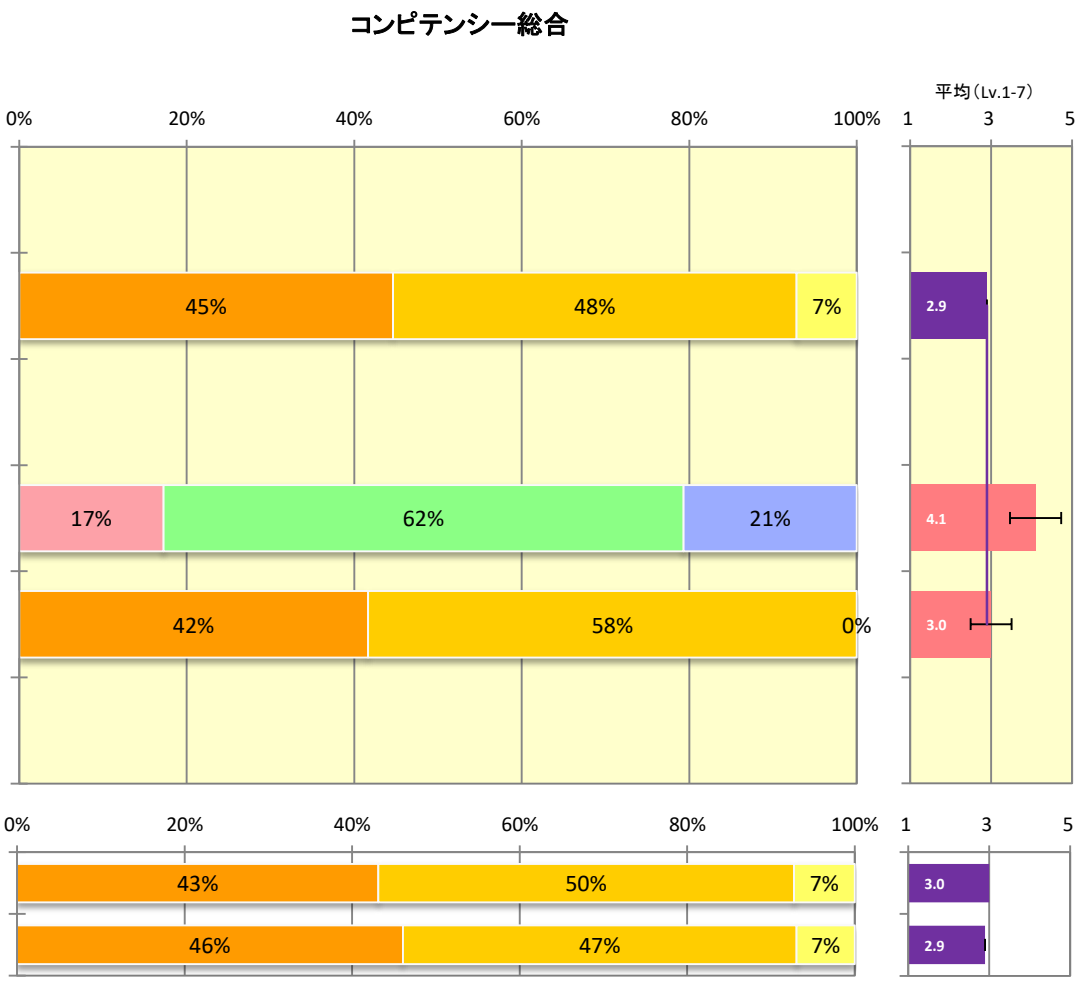
【基準集団】

★私立四年制大学全体(福祉学系／偏差値45未満)	14校 N=5,656
--------------------------	-------------

	χ 2乗値	有意確率
健康福祉学科1年	13.42	0.00
健康福祉学科3年	2.28	0.32

【ご参考基準集団】

私立四年制大学1年(福祉学系／偏差値45未満)	11校 N=2,421
私立四年制大学3年(福祉学系／偏差値45未満)	12校 N=2,545



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差 (SE) × 2を表す。
 ※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー大分類要素 判定レベルに見る全体傾向



【対人基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※健康福祉学科1年、健康福祉学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対自己基礎力】

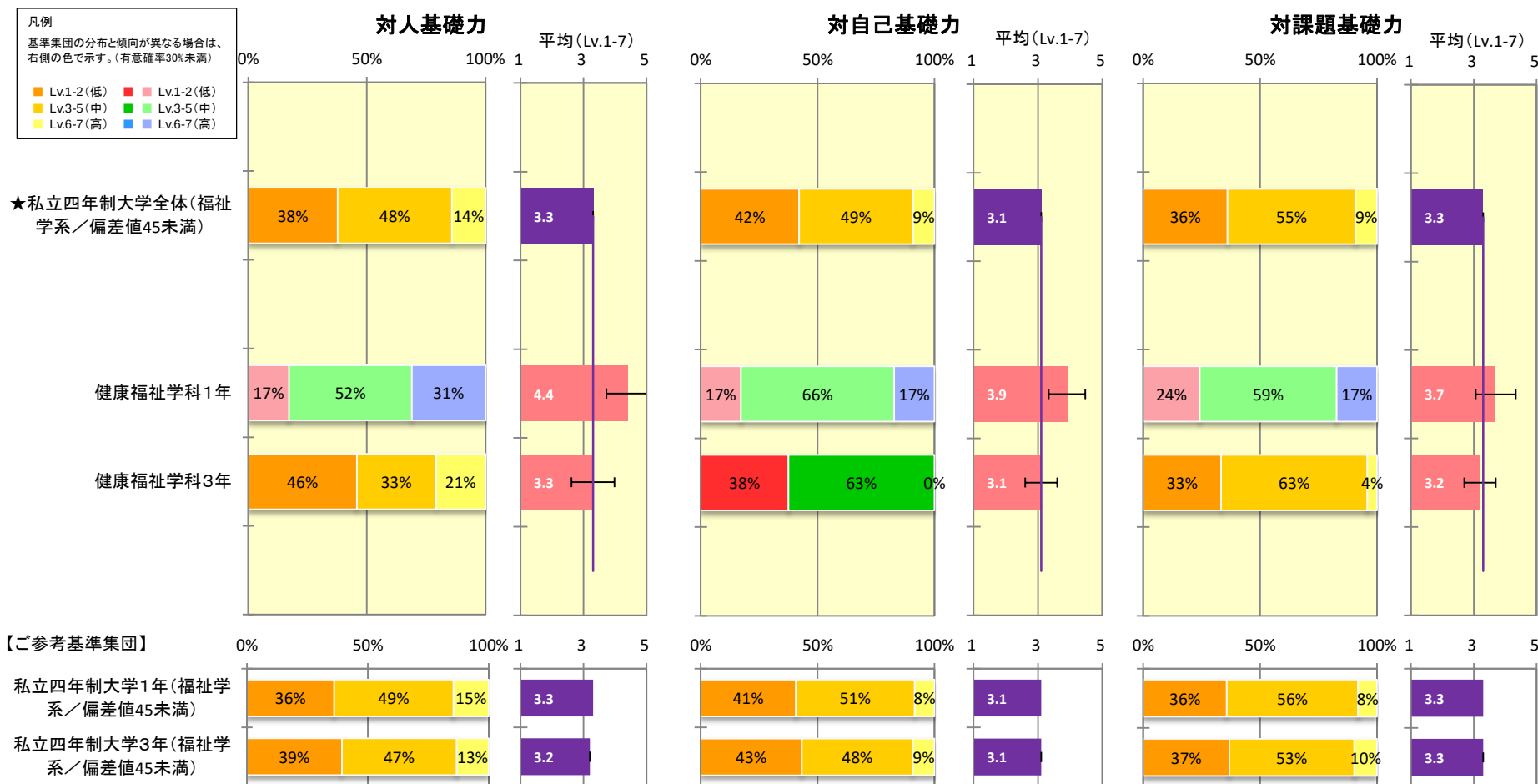
●基準集団(★印)と比較して、健康福祉学科3年は、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる。

※健康福祉学科1年、健康福祉学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

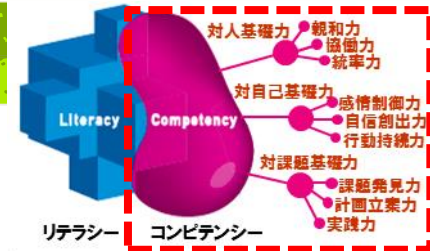
【対課題基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※健康福祉学科1年、健康福祉学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。



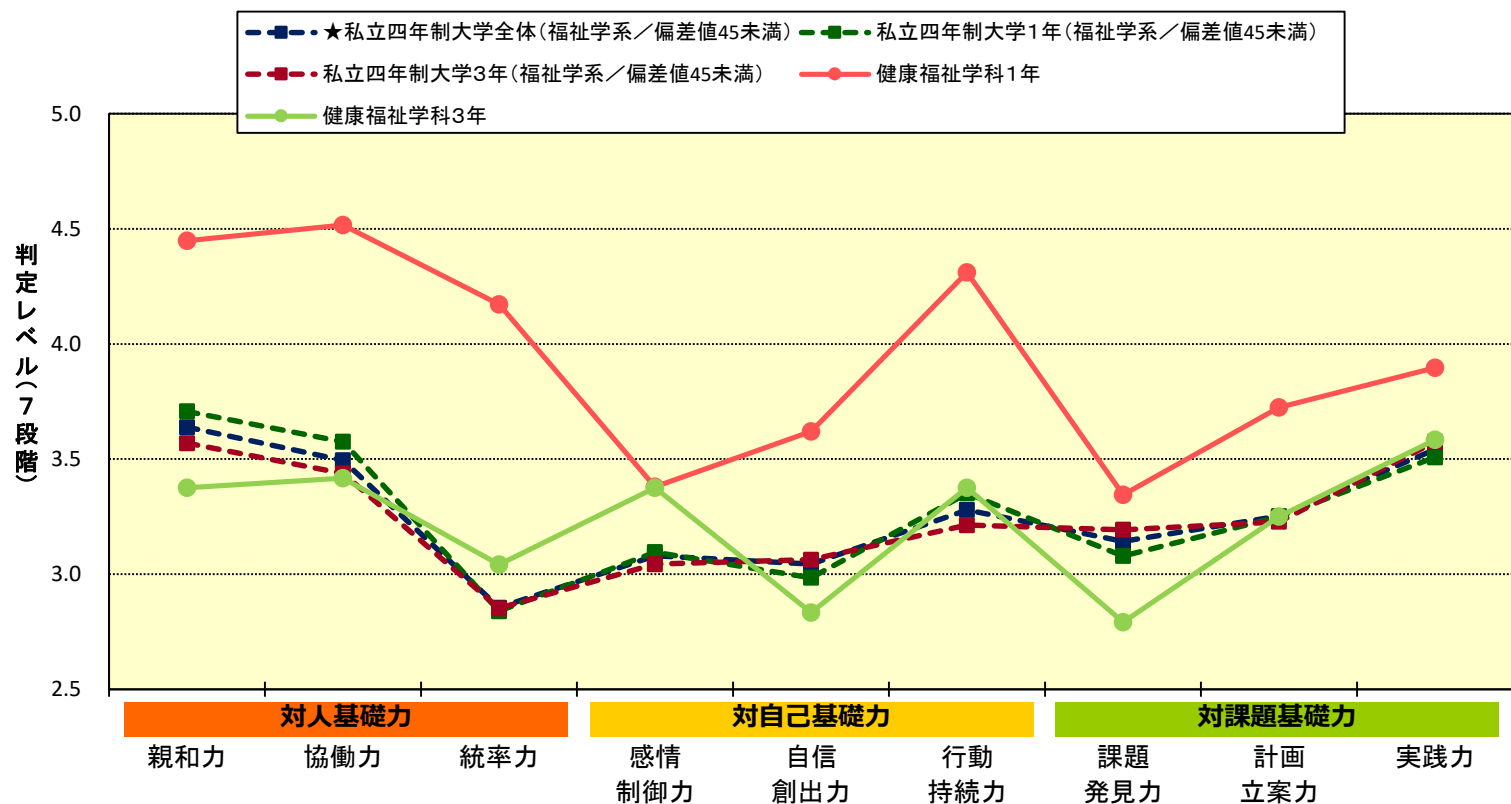
【健康福祉学科1年】

基準集団(★印)と比較して、親和力、協働力、統率力、自信創出力、行動持続力、計画立案力、実践力の平均値は高く、感情制御力、課題発見力の平均値は上回る傾向にある。

【健康福祉学科3年】

基準集団(★印)と比較して、統率力、感情制御力、行動持続力、実践力の平均値は上回る傾向にある。
一方、親和力、協働力、自信創出力、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、課題発見力の平均値は低い。

コンピテンシー中分類要素



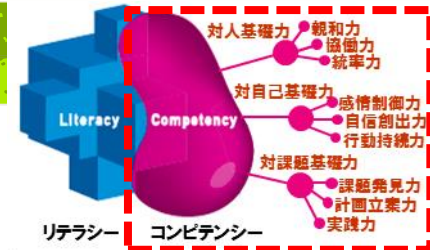
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

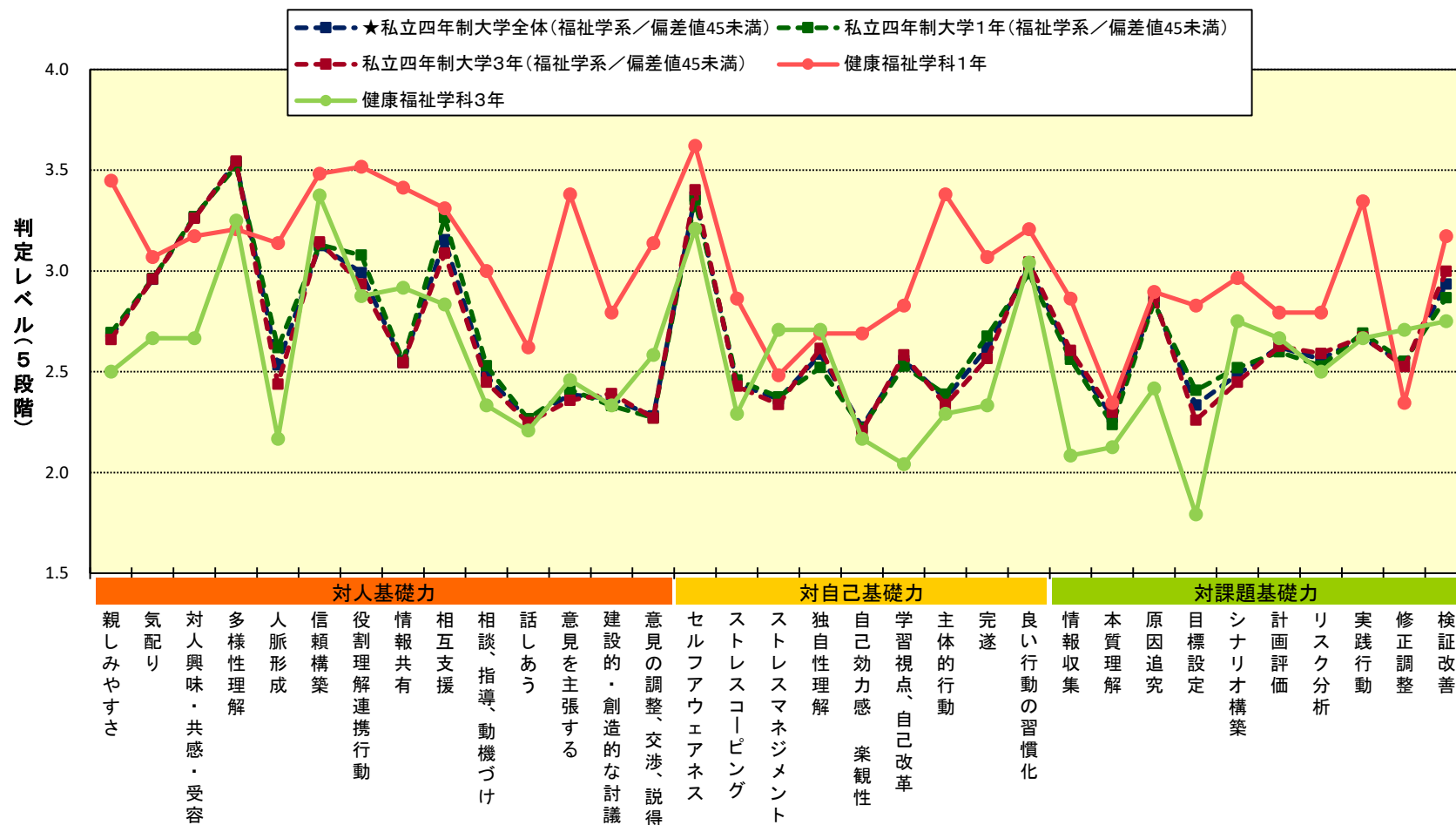
3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」



コンピテンシー小分類要素



	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
健康福祉学科 1 年	-	-	-	-	-	-	◎	◎	◎	-	◎	◎	-	◎	◎
健康福祉学科 3 年	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲	-	-

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

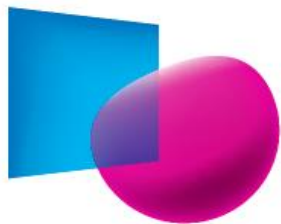
今後の課題と対策

【健康福祉学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

【健康福祉学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●課題発見力	課題に対し自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を客観的に整理しようとする 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理・分析することができる 分析を基に自分なりに因果関係の仮説を立てることができる	様々な情報源を適切に活用できるよう指導する 思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導する 原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導する



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

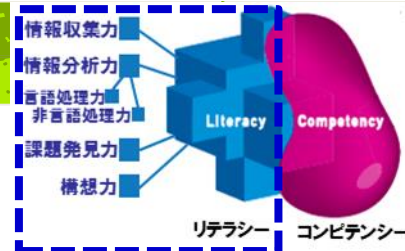
Part.3 教育学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

Generic Skills

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。



凡例 (リテラシー総合)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 低・中位層が多く、平均が基準値より低い
(問題が内在している可能性がある)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立四年制大学全体(教育系／偏差値45未満)

24校 N=10,457

χ²乗値 有意確率

教育学科1年

39.41

0.00

教育学科3年

18.52

0.00

【ご参考基準集団】

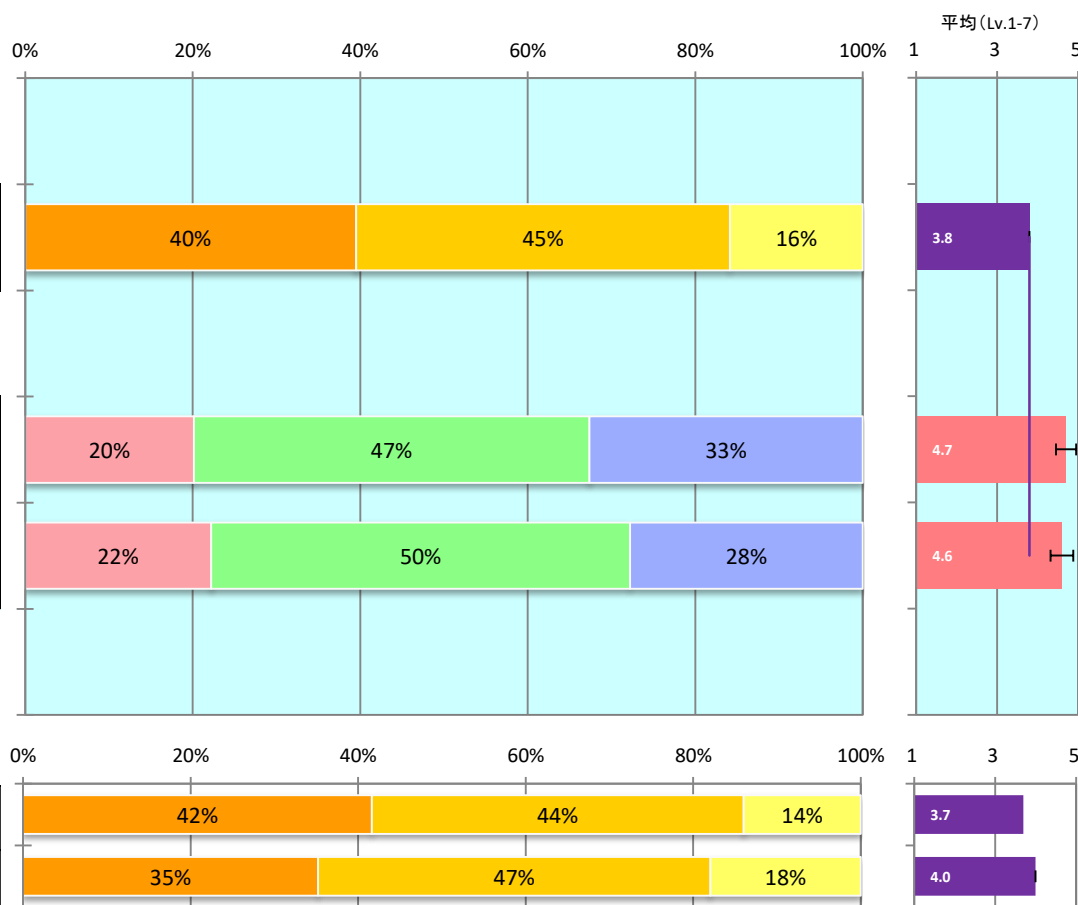
私立四年制大学1年(教育系／偏差値45未満)

19校 N=4,796

私立四年制大学3年(教育系／偏差値45未満)

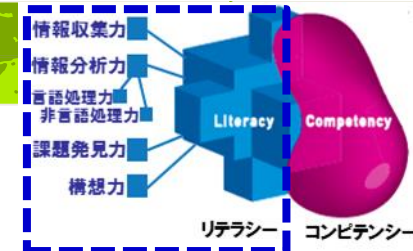
21校 N=4,692

リテラシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向

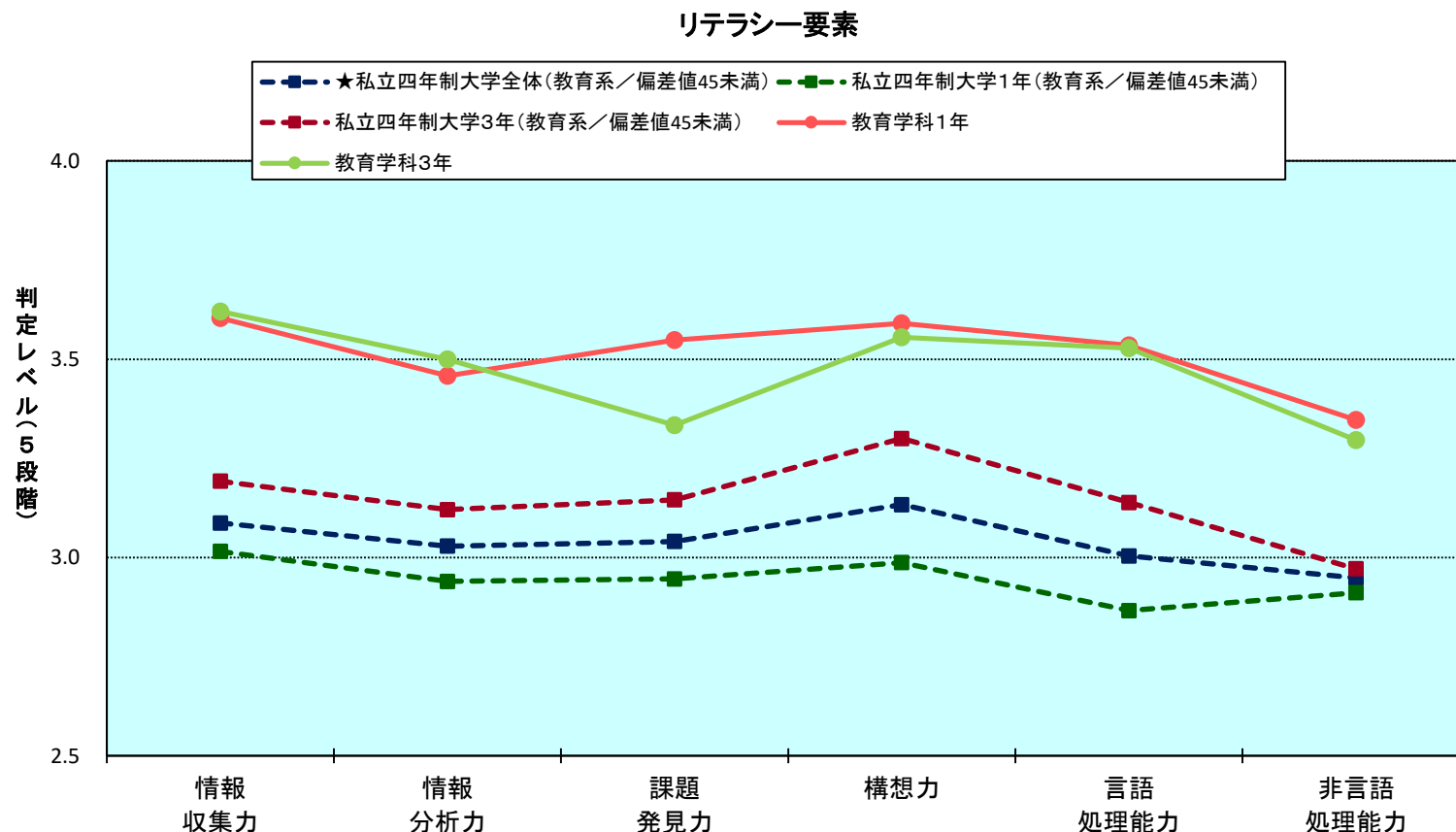


【教育学科1年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

【教育学科3年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。



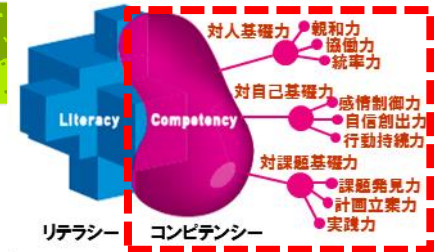
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」



【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、教育学科1年は、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）			
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）			
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

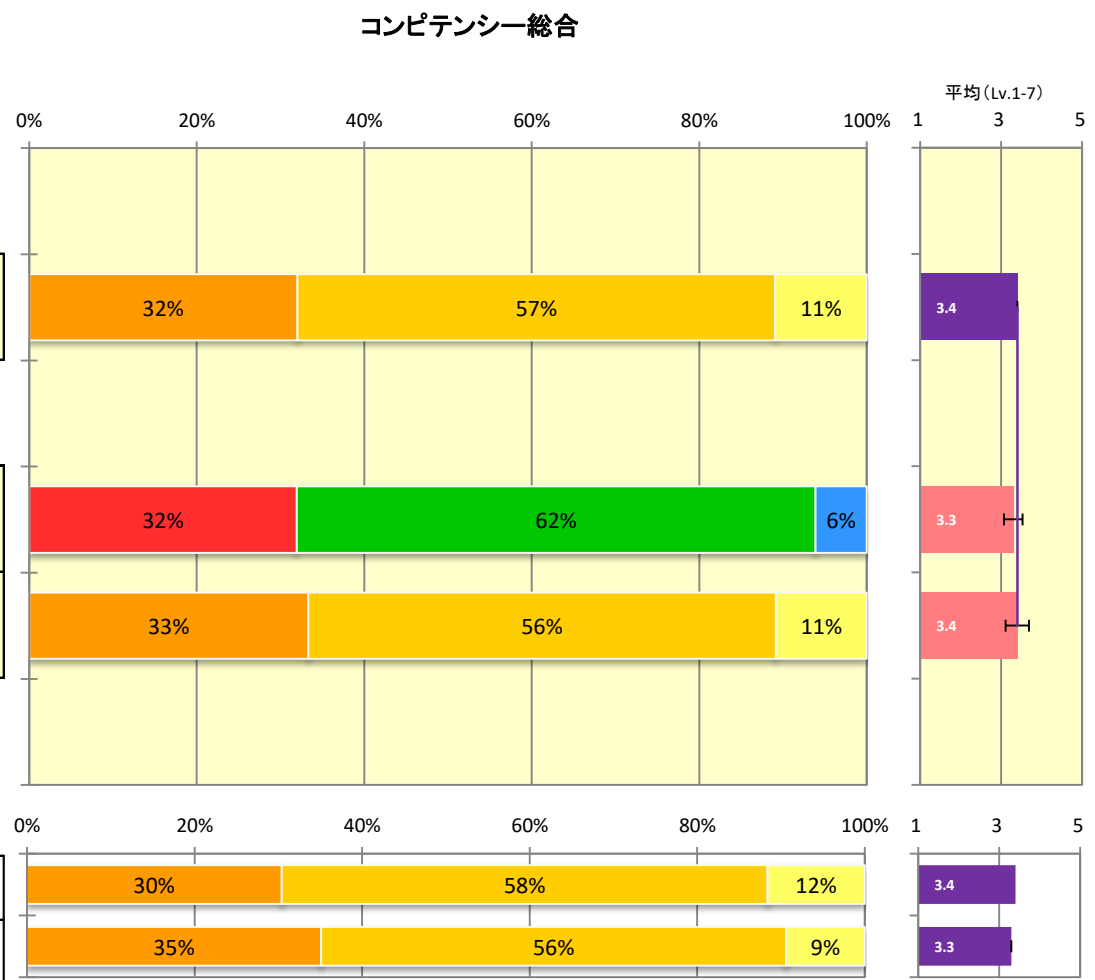
【基準集団】

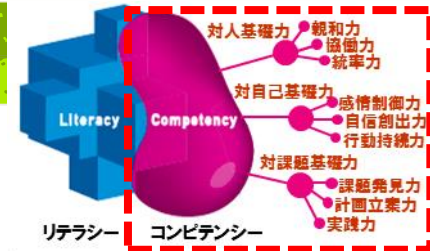
★私立四年制大学全体(教育系／偏差値45未満)	34校 N=26,389
-------------------------	--------------

	χ ² 乗値	有意確率
教育学科1年	3.72	0.16
教育学科3年	0.10	0.95

【ご参考基準集団】

私立四年制大学1年(教育系／偏差値45未満)	28校 N=13,086
私立四年制大学3年(教育系／偏差値45未満)	29校 N=10,605





【対人基礎力】

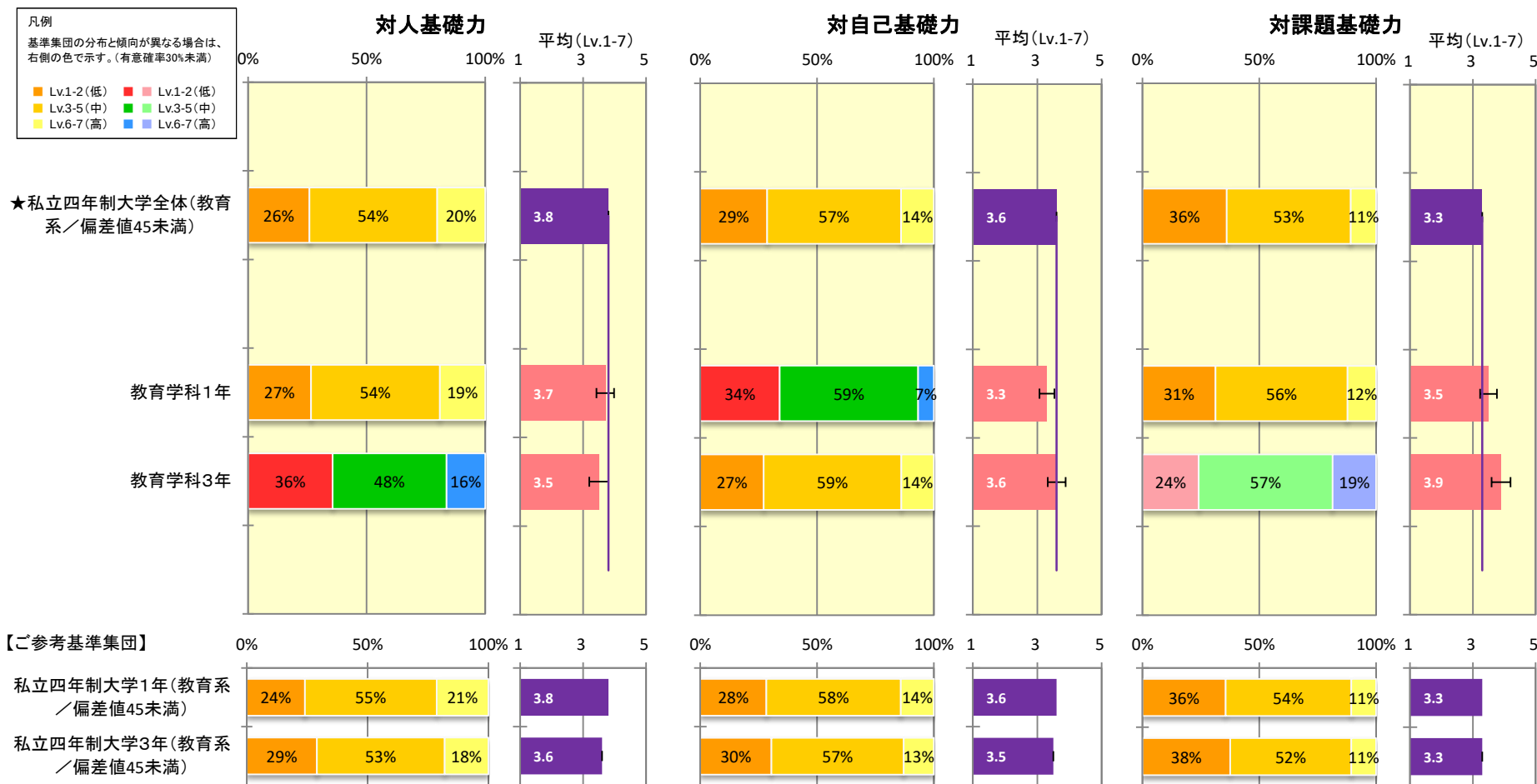
●基準集団(★印)と比較して、教育学科3年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

【対自己基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、教育学科1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

【対課題基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。



【教育学科1年】

基準集団(★印)と比較して、計画立案力、実践力の平均値は高く、親和力、協働力、課題発見力の平均値は上回る傾向にある。

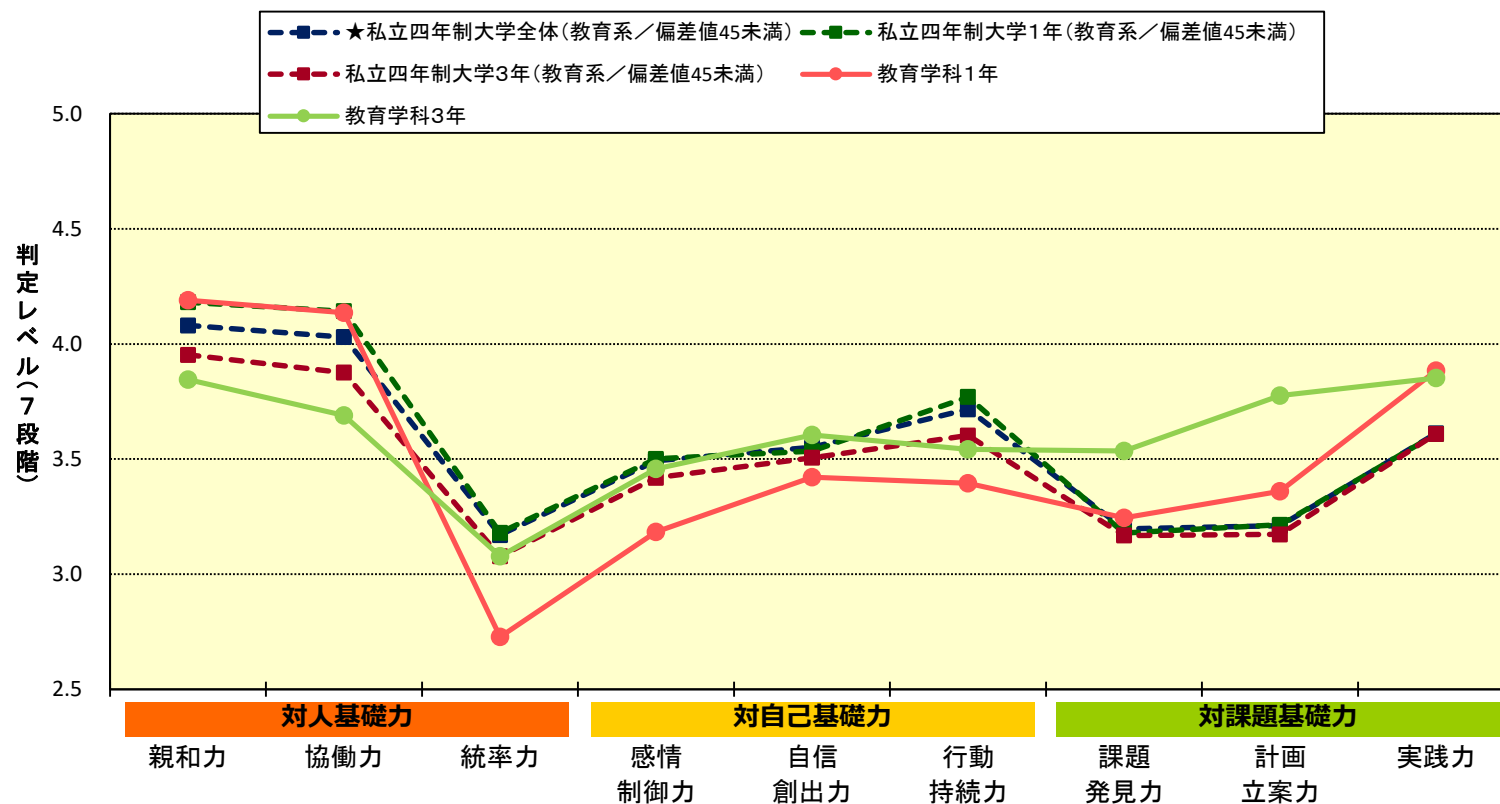
一方、自信創出力の平均値は下回る傾向にあり、統率力、感情制御力、行動持続力の平均値は低い。

【教育学科3年】

基準集団(★印)と比較して、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は高く、自信創出力の平均値は上回る傾向にある。

一方、統率力、感情制御力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、行動持続力の平均値は低い。

コンピテンシー中分類要素



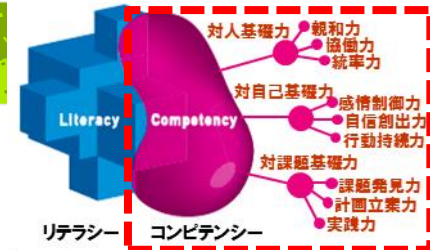
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

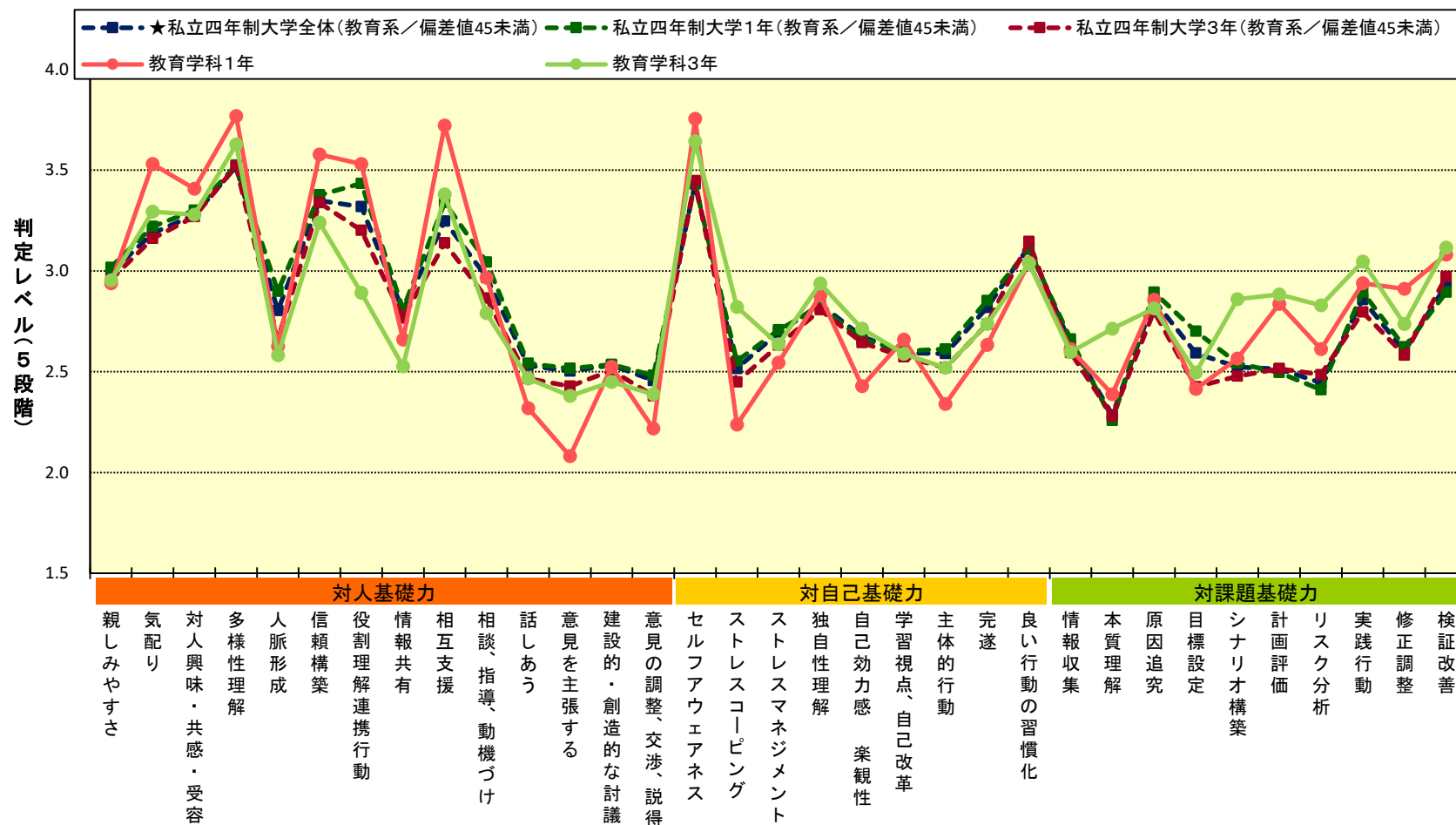
3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」



コンピテンシー小分類要素



	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
教育学科 1 年	-	◎	◎	◎	◎	△	-	-	▲	▲	-	▲	-	◎	◎
教育学科 3 年	-	◎	◎	◎	◎	-	▲	▲	-	-	-	▲	◎	◎	◎

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

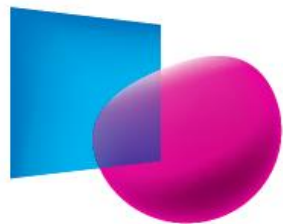
- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

【教育学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
●感情制御力	ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる 難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる 自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を知っている 失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	ストレスやプレッシャーを与えて、その中で結果を出すことを求める 限られた時間の中でも、物事に優先順位を付けて、ベストを尽くすよう指導する 難しい課題に対しても前向きに取り組む、結果を振り返るよう指導する 自分がストレスを感じやすい状況について自覚を促す
●行動持続力	何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移すことができる 取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる 周囲からの期待以上のことを主体的に行うようにしている	人に頼らず自分の意思で判断し、課題に取り組ませるようにする 学習方法などについて、自分なりに良いやり方を見出すよう指導する 授業期間を通じて、一つあるいは複数の課題を成し遂げる経験をさせる 周囲からの期待以上の結果を求める

【教育学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする 誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる 築いた人脈や関係性の維持に努めることができる 人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持することができる	初対面の人たちとも、積極的に関係づくりをさせる機会を設ける 情報交換や、勉強会などを自主的に運営させる 責任ある言動によって、集団の中で信頼を獲得するよう指導する お礼状（お礼メール）など、人脈の維持・管理に関する指導を行う
●協働力	リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる チーム全体のやる気を高めることができる リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる 相互支援や情報を共有しあう環境をつくることができる	他者に教えることで、自分の知識を定着させるような機会を設ける リーダーとして周囲を動かすような機会を設ける リーダーとしてチーム全体のやる気を高めるような機会を設ける
●行動持続力	目標を定め、最後まで諦めずにやり遂げることができる 行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い結果に結びつけることができる 課題には、自分が納得できる結果が出るように、期限ぎりぎりまで粘り強く取り組む 検証と改善を常に繰り返すことを習慣化している	レポートなど、自分の出す成果の質（水準）にほとんど拘わらせる 一度始めたことは、結果がでるまで粘り強く取り組むよう指導する 行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い結果に向かうよう指導する



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.4 芸術学科

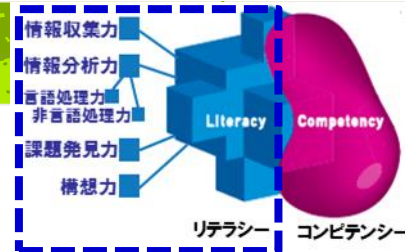
リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

Generic Skills

【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※芸術学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



凡例 (リテラシー総合)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 有意差は認められない

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 低・中位層が多く、平均が基準値より低い
(問題が内在している可能性がある)

低 (Lv.1-3) 中 (Lv.4-5) 高 (Lv.6-7) 中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

★私立四年制大学全体(芸術系／偏差値45未満)

7校 N=1,059

	× 2乗値	有意確率
芸術学科1年	0.26	0.88
芸術学科3年	0.29	0.87

【ご参考基準集団】

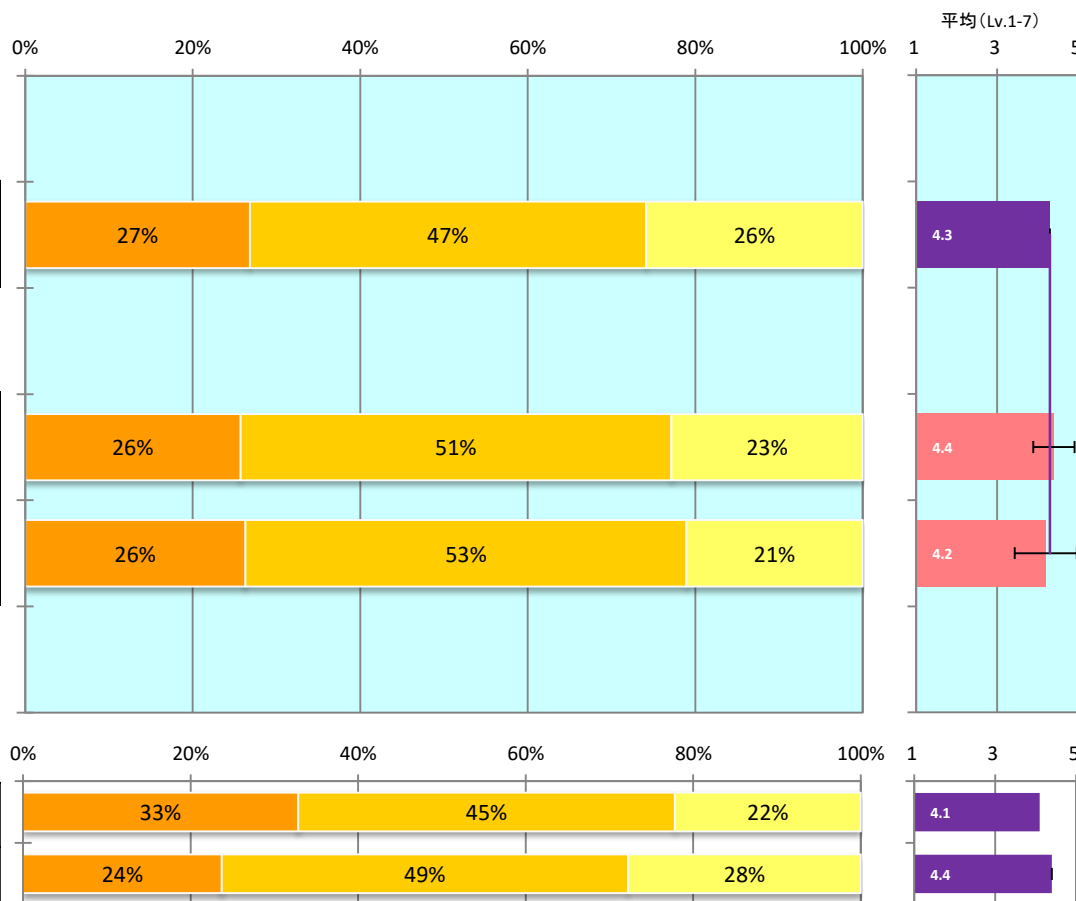
私立四年制大学1年(芸術系／偏差値45未満)

5校 N=338

私立四年制大学3年(芸術系／偏差値45未満)

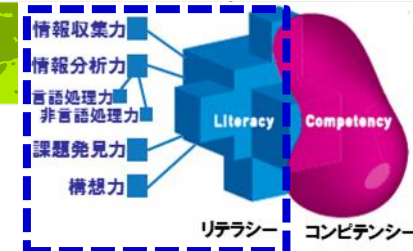
6校 N=713

リテラシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向



【芸術学科1年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、言語処理能力の平均値は高く、情報分析力、構想力の平均値は上回る傾向にある。

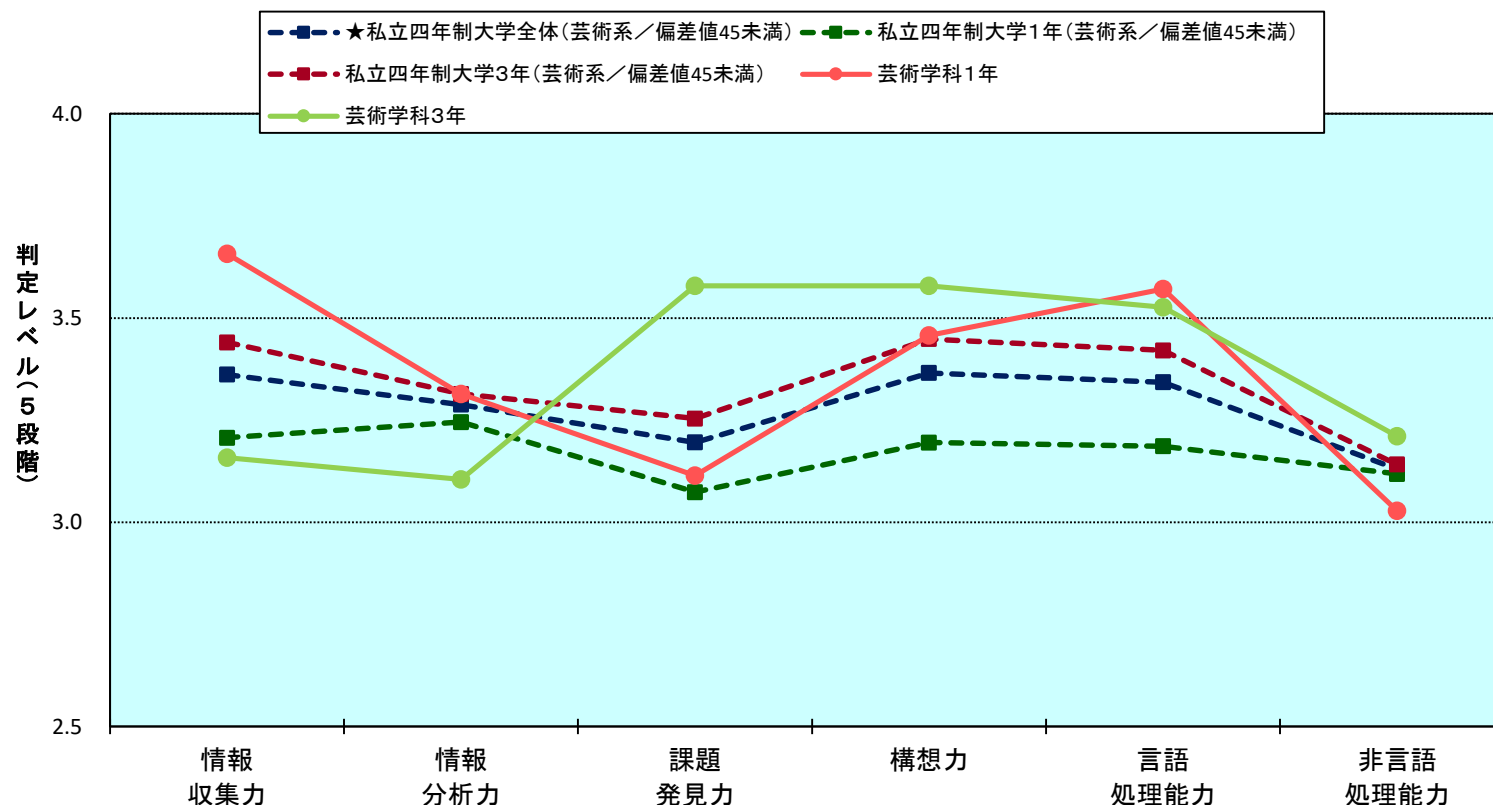
一方、課題発見力、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。

【芸術学科3年】

基準集団(★印)と比較して、課題発見力の平均値は高く、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。

一方、情報収集力、情報分析力の平均値は下回る傾向にある。

リテラシー要素



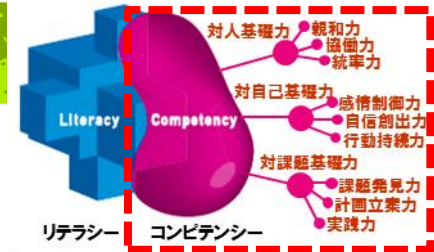
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」



【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※芸術学科1年、芸術学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）			
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）			
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い（問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

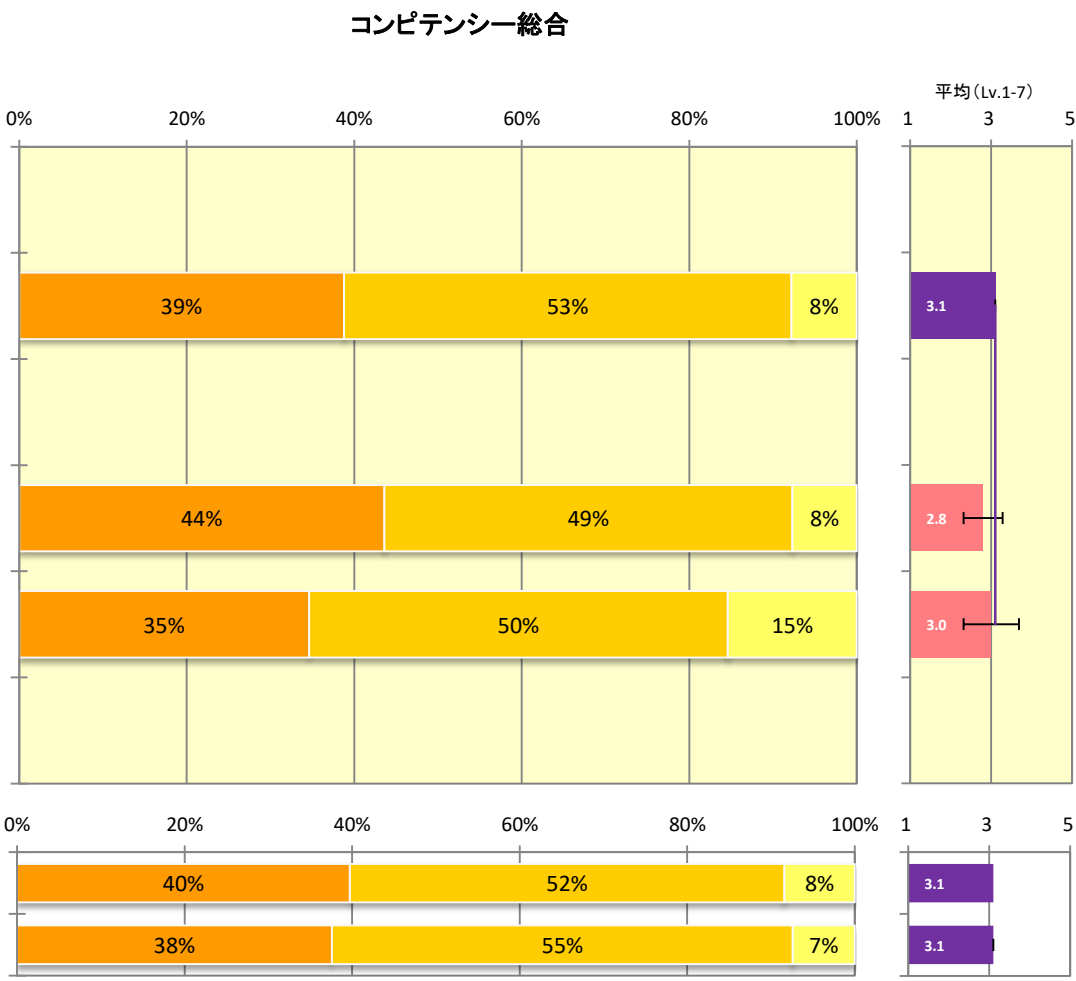
【基準集団】

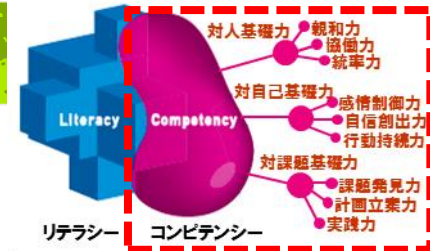
★私立四年制大学全体(芸術系／偏差値45未満)	12校 N=2,700
-------------------------	-------------

	X 2乗値	有意確率
芸術学科1年	0.39	0.82
芸術学科3年	2.08	0.35

【ご参考基準集団】

私立四年制大学1年(芸術系／偏差値45未満)	9校 N=1,343
私立四年制大学3年(芸術系／偏差値45未満)	9校 N=1,295





【対人基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※芸術学科1年、芸術学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対自己基礎力】

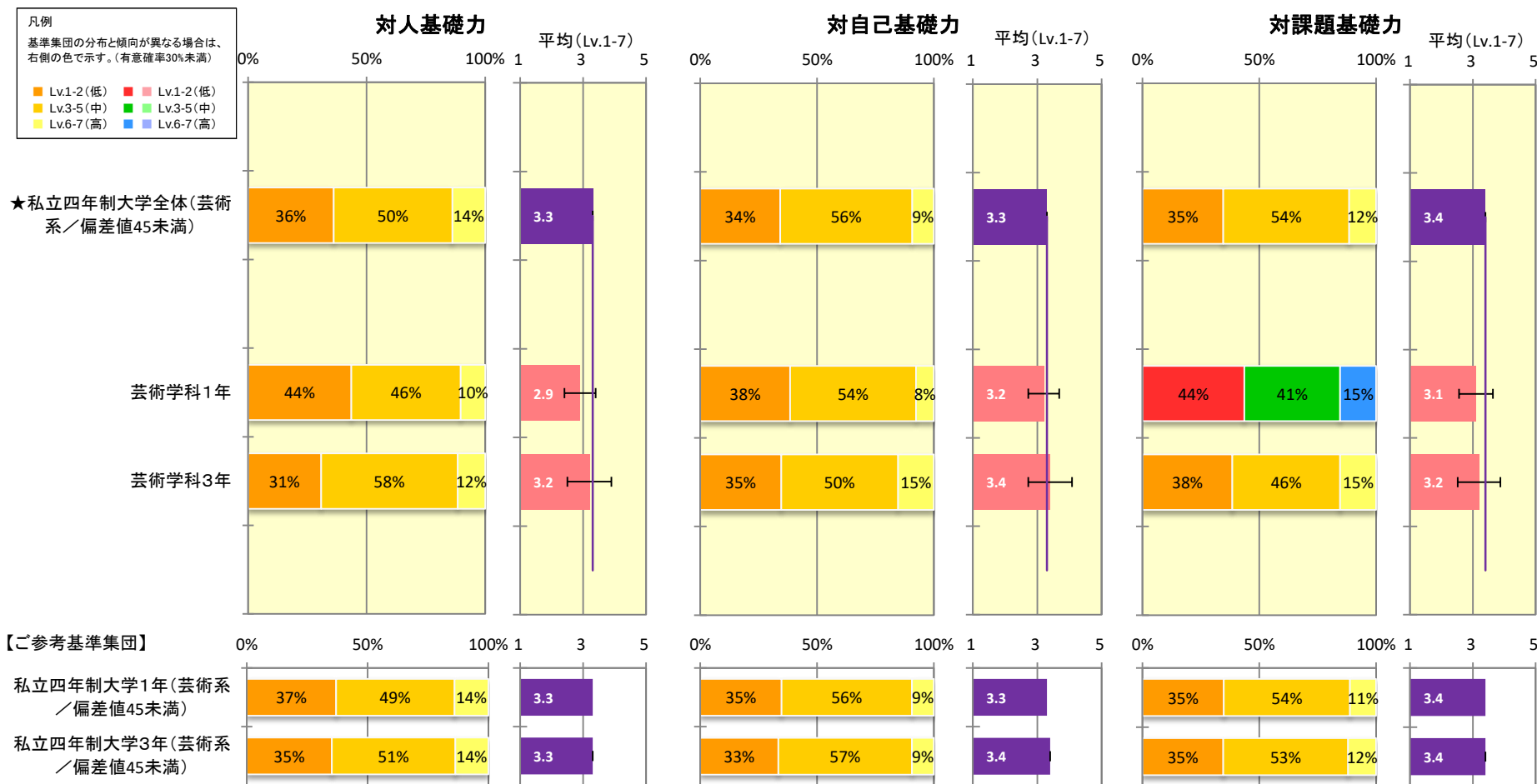
●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※芸術学科1年、芸術学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

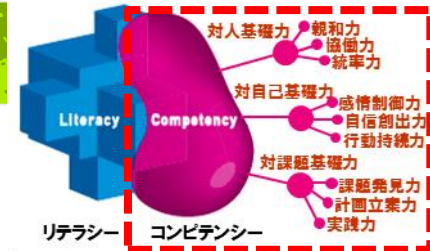
【対課題基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、芸術学科1年は、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる。

※芸術学科1年、芸術学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。



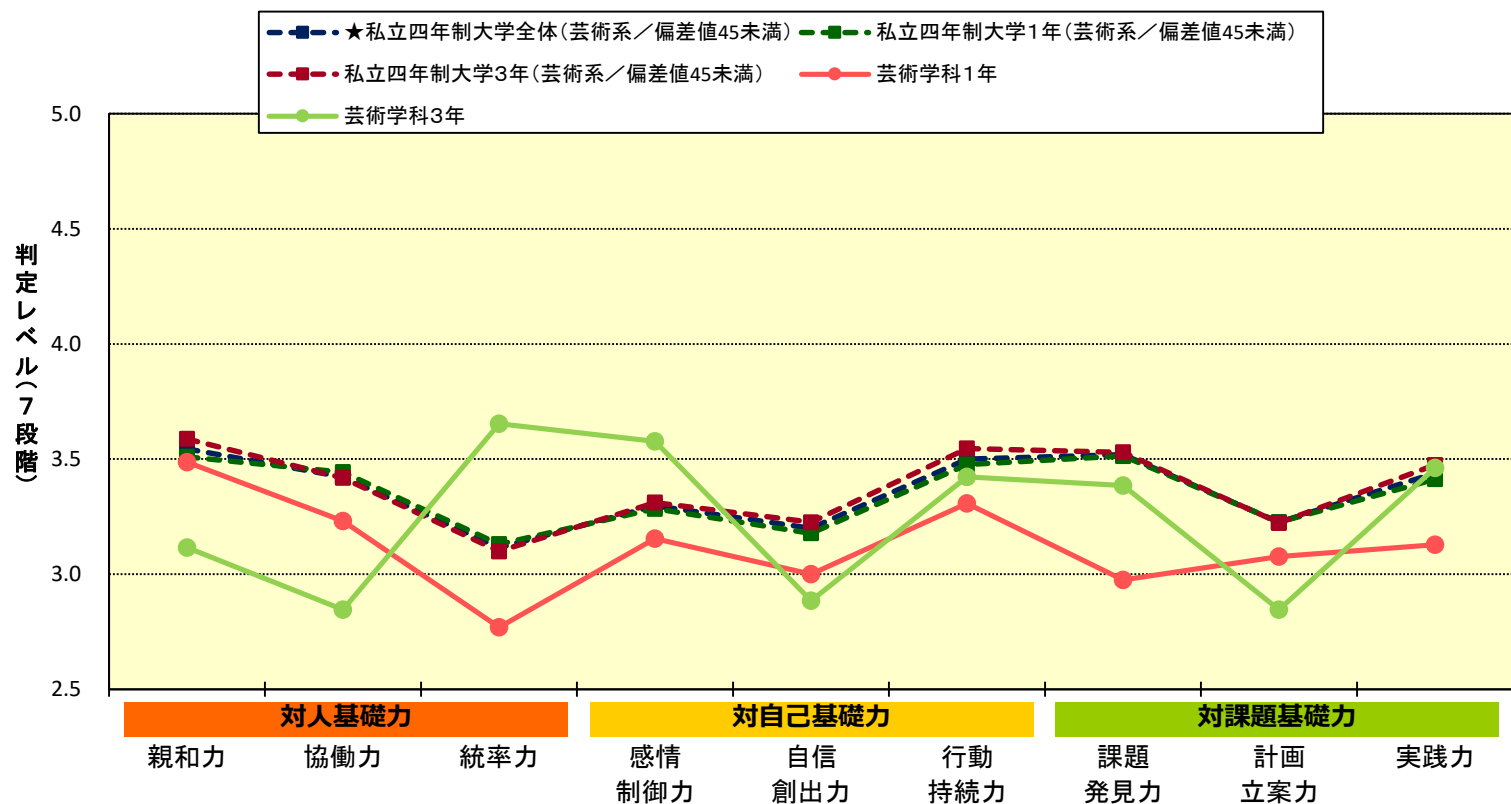
【芸術学科1年】

基準集団(★印)と比較して、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、計画立案力の平均値は下回る傾向にあり、統率力、課題発見力、実践力の平均値は低い。

【芸術学科3年】

基準集団(★印)と比較して、統率力の平均値は高く、感情制御力、実践力の平均値は上回る傾向にある。
一方、自信創出力、行動持続力、課題発見力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力、計画立案力の平均値は低い。

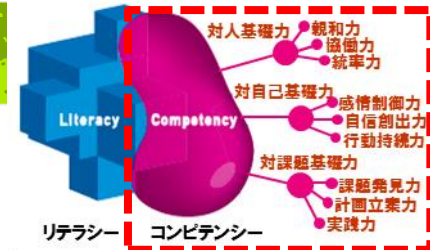
コンピテンシー中分類要素



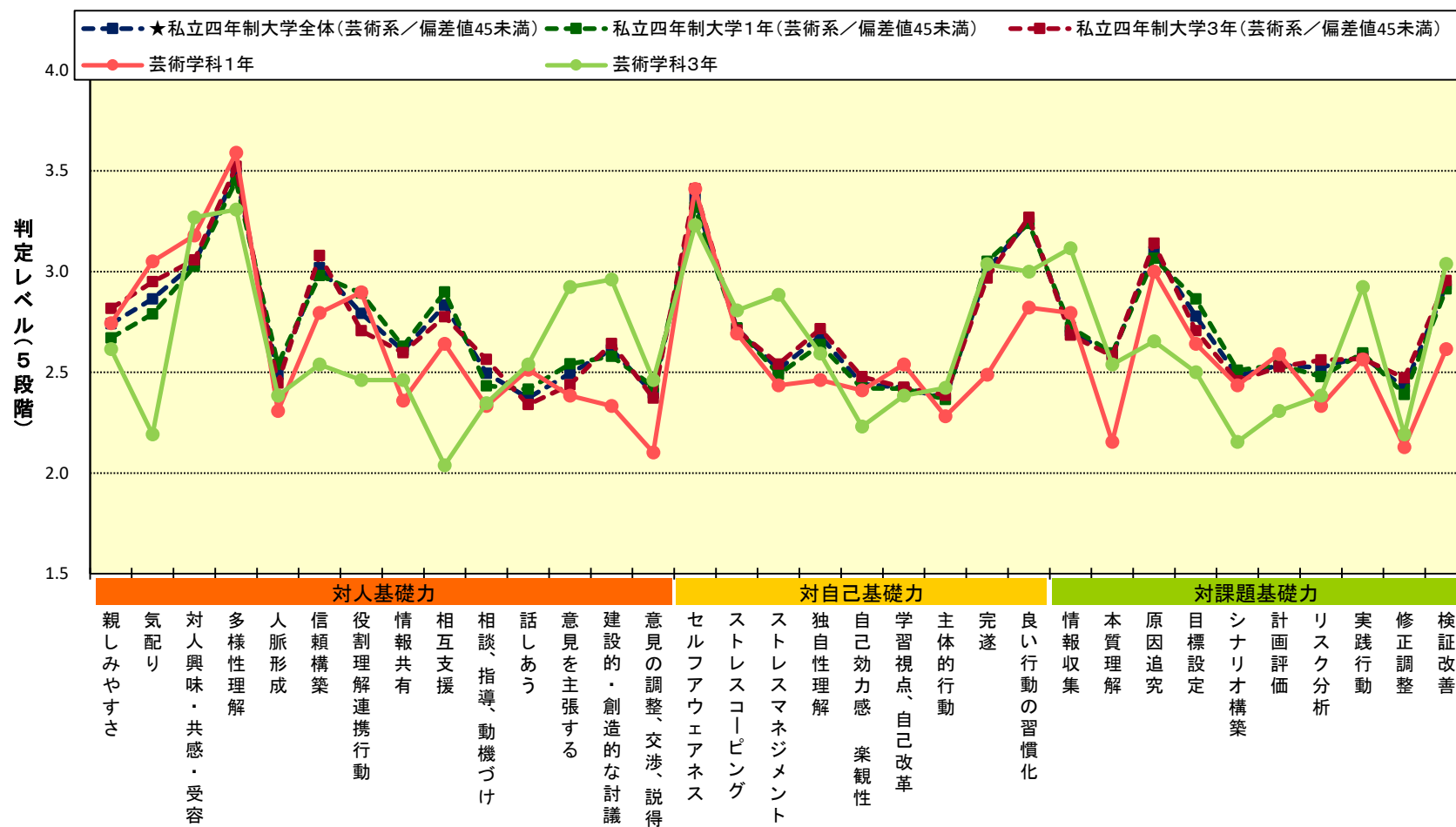
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

- 1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
- 2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
- 3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
- 4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

- 2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
- 4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」



コンピテンシー小分類要素



	リテラシー					コンピテンシー									
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
							親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
芸術学科 1 年	-	◎	-	-	-	-	-	-	▲	-	-	-	▲	-	▲
芸術学科 3 年	-	-	-	◎	-	-	▲	▲	◎	-	-	-	-	▲	-

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

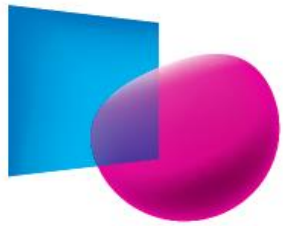
今後の課題と対策

【芸術学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを含めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
●課題発見力	課題に対し自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を客観的に整理しようとする 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理・分析することができる 分析を基に自分なりに因果関係の仮説を立てることができる	様々な情報源を適切に活用できるよう指導する 思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導する 原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導する
●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

【芸術学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く(傾聴する)ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする
●協働力	割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組むことができる 周囲に気を配り、困っている人には手を貸すことができる チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる	各自の貢献する領域を定め責任を果たすようにする 集団の中で自分の役割を実感する機会を設ける 各自で調べたことを全体に共有させる機会を設ける 情報を発信したり吸収したり、学生相互に情報をやり取りする機会を設ける
●計画立案力	課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる 立案した計画や目標に自分なりに取り組むことができる 条件が明確な課題であれば、発生しそうな問題を予め考えることができる 起こりうる事象を予測し、計画を立て取り組むことができる	ゴール(目指す姿)をイメージしてから、課題に取り組ませる 想定される障害を考慮して代替案を考えるよう指導する 立てた計画について、達成の見込みや問題点を客観的にあげさせる



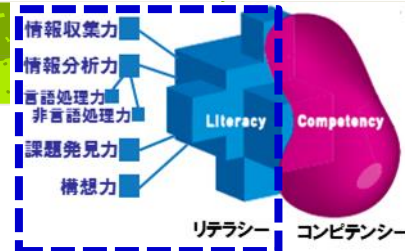
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.5

心理カウンセリング学科

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向



【リテラシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

凡例 (リテラシー総合)

低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	有意差は認められない
------------	------------	------------	------------

●基準集団の分布と傾向が異なる場合 (有意確率30%未満)

低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	低・中位層が多く、平均が基準値より低い (問題が内在している可能性がある)
低 (Lv.1-3)	中 (Lv.4-5)	高 (Lv.6-7)	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

【基準集団】

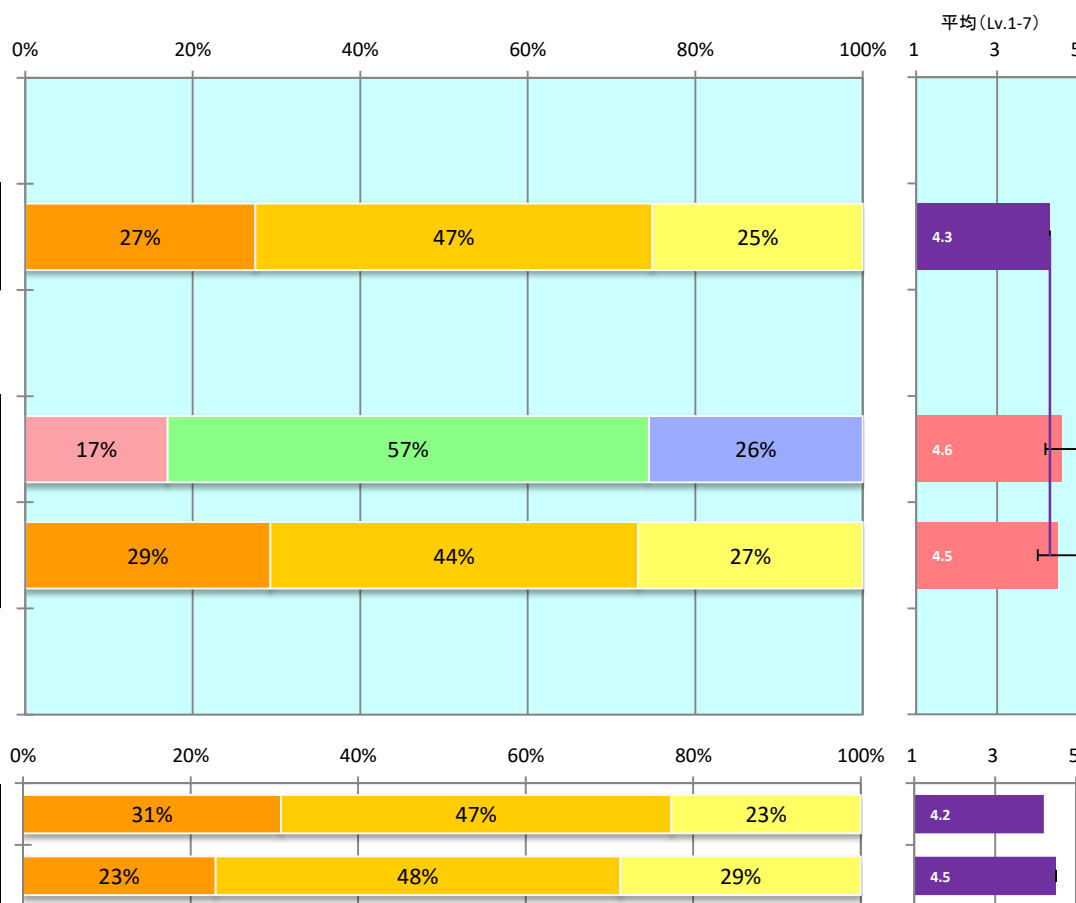
★私立四年制大学全体(心理学系／偏差値45未満)	16校 N=3,028
--------------------------	-------------

	× 2乗値	有意確率
心理カウンセリング学科1年	2.87	0.24
心理カウンセリング学科3年	0.20	0.90

【ご参考基準集団】

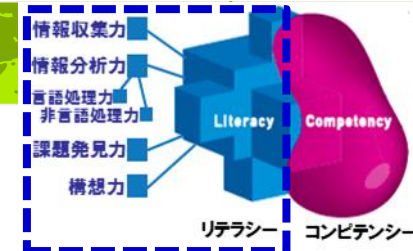
私立四年制大学1年(心理学系／偏差値45未満)	11校 N=1,491
私立四年制大学3年(心理学系／偏差値45未満)	13校 N=1,258

リテラシー総合



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向



【心理カウンセリング学科1年】

基準集団(★印)と比較して、情報収集力、情報分析力、構想力の平均値は高く、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。

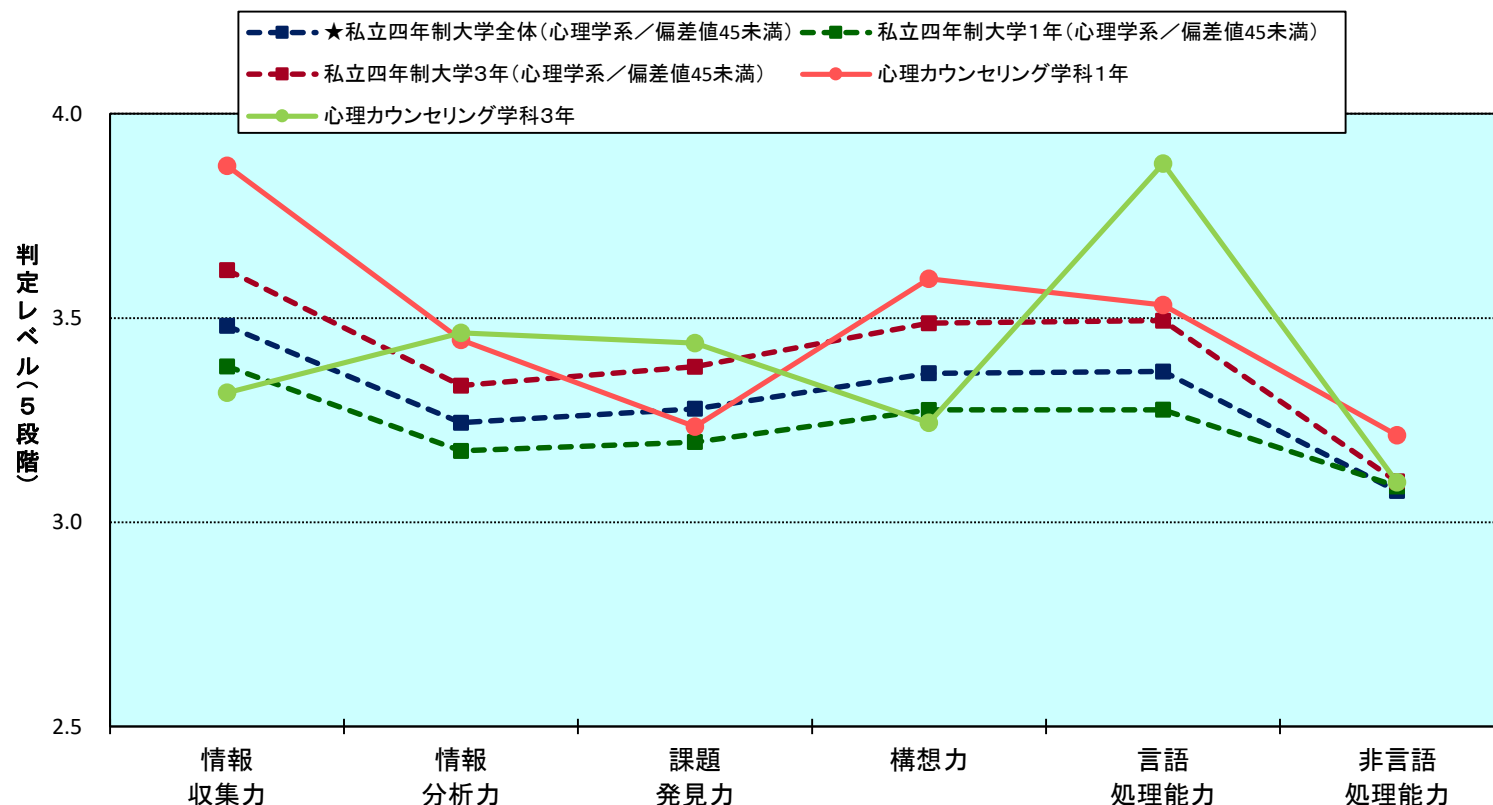
一方、課題発見力の平均値は下回る傾向にある。

【心理カウンセリング学科3年】

基準集団(★印)と比較して、情報分析力、言語処理能力の平均値は高く、課題発見力、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。

一方、情報収集力、構想力の平均値は下回る傾向にある。

リテラシー要素



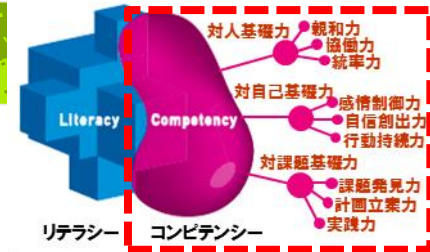
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」



【コンピテンシー総合】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※心理カウンセリング学科1年、心理カウンセリング学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

凡例（コンピテンシー総合・大分類）			
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	有意差は認められない
●基準集団の分布と傾向が異なる場合（有意確率30%未満）			
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	低・中位層が多く、平均が基準値より低い （問題が内在している可能性がある）
低（Lv.1-2）	中（Lv.3-5）	高（Lv.6-7）	中・高位層が多く、平均が基準値より高い

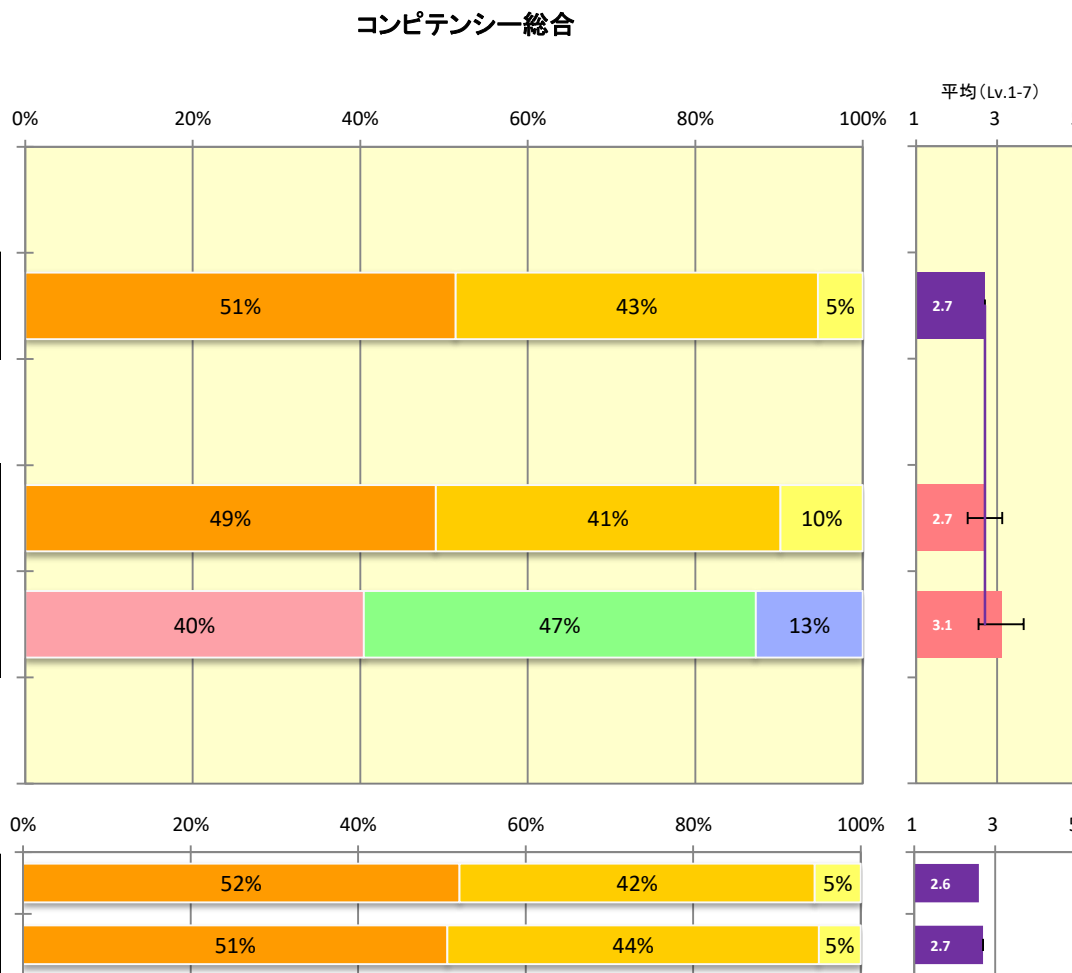
【基準集団】

★私立四年制大学全体（心理学系／偏差値45未満）	20校 N=6,584
--------------------------	-------------

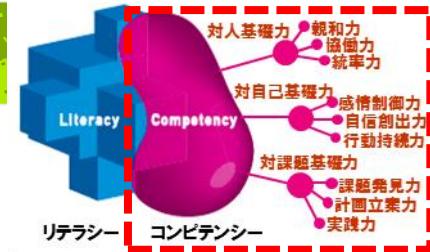
	χ ² 乗値	有意確率
心理カウンセリング学科1年	1.98	0.37
心理カウンセリング学科3年	6.04	0.05

【ご参考基準集団】

私立四年制大学1年（心理学系／偏差値45未満）	15校 N=3,478
私立四年制大学3年（心理学系／偏差値45未満）	17校 N=2,589



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差 (SE) × 2を表す。
 ※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。



【対人基礎力】

●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※心理カウンセリング学科1年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対自己基礎力】

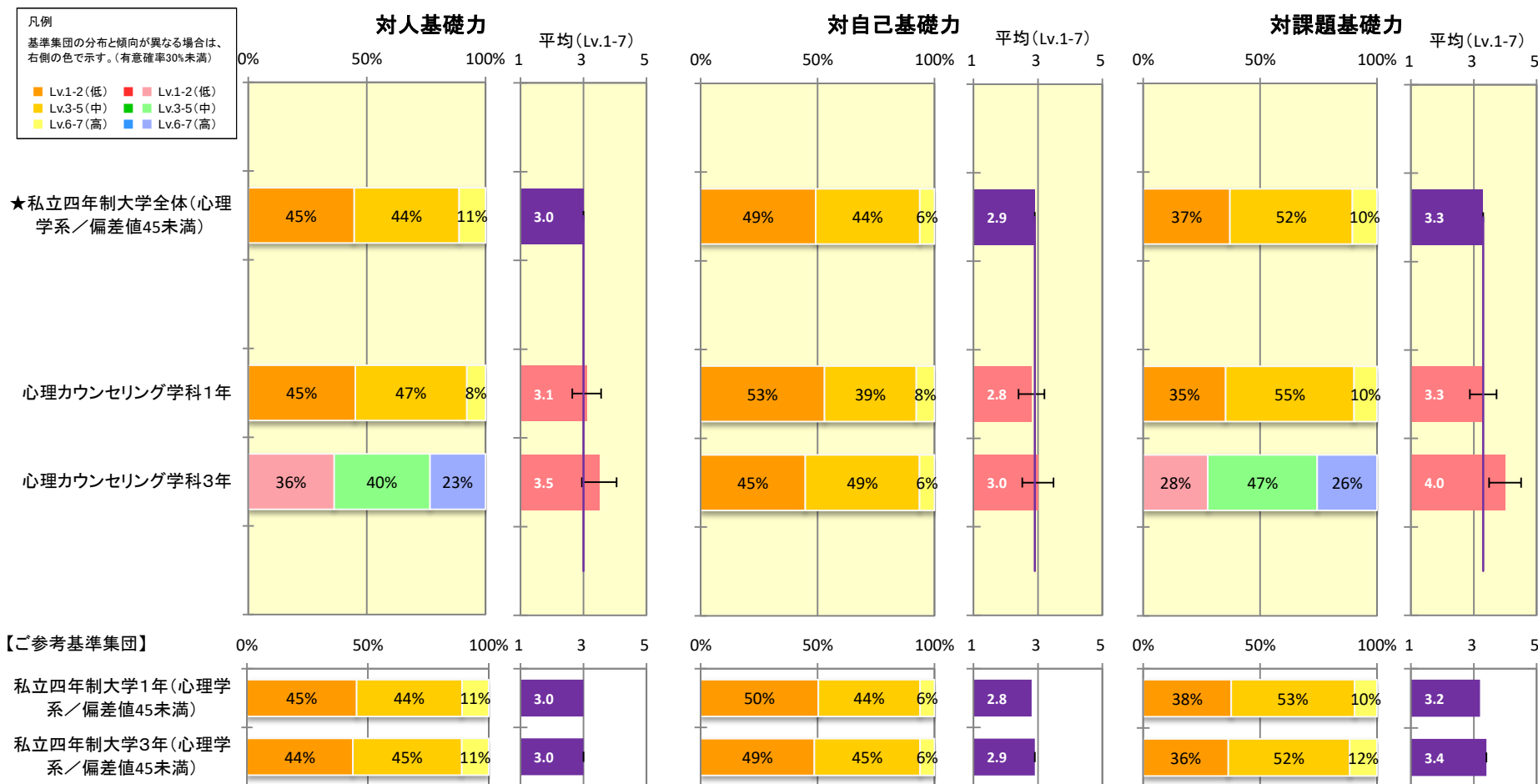
●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※心理カウンセリング学科1年、心理カウンセリング学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対課題基礎力】

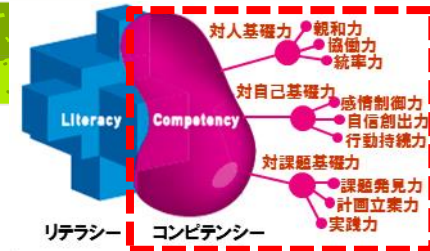
●基準集団(★印)と比較して、特に課題は見当たらない。

※心理カウンセリング学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。

コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向



【心理カウンセリング学科1年】

基準集団(★印)と比較して、親和力、統率力、感情制御力、自信創出力、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。

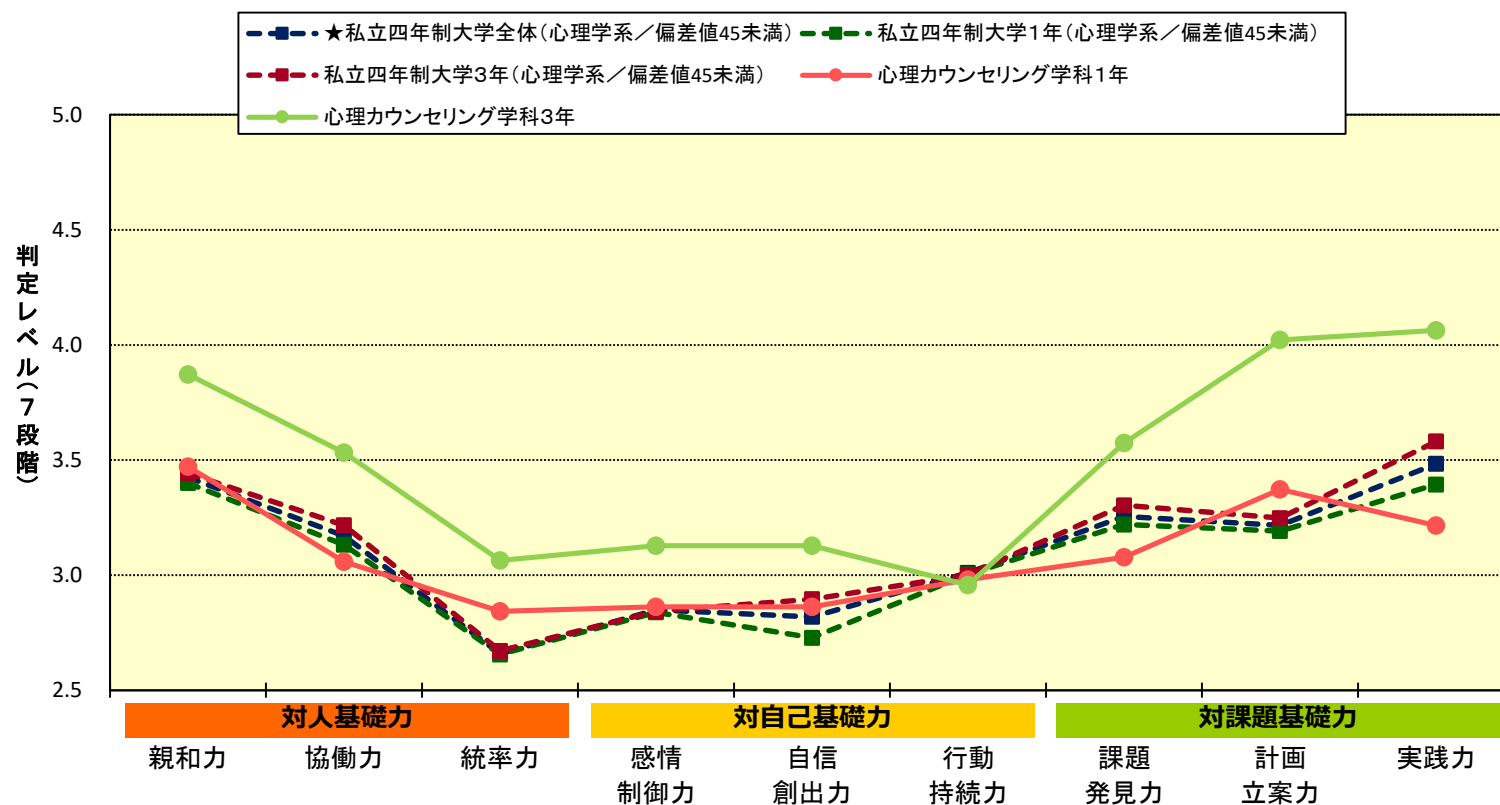
一方、協働力、行動持続力、課題発見力の平均値は下回る傾向にあり、実践力の平均値は低い。

【心理カウンセリング学科3年】

基準集団(★印)と比較して、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は高い。

一方、行動持続力の平均値は下回る傾向にある。

コンピテンシー中分類要素



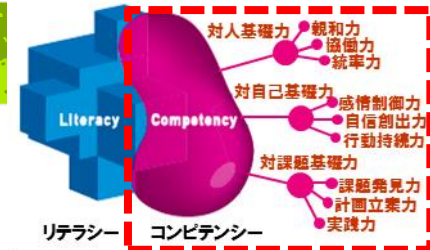
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」

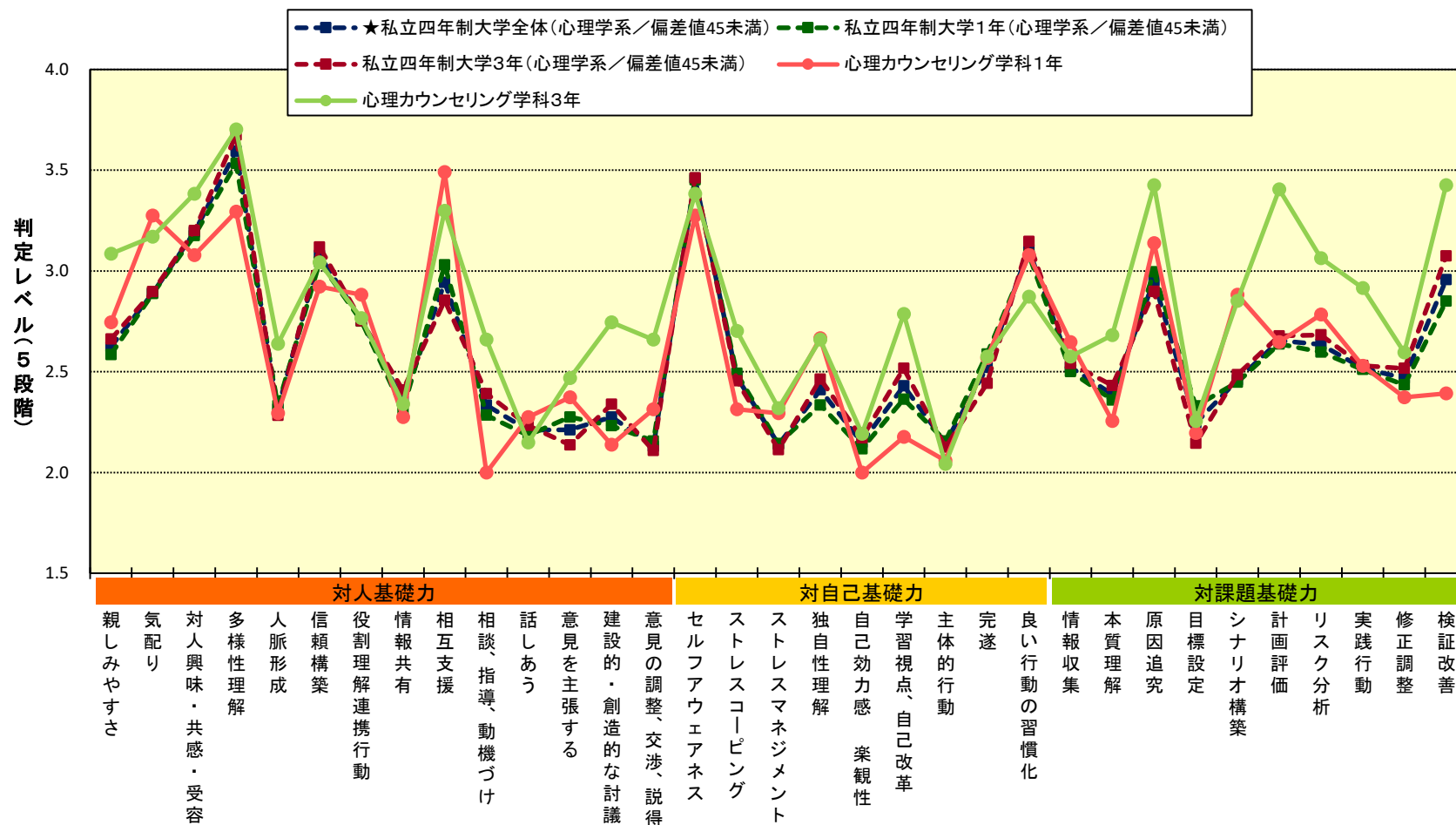
3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」

4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」



コンピテンシー小分類要素



	リテラシー					コンピテンシー										
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力			
							親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力	
心理カウンセリング学科 1 年	-	◎	◎	-	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲	
心理カウンセリング学科 3 年	-	-	◎	-	-	-	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	◎	◎	

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

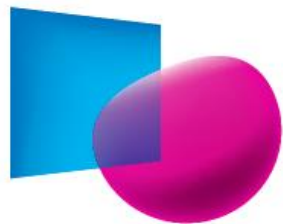
今後の課題と対策

【心理カウンセリング学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●実践力	計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てることができる チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる 進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	想定外の事態に対処して、計画を変更しながら目標に向かうような経験をさせる グループ全体の進捗状況に配慮しながら、自ら率先して行動するようにさせる 行動の結果を振り返り、良かった点、悪かった点を考え、改善策を考える機会を設ける グループで活動を振り返り、各自の役割貢献について内省する機会を設ける

【心理カウンセリング学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.6

ループリックで見る1年生の状態

ループリックで見る1年生の状態について(リテラシー領域①)

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
情報収集力	課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力	・情報源の特性を知る 1) さまざまな情報源 2) インターネットで検索する 3) 図書館で調べる ・情報を整理・保存する 1) ノートテイキング（講義を聴く） 2) 情報をファイリングする ・アンケートとインタビュー 1) アンケートを実施する 2) インタビューを行う		簡単な情報収集の仕方について、理解している	様々な情報収集の手段について、その利便性と問題点を理解できる	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる	複雑な文脈の中で、仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる
		生涯スポーツ学部 1 年全体	3.3					
		スポーツ教育学科 1 年	3.3					
		健康福祉学科 1 年	3.2					
		教育文化学部 1 年全体	3.7					
		教育学科 1 年	3.6					
		芸術学科 1 年	3.7					
		心理カウンセリング学科 1 年	3.9					
		私立四年制大学 1 年（偏差値45未満）	3.2					

情報分析力	事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的かつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造を捉え、本質を見極める力	・表やグラフを読み取る 1) 図表・グラフの種類と特性 2) グラフの「読み取り」「分析」のポイント 3) 複数のグラフや表を総合して読み取る ・文献・資料を読む 1) 論理的なテキストの特性 2) 論理的なテキストの読解 3) 見出しをつける 4) 全体像を捉える ・批判的・多角的に分析する 1) 批判的読解とは 2) 批判的読解の具体的なあり方		簡単な図表や文章を読み取ることができる	図表や文章から、客観的な事実や因果関係を読み取ることができる	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複雑な文脈の中で、情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる
		生涯スポーツ学部 1 年全体	3.3					
		スポーツ教育学科 1 年	3.3					
		健康福祉学科 1 年	3.2					
		教育文化学部 1 年全体	3.4					
		教育学科 1 年	3.5					
		芸術学科 1 年	3.3					
		心理カウンセリング学科 1 年	3.4					
		私立四年制大学 1 年（偏差値45未満）	3.1					

ループリックで見る1年生の状態について(リテラシー領域②)

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
課題 発見 力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実を捉え、それらの背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力	・広い観点から問題点を洗い出す 1) 拡散思考について 2) ブレーンストーミングで発想を広げる 3) フレームワークで考える ・問題点を整理・分析する 1) 収束思考について 2) 収束思考に必要な観点 3) マッピングによる整理 ・発見された問題の中から、解決すべき課題を設定する 1) 問題点から課題への絞り込み 2) 課題への絞り込みに必要な観点		簡単な問題において、解決すべき課題を選択することができる	複数の情報を整理し、解決すべき課題を設定することができる	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	複雑な文脈の中で、複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる
		生涯スポーツ学部 1 年全体	3.1					
		スポーツ教育学科 1 年	3.1					
		健康福祉学科 1 年	3.2					
		教育文化学部 1 年全体	3.4					
		教育学科 1 年	3.5					
		芸術学科 1 年	3.1					
		心理カウンセリング学科 1 年	3.2					
		私立四年制大学 1 年（偏差値45未満）	3.0					

構 想 力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクやその対処方法を構想する力	・広い観点から解決策を考える ・現実味のある解決策を考える ・計画を立てる 1) 必要な作業をもれなく洗い出す 2) 具体的な行動計画を考える	簡単な問題において、解決策を選択することができる	問題解決のプロセスに即して、解決策を構想することができる	いくつかの解決策の中から、制約条件を踏まえて有効な解決策を選択することができる	制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる	複雑な文脈の中で、制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる
		生涯スポーツ学部 1 年全体	3.0				
		スポーツ教育学科 1 年	3.0				
		健康福祉学科 1 年	3.2				
		教育文化学部 1 年全体	3.6				
		教育学科 1 年	3.6				
		芸術学科 1 年	3.5				
		心理カウンセリング学科 1 年	3.6				
		私立四年制大学 1 年（偏差値45未満）	3.1				

ループリックで見る1年生の状態について(コンピテンシー対人領域)

コンピテンシー（対人）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
親和力	他者との豊かな関係を築く	人に対して、興味をもって相手の話を聞き、相手の立場や気持ちを思いやり、共感を受けとめ、また多様な価値観を受け入れる。さらに、そうした関わりから、相手と信頼関係を築いたり、人脈を広げていく力		・親しくない人には無愛想になりがち ・興味をもって相手の話をきいたり相手の立場を考えた言動をとることが苦手	・人に対して笑顔で接することができる ・相手の立場や気持ちを考えたり、人間関係に配慮した言動を心がけている	・相手に自然な気配りができる ・自分と異なる考えや意見でも興味深く相手の話を聞き、理解を示すことができる	・親しくない人に対しても、自分から気軽に話しかける ・人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる	・個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる ・必要に応じて自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げる行動をとることができる	・相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする ・誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる	・築いた人脈や関係性の維持に努めることができる ・人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持・運営することができる
		生涯スポーツ学部 1 年全体	4.2							
		スポーツ教育学科 1 年	4.2							
		健康福祉学科 1 年	4.4							
		教育文化学部 1 年全体	3.9							
		教育学科 1 年	4.2							
		芸術学科 1 年	3.5							
		心理カウンセリング学科 1 年	3.5							
		私立四年制大学 1 年（偏差値45未満）	3.8							

協働力	目標に向けて協力的に仕事を進める	周囲や集団において、自分の役割を理解した上で互いに連携・協力、助け合ったり、情報を共有して一緒に物事を進めていく。さらに、他者の相談に乗るなど働きかけ、動機づけする力		・他の人と一緒に物事に取り組むのが苦手 ・周囲の人が困っている状況に気づかないことが多い	・集団の中で、割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組む ・周囲に気を配り、困っている人には手を貸そうとする	・チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる	・人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけをすることができる ・「雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献することができる	・誰かを支援する時には全力でサポートする ・周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	・リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる ・チーム全体のやる気を高めることができる	・リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる ・相互支援や情報を共有しあう環境をつくることができる
		生涯スポーツ学部 1 年全体	4.4							
		スポーツ教育学科 1 年	4.4							
		健康福祉学科 1 年	4.5							
		教育文化学部 1 年全体	3.8							
		教育学科 1 年	4.1							
		芸術学科 1 年	3.2							
		心理カウンセリング学科 1 年	3.1							
		私立四年制大学 1 年（偏差値45未満）	3.6							

統率力	場をよみ、組織を動かす	集団の中で、自分の意見を主張すると同時に、議論の活性化や発展のために集団に働きかける。また、必要に応じて、意見の調整、交渉、説得し、集団を合意に導く力		・話し合いの場では議論に消極的なことが多い ・発言の際、考えが整理されず相手に言いたいことが伝わらないことが多い	・自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる ・話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるることができる	・自分の考えを論理的かつ、気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる ・意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを話す	・相手や状況に関係なく、はっきりとした主張ができる ・相手の立場や背景も考慮しながら意見調整を進めることができる	・周囲の反対にあって孤立しても、正しいと思うことは粘り強く主張できる ・建設的、かつ創造的な議論を意識した発言ができる	・全員に発言を促し、整理して、や方向づけによって議論を展開させていくことができる ・リーダーとして、チームの結論を導くことができる	・意見が対立する中でも、建設的に議論を導くことができる ・聴衆を引き込み納得させるようなプレゼンテーションをすることができる
		生涯スポーツ学部 1 年全体	3.8							
		スポーツ教育学科 1 年	3.7							
		健康福祉学科 1 年	4.2							
		教育文化学部 1 年全体	2.8							
		教育学科 1 年	2.7							
		芸術学科 1 年	2.8							
		心理カウンセリング学科 1 年	2.8							
		私立四年制大学 1 年（偏差値45未満）	3.1							

ループリックで見る1年生の状態について(コンピテンシー対自己領域)

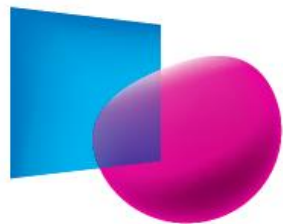
コンピテンシー (対自己)		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
感情制御力	気持ちの揺れを制御する	自分の感情や気持ちを認識して客観的に言動をコントロールしたり、ストレスをうまく処理することができる。また、プレッシャーを感じる場面でも、感情をコントロールして力を発揮する力		・自分の感情をコントロールするのが苦手 ・些細なことでも、動揺したり落ち込んだりして、なかなか立ち直れないことが多い	・人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする	・感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる ・やらなければならないことがたくさんあるような状況でも、こなしていくことができる	・ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる ・難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる	・自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を考えておくことができる ・失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	・心を落ち着かせる、自分なりの方法をもっている ・緊張やプレッシャーを感じる場面でも、落ち着いて、かつ集中して取り組むことができる	・ストレスの原因に自ら働きかけ、解消することができる ・必要に応じて自分の感情を率直に伝えることで、相手との信頼関係を築くことができる
		生涯スポーツ学部 1 年全体	3.8							
		スポーツ教育学科 1 年	3.9							
		健康福祉学科 1 年	3.4							
		教育文化学部 1 年全体	3.1							
		教育学科 1 年	3.2							
		芸術学科 1 年	3.2							
		心理カウンセリング学科 1 年	2.9							
		私立四年制大学 1 年 (偏差値45未満)	3.2							

自信創出力	前向きな考え方ややる気を維持する	自己の強み弱みを認識した上で、自分に自信をもって物事に取り組むことができる。また、常に学ぶ姿勢をもち、経験の機会をうまくとらえて挑戦していく力		・自分の強みがわからず、自信をもって行動できない ・初めてのことが難しいことには、なかなか挑戦する気になれない	・自分では強みがわからないが、人からほめられることで自信をもつことができる ・仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる	・自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる ・機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	・自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる ・初めてのことも、臆せず取り組むことができる	・難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぼうとする ・好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組む	・自分ならではの強みや持ち味を活かす機会を見逃さない ・常に良い結果をイメージして、自信をもって取り組むことができる	・どんな仕事や課題でも主体性と好奇心をもって取り組むことができる ・成長の機会を自ら創り出していくことができる
		生涯スポーツ学部 1 年全体	3.9							
		スポーツ教育学科 1 年	3.9							
		健康福祉学科 1 年	3.6							
		教育文化学部 1 年全体	3.2							
		教育学科 1 年	3.4							
		芸術学科 1 年	3.0							
		心理カウンセリング学科 1 年	2.9							
		私立四年制大学 1 年 (偏差値45未満)	3.2							

行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける	主体的に行動し、物事には最後まで粘り強く取り組むことができる。また、良い行動を習慣化する力		・人からの指示を待って行動することが多い ・何かに取り組んでも、最後までやり切れないことが多い	・良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みるような心がけている	・任されたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている ・常に良いやり方を追求し、能力向上を心にかけている	・何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移す ・取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている	・すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる ・周囲からの期待以上のことを主体的に行う	・目標を定め、最後まで諦めずにやり遂げる ・行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い行動に結びつけることができる	・課題には期限ぎりぎりまで、自分が納得できる結果が出るまで粘り強く取り組む ・検証と改善を常に繰り返すことを習慣化している
		生涯スポーツ学部 1 年全体	4.2							
		スポーツ教育学科 1 年	4.1							
		健康福祉学科 1 年	4.3							
		教育文化学部 1 年全体	3.3							
		教育学科 1 年	3.4							
		芸術学科 1 年	3.3							
		心理カウンセリング学科 1 年	3.0							
		私立四年制大学 1 年 (偏差値45未満)	3.4							

ループリックで見る1年生の状態について(コンピテンシー対課題領域)

コンピテンシー（対課題）			定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7								
課題発見力	課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	適切な方法で情報を収集し、事実に基づいて客観的に分析、本質的な問題を見極める。さらに、様々な角度から課題を分析し、原因を明らかにする力	・課題に対しての情報収集が、適切な方法でない場合が多い ・情報整理・分析が甘くなりがちになる		・課題に対し、自分なりに情報を集めることができる ・集めた情報を、客観的に整理しようと努める	・興味のある特定の分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理、分析することができる ・分析を基に、自分なりに因果関係の仮説を立てられる	・課題に応じ、様々な方法で情報を集めることができる ・定性的データを客観的に整理し、複数の因果関係の仮説を立てることができる	・課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理、分析できる ・より現実的な視点で、複数の因果関係の仮説を立てられる	・事実が複雑に絡み合っている問題でもデータを客観的に整理、分析できる ・因果関係を整理し課題解決につなげることができる	・関心分野については、常日頃から情報収集している ・合理的な判断だけでは難しい問題に対して、関係者の心情を汲んで結論を出すことができる									
											生涯スポーツ学部 1 年全体	3.5							
											スポーツ教育学科 1 年	3.5							
											健康福祉学科 1 年	3.3							
											教育文化学部 1 年全体	3.2							
											教育学科 1 年	3.2							
											芸術学科 1 年	3.0							
											心理カウンセリング学科 1 年	3.1							
											私立四年制大学 1 年（偏差値45未満）	3.4							
計画立案力	課題解決のための適切な計画を立てる	明確な目標を立て、その実現に向けて効果的な計画を立てる。また、立てた計画に対して目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てたり、どんな問題が起こり得るかのリスクを想定して事前に対策を講じる力	・自分で目標や計画を立てずに課題に取り組む ・立案した計画や目標が現実的でないなど適切でないことが多い	・課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる ・立案した計画や目標に、自分なりに取り組むことができる	・条件が明確な課題であれば目標や発生しそうな問題を予め考えることができる ・予測をふまえた具体的な計画を立て取り組むことができる	・経験のあることならば不確定な部分があっても具体的な妥当な計画を立てられる ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる ・事前にリスクを検討、想定し、手を打つことができる	・長期的な目標と同時に、途中段階の具体的な目標も設定し、実現性を高めることができる ・チームでの取り組みの際、メンバーの分担を適切に行う	・自身やチームにとって挑戦的な目標を設定し挑む ・制約条件や資源を考慮した計画を立て、状況に応じて柔軟に修正することができる										
										生涯スポーツ学部 1 年全体	3.6								
										スポーツ教育学科 1 年	3.5								
										健康福祉学科 1 年	3.7								
										教育文化学部 1 年全体	3.3								
										教育学科 1 年	3.4								
										芸術学科 1 年	3.1								
										心理カウンセリング学科 1 年	3.4								
										私立四年制大学 1 年（偏差値45未満）	3.3								
実践力	実践行動をとる	計画をすんで実行し、状況に応じて柔軟に行動を修正する。また、行動を振り返って検証し、次の行動の改善に結びつける力	・やるべきことでも、なかなか実行に移せない・実行はできても当初のやりかたで進めがちで、のちに振り返ることも少ない	・やるべきことに対して、自分なりに試行錯誤しながら物事を進めていくことができる	・制約条件を考えて、試行錯誤しながら物事を進めることができる ・終了後には、成功か失敗かを振り返る	・計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる ・うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てる	・チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる ・進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	・計画の実行中、全体の状況に気を配ることができる ・先行きを予見し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる	・チームでより良い成果を挙げるため、即行動できる ・活動の振り返りを次に活かして、チームの成果を高めることができる										
										生涯スポーツ学部 1 年全体	3.8								
										スポーツ教育学科 1 年	3.8								
										健康福祉学科 1 年	3.9								
										教育文化学部 1 年全体	3.6								
										教育学科 1 年	3.9								
										芸術学科 1 年	3.1								
										心理カウンセリング学科 1 年	3.2								
										私立四年制大学 1 年（偏差値45未満）	3.5								



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.7 過去の1年生との比較

学部	学科	2018年度 1年 2018年5月～7月 受験	2019年度 1年 2019年4月 受験	2020年度 1年 2020年6月～8月 受験	2021年度 1年 2021年6月～8月 受験
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	220	216	192	201
	健康福祉学科	42	34	39	29
	合計	262	250	231	230
教育文化学部	教育学科	122	149	148	147
	芸術学科	29	37	39	39
	心理カウンセリング学科	39	54	58	51
合計		452	490	476	467

2021年度受験分の集計除外について

※リテラシー受験時間45分のところ20分未満で解答終了、または問題数30問のところ解答数が10問以下の118名をリテラシー集計から除外いたしました。

※受験期間内にコンピテンシー全195問を解答していなかった1名をコンピテンシー集計から除外いたしました。

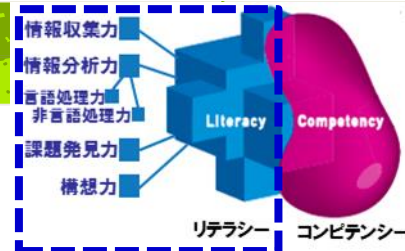
(コンピテンシー受験に時間制限はございません。)

除外対象者の内訳は以下の通りです。

学部	学科	1年	3年	合計
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	28	38	66
	健康福祉学科	3	2	5
教育文化学部	教育学科	3	23	26
	芸術学科	4	8	12
	心理カウンセリング学科	4	6	10
合計		42	77	119

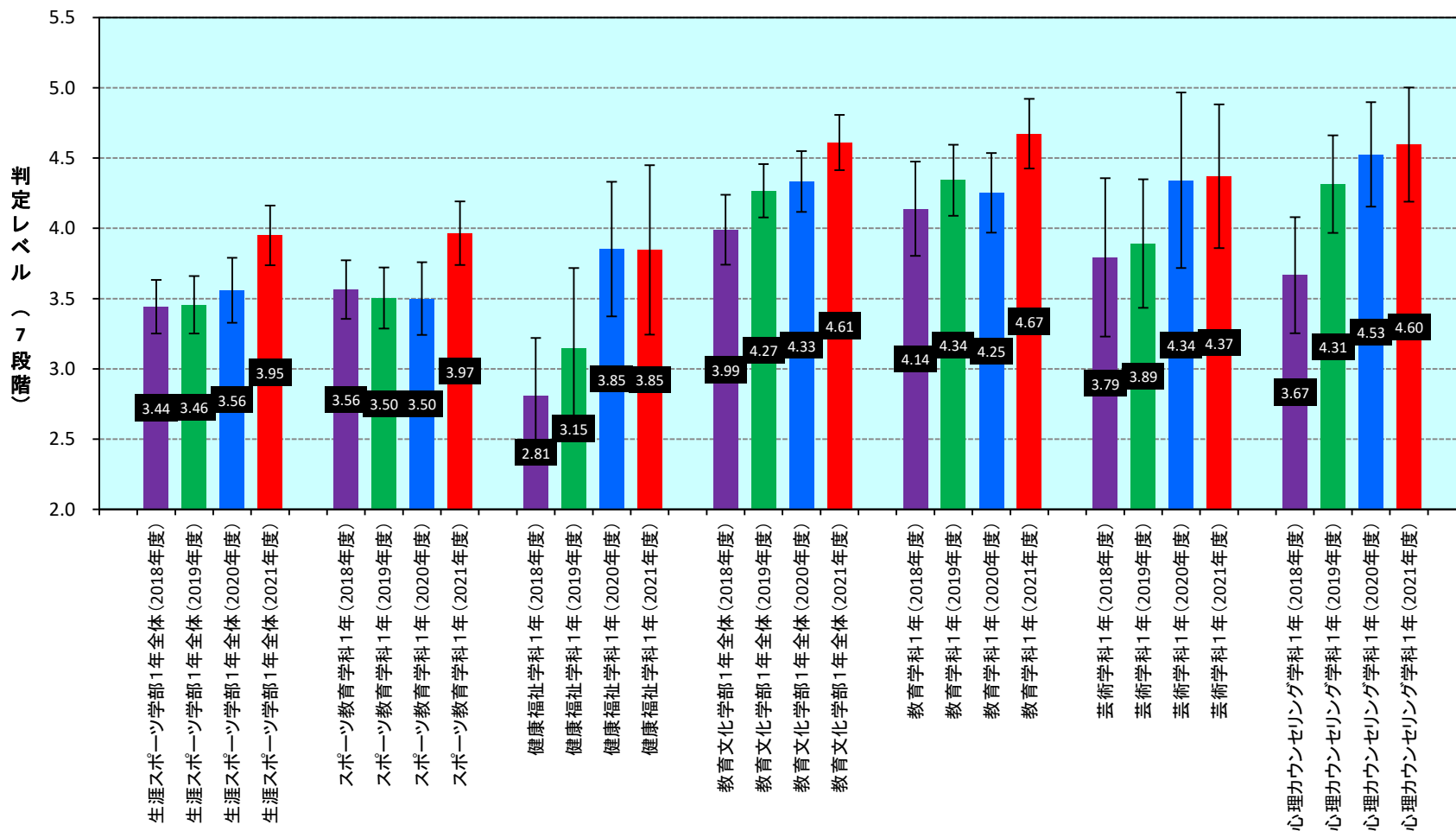
■2021年度貴学受験者873名のリテラシー平均解答時間は34分58秒、リテラシー平均解答数は29.12問です。

リテラシー総合（過去の受験者との比較）

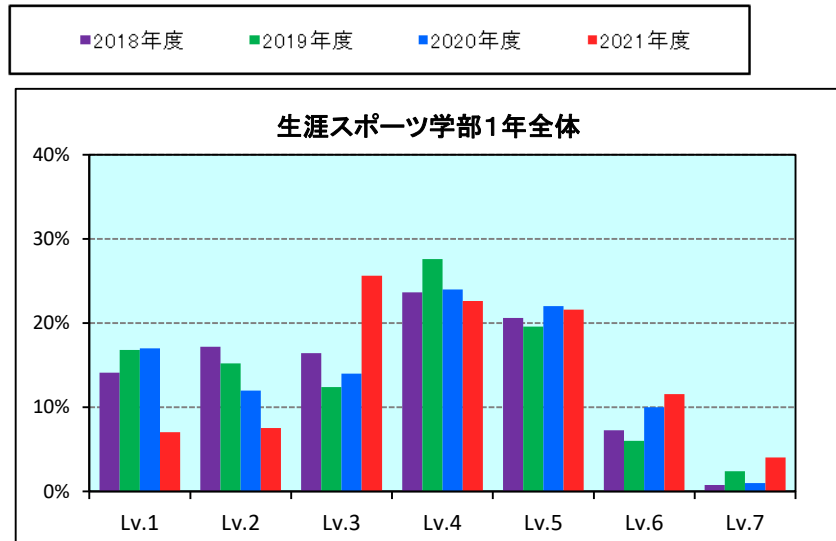
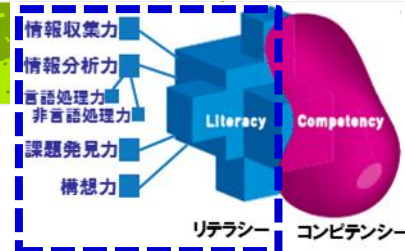


- 生涯スポーツ学部1年全体、スポーツ教育学科1年、教育文化学部1年全体、教育学科1年、芸術学科1年、心理カウンセリング学科1年は、2020年度のスコアを上回る。
- 健康福祉学科1年は、2020年度のスコアを下回る。

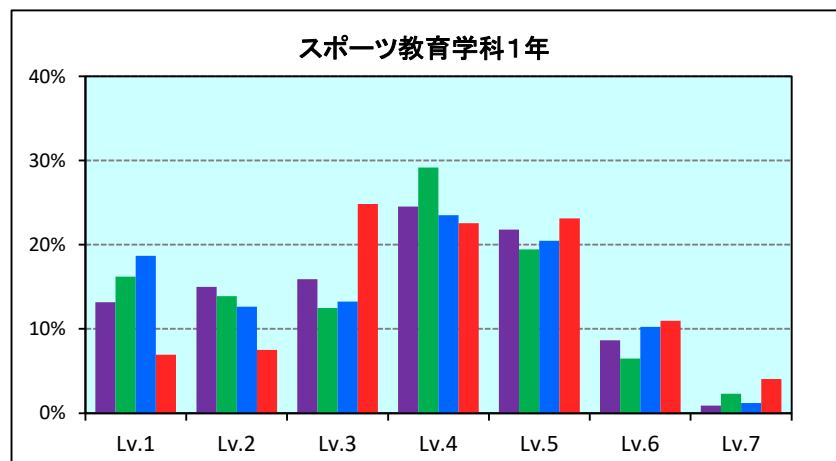
リテラシー総合



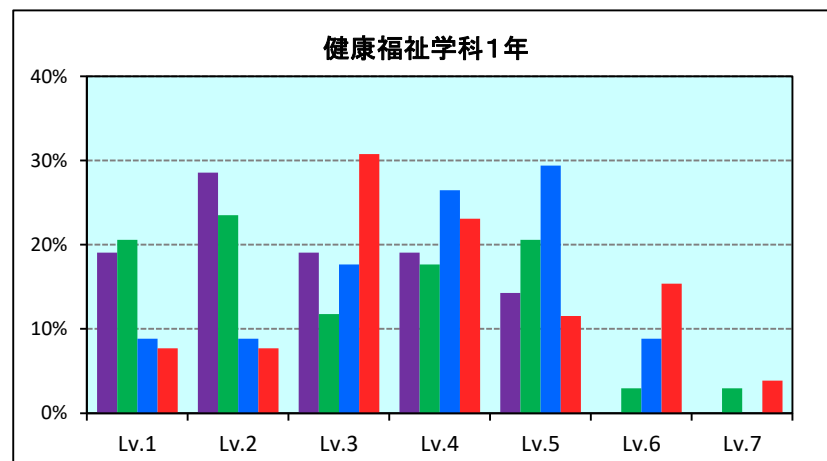
リテラシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較) ①



2020年度に比べて、レベル1～2のボリュームが小さく、レベル3、レベル7の割合が大きい。

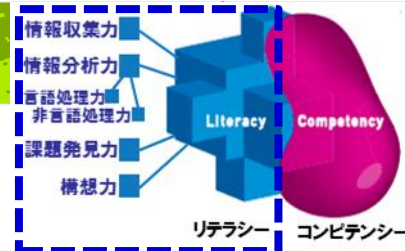


2020年度に比べて、レベル1～2のボリュームが小さく、レベル3の割合が大きい。



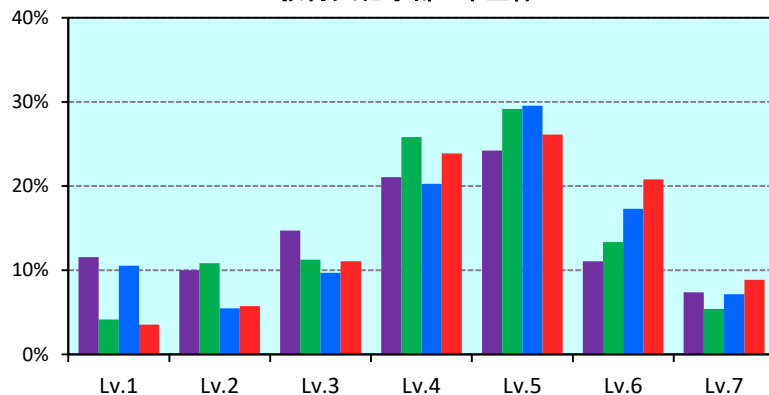
2020年度に比べて、レベル4～5のボリュームが小さく、レベル3、レベル6～7のボリュームが大きい。

リテラシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較) ②



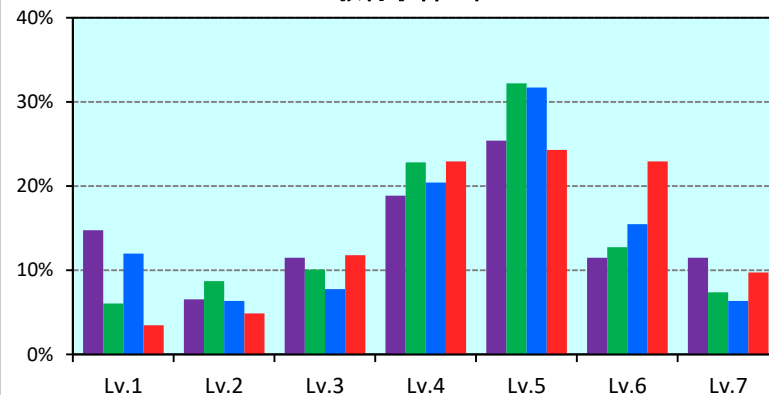
■2018年度 ■2019年度 ■2020年度 ■2021年度

教育文化学部1年全体



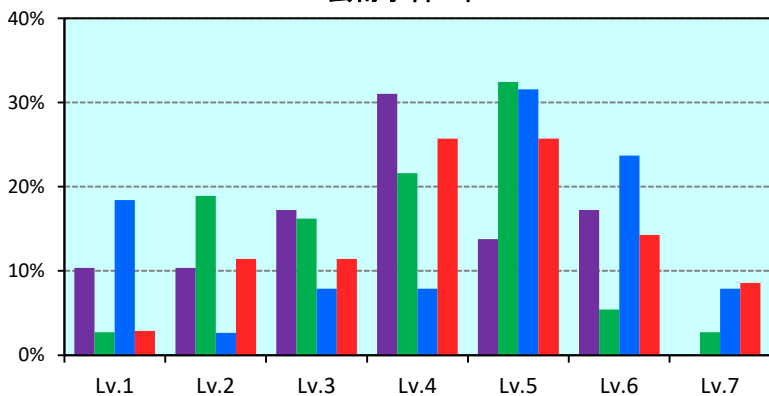
2020年度に比べて、レベル1、レベル5の割合が小さく、レベル4、レベル6の割合が大きい。

教育学科1年



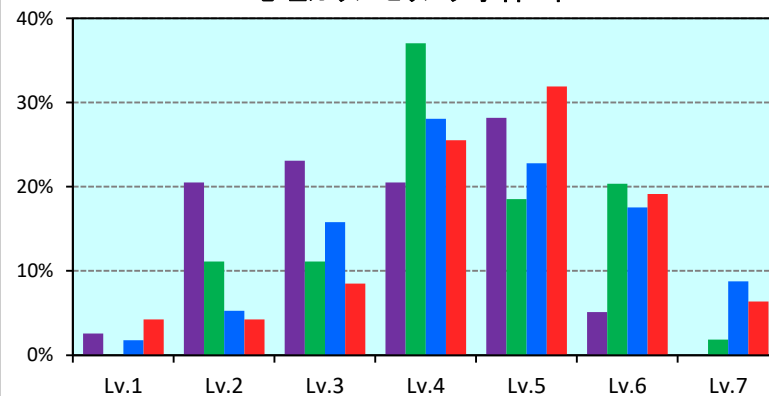
2020年度に比べて、レベル1、レベル5の割合が小さく、レベル3、レベル6～7のボリュームが大きい。

芸術学科1年



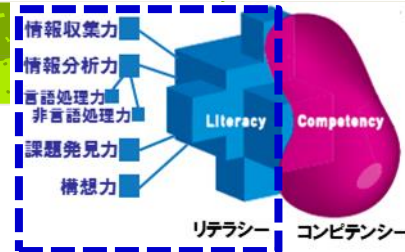
2020年度に比べて、レベル1、レベル5～6のボリュームが小さく、レベル2～4のボリュームが大きい。

心理カウンセリング学科1年



2020年度に比べて、レベル3の割合が小さく、レベル5の割合が大きい。

リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

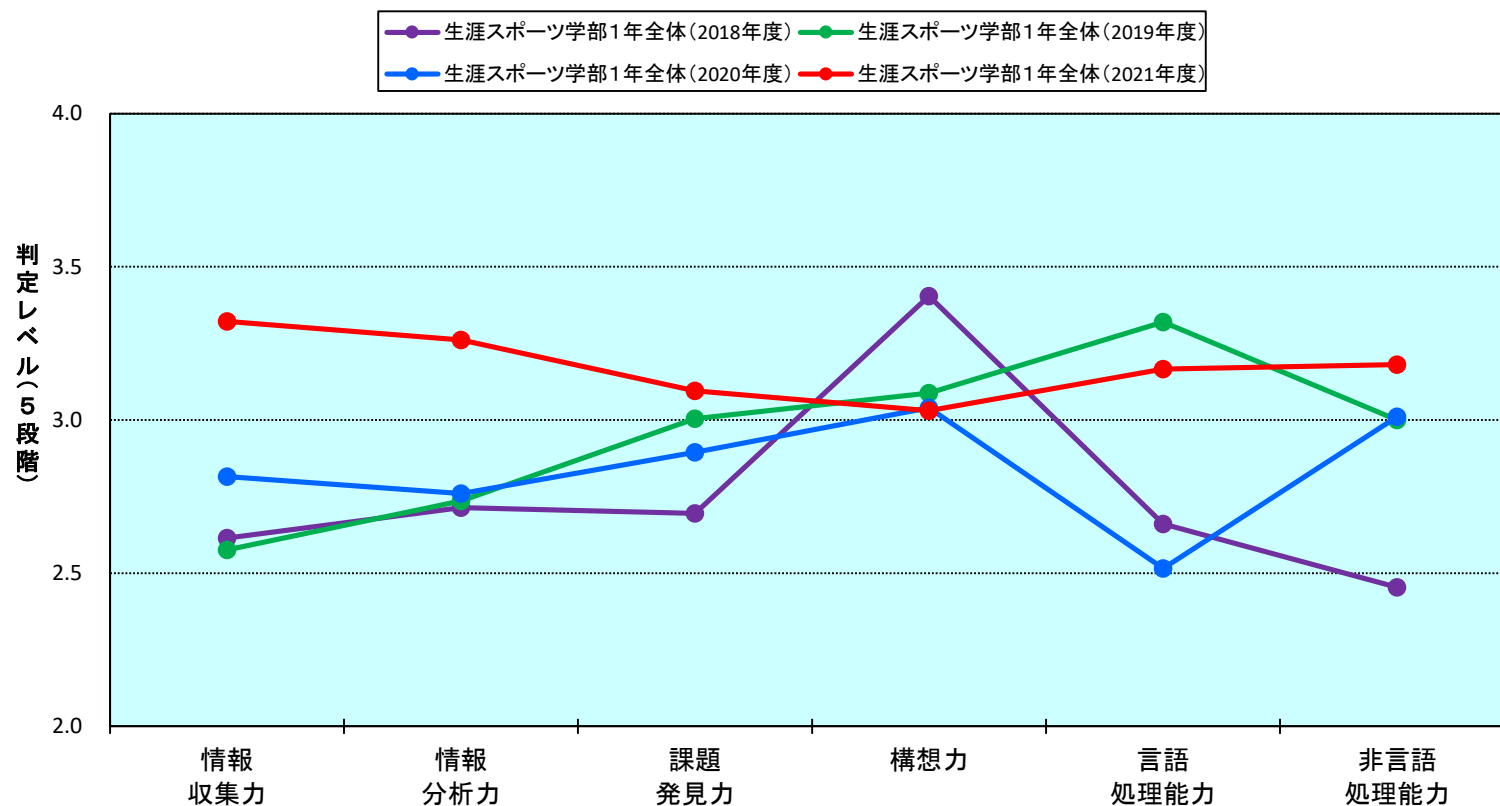


【生涯スポーツ学部1年全体】

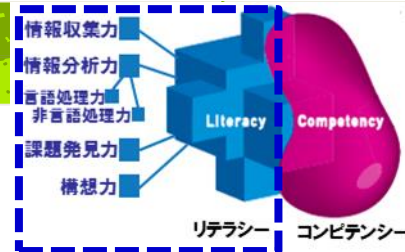
情報収集力、情報分析力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、構想力は、2020年度のスコアを下回る。

リテラシー要素



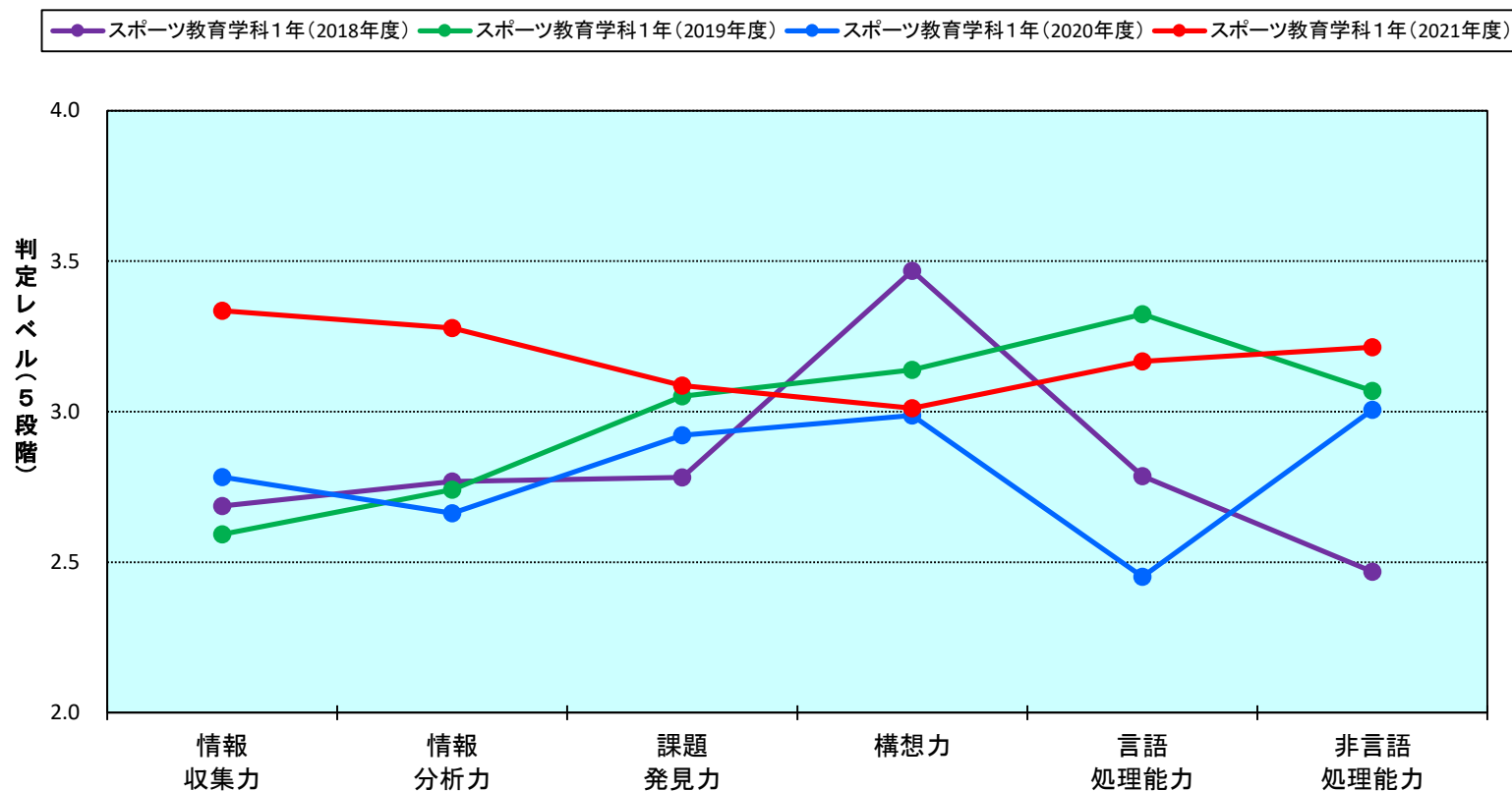
リテラシー要素（過去の受験者との比較）②



【スポーツ教育学科1年】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2020年度スコアを上回る。

リテラシー要素

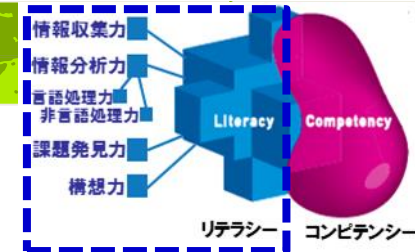


リテラシー要素（過去の受験者との比較）③

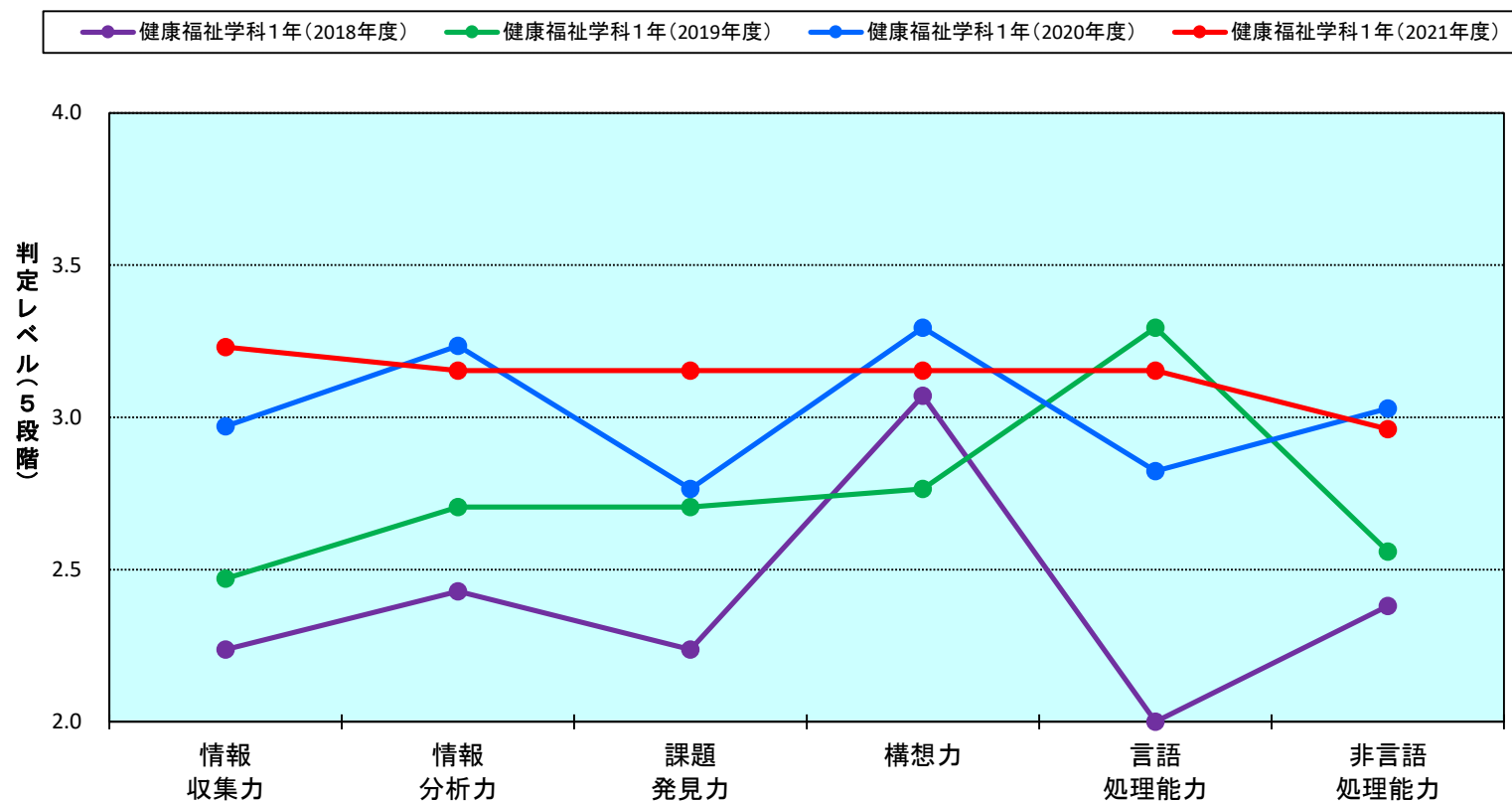
【健康福祉学科1年】

情報収集力、課題発見力、言語処理能力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、情報分析力、構想力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを下回る。



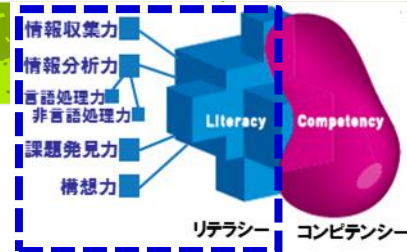
リテラシー要素



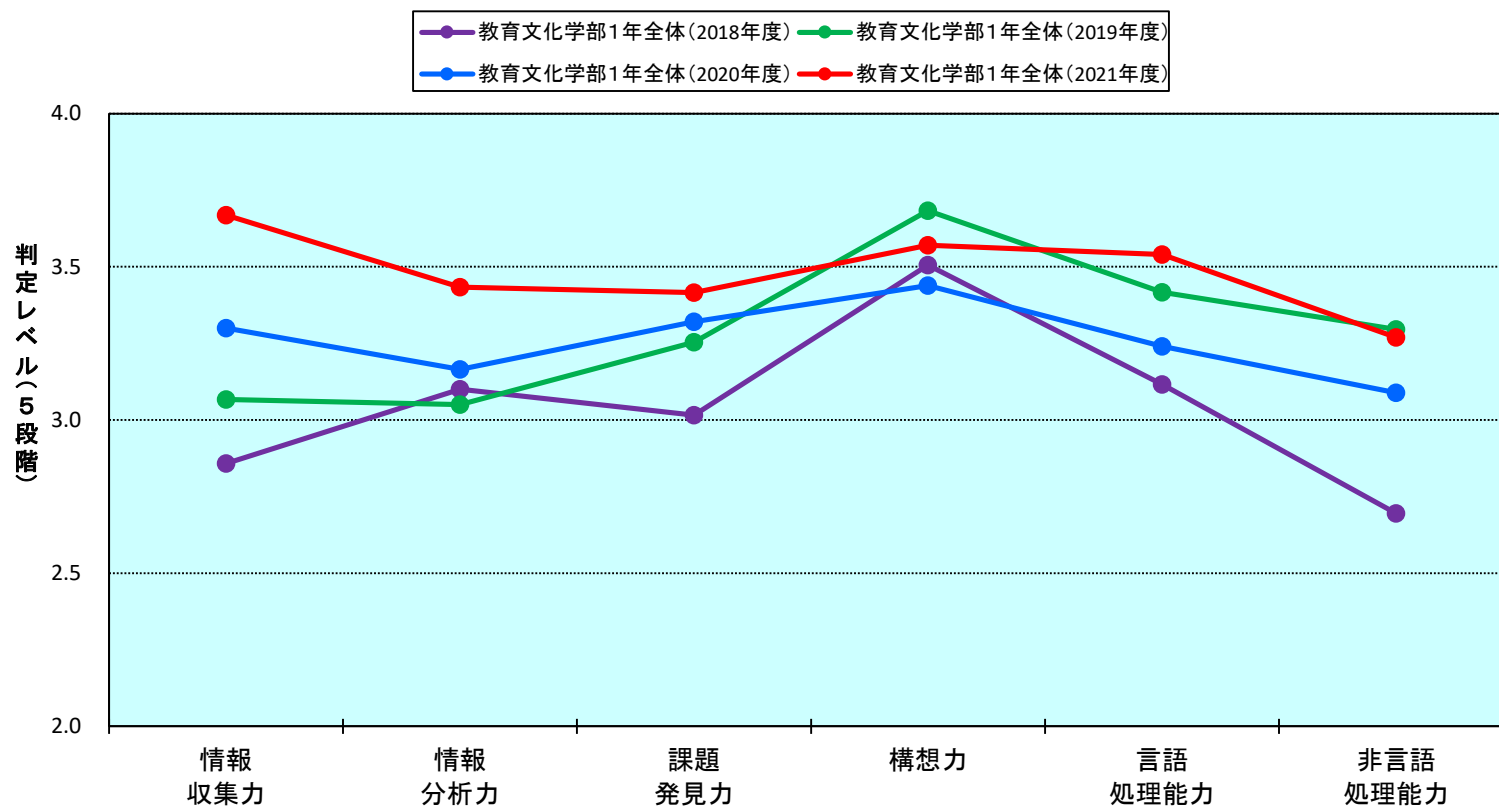
リテラシー要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部1年全体】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを上回る。



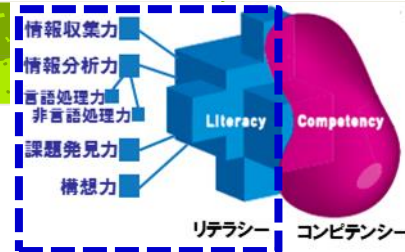
リテラシー要素



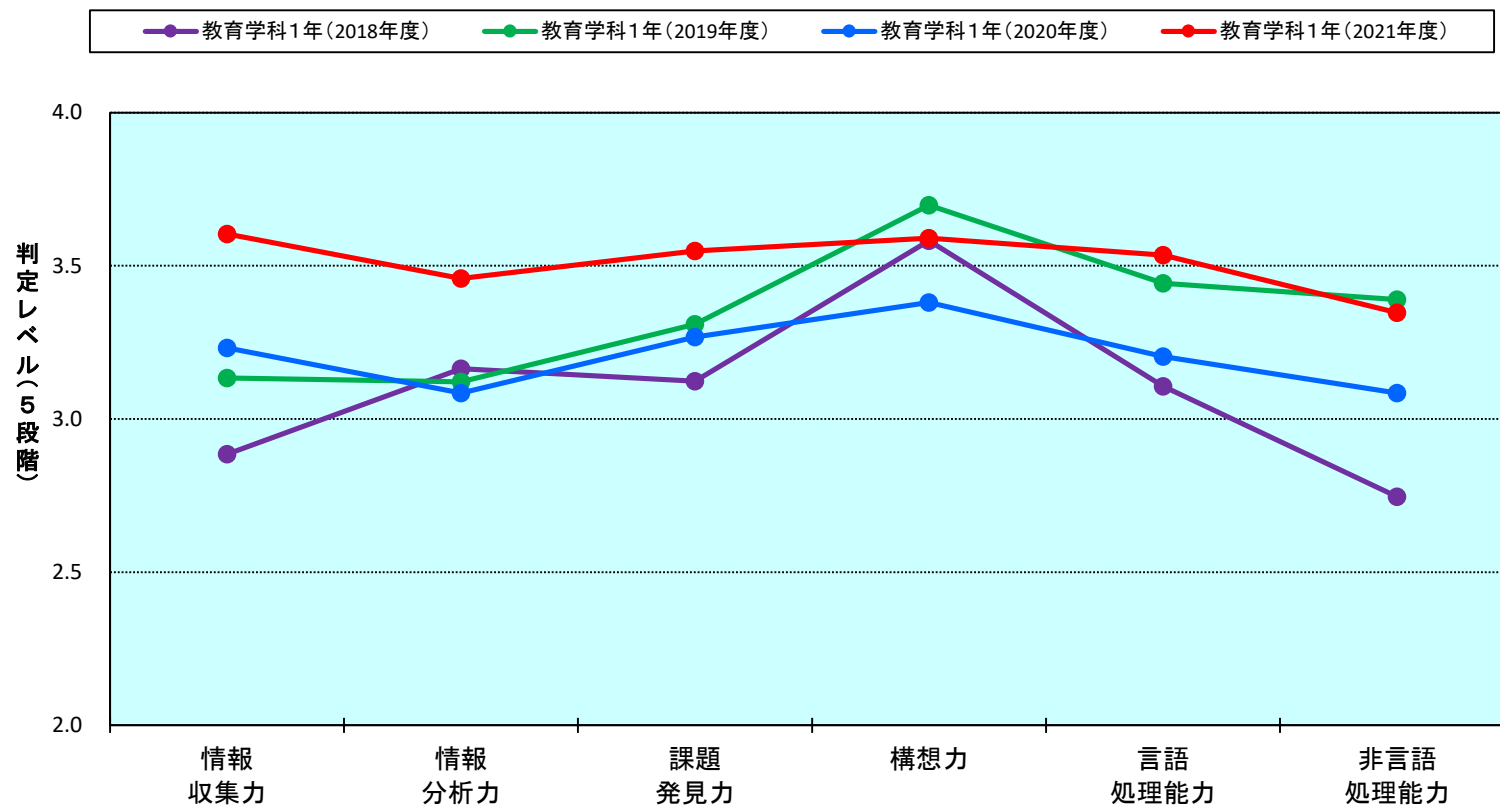
リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科1年】

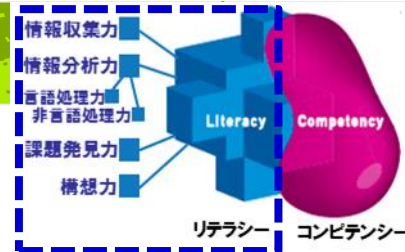
情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを上回る。



リテラシー要素



リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑥

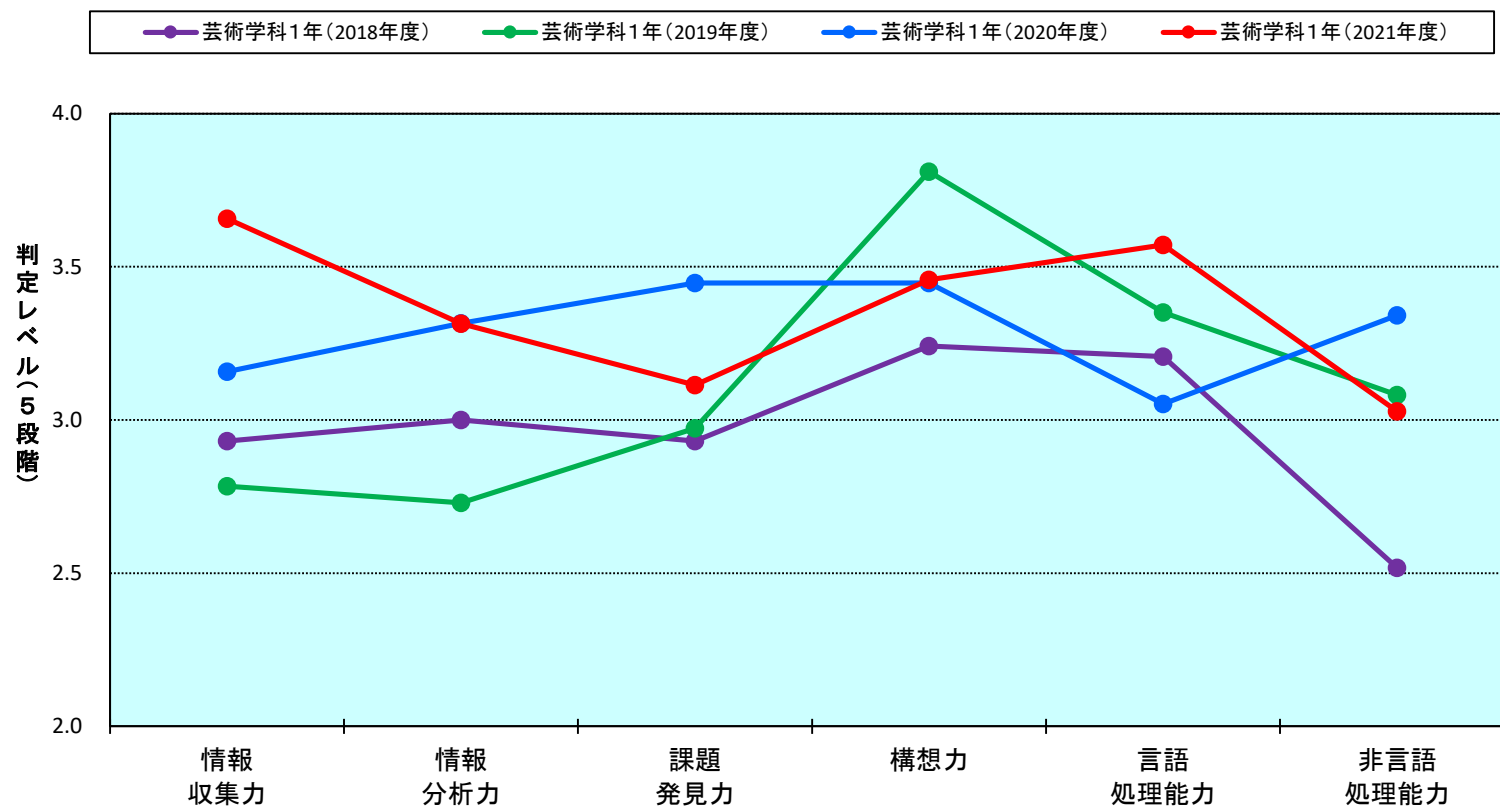


【芸術学科1年】

情報収集力、構想力、言語処理能力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、情報分析力、課題発見力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを下回る。

リテラシー要素

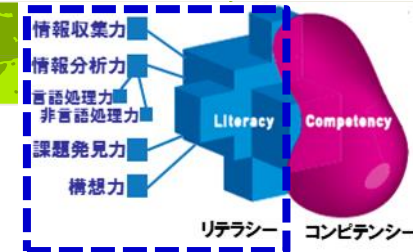


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑦

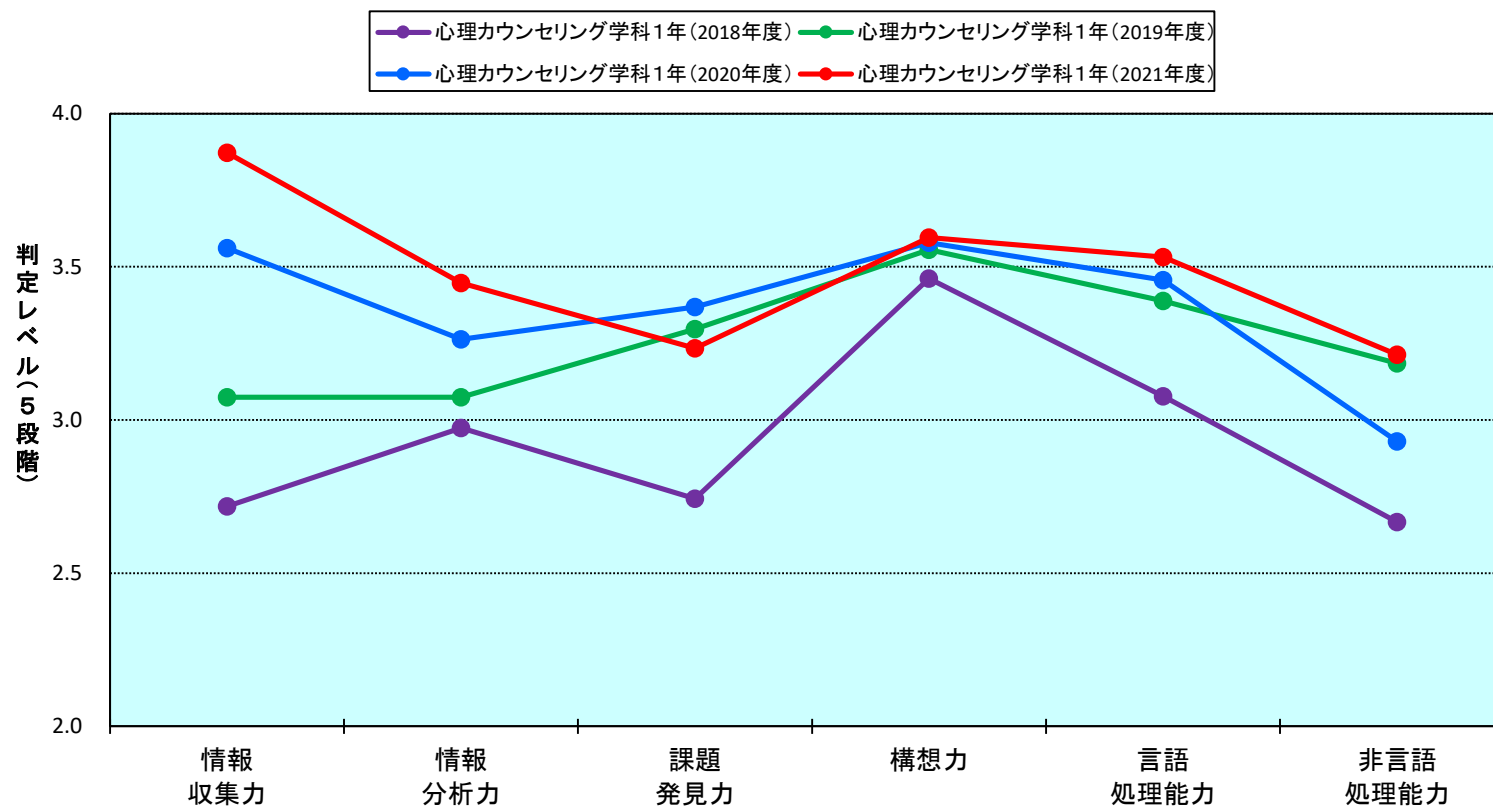
【心理カウンセリング学科1年】

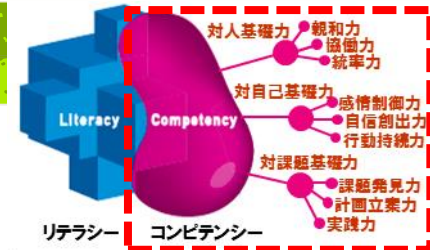
情報収集力、情報分析力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、課題発見力は、2020年度のスコアを下回る。



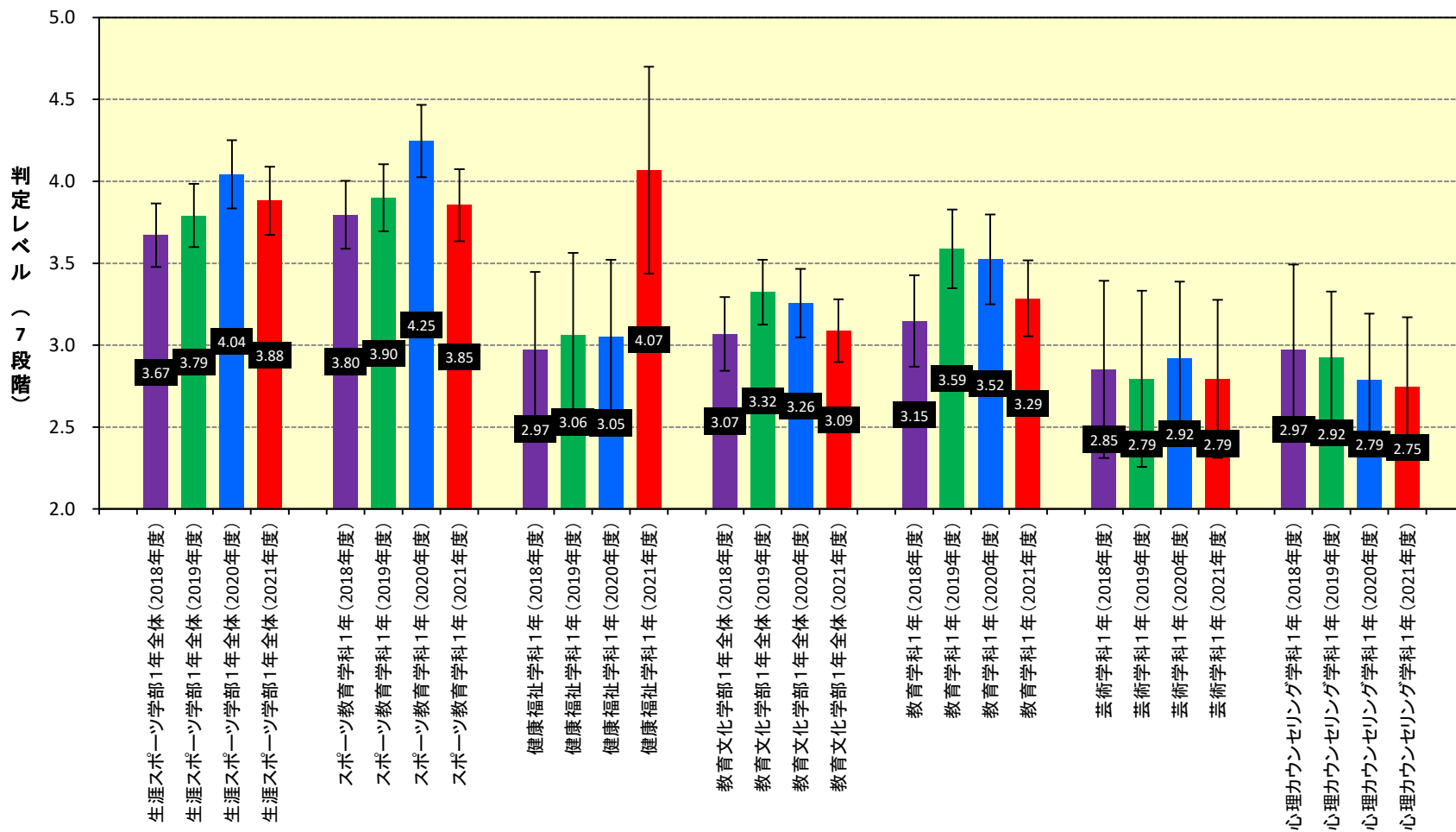
リテラシー要素



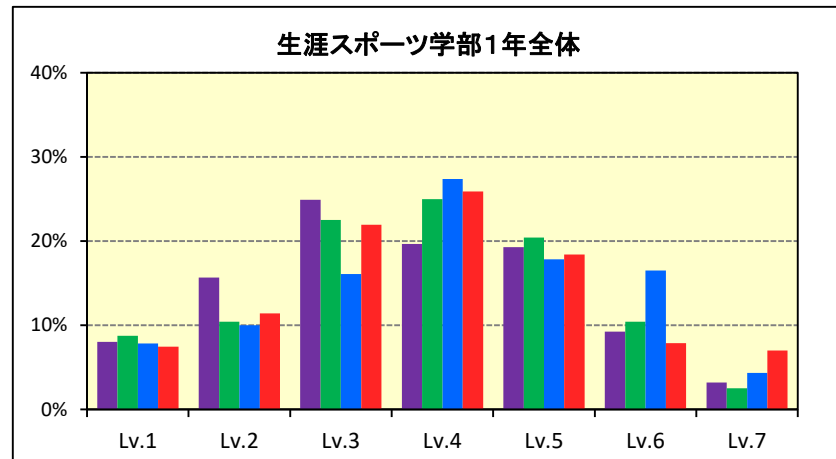
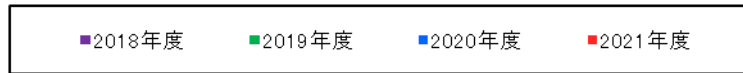
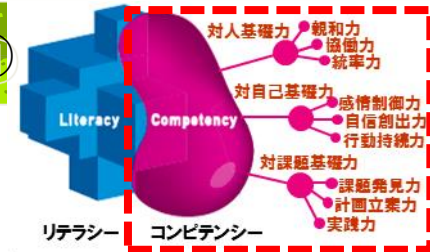


- 健康福祉学科1年は、2020年度のスコアを上回る。
- 生涯スポーツ学部1年全体、スポーツ教育学科1年、教育文化学部1年全体、教育学科1年、芸術学科1年、心理カウンセリング学科1年は、2020年度のスコアを下回る。

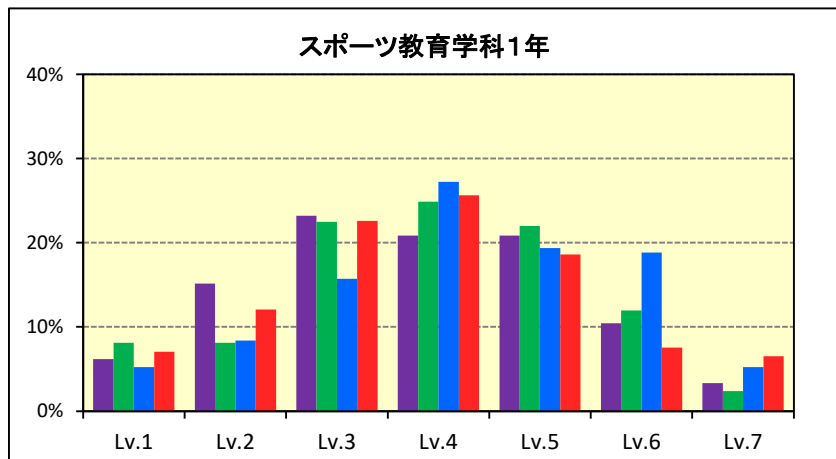
コンピテンシー総合



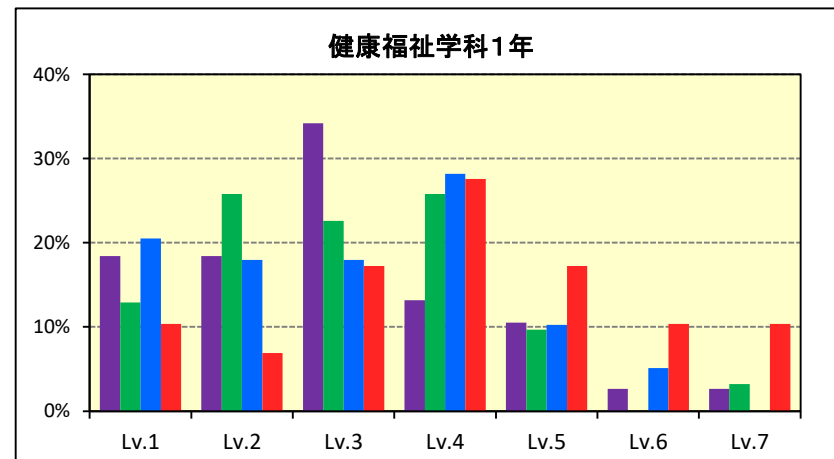
コンピテンシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較)①



2020年度に比べて、レベル6の割合が小さく、レベル3の割合が大きい。

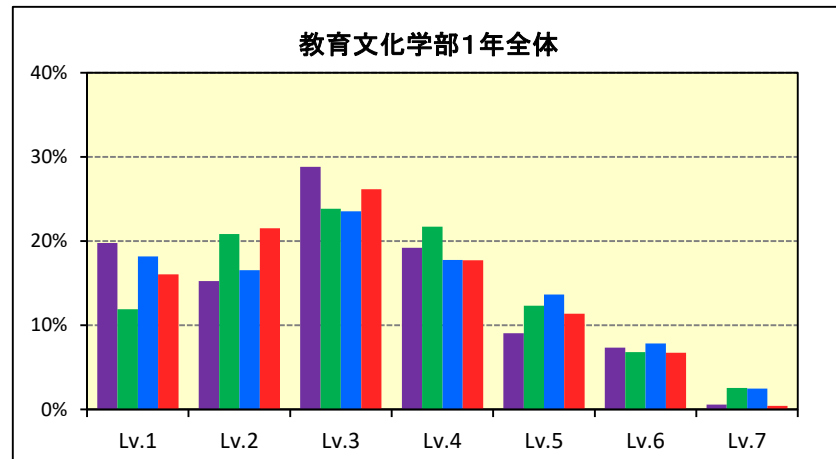
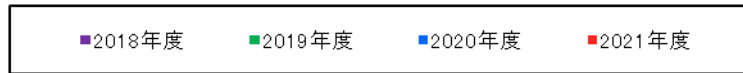
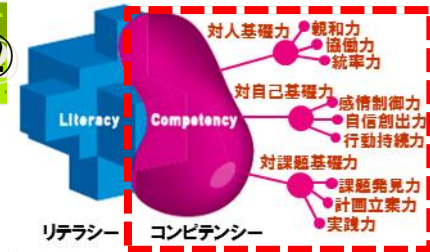


2020年度に比べて、レベル6の割合が小さく、レベル2～3のボリュームが大きい。

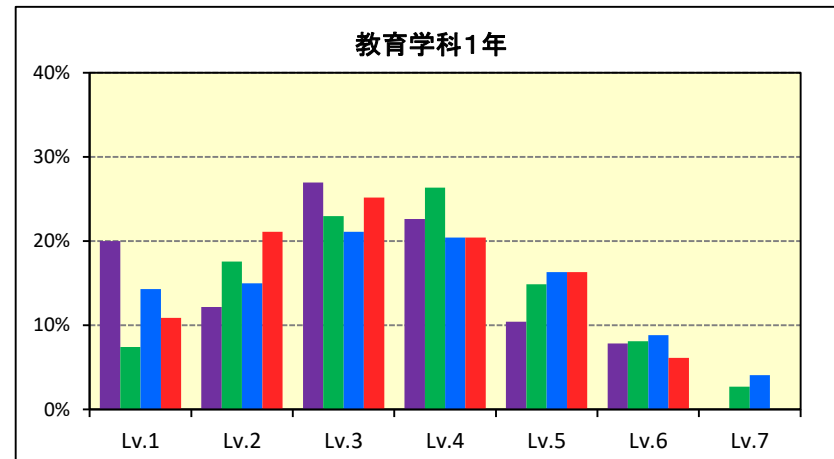


2020年度に比べて、レベル1～2のボリュームが小さく、レベル5～7のボリュームが大きい。

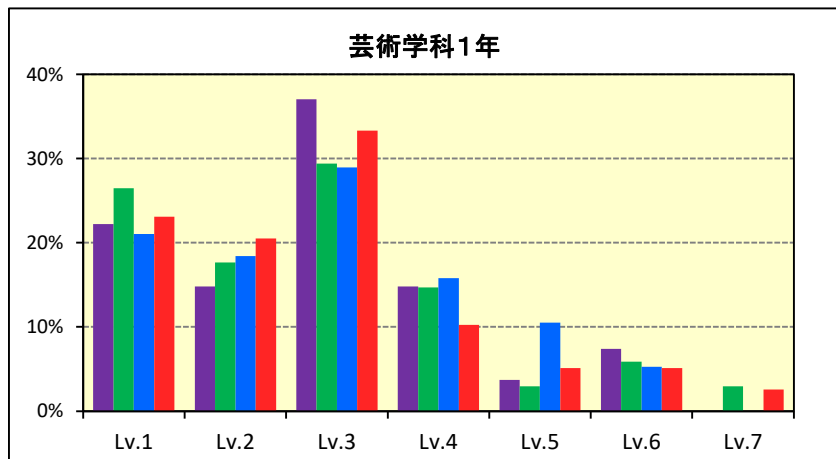
コンピテンシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較)②



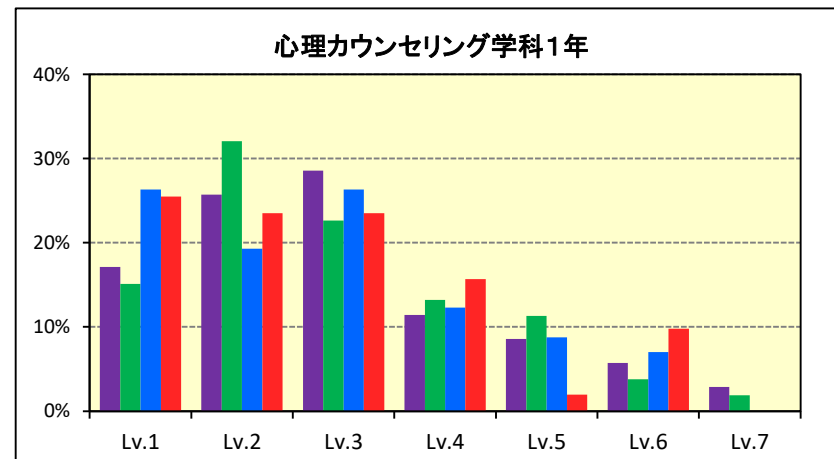
2020年度に比べて、レベル2の割合が大きい。



2020年度に比べて、レベル1、レベル7の割合が小さく、レベル2～3のボリュームが大きい。



2020年度に比べて、レベル4～5のボリュームが小さく、レベル3の割合が大きい。



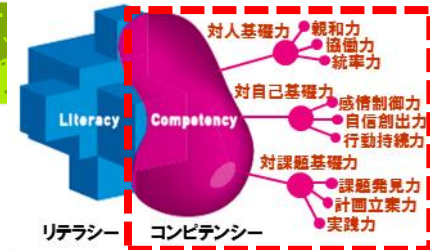
2020年度に比べて、レベル5の割合が小さく、レベル2、レベル4の割合が大きい。

コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）①

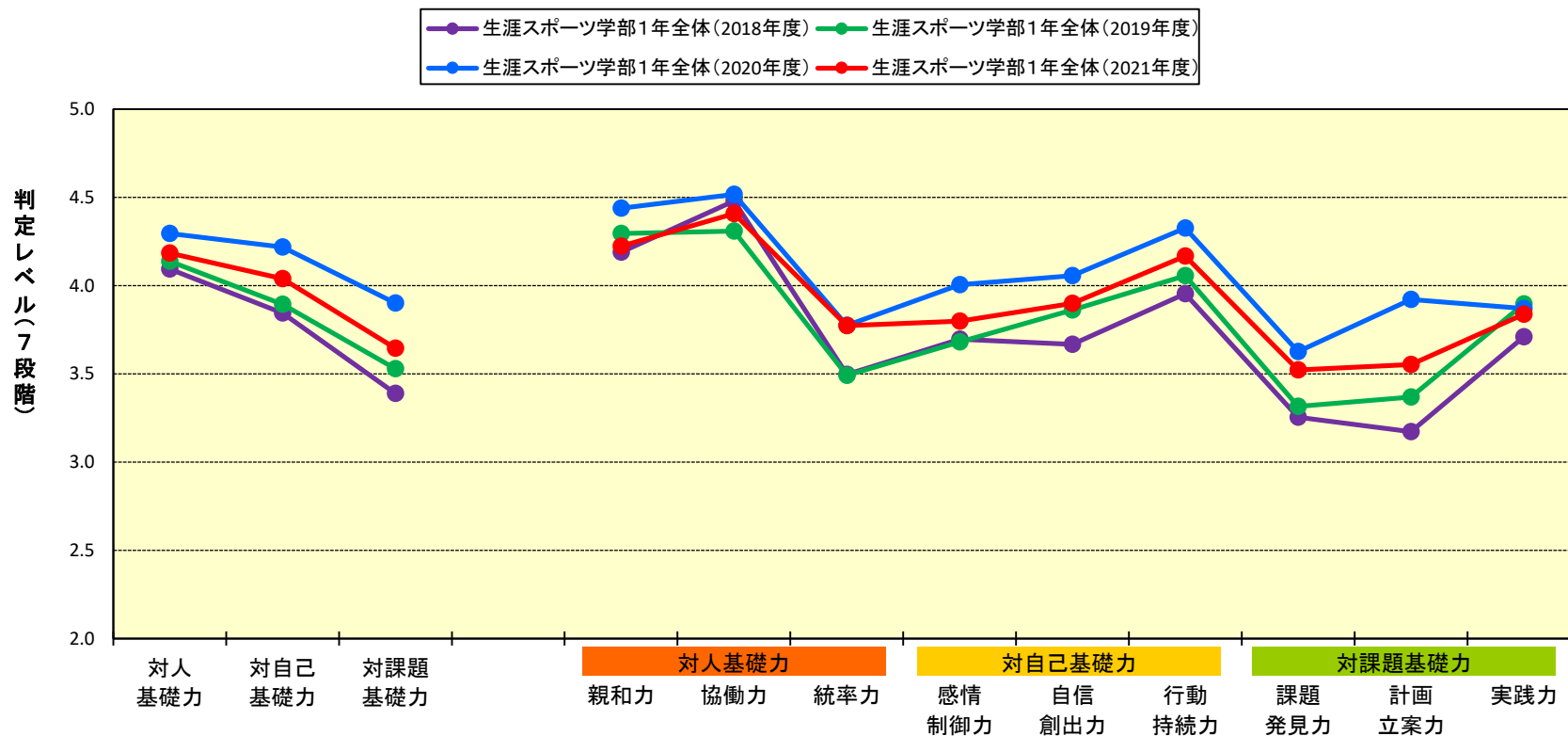
Generic Skills

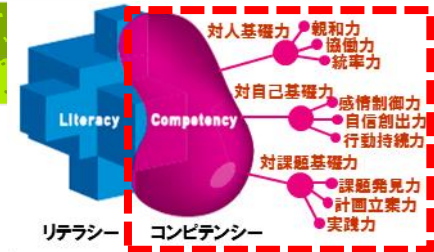
【生涯スポーツ学部1年全体】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2020年度のスコアを下回る。



コンピテンシー要素の伸長

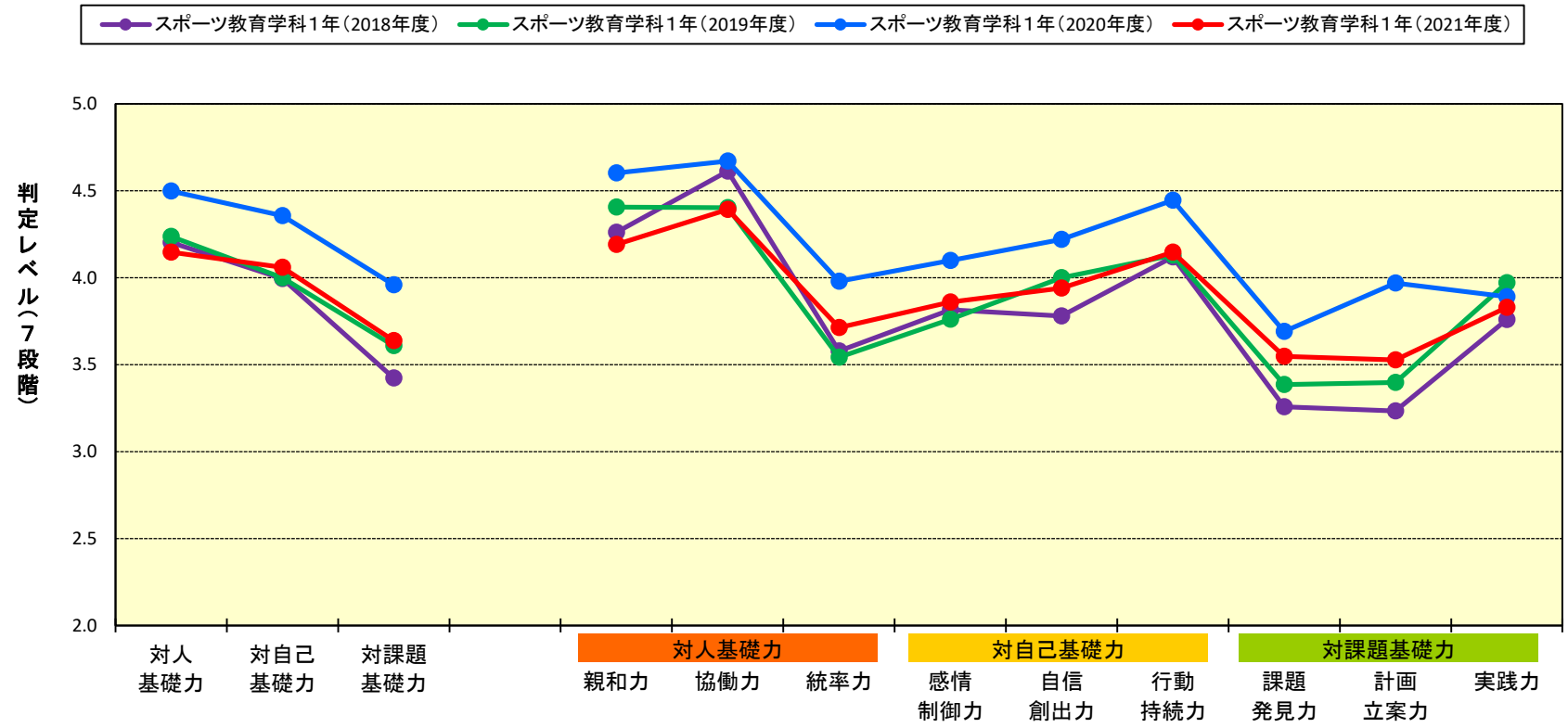




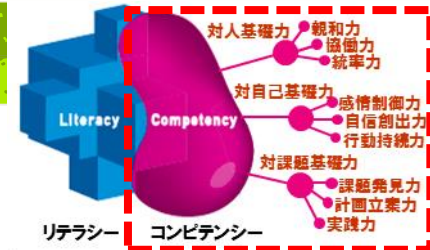
【スポーツ教育学科1年】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2020年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）③

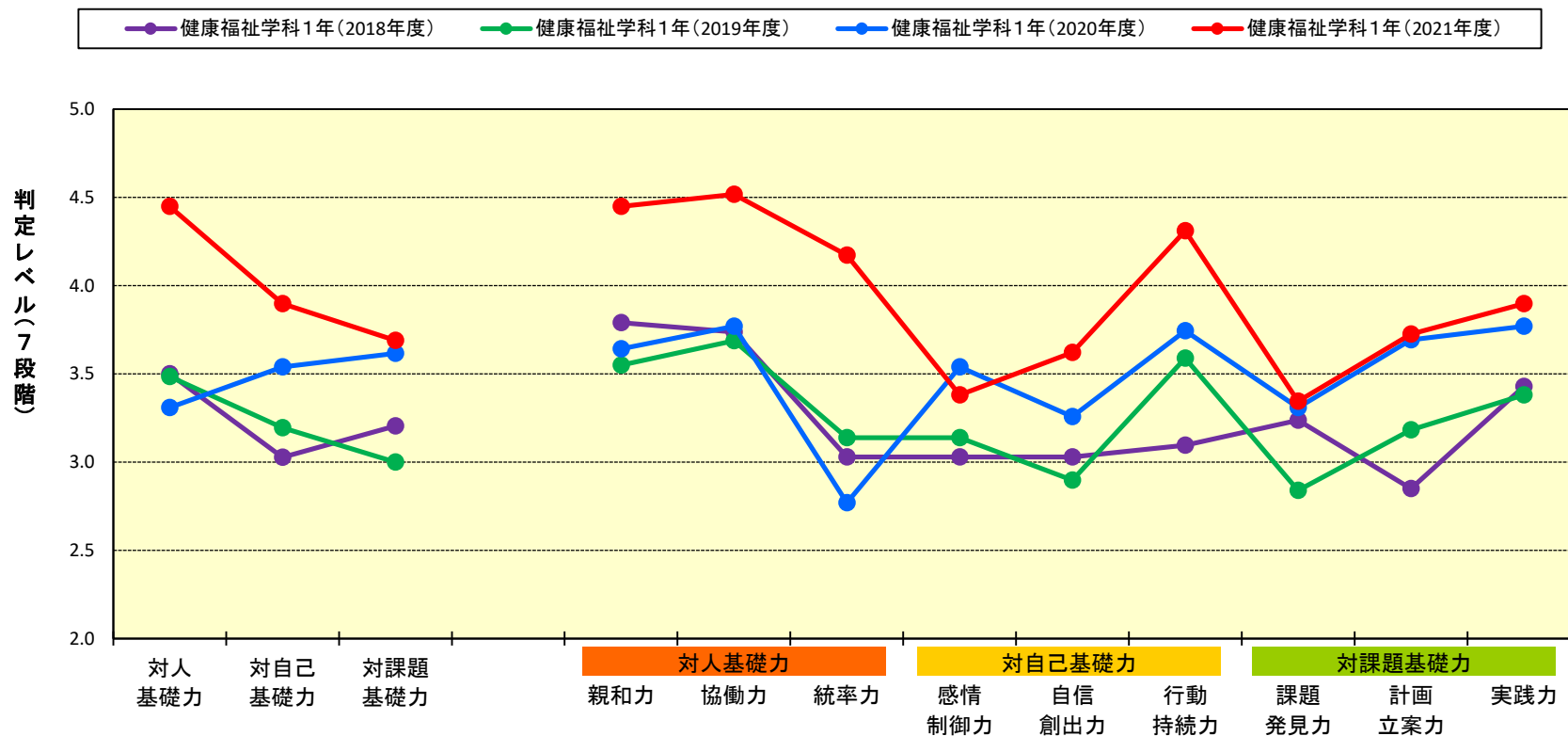


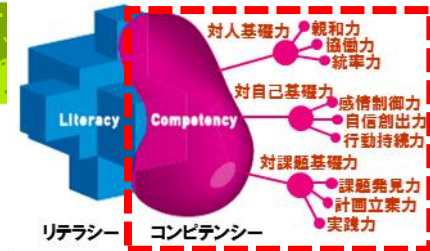
【健康福祉学科1年】

親和力、協働力、統率力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、感情制御力は、2020年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



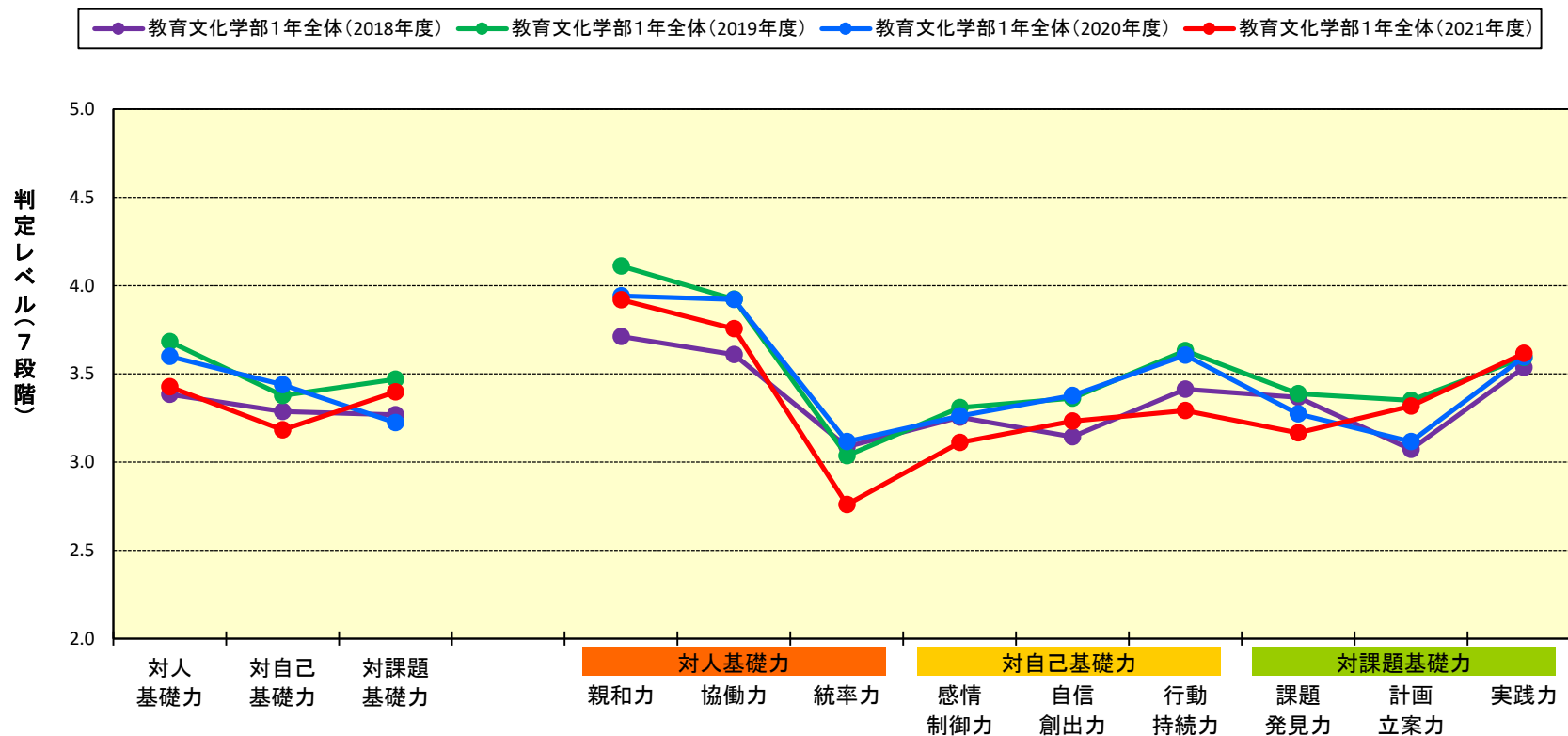


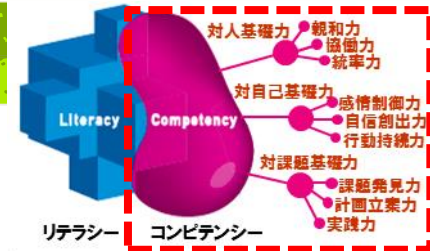
【教育文化学部1年全体】

計画立案力、実践力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力は、2020年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



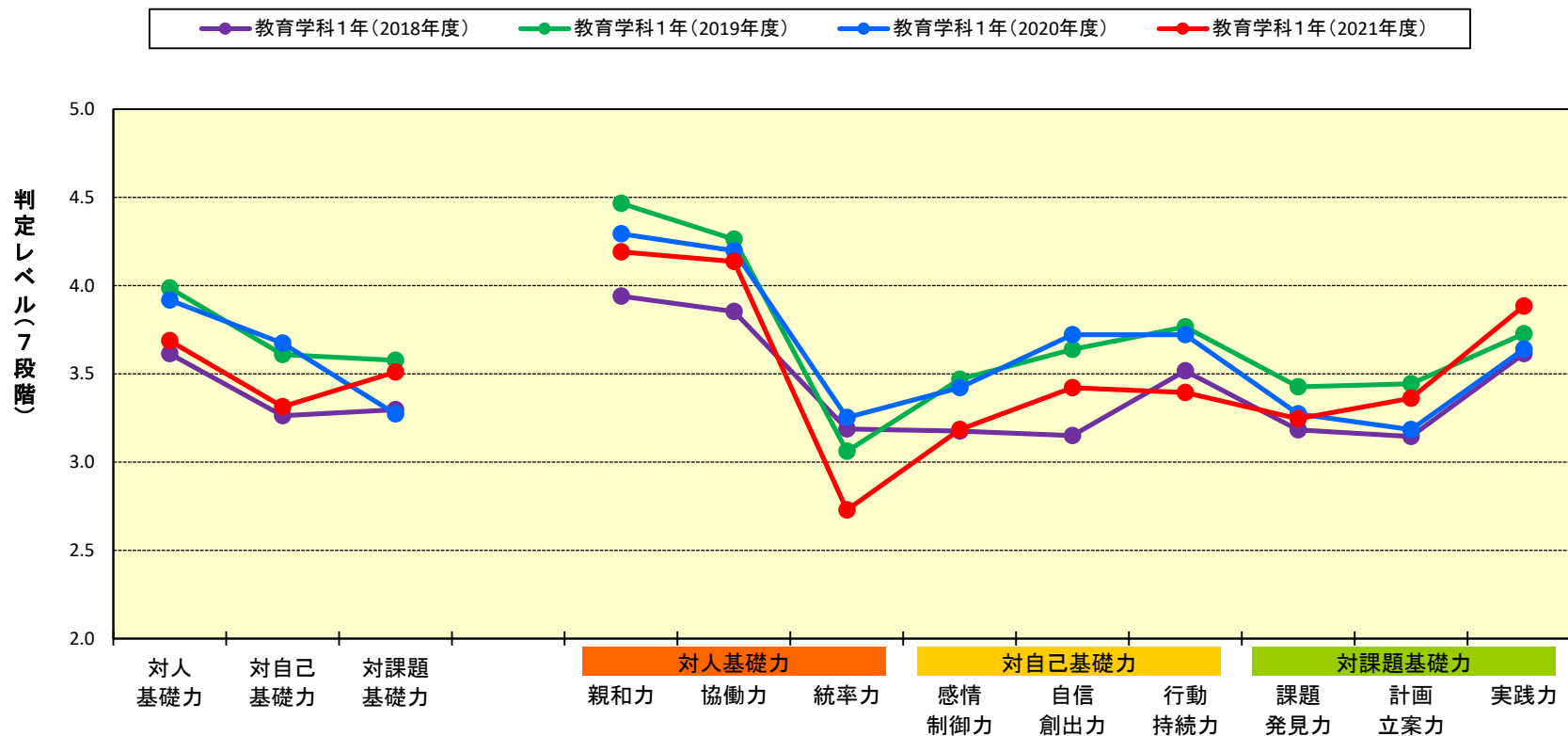


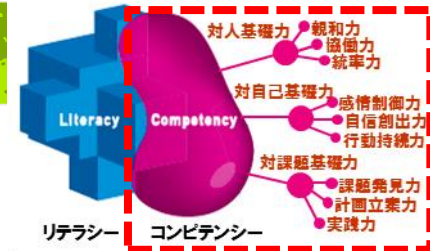
【教育学科1年】

計画立案力、実践力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力は、2020年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



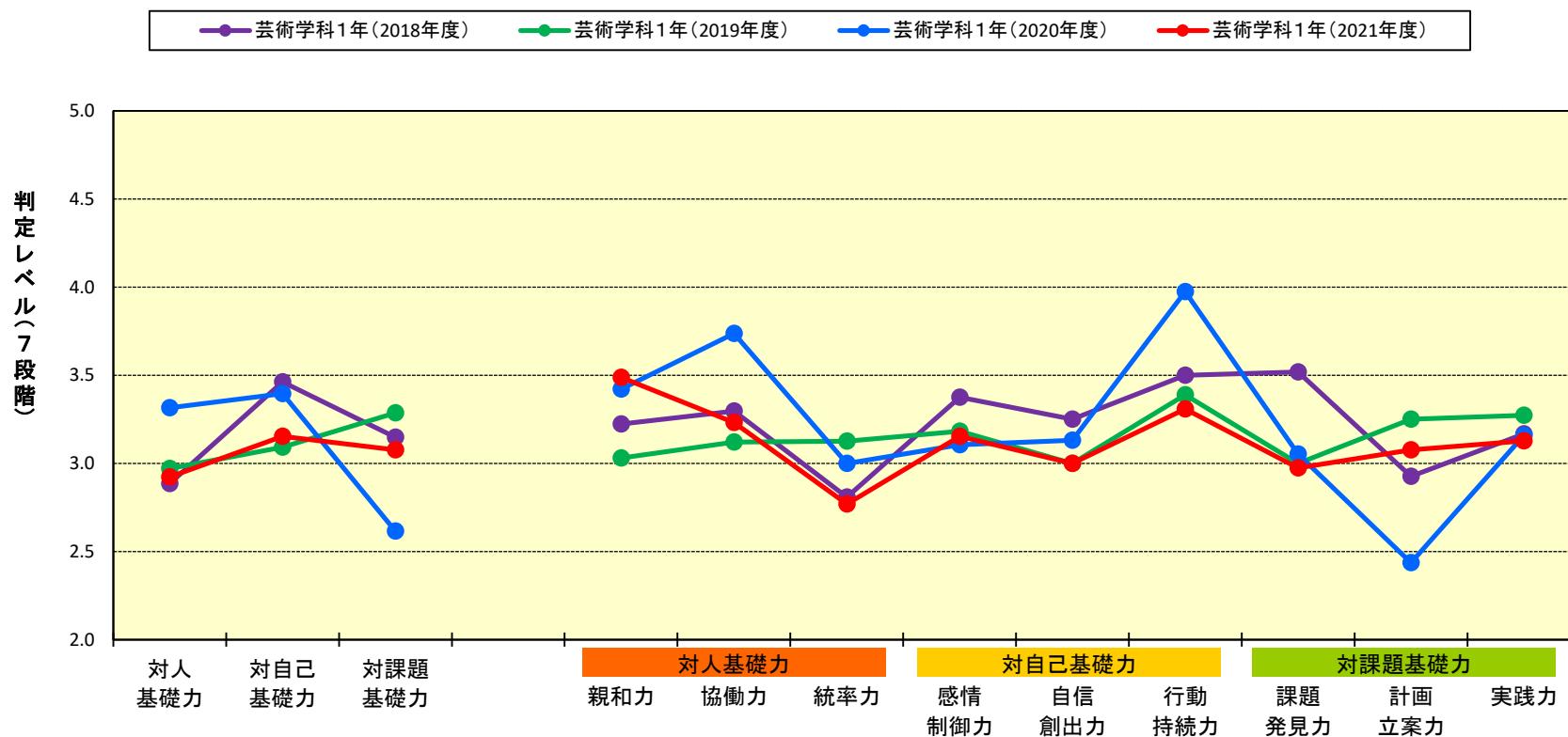


【芸術学科1年】

親和力、感情制御力、計画立案力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、協働力、統率力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力は、2020年度のスコアを下回る。

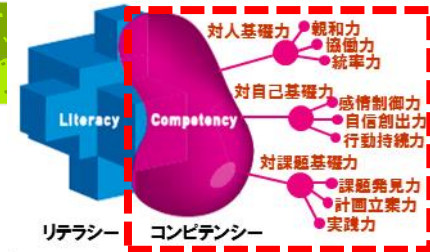
コンピテンシー要素の伸長



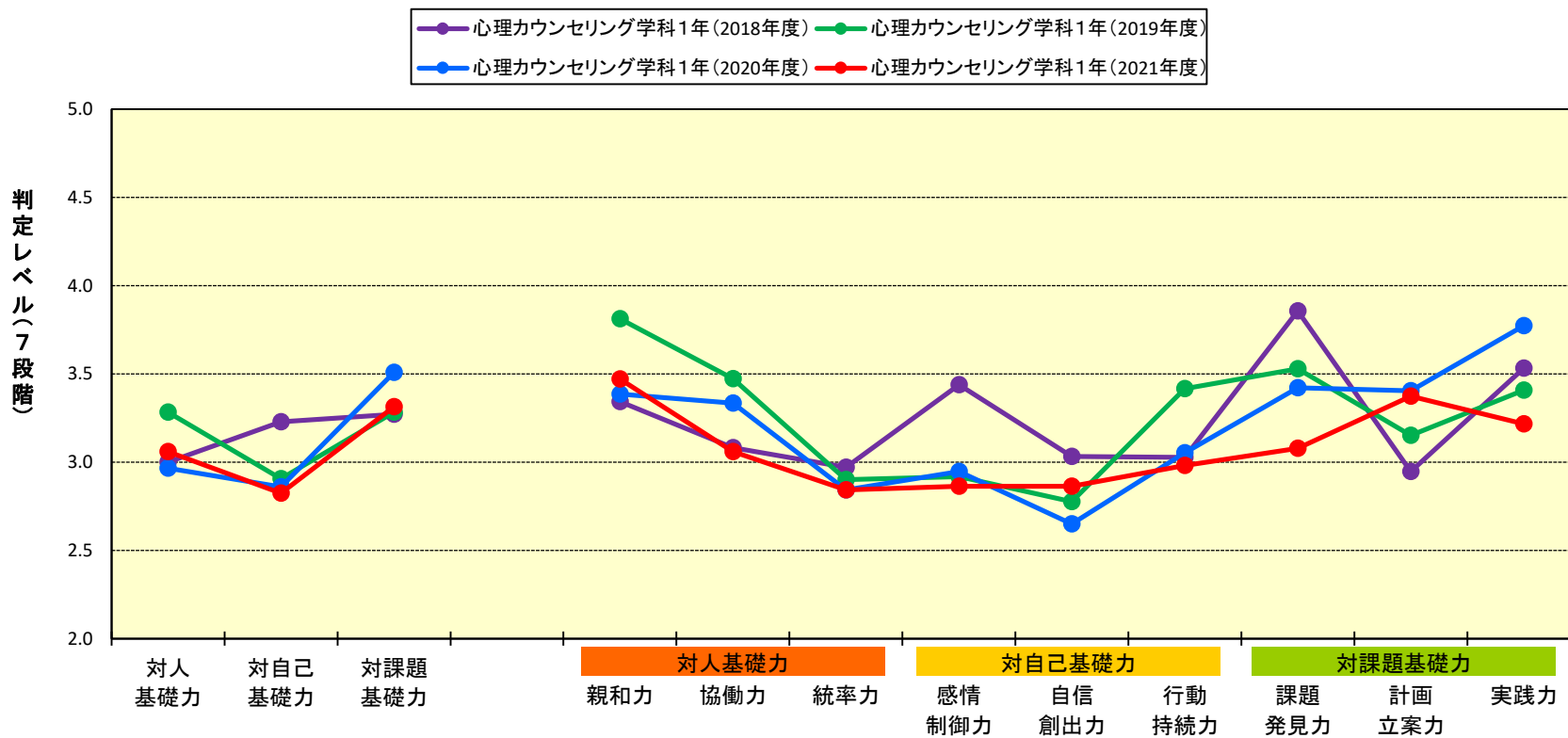
【心理カウンセリング学科1年】

親和力、統率力、自信創出力は、2020年度のスコアを上回る。

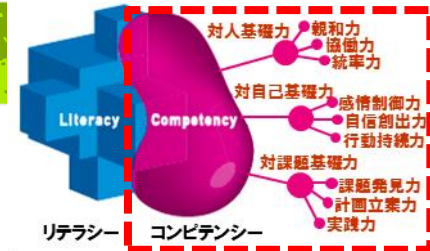
一方、協働力、感情制御力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2020年度のスコアを下回る。



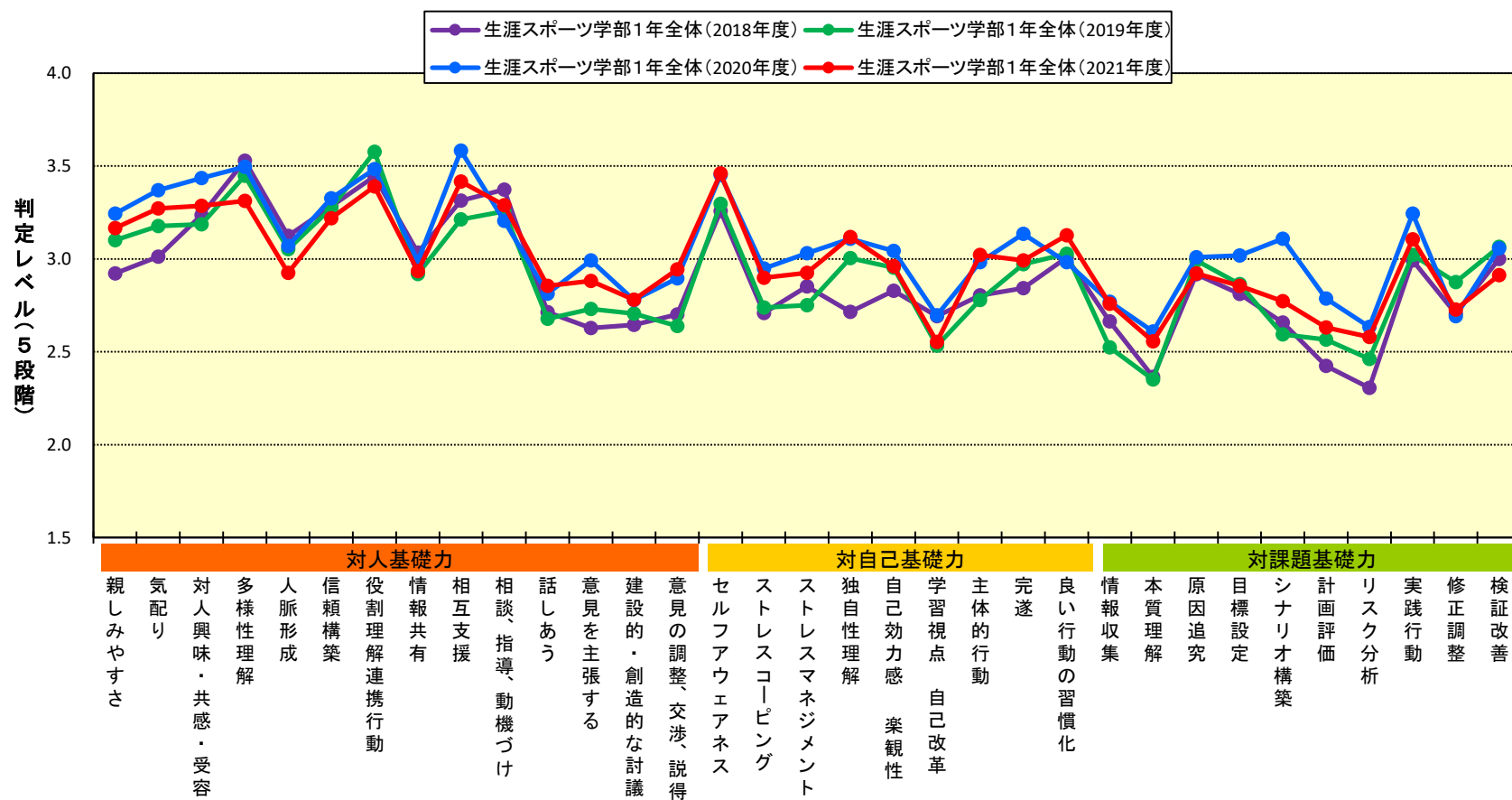
コンピテンシー要素の伸長



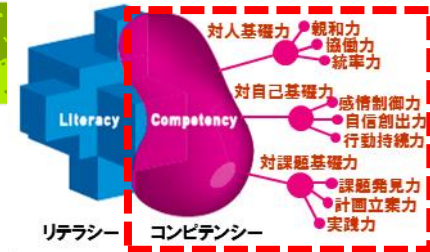
【生涯スポーツ学部1年全体】



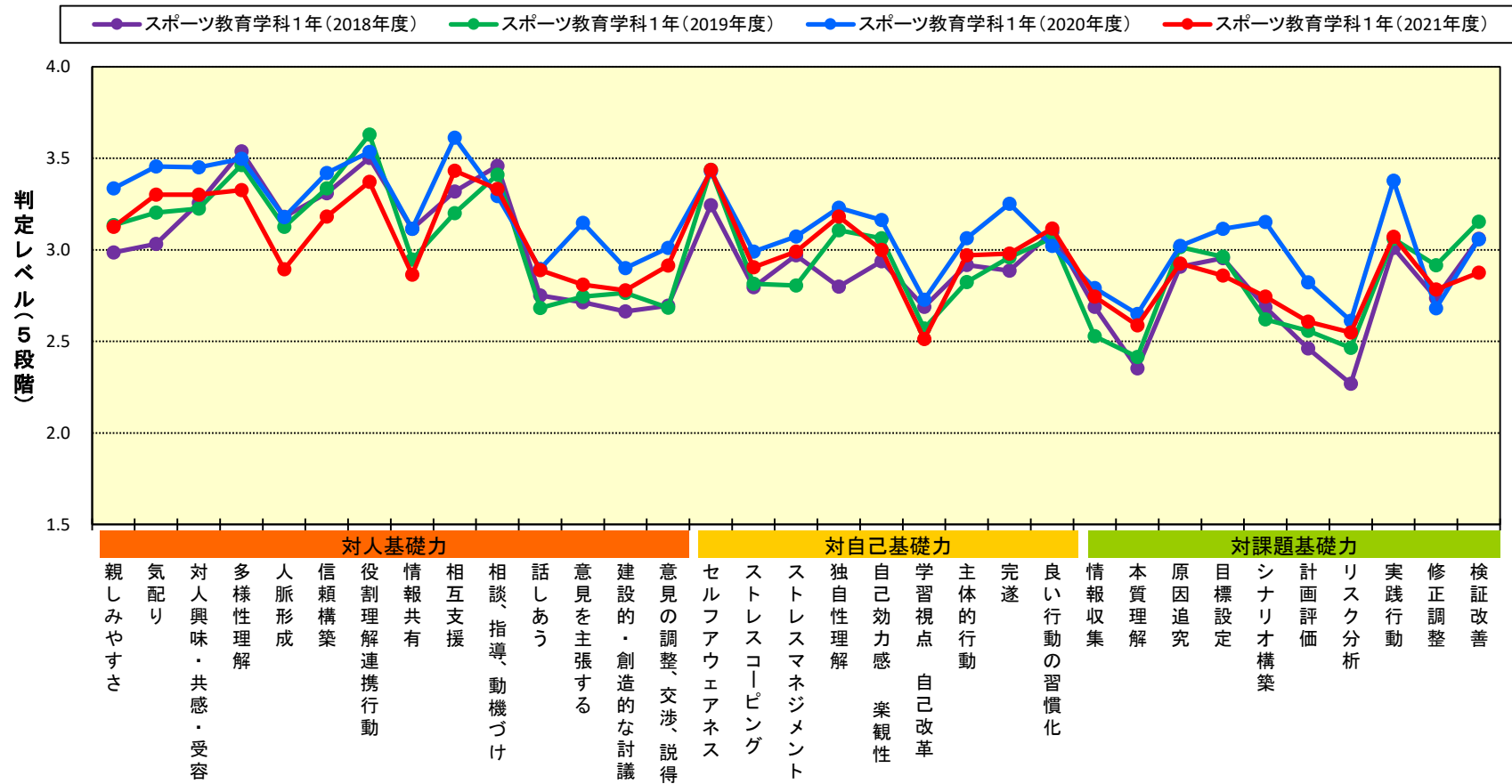
コンピテンシー小分類要素



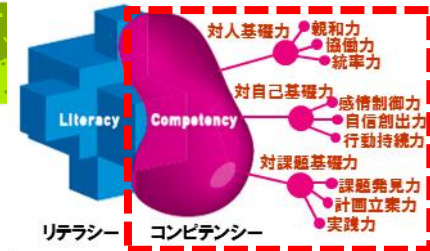
【スポーツ教育学科1年】



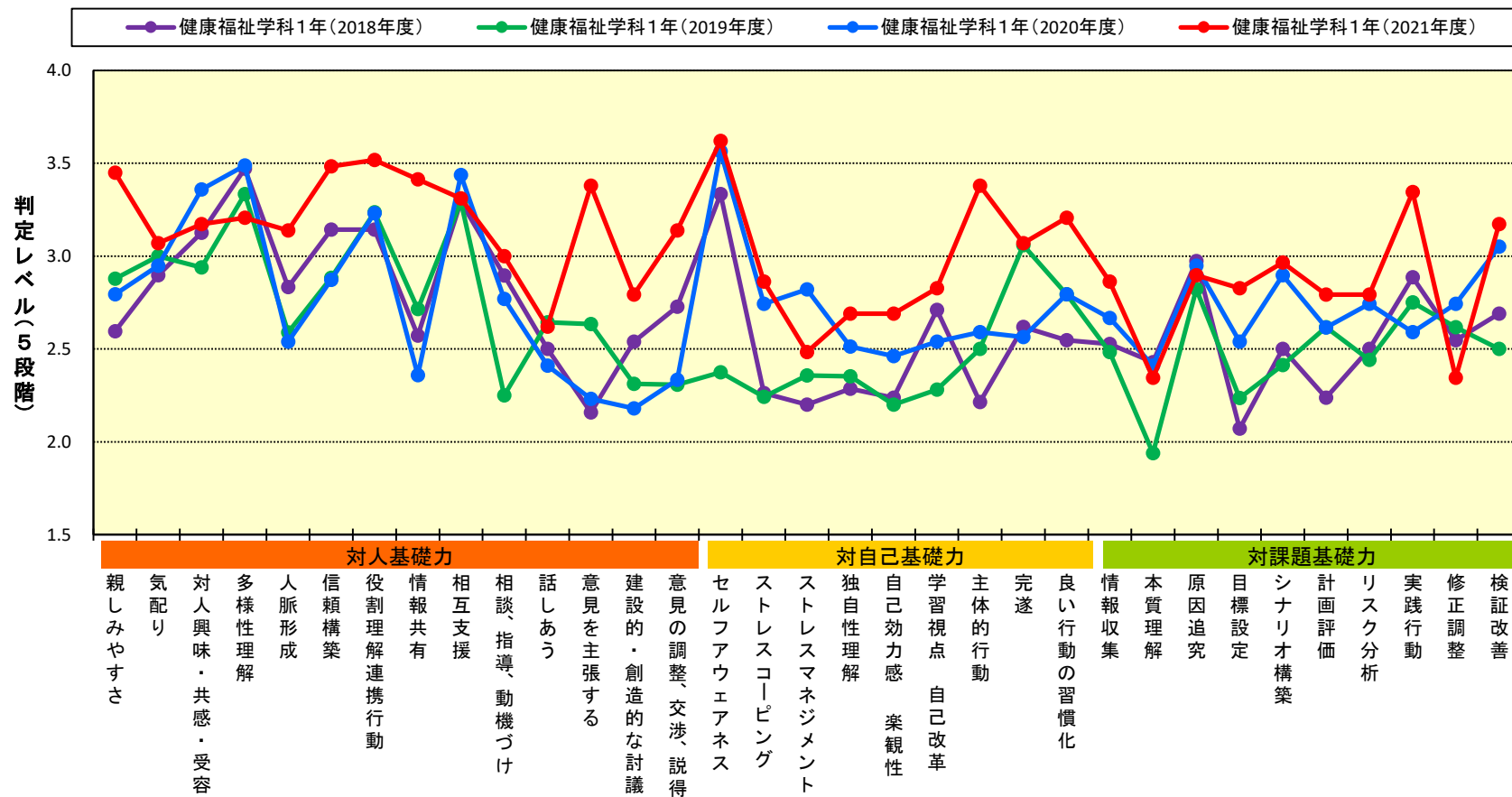
コンピテンシー小分類要素



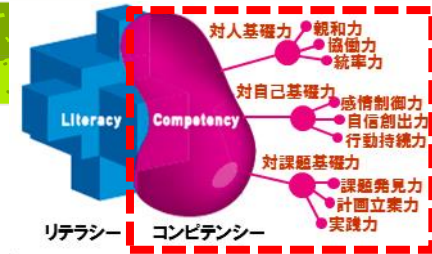
【健康福祉学科1年】



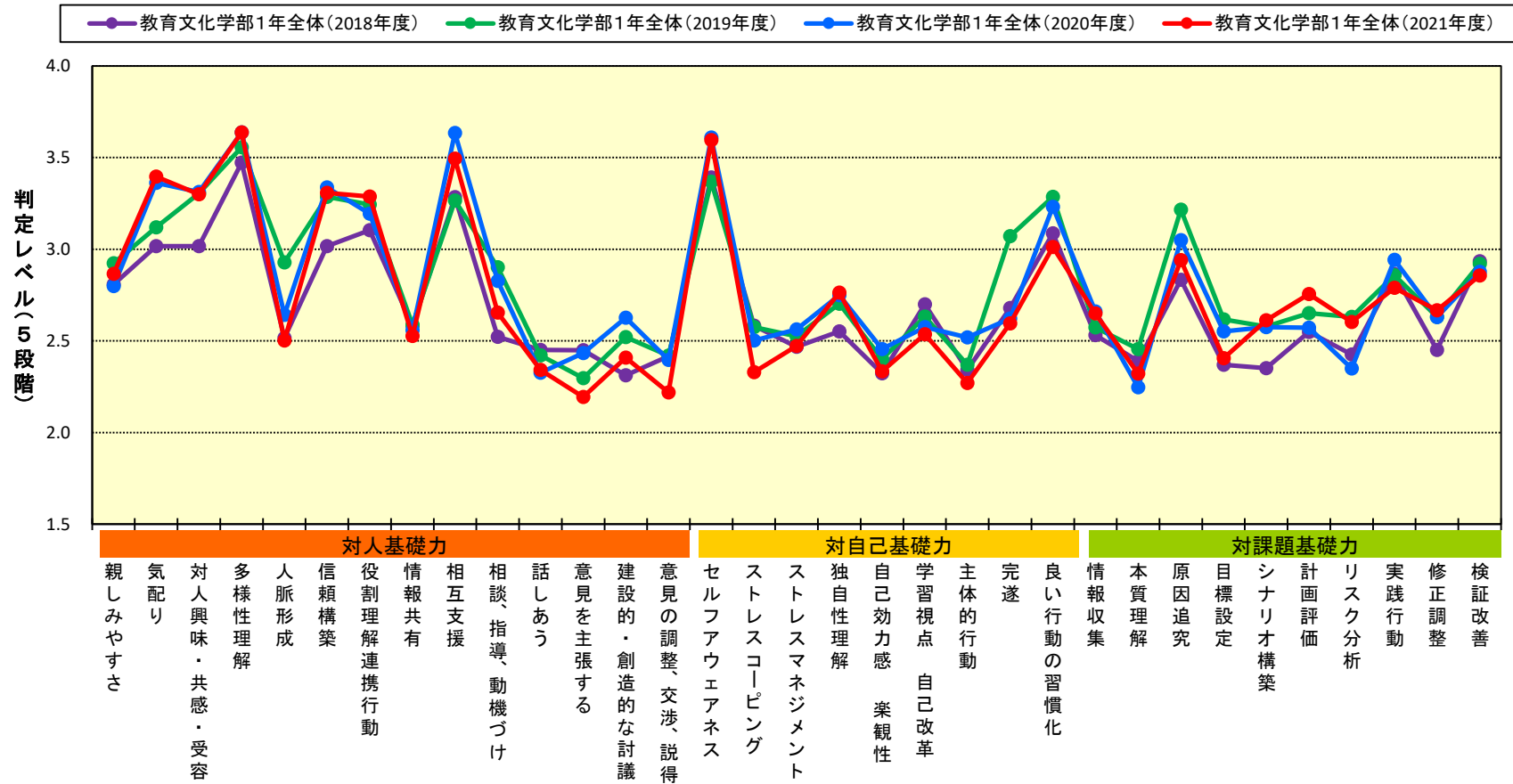
コンピテンシー小分類要素

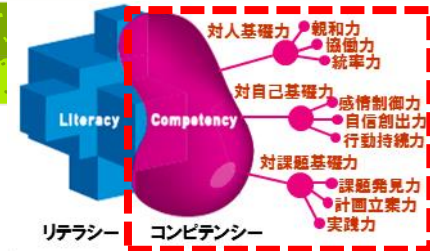


【教育文化学部1年全体】

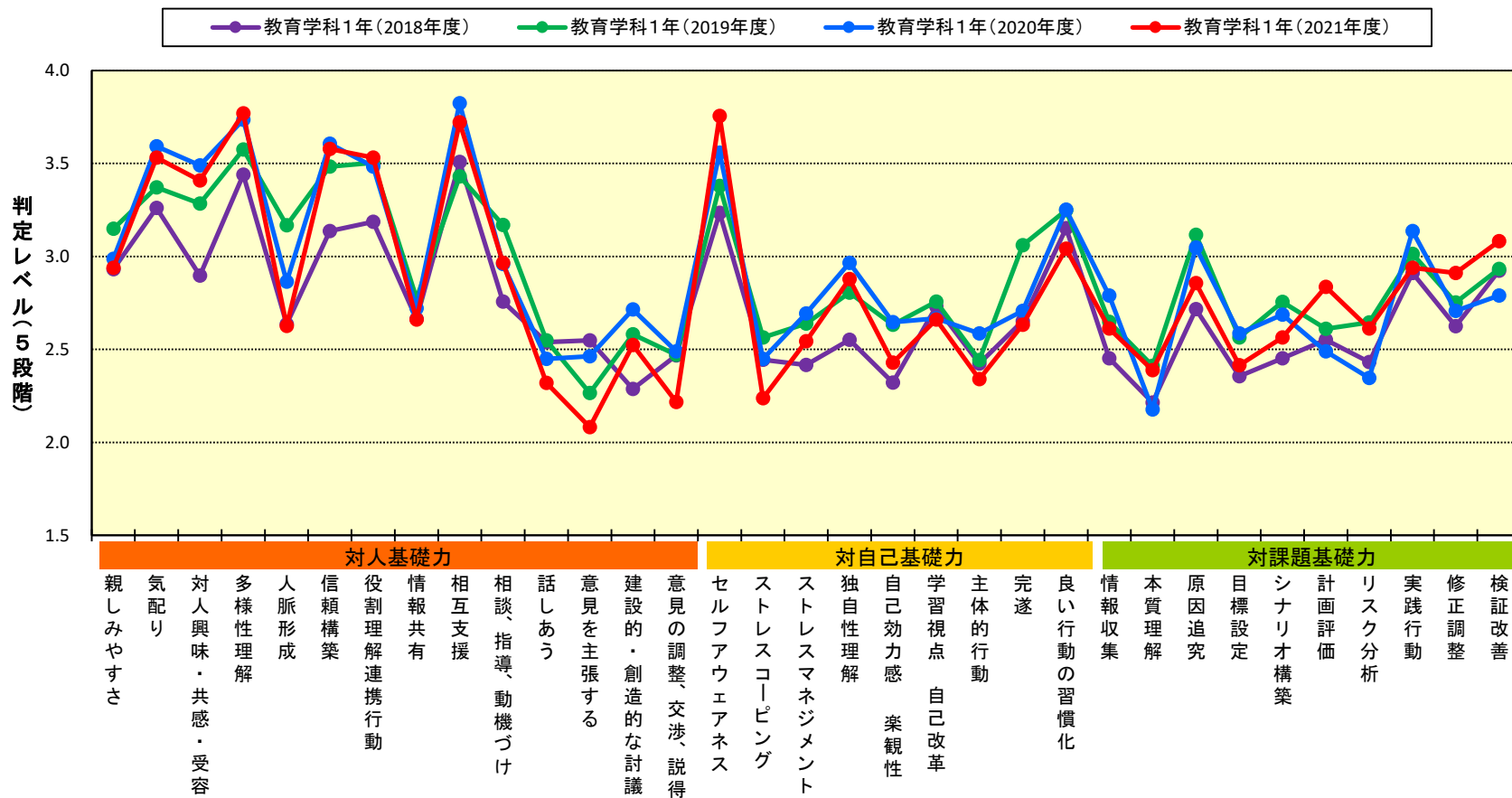


コンピテンシー小分類要素

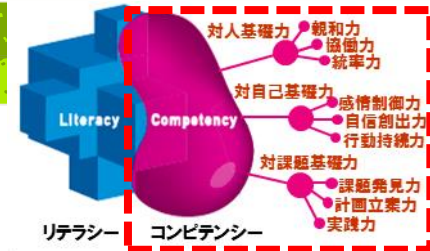




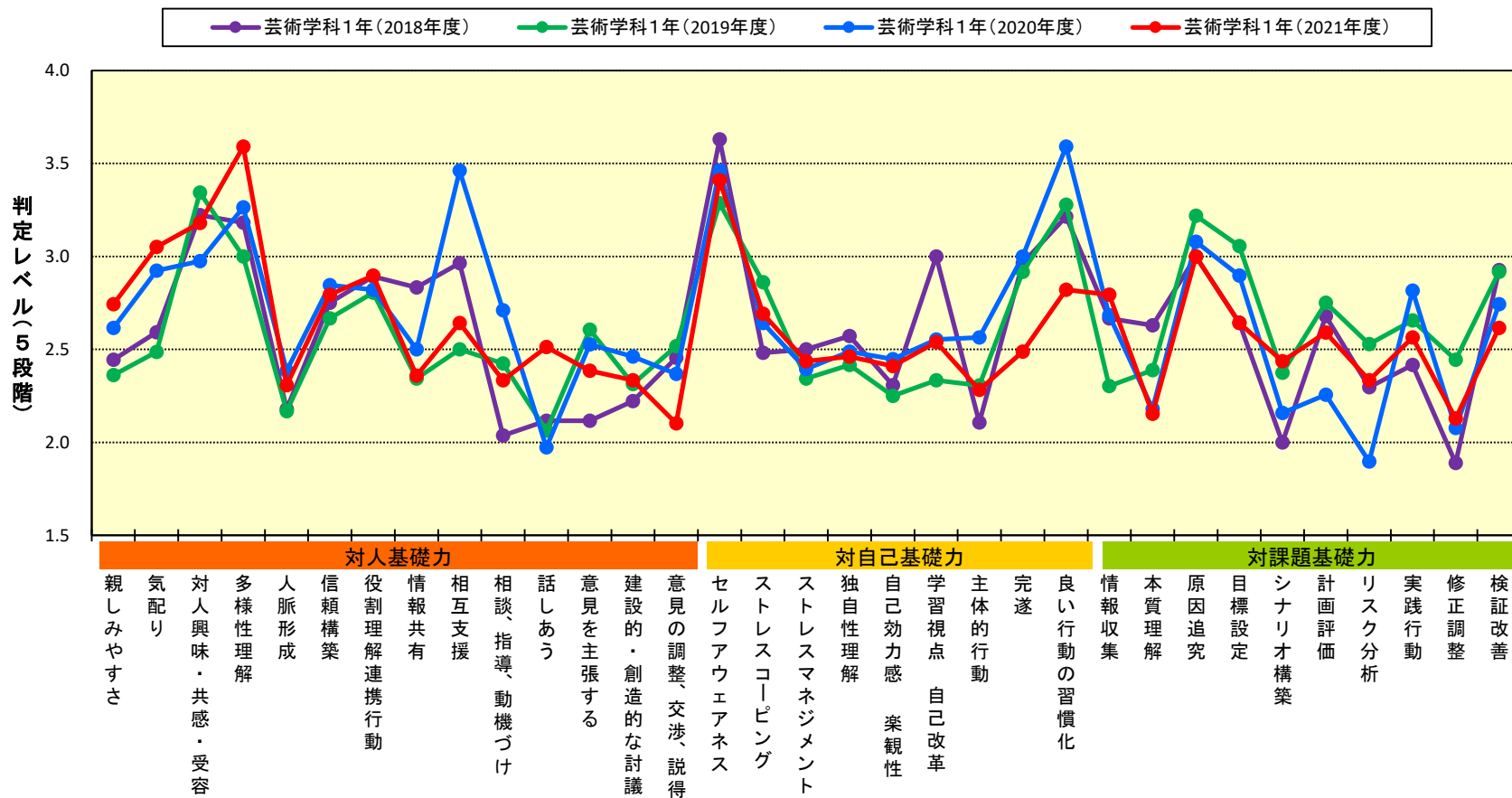
コンピテンシー小分類要素

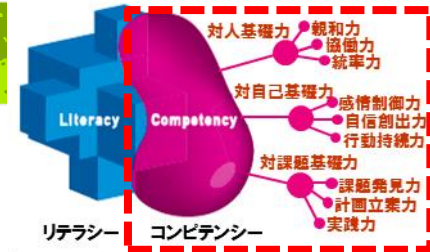


【芸術学科1年】

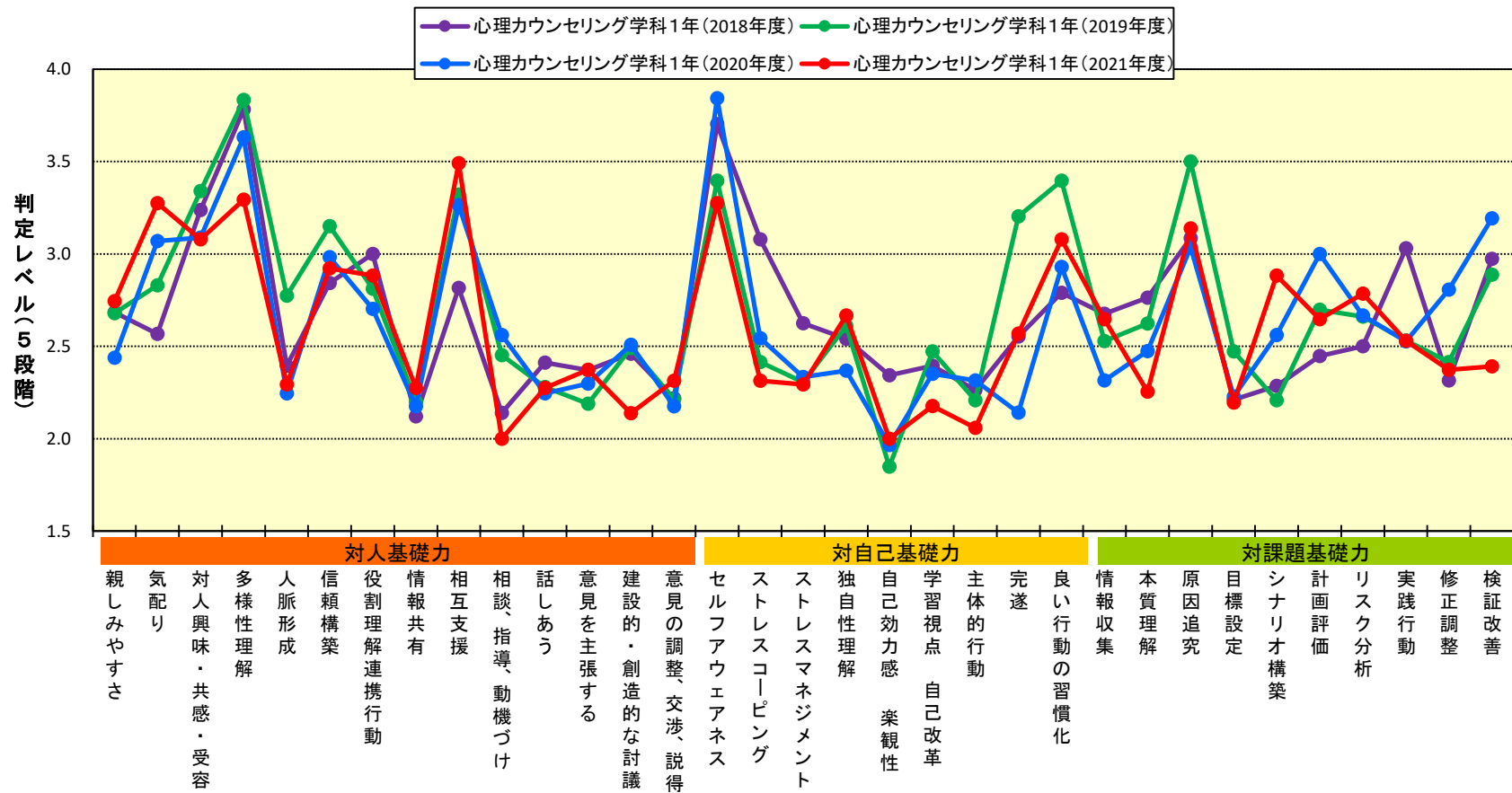


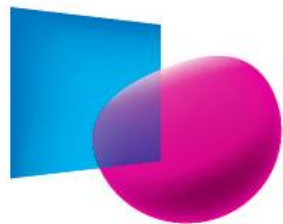
コンピテンシー小分類要素





コンピテンシー小分類要素





PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.8

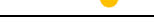
ループリックで見る3年生の状態

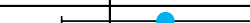
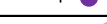
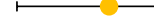
ループリックで見る3年生の状態について(リテラシー領域①)

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
情報 収 集 力	課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力	- 情報源の特性を知る 1) さまざまな情報源 2) インターネットで検索する 3) 図書館で調べる - 情報を整理・保存する 1) ノートテイキング（講義を聴く） 2) 情報をファイリングする - アンケートとインタビュー 1) アンケートを実施する 2) インタビューを行う		簡単な情報収集の仕方について、理解している	様々な情報収集の手段について、その利便性と問題点を理解できる	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる	複雑な文脈の中で、仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる
		生涯スポーツ学部 3 年全体	3.2					
		スポーツ教育学科 3 年	3.2					
		健康福祉学科 3 年	3.4					
		教育文化学部 3 年全体	3.5					
		教育学科 3 年	3.6					
		芸術学科 3 年	3.2					
		心理カウンセリング学科 3 年	3.3					
		私立四年制大学 3 年（偏差値45未満）	3.4					

情報 分 析 力	事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的かつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造を捉え、本質を見極める力	- 表やグラフを読み取る 1) 図表・グラフの種類と特性 2) グラフの「読み取り」「分析」のポイント 3) 複数のグラフや表を総合して読み取る - 文献・資料を読む 1) 論理的なテキストの特性 2) 論理的なテキストの読解 3) 見出しをつける 4) 全体像を捉える - 批判的・多角的に分析する 1) 批判的読解とは 2) 批判的読解の具体的あり方		簡単な図表や文章を読み取ることができる	図表や文章から、客観的な事実や因果関係を読み取ることができる	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複雑な文脈の中で、情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる
		生涯スポーツ学部 3 年全体	3.2					
		スポーツ教育学科 3 年	3.2					
		健康福祉学科 3 年	3.0					
		教育文化学部 3 年全体	3.4					
		教育学科 3 年	3.5					
		芸術学科 3 年	3.1					
		心理カウンセリング学科 3 年	3.5					
		私立四年制大学 3 年（偏差値45未満）	3.2					

ループリックで見る3年生の状態について(リテラシー領域②)

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
課題 発見 力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実を捉え、それらの背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力	・広い観点から問題点を洗い出す 1) 拡散思考について 2) ブレーンストーミングで発想を広げる 3) フレームワークで考える ・問題点を整理・分析する 1) 収束思考について 2) 収束思考に必要な観点 3) マップ化による整理 ・発見された問題の中から、解決すべき課題を設定する 1) 問題点から課題への絞り込み 2) 課題への絞り込みに必要な観点		簡単な問題において、解決すべき課題を選択することができる	複数の情報を整理し、解決すべき課題を設定することができる	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	複雑な文脈の中で、複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる
		生涯スポーツ学部 3 年全体	3.2					
		スポーツ教育学科 3 年	3.3					
		健康福祉学科 3 年	3.1					
		教育文化学部 3 年全体	3.4					
		教育学科 3 年	3.3					
		芸術学科 3 年	3.6					
		心理カウンセリング学科 3 年	3.4					
		私立四年制大学 3 年（偏差値45未満）	3.2					

構 想 力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクやその対処方法を構想する力	・広い観点から解決策を考える ・現実味のある解決策を考える ・計画を立てる 1) 必要な作業をもなく洗い出す 2) 具体的な行動計画を考える		簡単な問題において、解決策を選択することができる	問題解決のプロセスに即して、解決策を構想することができる	いくつかの解決策の中から、制約条件を踏まえて有効な解決策を選択することができる	制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる	複雑な文脈の中で、制約条件やリスク等をふまえて、有効な解決策や行動計画を構想できる
		生涯スポーツ学部 3 年全体	3.3					
		スポーツ教育学科 3 年	3.3					
		健康福祉学科 3 年	3.3					
		教育文化学部 3 年全体	3.5					
		教育学科 3 年	3.6					
		芸術学科 3 年	3.6					
		心理カウンセリング学科 3 年	3.2					
		私立四年制大学 3 年（偏差値45未満）	3.3					

ループリックで見る3年生の状態について(コンピテンシー対人領域)

コンピテンシー（対人）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
親和力	他者との豊かな関係を築く	人に対して、興味をもって相手の話を聞き、相手の立場や気持ちを思いやり、共感し受けとめ、また多様な価値観を受け入れる。さらに、そうした関わりから、相手と信頼関係を築いたり、人脈を広げていく力		・親しくない人には無愛想になりがち ・興味をもって相手の話をきいたり相手の立場を考えた言動をとることが苦手	・人に対して笑顔で接することができる ・相手の立場や気持ちを考えたり、人間関係に配慮した言動を心がけている	・相手に対して自然な気配りができる ・自分と異なる考えや意見でも興味深く相手の話を聞き、理解を示すことができる	・親しくない人に対しても、自分から気軽に話しかける ・人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる	・個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる ・必要に応じて自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げる行動をとることができる	・相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする ・誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる	・築いた人脈や関係性の維持に努めることができる ・人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持・運営することができる
		生涯スポーツ学部 3年全体	4.1							
		スポーツ教育学科 3年	4.2							
		健康福祉学科 3年	3.4							
		教育文化学部 3年全体	3.8							
		教育学科 3年	3.8							
		芸術学科 3年	3.1							
		心理カウンセリング学科 3年	3.9							
		私立四年制大学 3年（偏差値45未満）	3.7							

協働力	目標に向けて協力的に仕事を進める	周囲や集団において、自分の役割を理解した上で互いに連携・協力、助け合ったり、情報を共有して一緒に物事を進めていく。さらに、他者の相談に乗るなど働きかけ、動機づけする力		・他の人と一緒に物事に取り組むのが苦手 ・周囲の人が困っている状況に気づかないことが多い	・集団の中で、割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組む ・周囲に気を配り、困っている人には手を貸そうとする	・チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる	・人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけをすることができる ・雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献することができる	・誰かを支援する時には全力でサポートする ・周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	・リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる ・チーム全体のやる気を高めることができる	・リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる ・相互支援や情報を共有しあう環境をつくることができる
		生涯スポーツ学部 3年全体	4.2							
		スポーツ教育学科 3年	4.3							
		健康福祉学科 3年	3.4							
		教育文化学部 3年全体	3.5							
		教育学科 3年	3.7							
		芸術学科 3年	2.8							
		心理カウンセリング学科 3年	3.5							
		私立四年制大学 3年（偏差値45未満）	3.5							

統率力	場をよみ、組織を動かす	集団の中で、自分の意見を主張すると同時に、議論の活性化や発展のために集団に働きかける。また、必要に応じて、意見の調整、交渉、説得し、集団を合意に導く力		・話し合いの場では議論に消極的なことが多い ・発言の際、考えが整理されず相手に言いたいことが伝わらないことが多い	・自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる ・話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるることができる	・自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる ・意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを話す	・相手や状況に関係なく、はっきりとした主張ができる ・相手の立場や背景も考慮しながら意見調整を進めることができる	・周囲の反対にあって孤立しても、正しいと思うことは粘り強く主張できる ・建設的、かつ創造的な議論を意識した発言ができる	・全員に発言を促し、整理や方向づけによって議論を発展させていくことができる ・リーダーとして、チームの結論を導くことができる	・意見が対立する中でも、建設的に議論を導くことができる ・聴衆を引き込み納得させるようなプレゼンテーションをすることができる
		生涯スポーツ学部 3年全体	3.4							
		スポーツ教育学科 3年	3.5							
		健康福祉学科 3年	3.0							
		教育文化学部 3年全体	3.1							
		教育学科 3年	3.1							
		芸術学科 3年	3.7							
		心理カウンセリング学科 3年	3.1							
		私立四年制大学 3年（偏差値45未満）	3.0							

ループリックで見る3年生の状態について(コンピテンシー対自己領域)

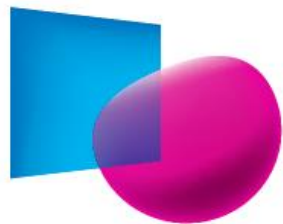
コンピテンシー（対自己）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
感情制御力	気持ちの揺れを制御する	自分の感情や気持ちを認識して客観的に言動をコントロールしたり、ストレスをうまく処理することができる。また、プレッシャーを感じる場面でも、感情をコントロールして力を発揮する力		・自分の感情をコントロールするのが苦手 ・些細なことでも、動揺したり落ち込んだりして、なかなか立ち直れないことが多い	・人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする	・感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる ・やらなければならないことがたくさんあるような状況でも、こなしていくことができる	・ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる ・難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる	・自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を考えておくことができる ・失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	・心を落ち着かせる、自分なりの方法をもっている ・緊張やプレッシャーを感じる場面でも、落ち着いて、かつ集中して取り組むことができる	・ストレスの原因に自ら働きかけ、解消することができる ・必要に応じて自分の感情を率直に伝えることで、相手との信頼関係を築くことができる
		生涯スポーツ学部 3年全体	4.0							
		スポーツ教育学科 3年	4.0							
		健康福祉学科 3年	3.4							
		教育文化学部 3年全体	3.4							
		教育学科 3年	3.5							
		芸術学科 3年	3.6							
		心理カウンセリング学科 3年	3.1							
		私立四年制大学 3年（偏差値45未満）	3.3							

自信創出力	前向きな考え方ややる気を維持する	自己の強み弱みを認識した上で、自分に自信をもって物事に取り組むことができる。また、常に学ぶ姿勢をもち、経験の機会をうまくとらえて挑戦していく力		・自分の強みがわからず、自信をもって行動できない ・初めてのことが難しいことには、なかなか挑戦する気になれない	・自分では強みがわからないが、人からほめられることで自信をもつことができる ・仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる	・自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる ・機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	・自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる ・初めてのことも、臆せず取り組むことができる	・難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぼうとする ・好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組む	・自分ならではの強みや持ち味を活かす機会を見逃さない ・常に良い結果をイメージして、自信をもって取り組むことができる	・どんな仕事や課題でも主体性と好奇心をもって取り組むことができる ・成長の機会を自ら創り出していくことができる
		生涯スポーツ学部 3年全体	4.0							
		スポーツ教育学科 3年	4.1							
		健康福祉学科 3年	2.8							
		教育文化学部 3年全体	3.4							
		教育学科 3年	3.6							
		芸術学科 3年	2.9							
		心理カウンセリング学科 3年	3.1							
		私立四年制大学 3年（偏差値45未満）	3.2							

行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける	主体的に行動し、物事には最後まで粘り強く取り組むことができる。また、良い行動を習慣化する力		・人からの指示を待って行動することが多い ・何かに取り組んでも、最後までやり切れないことが多い	・良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みるような心がけている	・任されたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている ・常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	・何かに取り組む時には、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている ・積極的に考え行動に移す ・取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最	・すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる ・周囲からの期待以上のことを主体的に行う	・目標を定め、最後まで諦めずにやり遂げる ・行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い行動に結びつけることができる	・課題には期限ぎりぎりまで、自分が納得できる結果が出るまで粘り強く取り組む ・検証と改善を常に繰り返すことを習慣化している
		生涯スポーツ学部 3年全体	3.9							
		スポーツ教育学科 3年	4.0							
		健康福祉学科 3年	3.4							
		教育文化学部 3年全体	3.4							
		教育学科 3年	3.5							
		芸術学科 3年	3.4							
		心理カウンセリング学科 3年	3.0							
		私立四年制大学 3年（偏差値45未満）	3.4							

ループリックで見る3年生の状態について(コンピテンシー対課題領域)

コンピテンシー（対課題）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
課題発見力	課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	適切な方法で情報を収集し、事実に基づいて客観的に分析、本質的な問題を見極める。さらに、様々な角度から課題を分析し、原因を明らかにする力		・課題に対しての情報収集が、適切な方法でない場合が多い ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・課題に対し、自分なりに情報を集めることができる ・集めた情報を、客観的に整理しようと努める	・興味のある特定の分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理、分析することができる ・分析を基に、自分なりに因果関係の仮説を立てられる	・課題に応じ、様々な方法で情報を集めることができる ・定性的データを客観的に整理し、複数の因果関係の仮説を立てることができる	・課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理、分析できる ・より現実的な視点で、複数の因果関係の仮説を立てられる	・事実が複雑に絡み合っている問題でもデータを客観的に整理、分析できる ・因果関係を整理し課題解決につなげることができる	・関心分野については、常日頃から情報収集している ・合理的な判断だけでは難しい問題に対して、関係者の心情を汲んで結論を出すことができる
			生涯スポーツ学部 3 年全体	3.5						
			スポーツ教育学科 3 年	3.7						
			健康福祉学科 3 年	2.8						
			教育文化学部 3 年全体	3.5						
			教育学科 3 年	3.5						
			芸術学科 3 年	3.4						
			心理カウンセリング学科 3 年	3.6						
			私立四年制大学 3 年（偏差値45未満）	3.5						
計画立案力	課題解決のための適切な計画を立てる	明確な目標を立て、その実現に向けて効果的な計画を立てる。また、立てた計画に対して目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てたり、どんな問題が起こり得るかのリスクを想定して事前に対策を講じる力		・自分で目標や計画を立てずに課題に取り組む ・立案した計画や目標が現実的でないなど適切でないことが多い	・課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる ・立案した計画や目標に、自分なりに取り組むことができる	・条件が明確な課題であれば目標や発生しそうな問題を予め考えることができる ・予測をふまえた具体的な計画を立て取り組むことができる	・経験のあることならば不確実な部分があっても具体的な妥当な計画を立てられる ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる ・事前にリスクを検討、想定し、手を打つことができる	・長期的な目標と同時に、途中段階の具体的な目標も設定し、実現性を高めることができる ・チームでの取り組みの際、メンバーの分担を適切に行う	・自身やチームにとって挑戦的な目標を設定し挑む ・制約条件や資源を考慮した計画を立て、状況に応じて柔軟に修正することができる
			生涯スポーツ学部 3 年全体	3.7						
			スポーツ教育学科 3 年	3.8						
			健康福祉学科 3 年	3.3						
			教育文化学部 3 年全体	3.7						
			教育学科 3 年	3.8						
			芸術学科 3 年	2.8						
			心理カウンセリング学科 3 年	4.0						
			私立四年制大学 3 年（偏差値45未満）	3.3						
実践力	実践行動をとる	計画をすすんで実行し、状況に応じて柔軟に行動を修正する。また、行動を振り返って検証し、次の行動の改善に結びつける力		・やるべきことでも、なかなか実行に移せない・実行はできても当初のやりかたで進めがちで、のちに振り返ることも少ない	・やるべきことに対して、自分なりに試行錯誤しながら物事を進めていくことができる	・制約条件を考えて、試行錯誤しながら物事を進めることができる ・終了後には、成功か失敗かを振り返る	・計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる ・うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てる	・チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる ・進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	・計画の実行中、全体の状況に気を配ることができる ・先行きを見し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる	・チームでより良い成果を挙げるため、即行動できる ・活動の振り返りを次につなげて、チームの成果を高めることができる
			生涯スポーツ学部 3 年全体	3.9						
			スポーツ教育学科 3 年	3.9						
			健康福祉学科 3 年	3.6						
			教育文化学部 3 年全体	3.9						
			教育学科 3 年	3.9						
			芸術学科 3 年	3.5						
			心理カウンセリング学科 3 年	4.1						
			私立四年制大学 3 年（偏差値45未満）	3.7						



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.9 過去の3年生との比較

学部	学科	2018年度 3年 2018年10月～12月 受験	2019年度 3年 2019年11月～ 2020年1月受験	2020年度 3年 2020年10月～ 2021年1月受験	2021年度 3年 2021年11月～ 2022年2月受験
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	190	171	177	178
	健康福祉学科	40	22	30	24
		230	193	207	202
教育文化学部	教育学科	125	125	106	130
	芸術学科	28	31	23	27
	心理カウンセリング学科	29	46	33	47
		182	202	162	204
合計		412	395	369	406

2021年度受験分の集計除外について

※リテラシー受験時間45分のところ20分未満で解答終了、または問題数30問のところ解答数が10問以下の118名をリテラシー集計から除外いたしました。

※受験期間内にコンピテンシー全195問を解答していなかった1名をコンピテンシー集計から除外いたしました。

(コンピテンシー受験に時間制限はございません。)

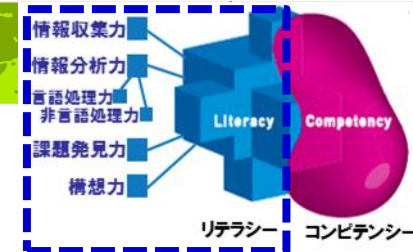
除外対象者の内訳は以下の通りです。

学部	学科	1年	3年	合計
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	28	38	66
	健康福祉学科	3	2	5
教育文化学部	教育学科	3	23	26
	芸術学科	4	8	12
	心理カウンセリング学科	4	6	10
合計		42	77	119

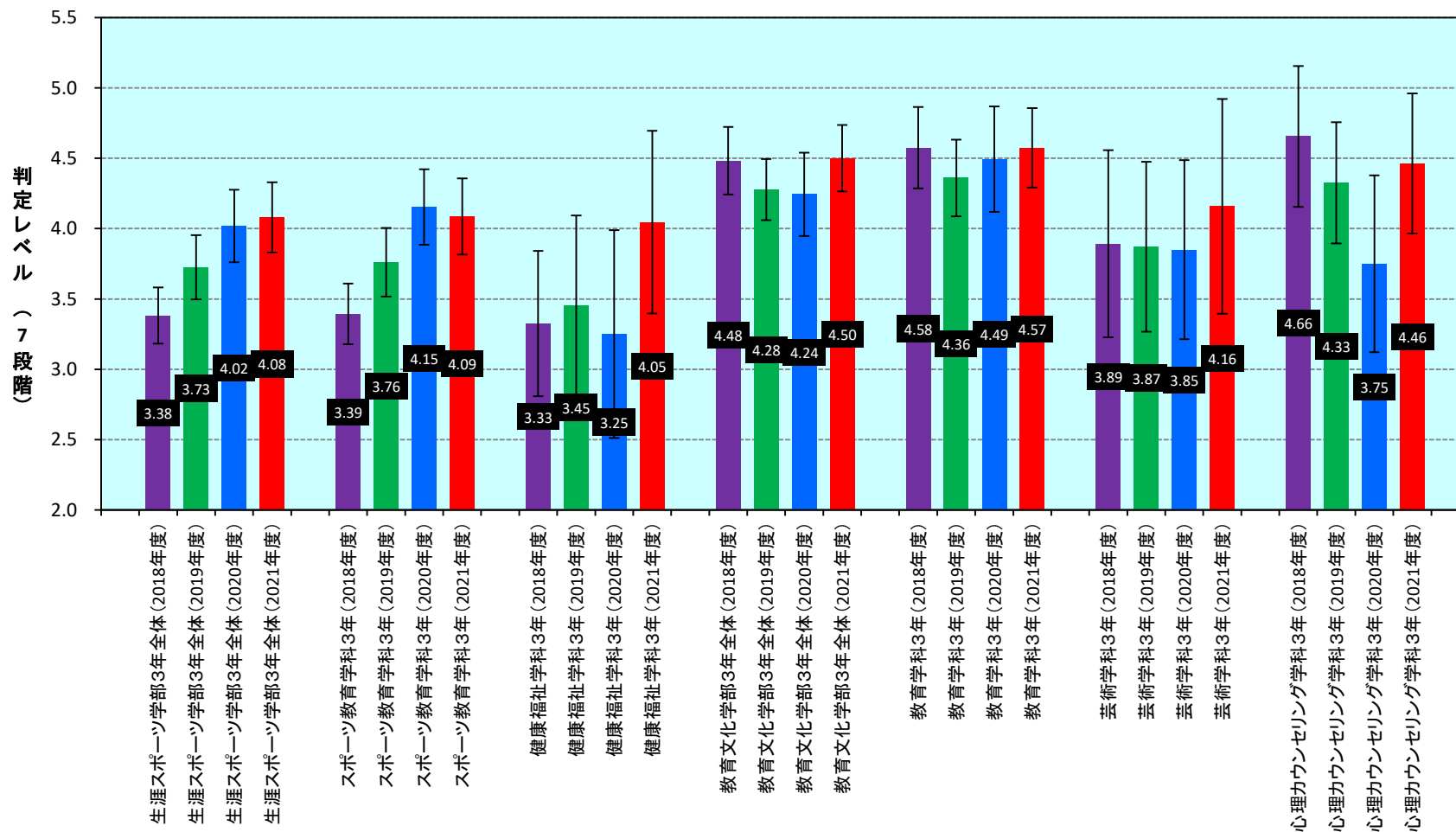
■2021年度貴学受験者873名のリテラシー平均解答時間は34分58秒、リテラシー平均解答数は29.12問です。

リテラシー総合（過去の受験者との比較）

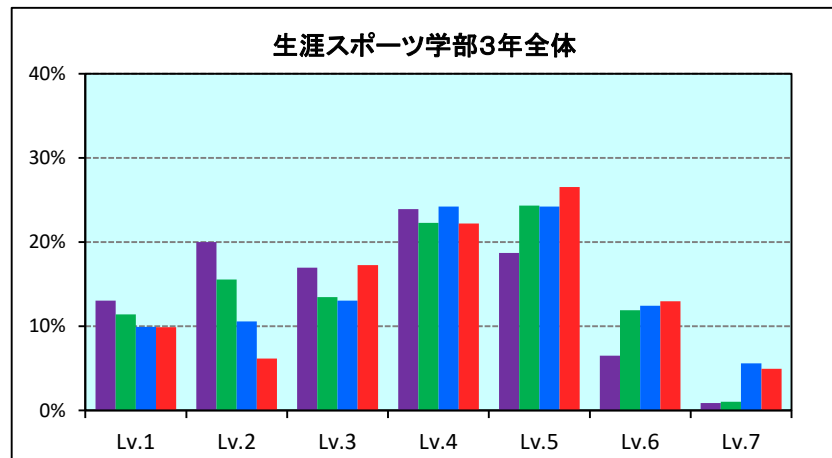
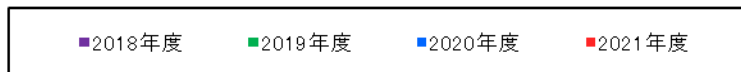
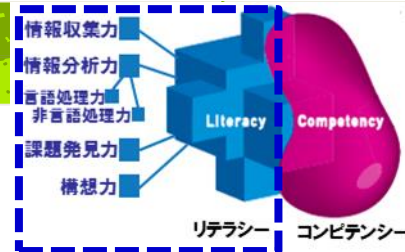
- 生涯スポーツ学部3年全体、健康福祉学科3年、教育文化学部3年全体、教育学科3年、芸術学科3年、心理カウンセリング学科3年は、2020年度のスコアを上回る。
- スポーツ教育学科3年は、2020年度のスコアを下回る。



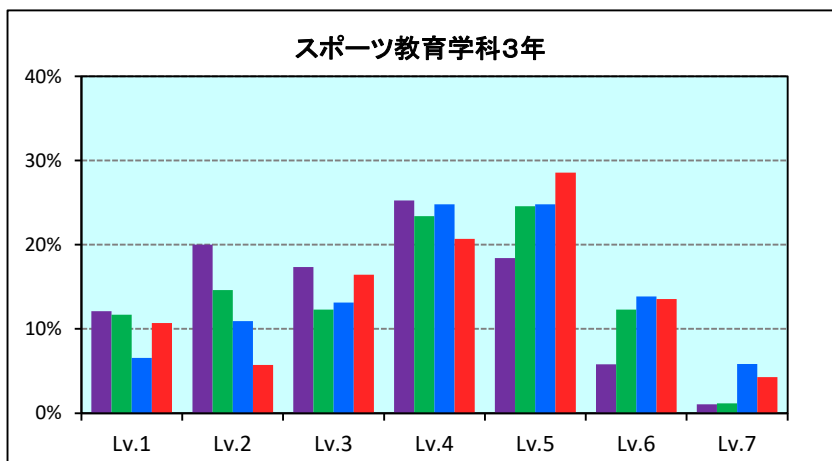
リテラシー総合



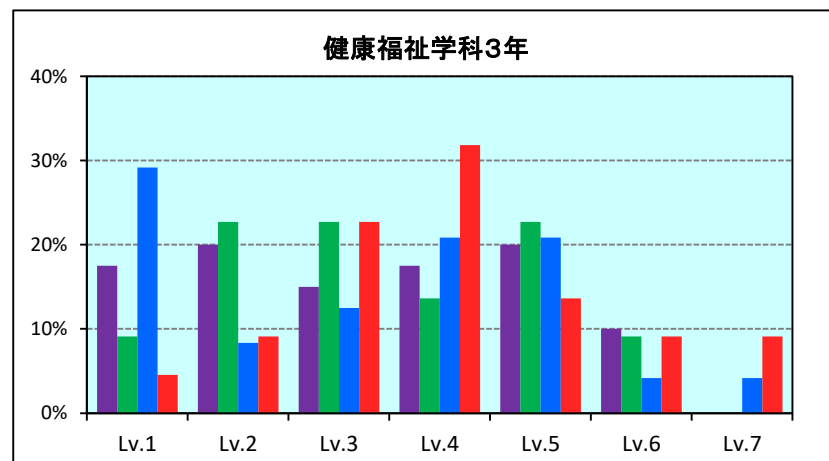
リテラシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較) ①



2020年度に比べて、レベル2の割合が小さく、レベル3の割合が大きい。

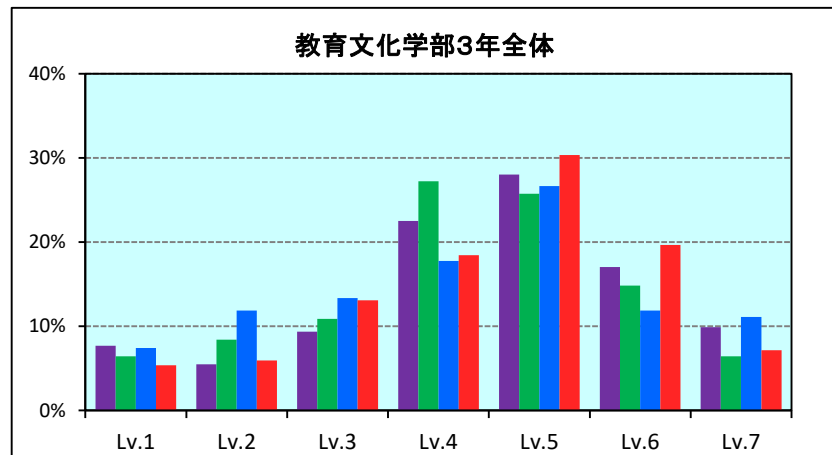
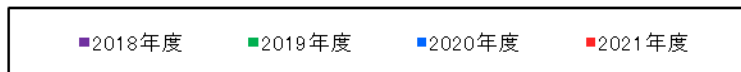
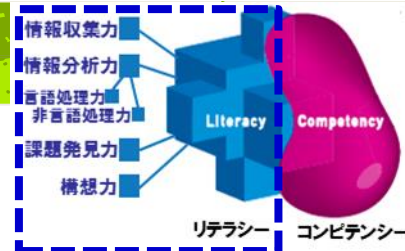


2020年度に比べて、レベル2、レベル4の割合が小さく、レベル1、レベル3、レベル5の割合が大きい。

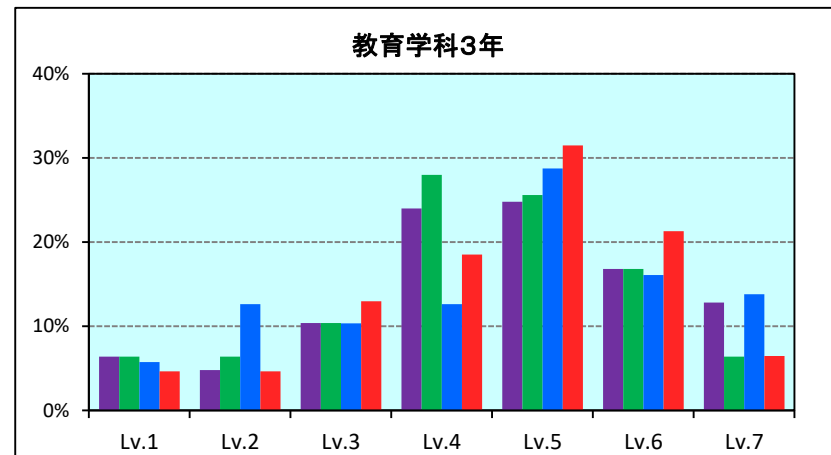


2020年度に比べて、レベル1、レベル5の割合が小さく、レベル3～4、レベル6～7のボリュームが大きい。

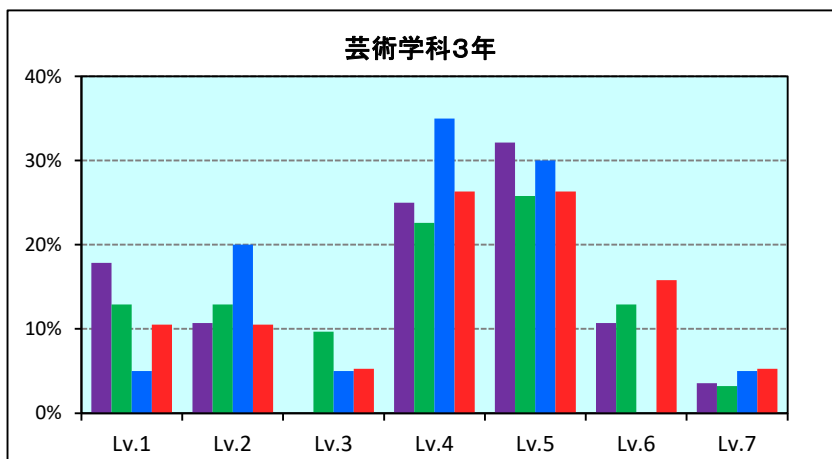
リテラシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較) ②



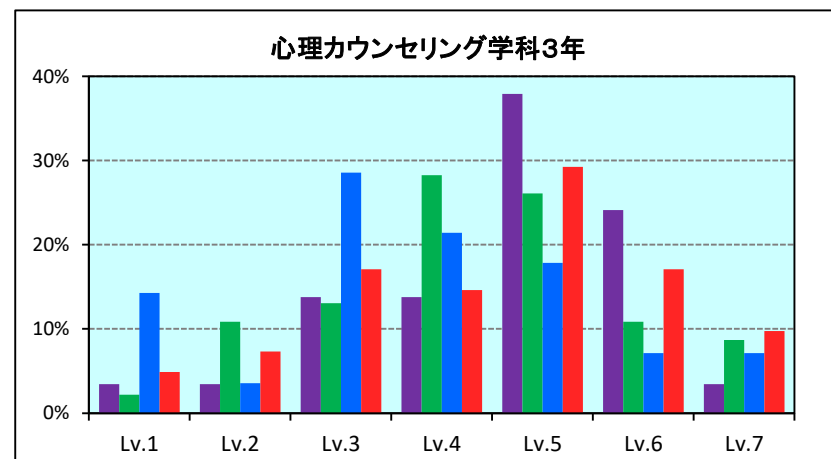
2020年度に比べて、レベル2、レベル7の割合が小さく、レベル5～6のボリュームが大きい。



2020年度に比べて、レベル2、レベル7の割合が小さく、レベル4、レベル6の割合が大きい。



2020年度に比べて、レベル2、レベル4～5のボリュームが小さく、レベル1、レベル6の割合が大きい。



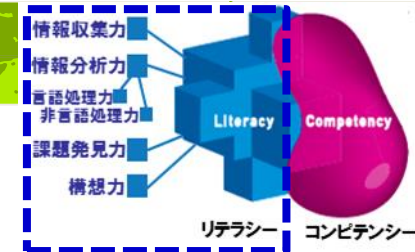
2020年度に比べて、レベル1、レベル3～4のボリュームが小さく、レベル2、レベル5～6のボリュームが大きい。

リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

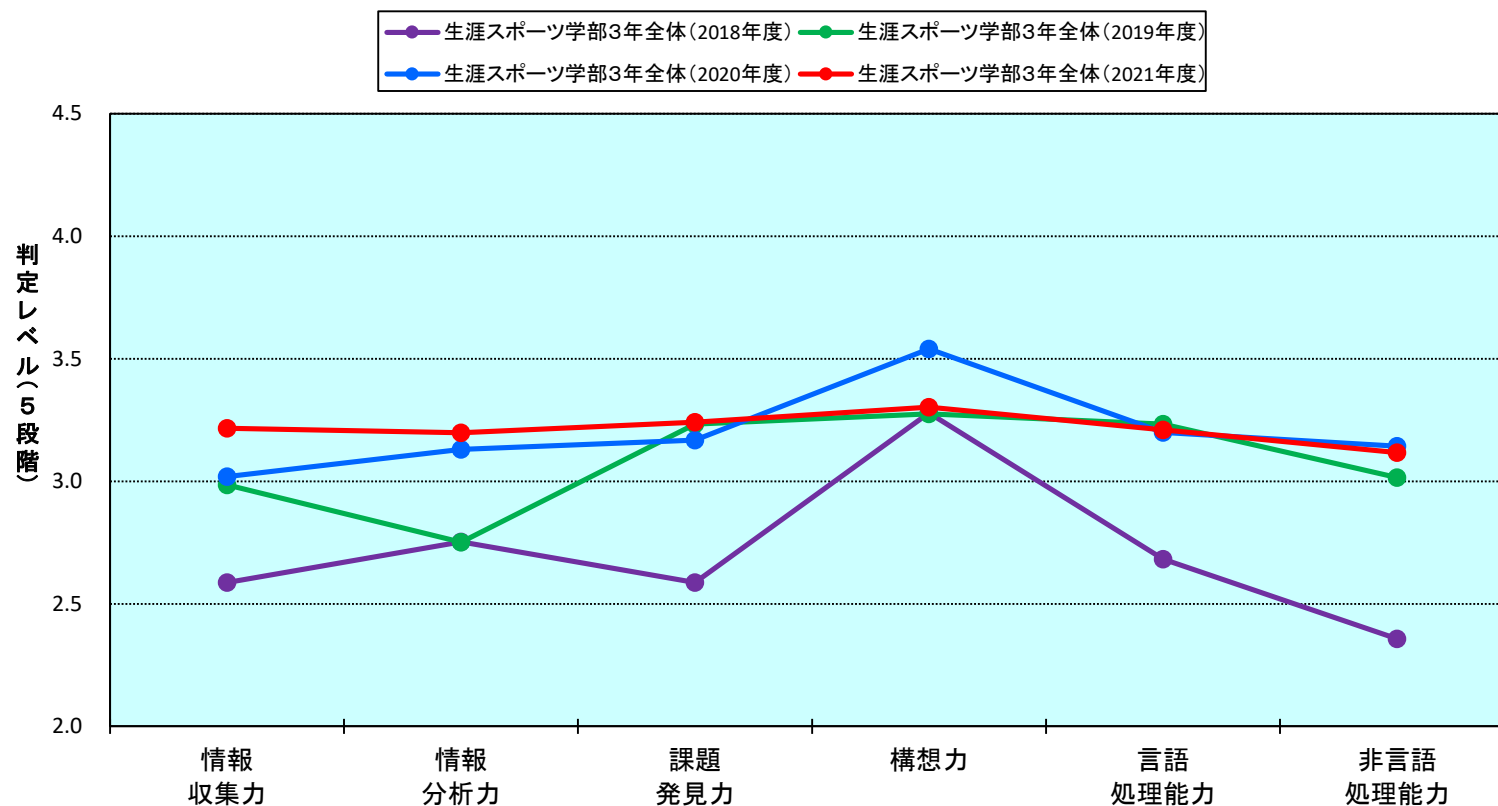
【生涯スポーツ学部3年全体】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、言語処理能力は、2020年度のスコアを上回る。

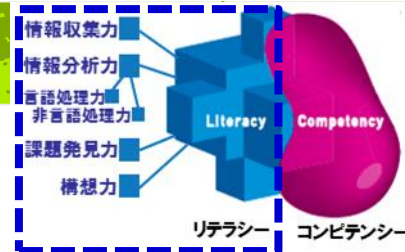
一方、構想力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを下回る。



リテラシー要素



リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

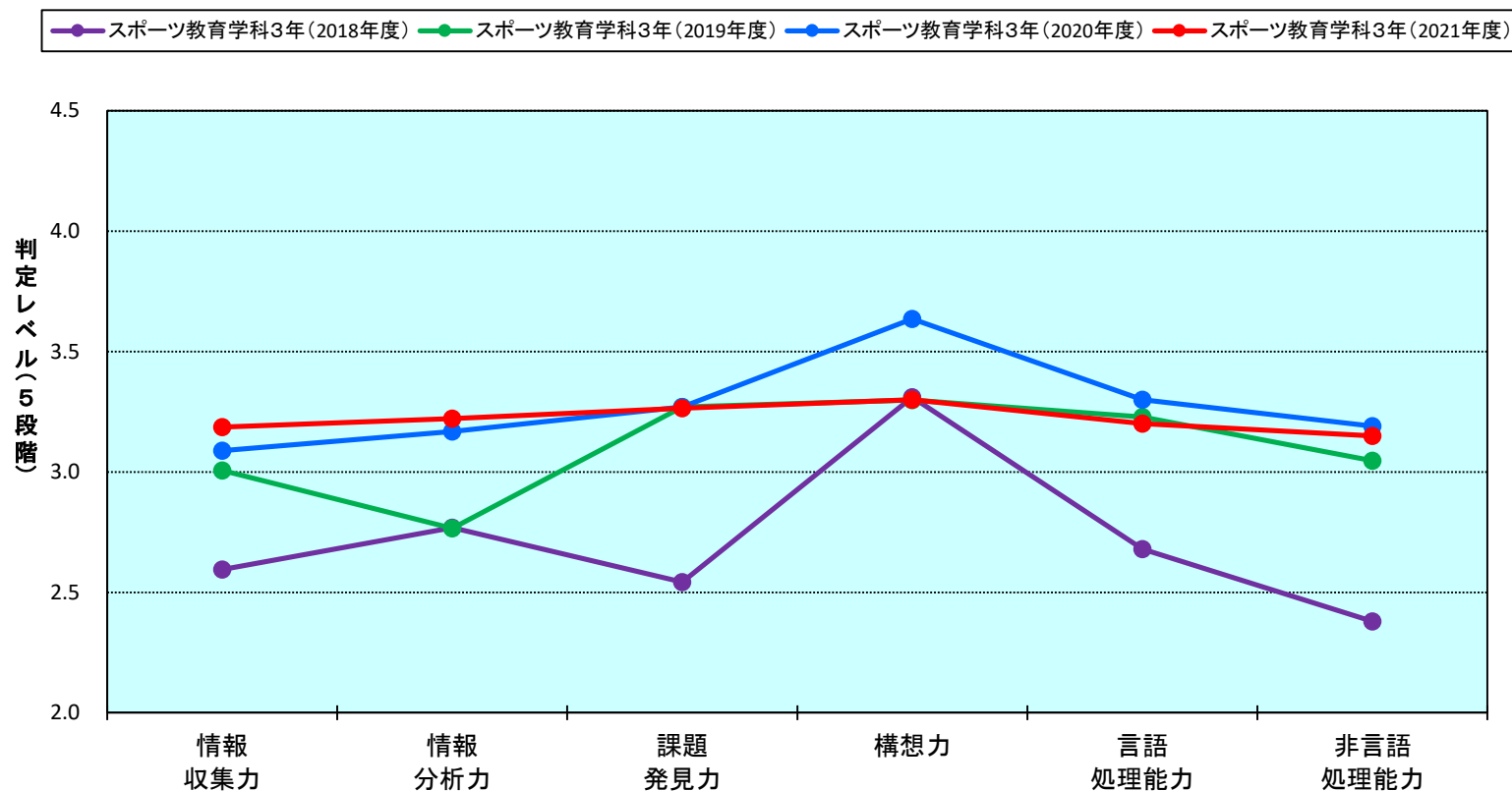


【スポーツ教育学科3年】

情報収集力、情報分析力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを下回る。

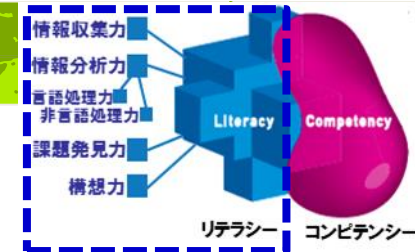
リテラシー要素



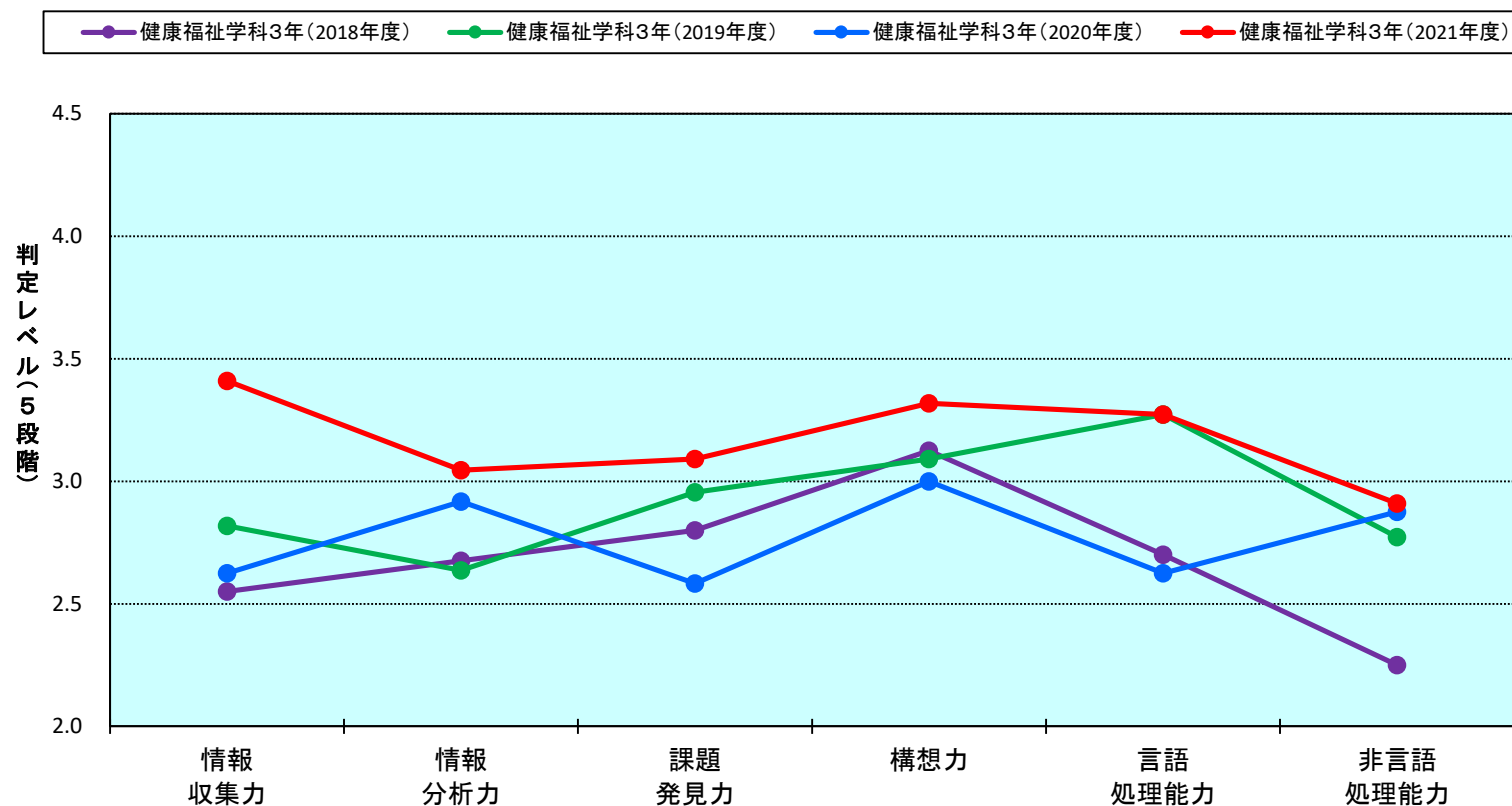
リテラシー要素（過去の受験者との比較）③

【健康福祉学科3年】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを上回る。



リテラシー要素

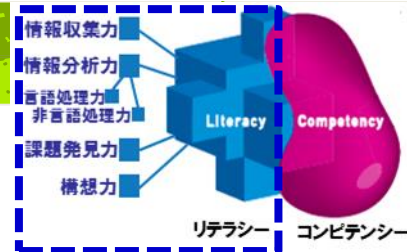


リテラシー要素（過去の受験者との比較）④

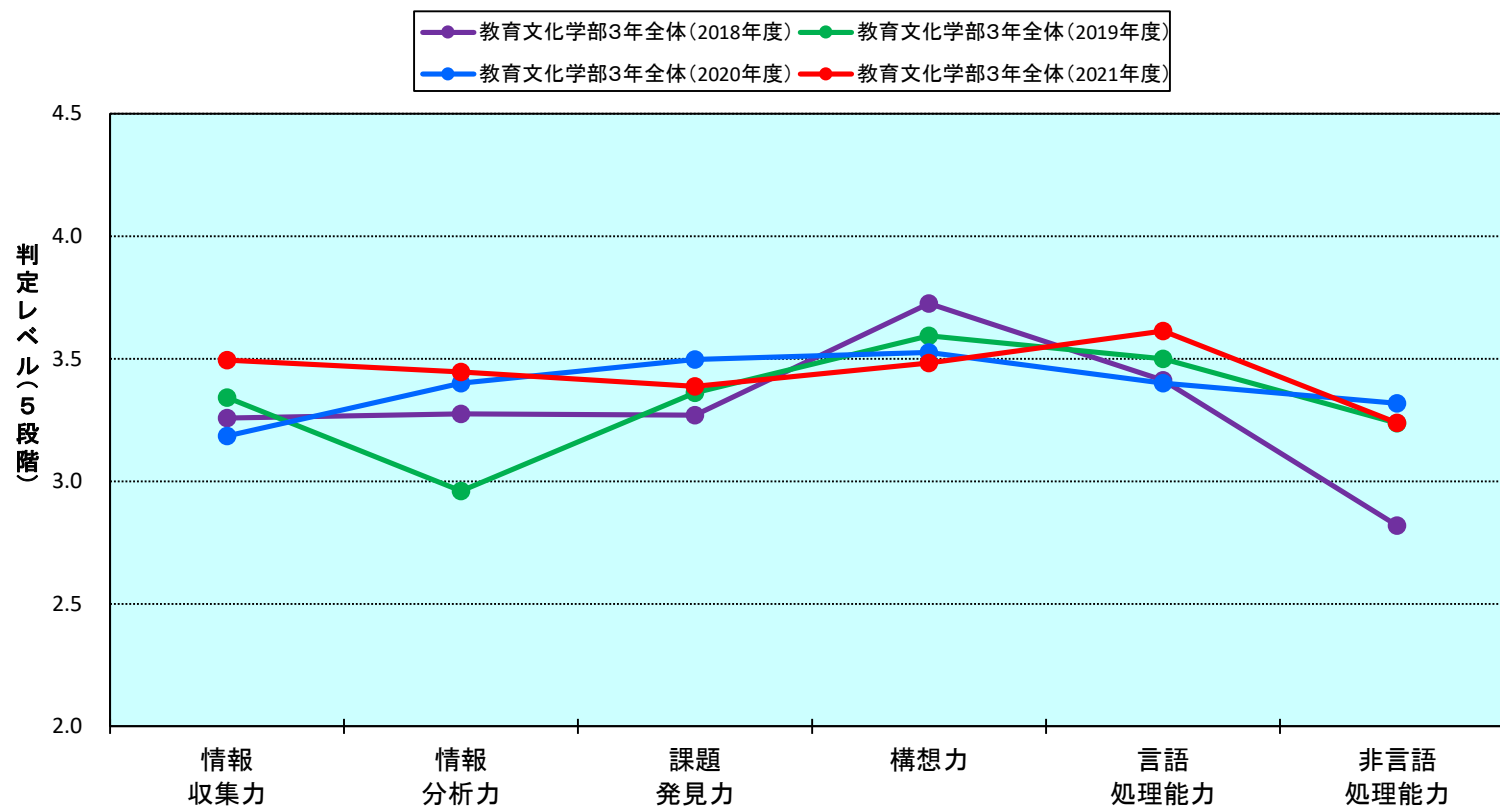
【教育文化学部3年全体】

情報収集力、情報分析力、言語処理能力は、2020年度のスコアを上回る。

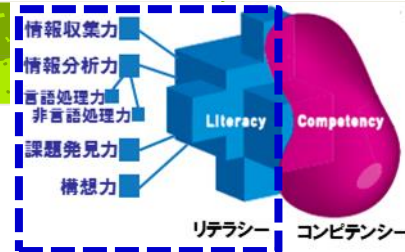
一方、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを下回る。



リテラシー要素



リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑤

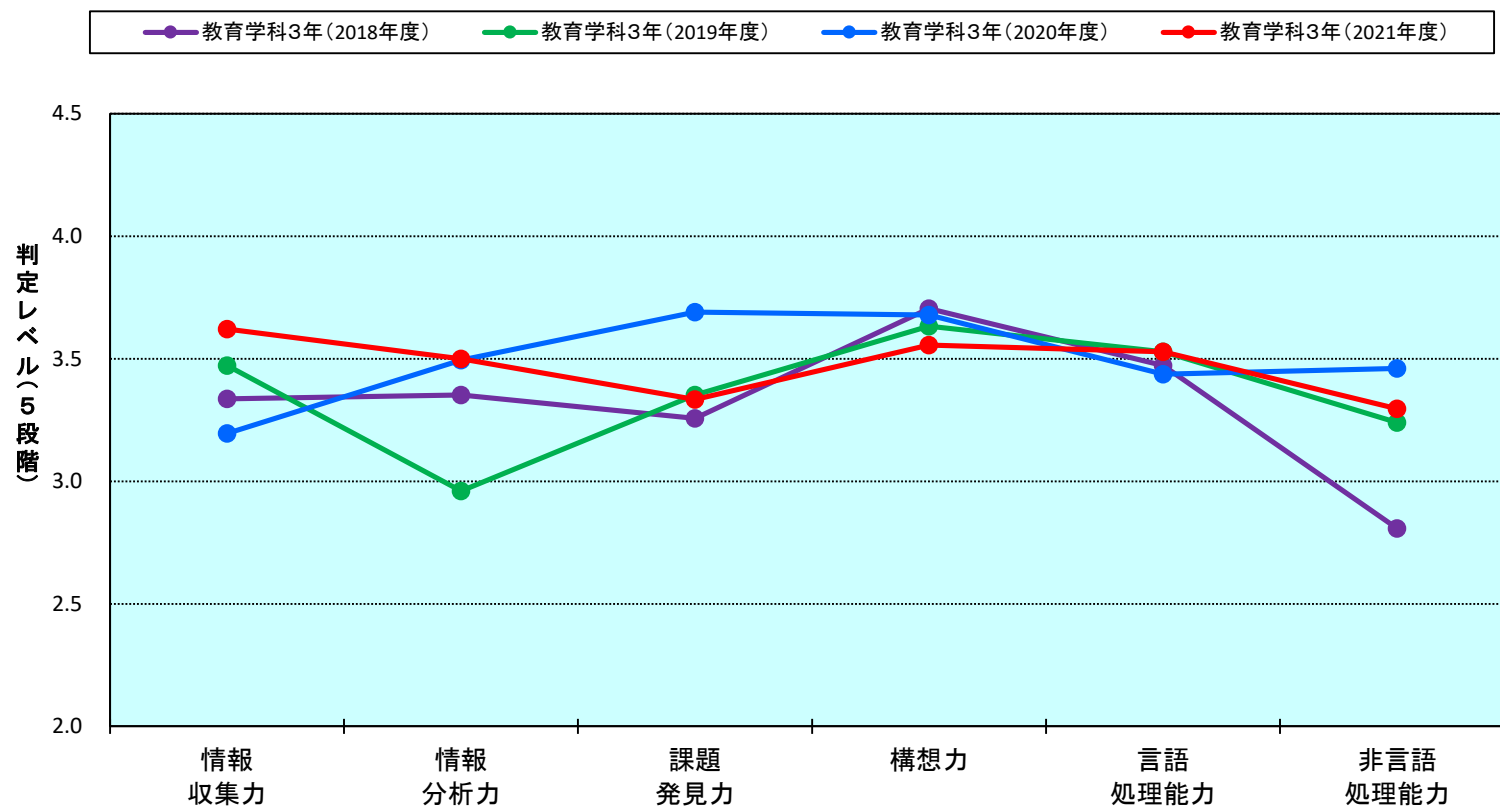


【教育学科3年】

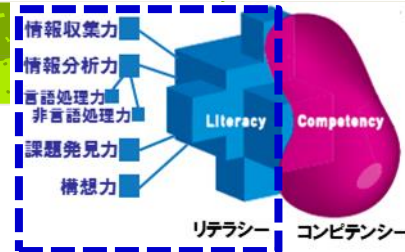
情報収集力、情報分析力、言語処理能力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを下回る。

リテラシー要素



リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑥

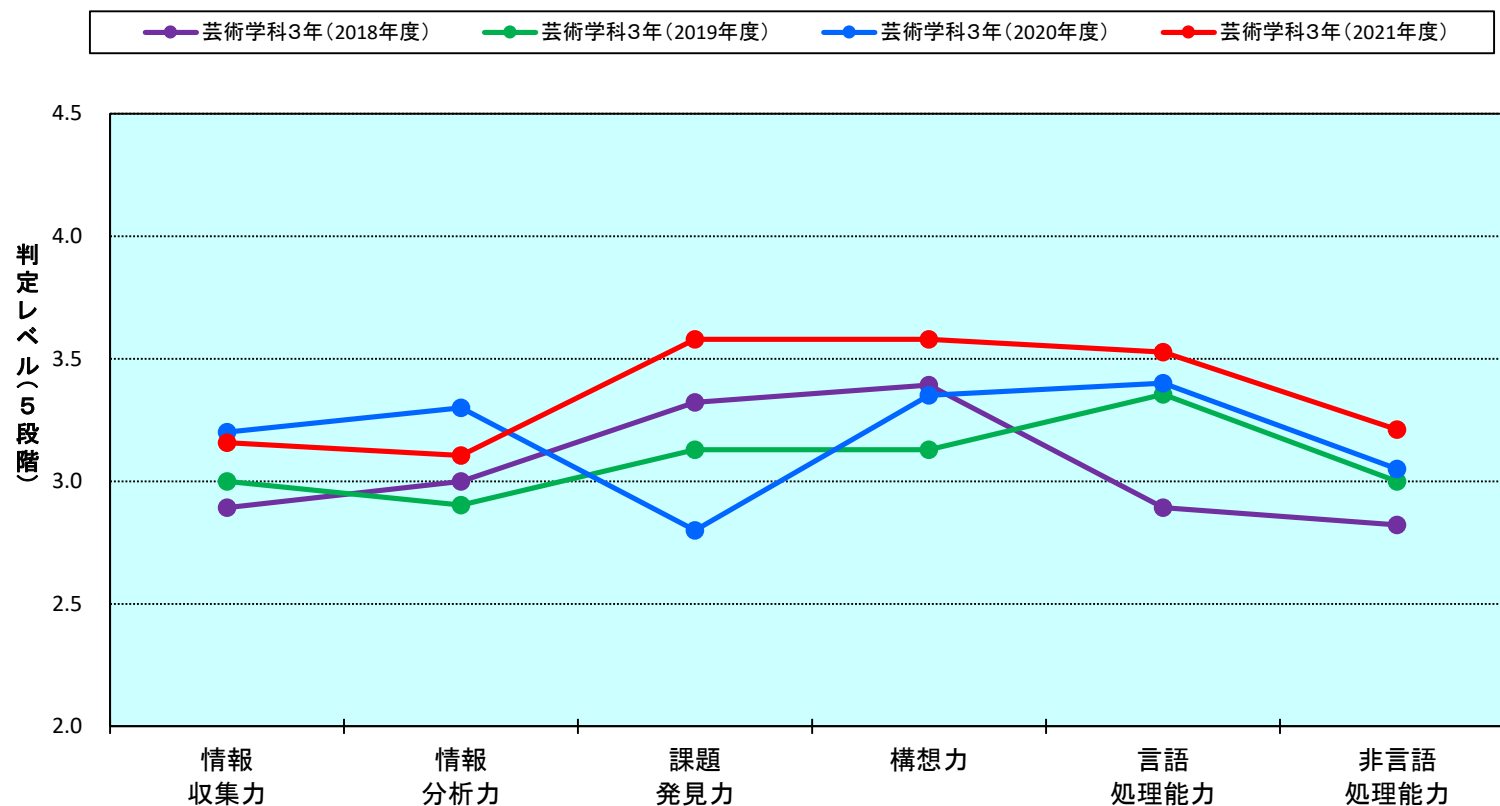


【芸術学科3年】

課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、情報収集力、情報分析力は、2020年度のスコアを下回る。

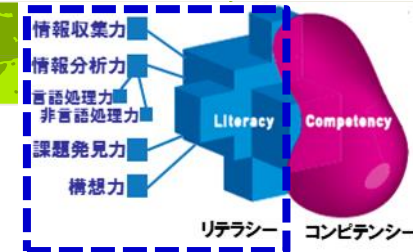
リテラシー要素



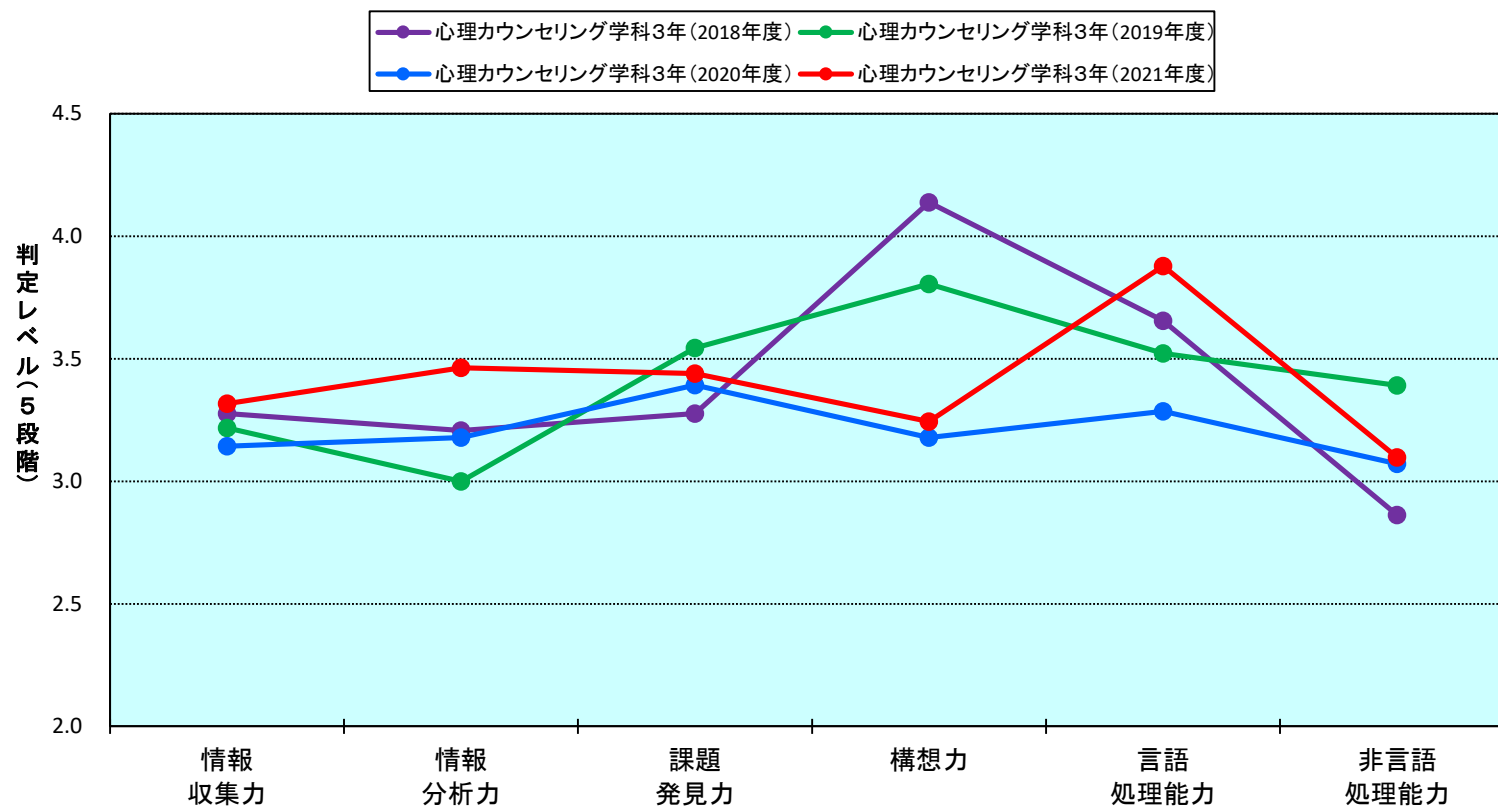
リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑦

【心理カウンセリング学科3年】

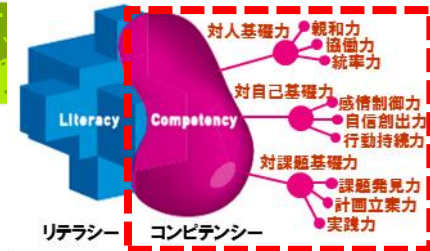
情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、2020年度のスコアを上回る。



リテラシー要素

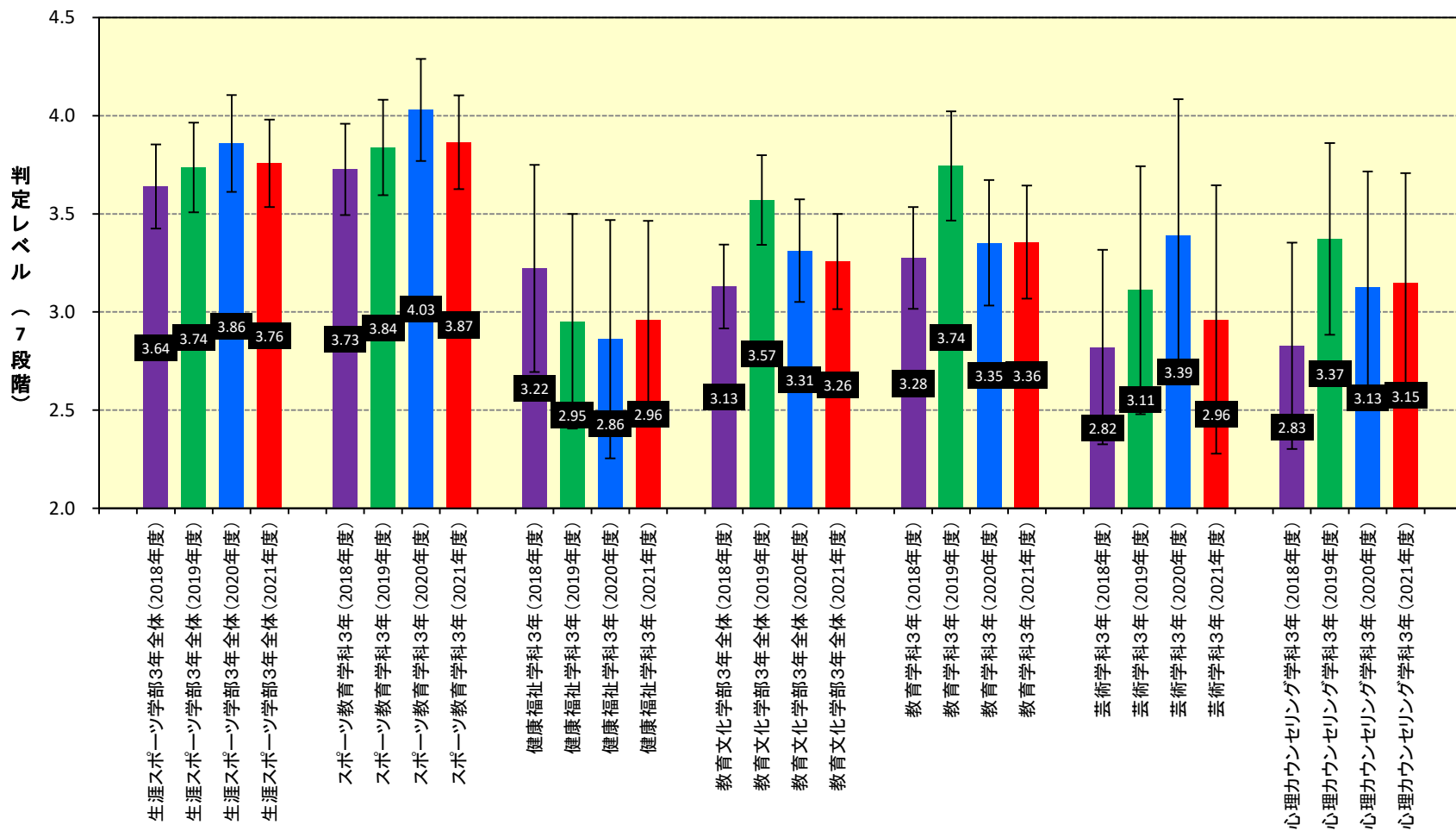


コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）

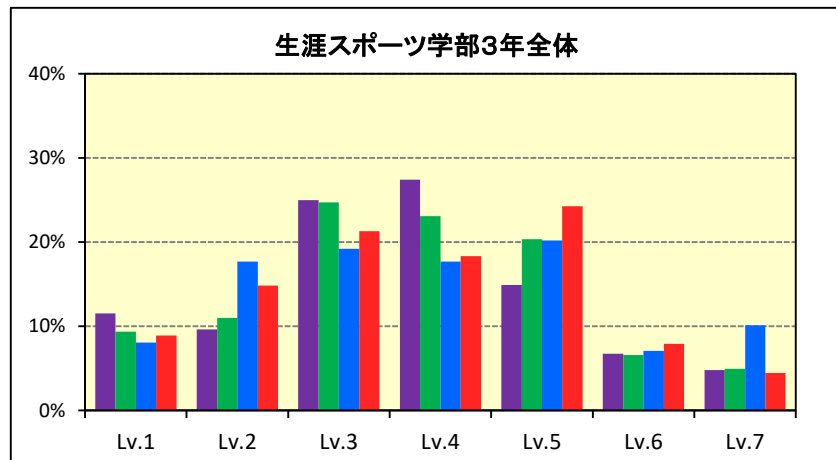
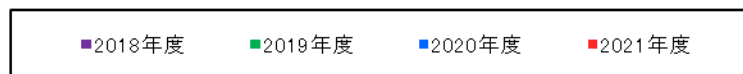
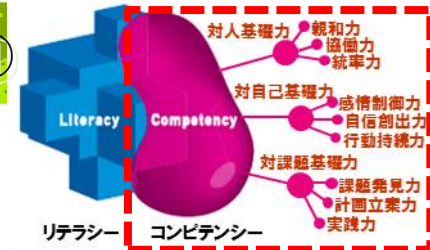


- 健康福祉学科3年、教育学科3年、心理カウンセリング学科3年は、2020年度のスコアを上回る。
- 生涯スポーツ学部3年全体、スポーツ教育学科3年、教育文化学部3年全体、芸術学科3年は、2020年度のスコアを下回る。

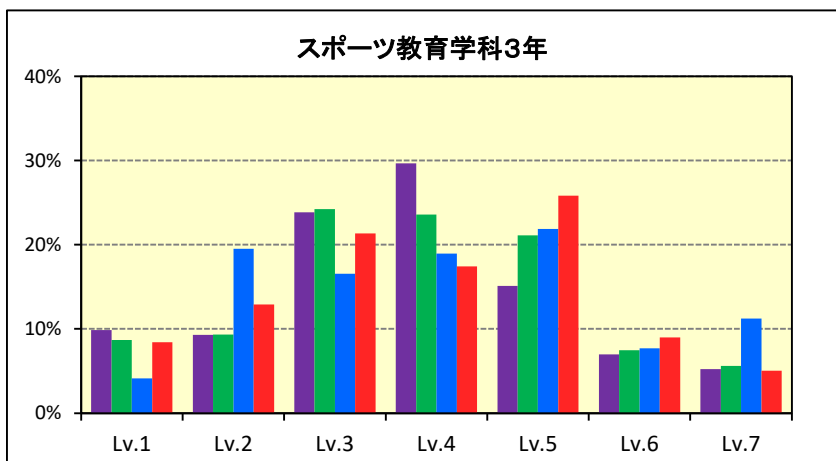
コンピテンシー総合



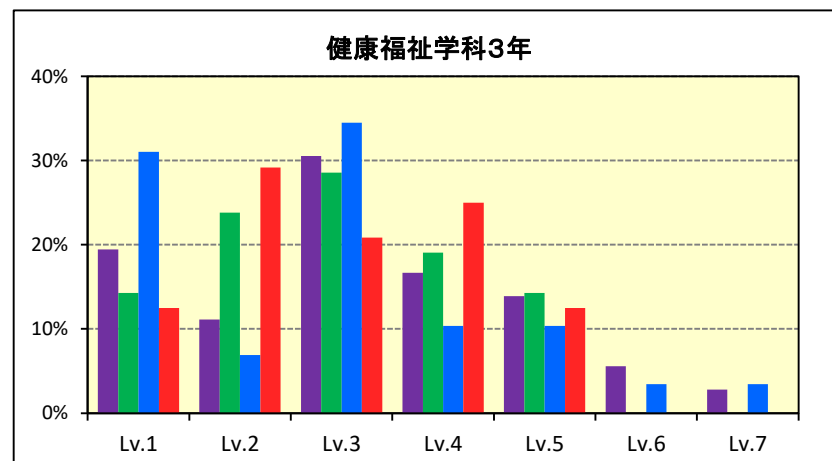
コンピテンシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較)①



2020年度に比べて、レベル7の割合が小さく、レベル5の割合が大きい。

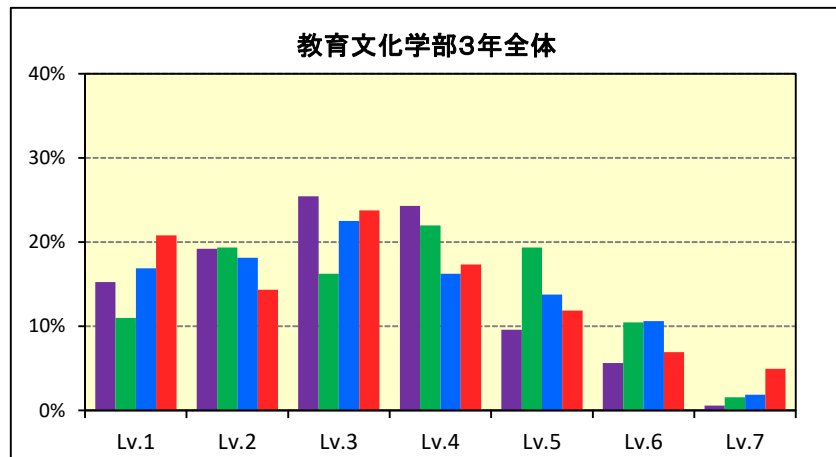
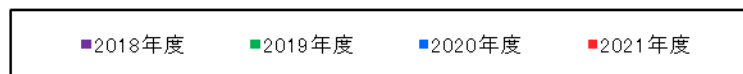
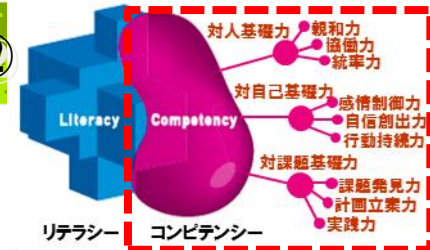


2020年度に比べて、レベル2、レベル7の割合が小さく、レベル1、レベル3、レベル5の割合が大きい。

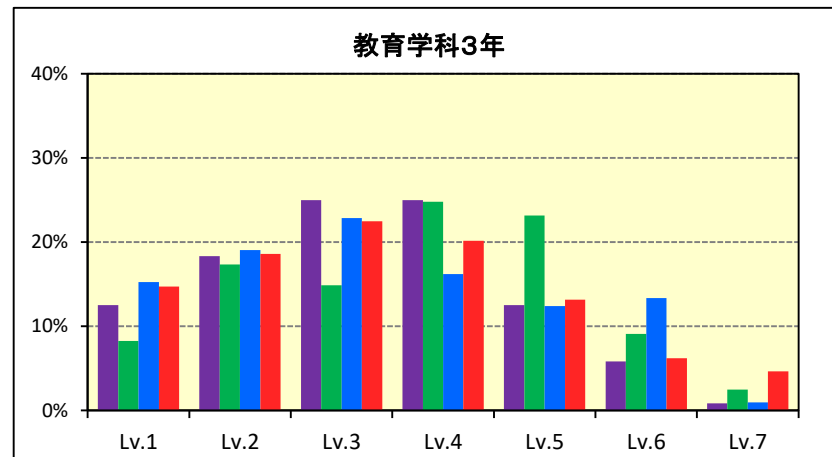


2020年度に比べて、レベル1、レベル3、レベル6～7のボリュームが小さく、レベル2、レベル4の割合が大きい。

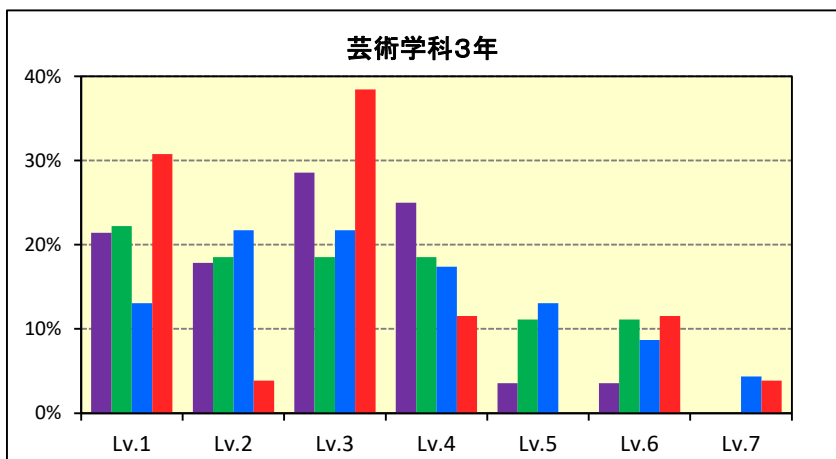
コンピテンシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較)②



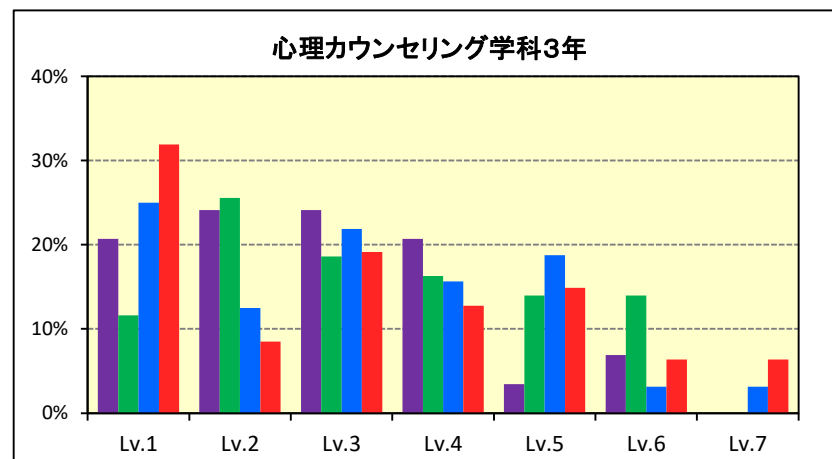
2020年度に比べて、レベル2、レベル6の割合が小さく、レベル1、レベル7の割合が大きい。



2020年度に比べて、レベル6の割合が小さく、レベル4、レベル7の割合が大きい。

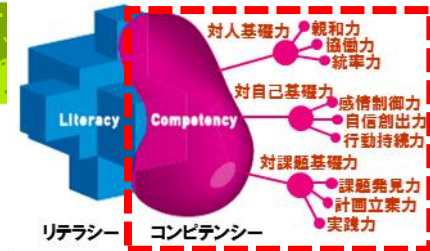


2020年度に比べて、レベル2、レベル4～5のボリュームが小さく、レベル1、レベル3の割合が大きい。



2020年度に比べて、レベル2、レベル5の割合が小さく、レベル1、レベル6～7のボリュームが大きい。

コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）①

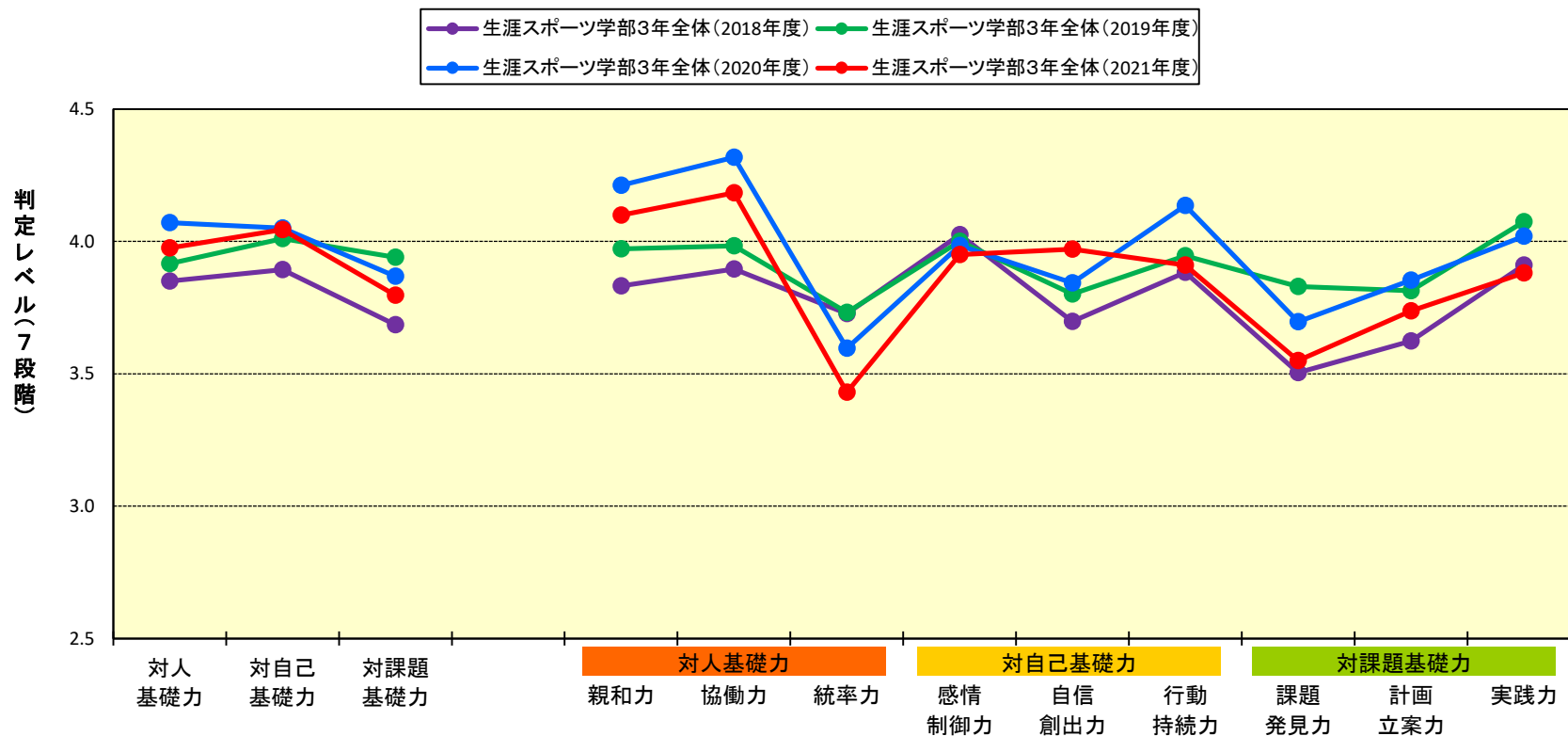


【生涯スポーツ学部3年全体】

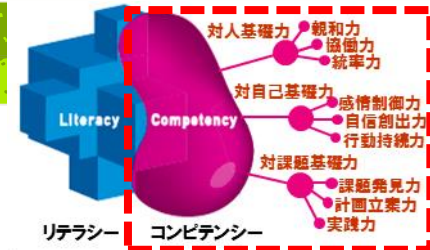
自信創出力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2020年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）②

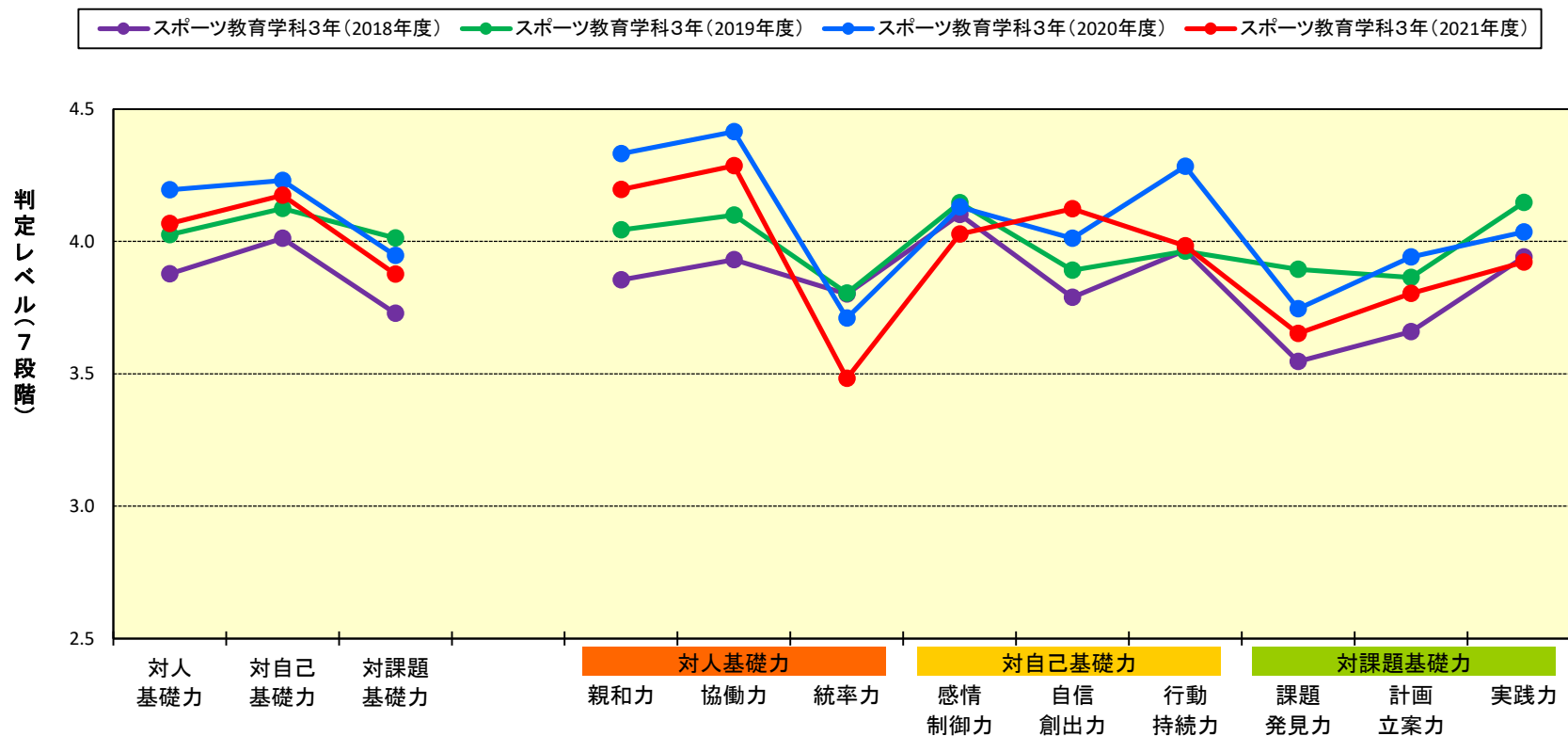


【スポーツ教育学科3年】

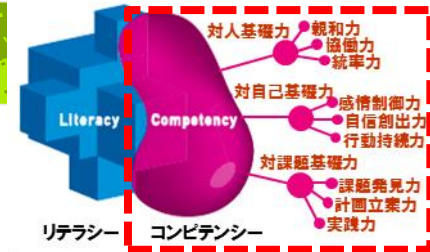
自信創出力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2020年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）③

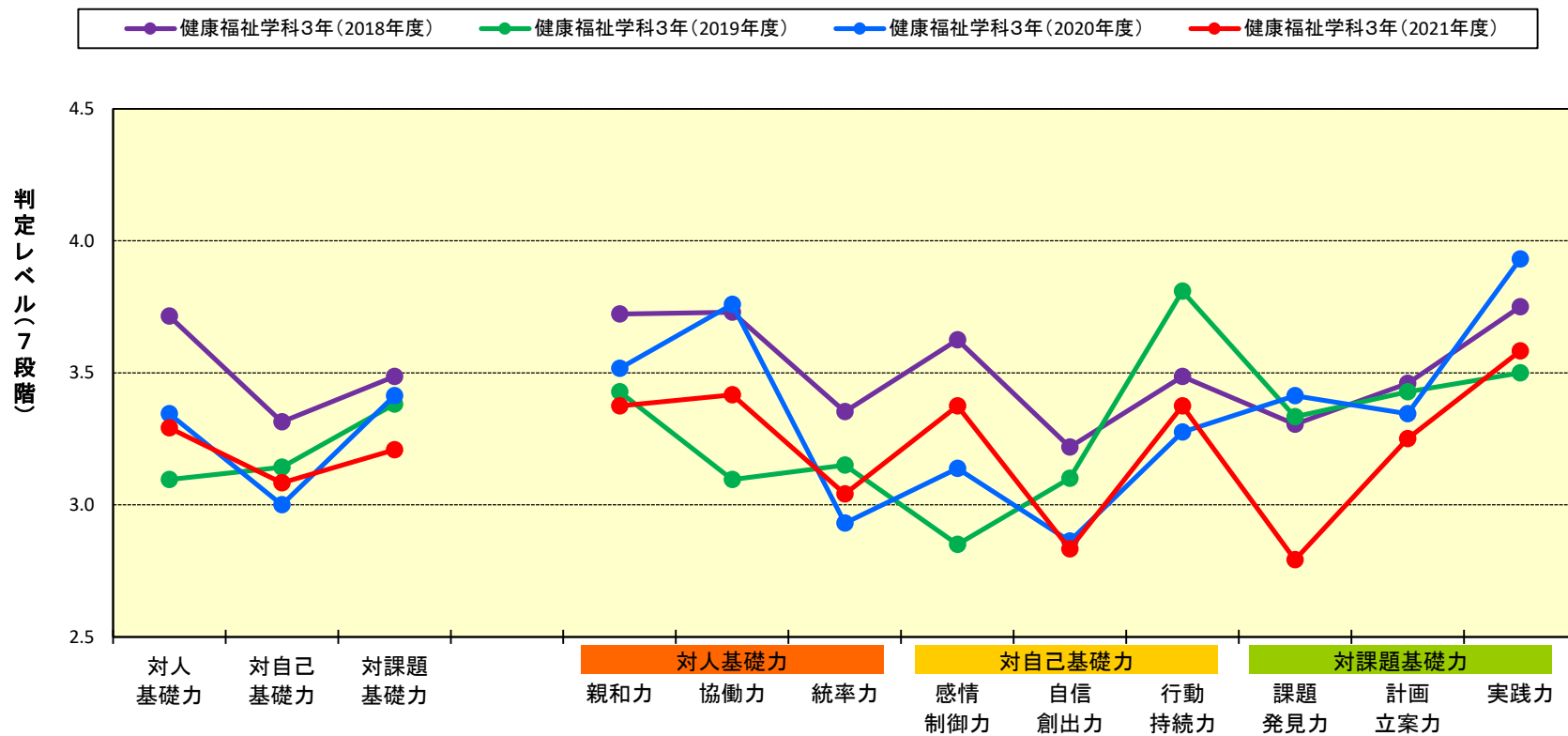


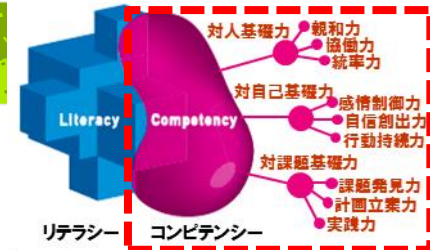
【健康福祉学科3年】

統率力、感情制御力、行動持続力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、自信創出力、課題発見力、計画立案力、実践力は、2020年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



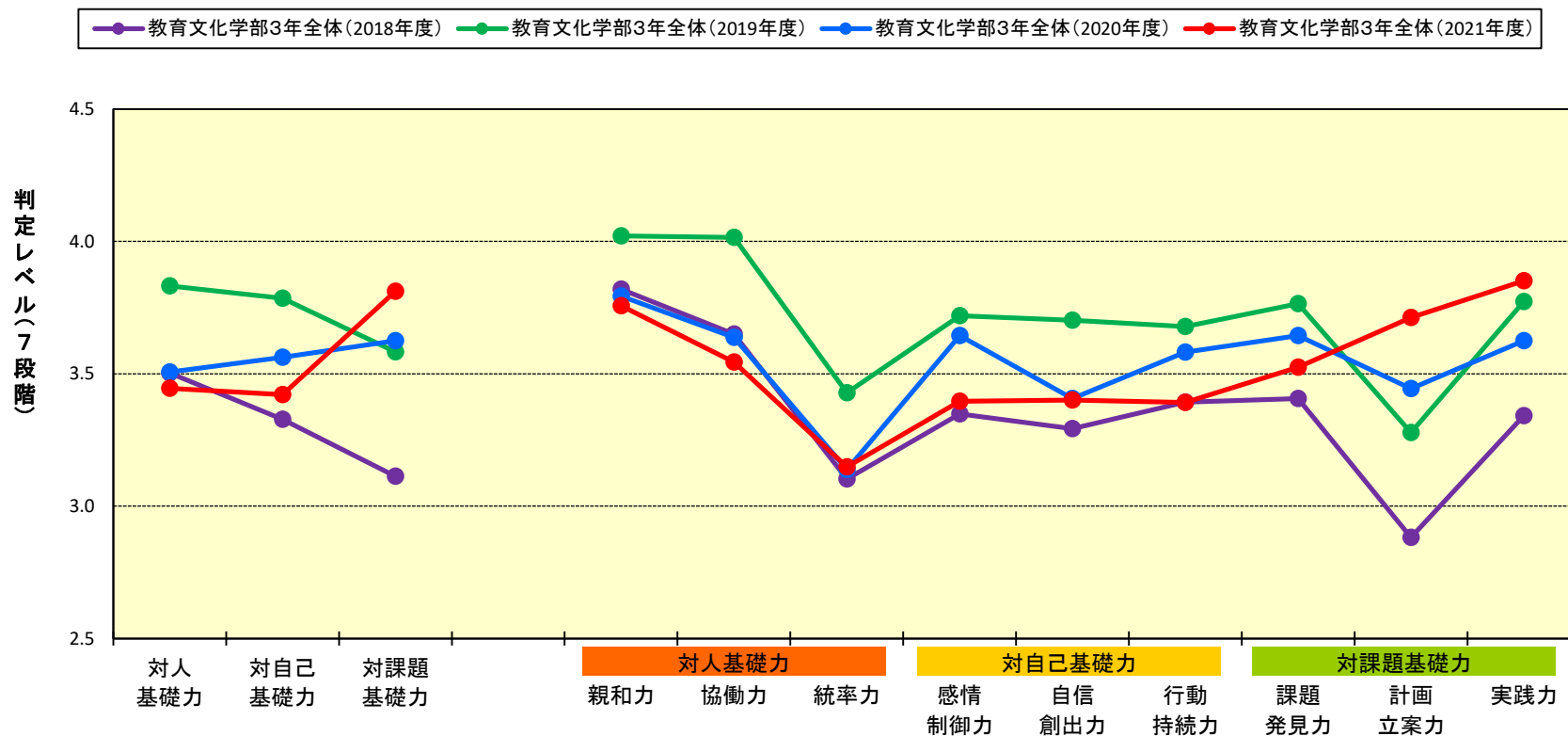


【教育文化学部3年全体】

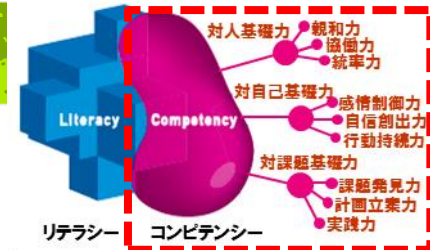
統率力、計画立案力、実践力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力は、2020年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）⑤

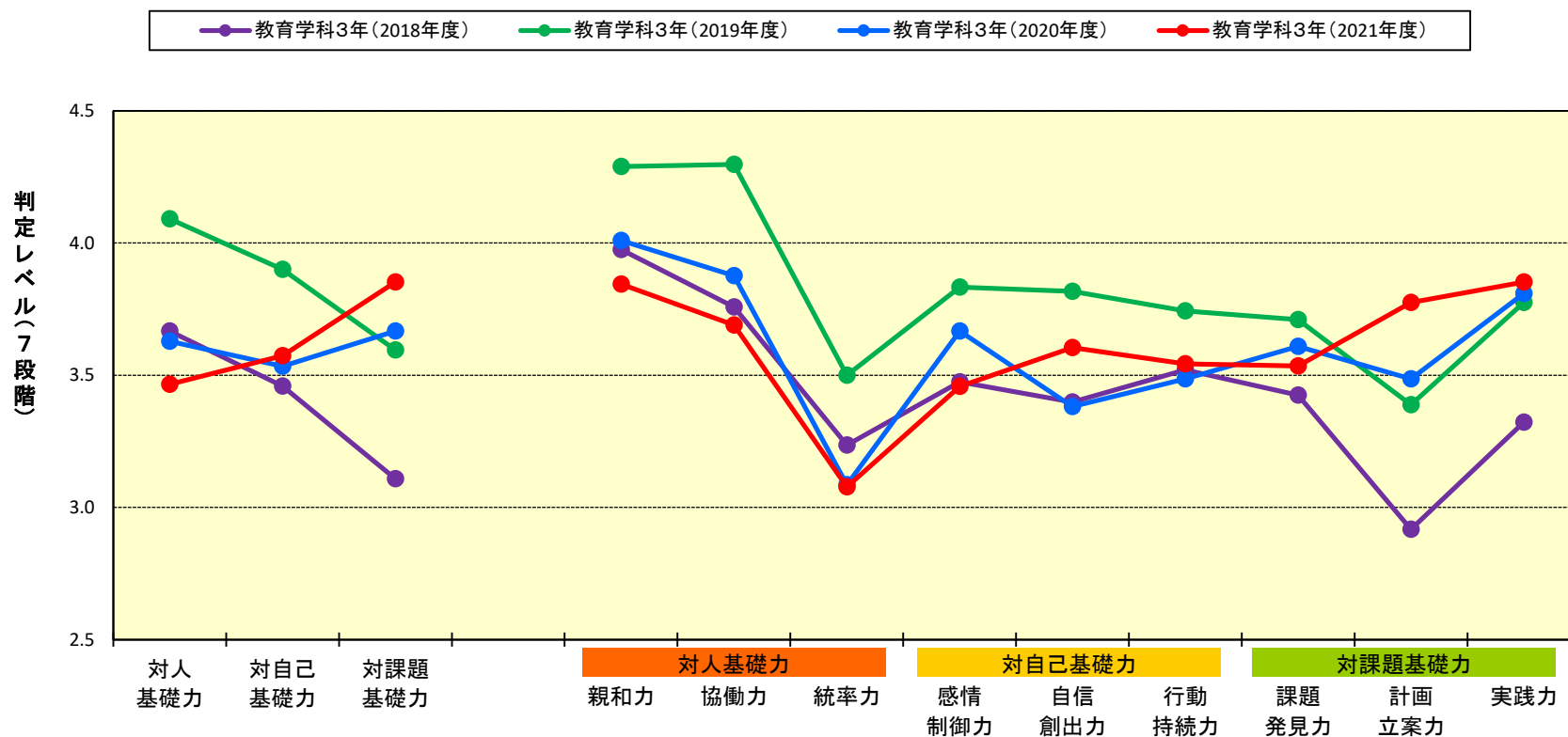


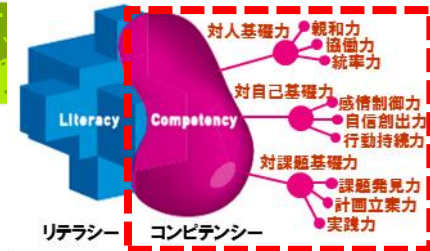
【教育学科3年】

自信創出力、行動持続力、計画立案力、実践力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、感情制御力、課題発見力は、2020年度のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



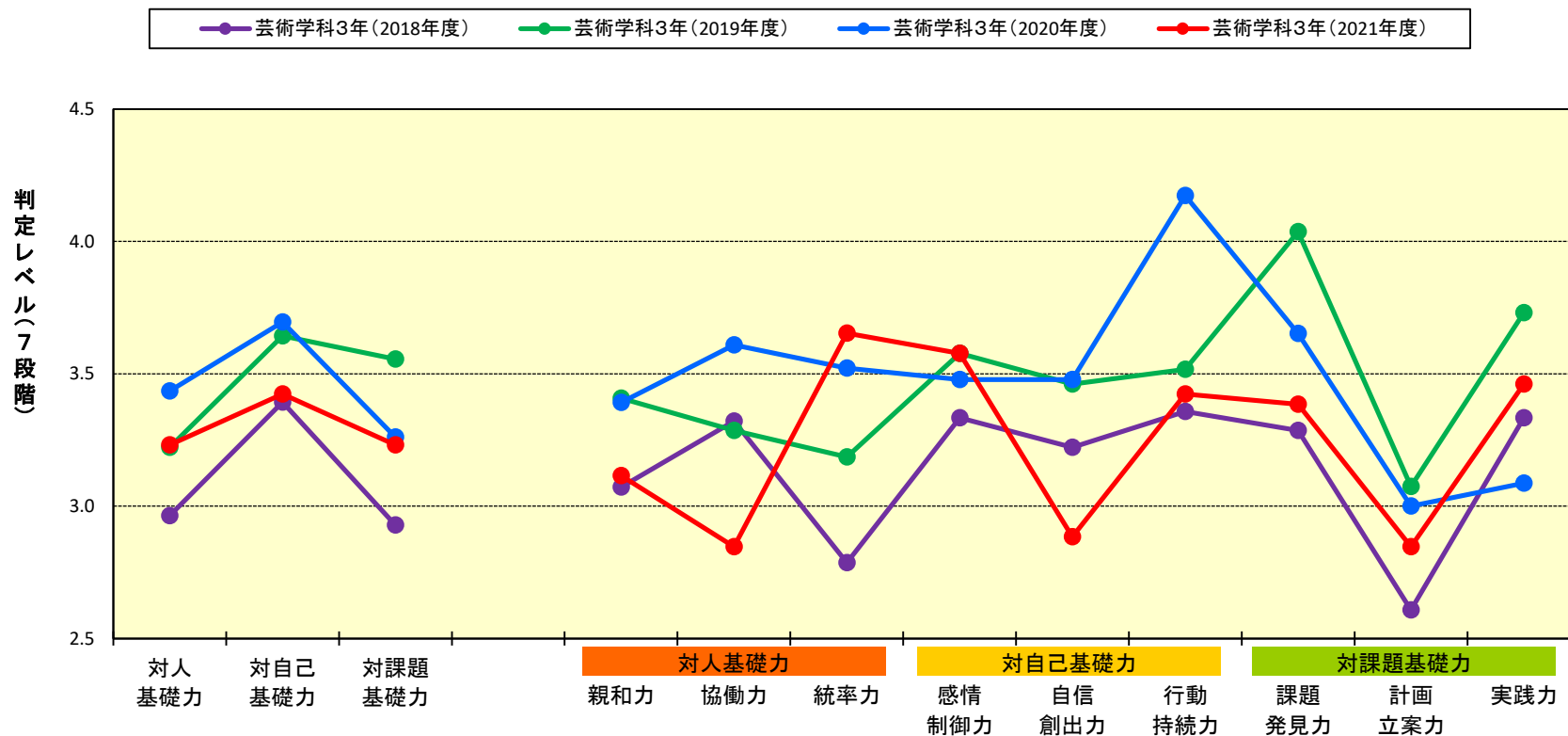


【芸術学科3年】

統率力、感情制御力、実践力は、2020年度のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力は、2020年度のスコアを下回る。

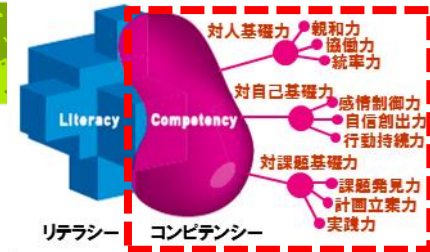
コンピテンシー要素の伸長



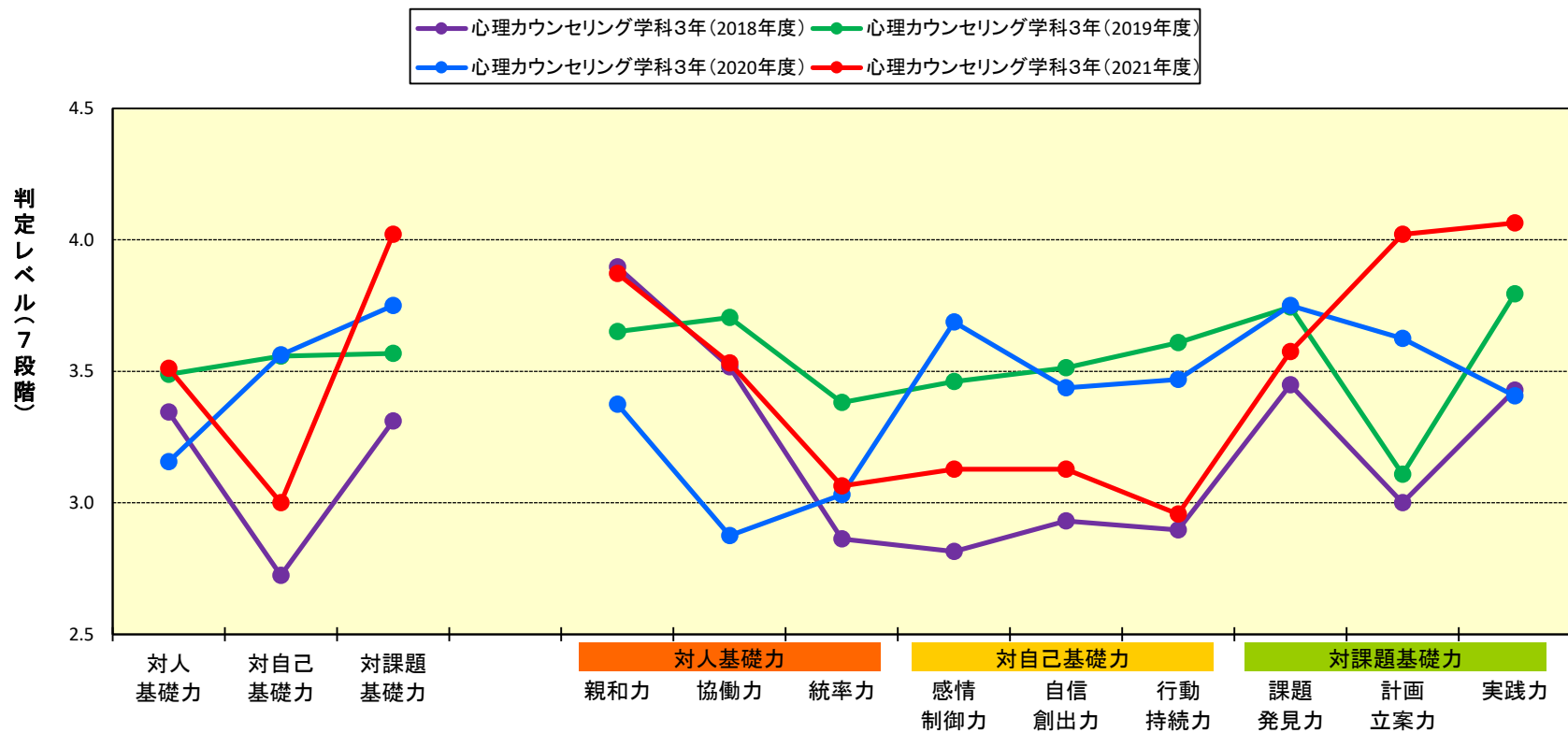
【心理カウンセリング学科3年】

親和力、協働力、統率力、計画立案力、実践力は、2020年度のスコアを上回る。

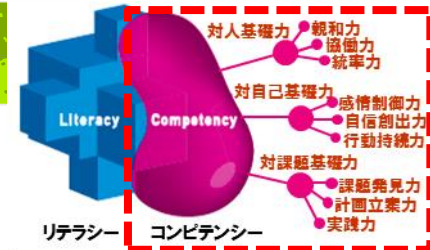
一方、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力は、2020年度のスコアを下回る。



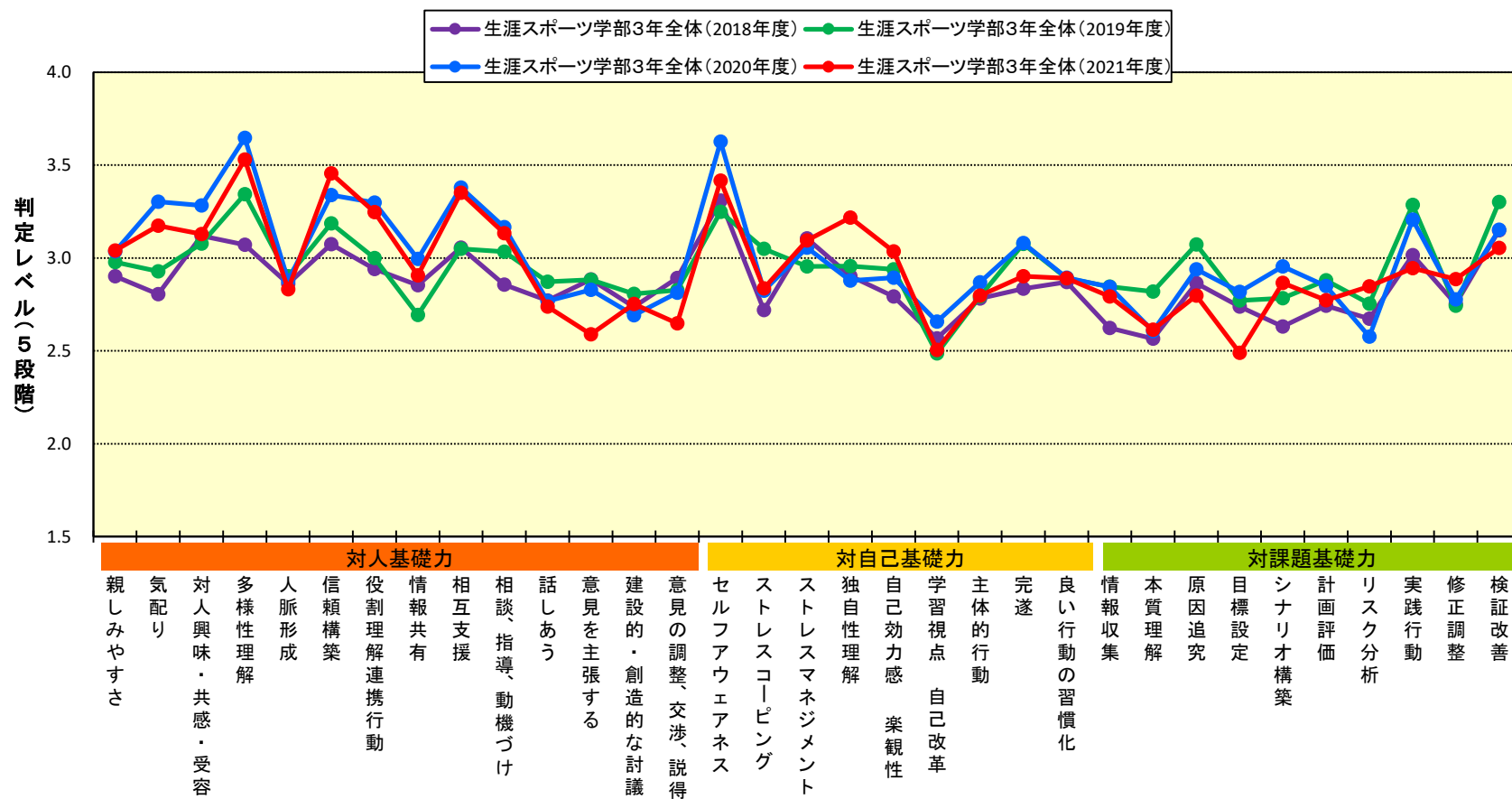
コンピテンシー要素の伸長

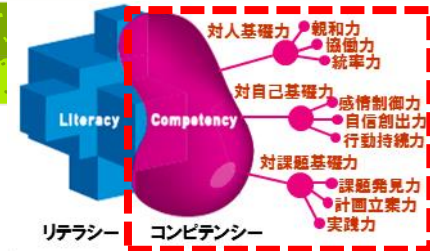


【生涯スポーツ学部3年全体】

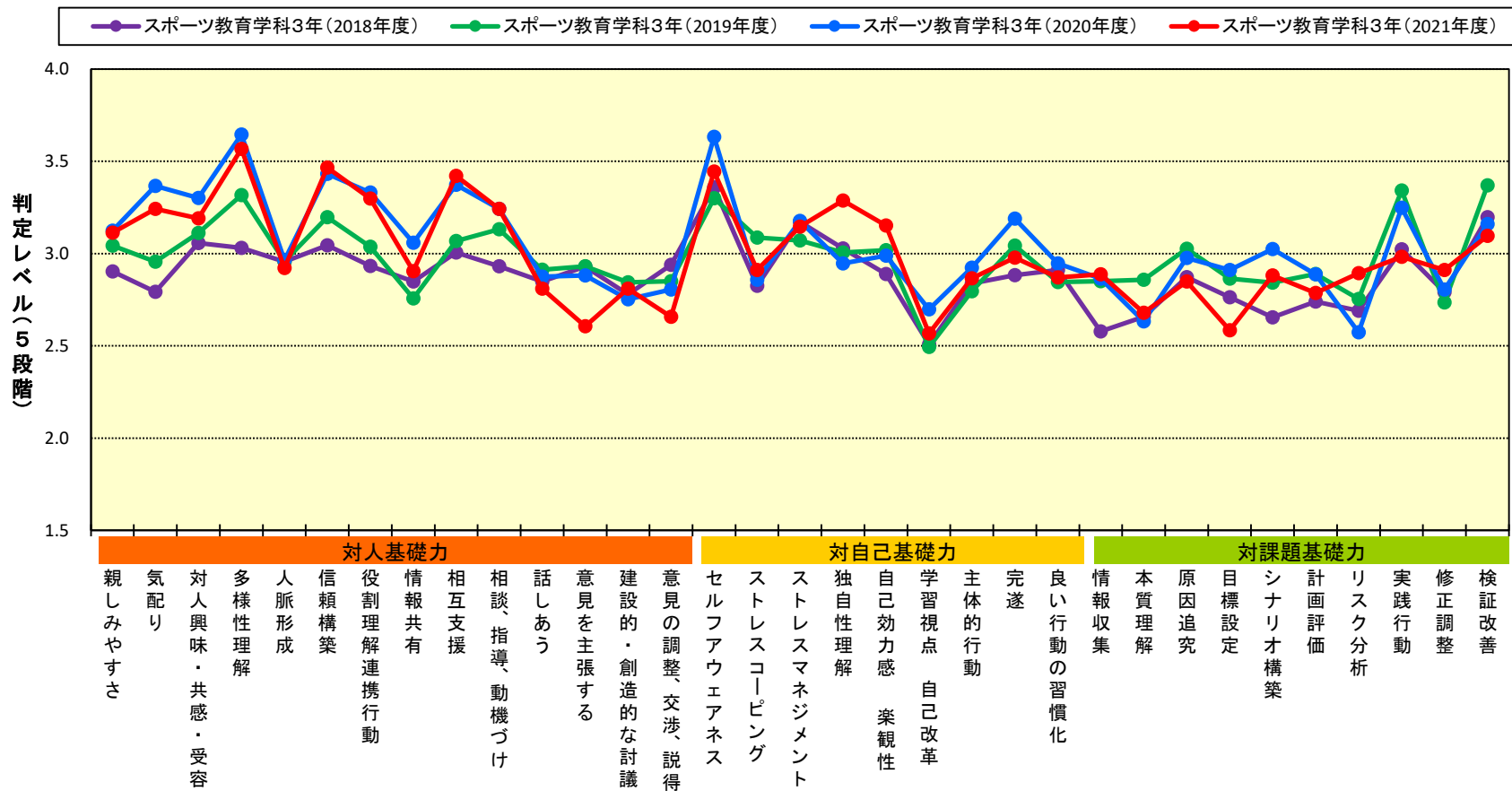


コンピテンシー小分類要素

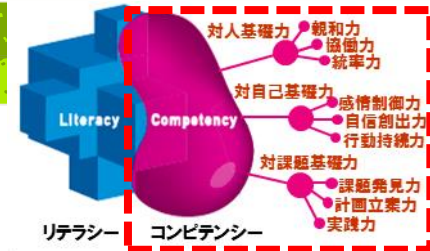




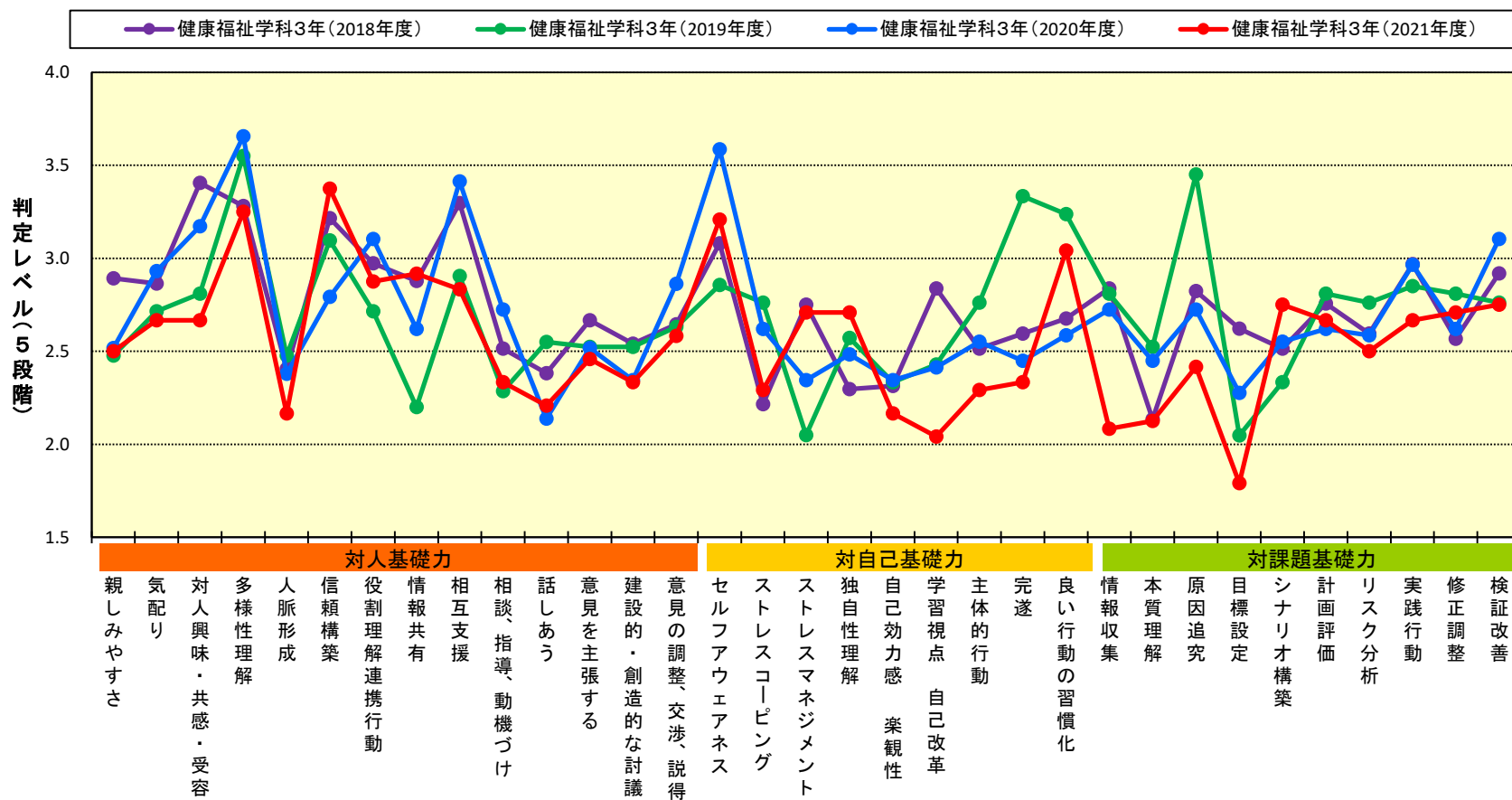
コンピテンシー小分類要素



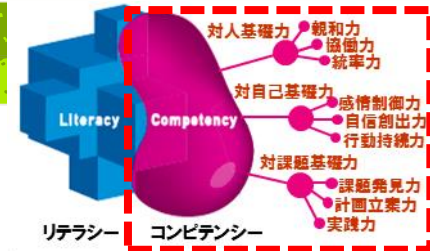
【健康福祉学科3年】



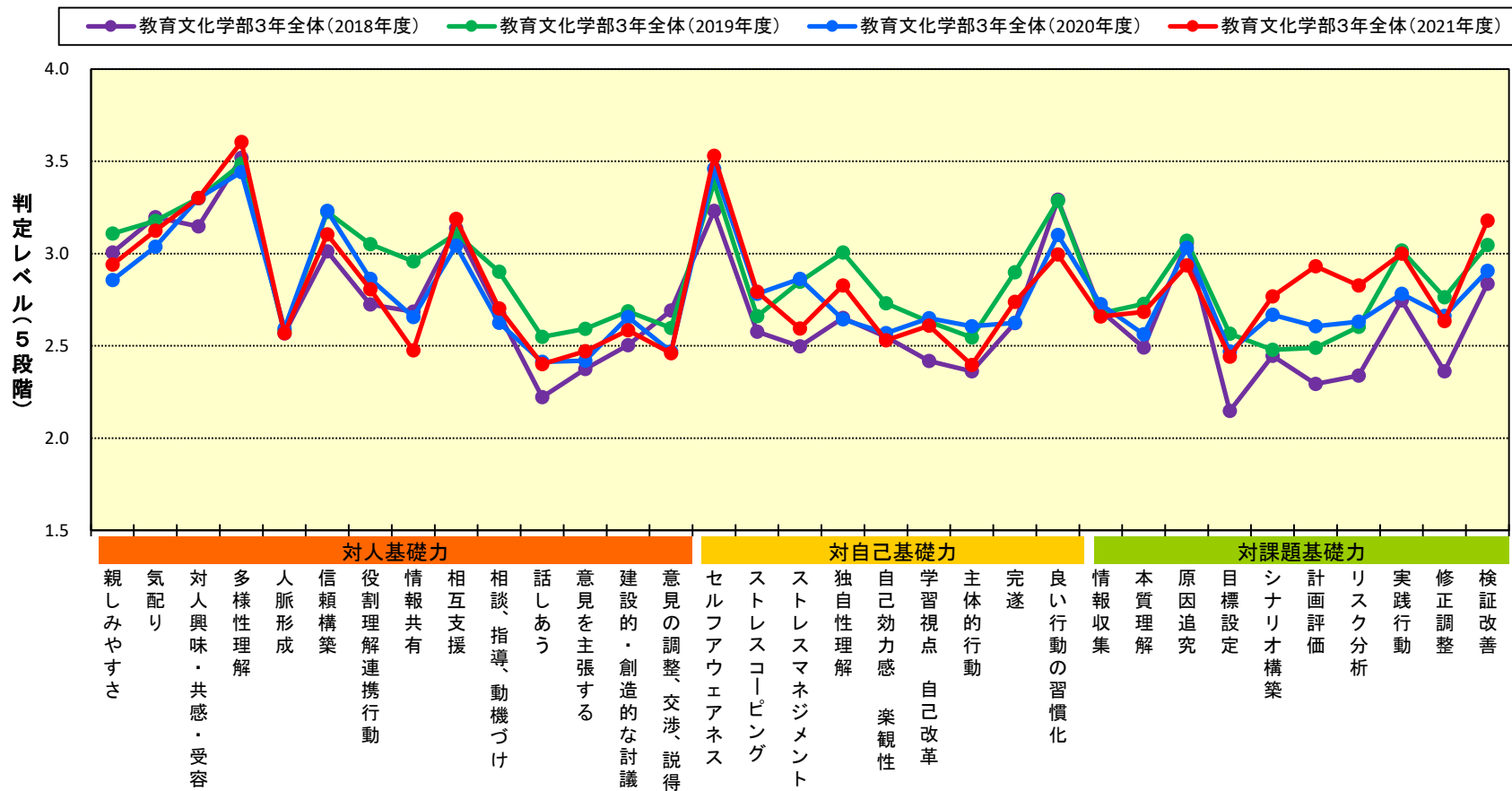
コンピテンシー小分類要素



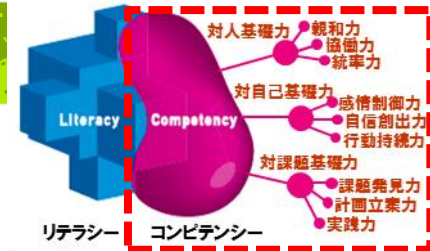
【教育文化学部3年全体】



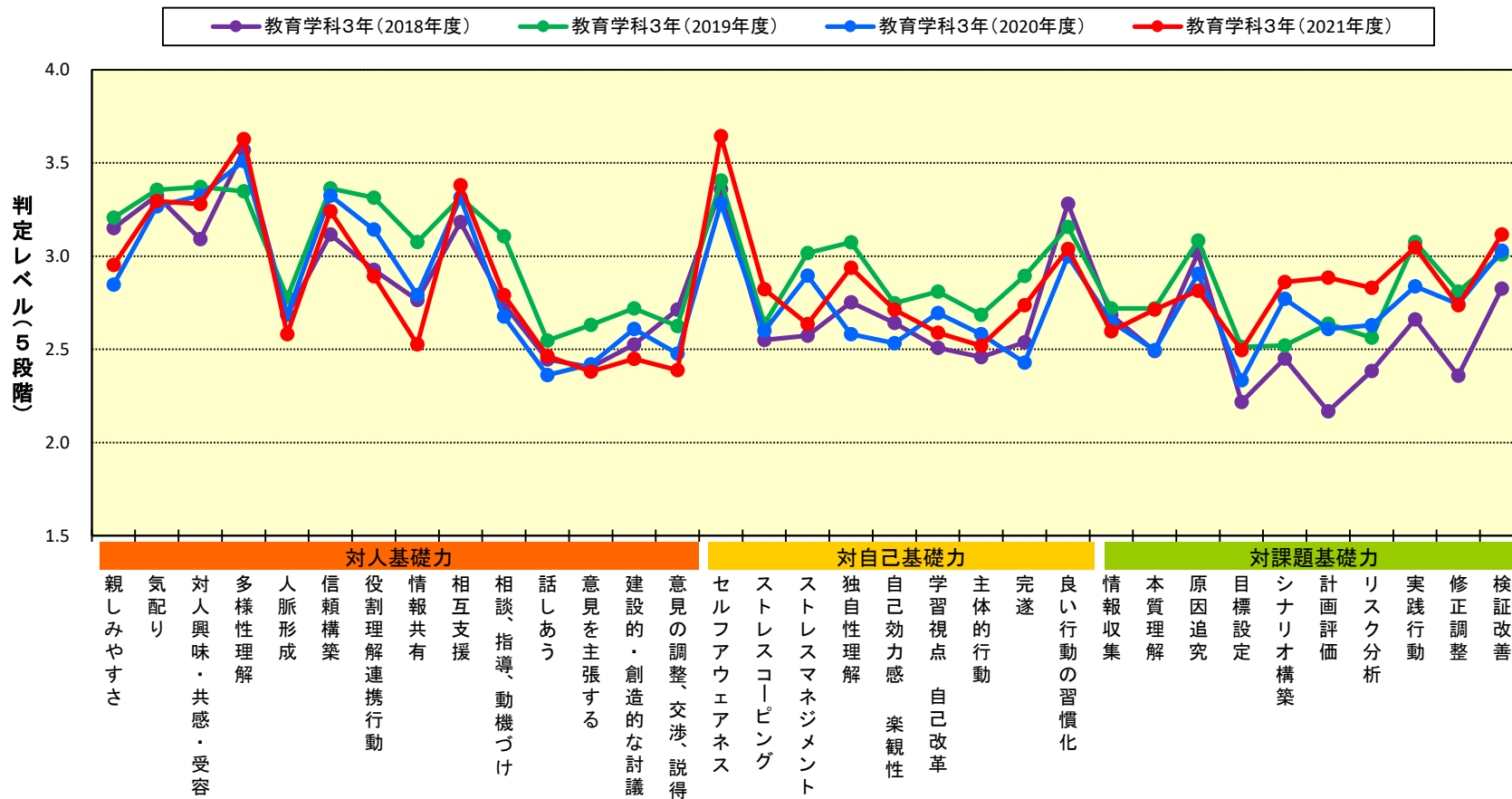
コンピテンシー小分類要素



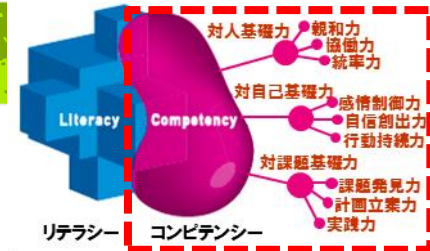
【教育学科3年】



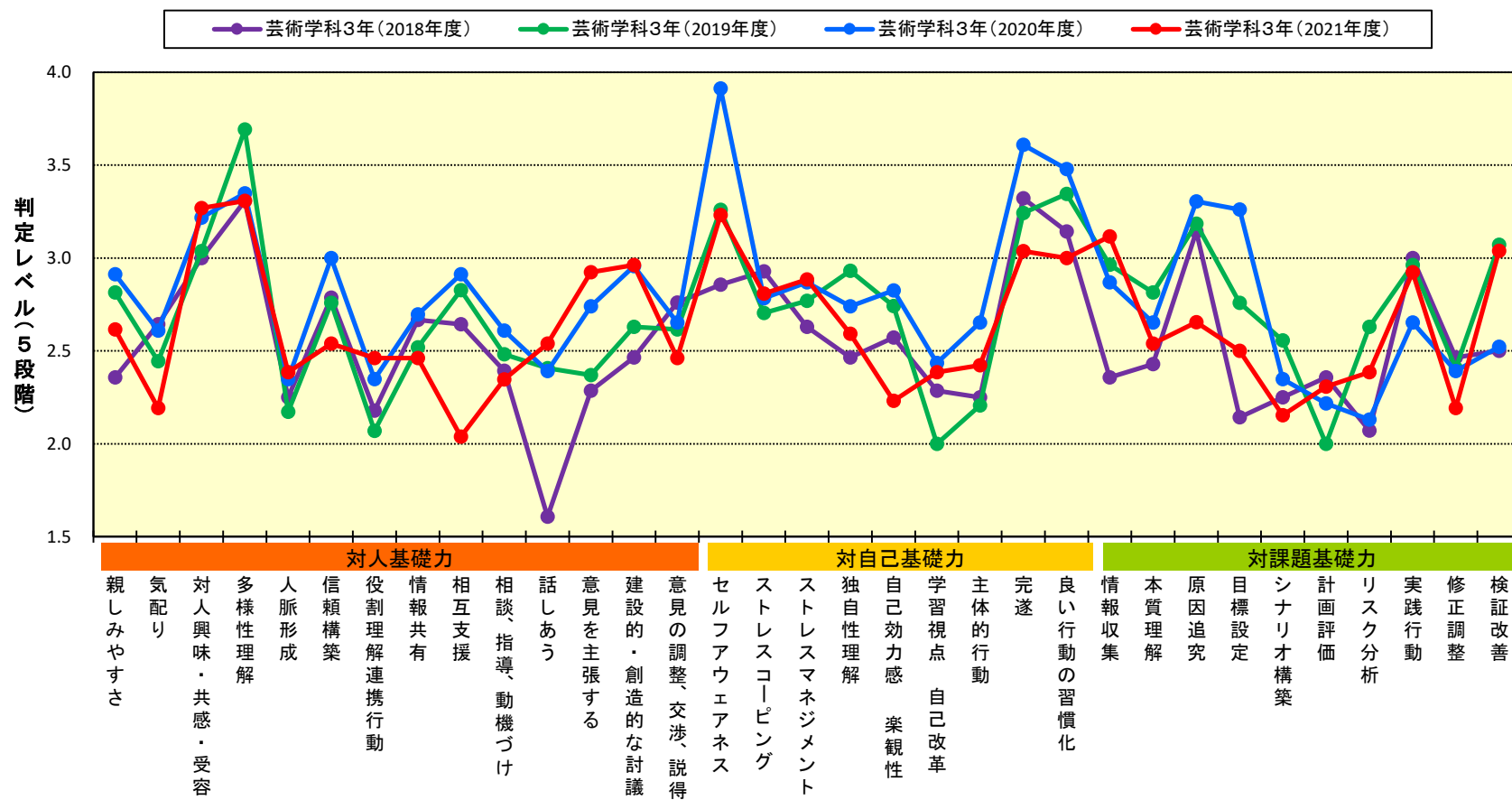
コンピテンシー小分類要素

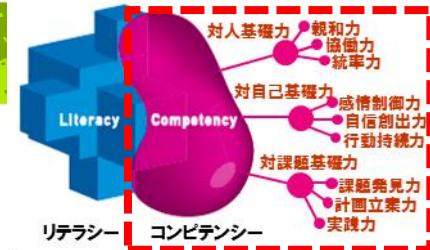


【芸術学科3年】

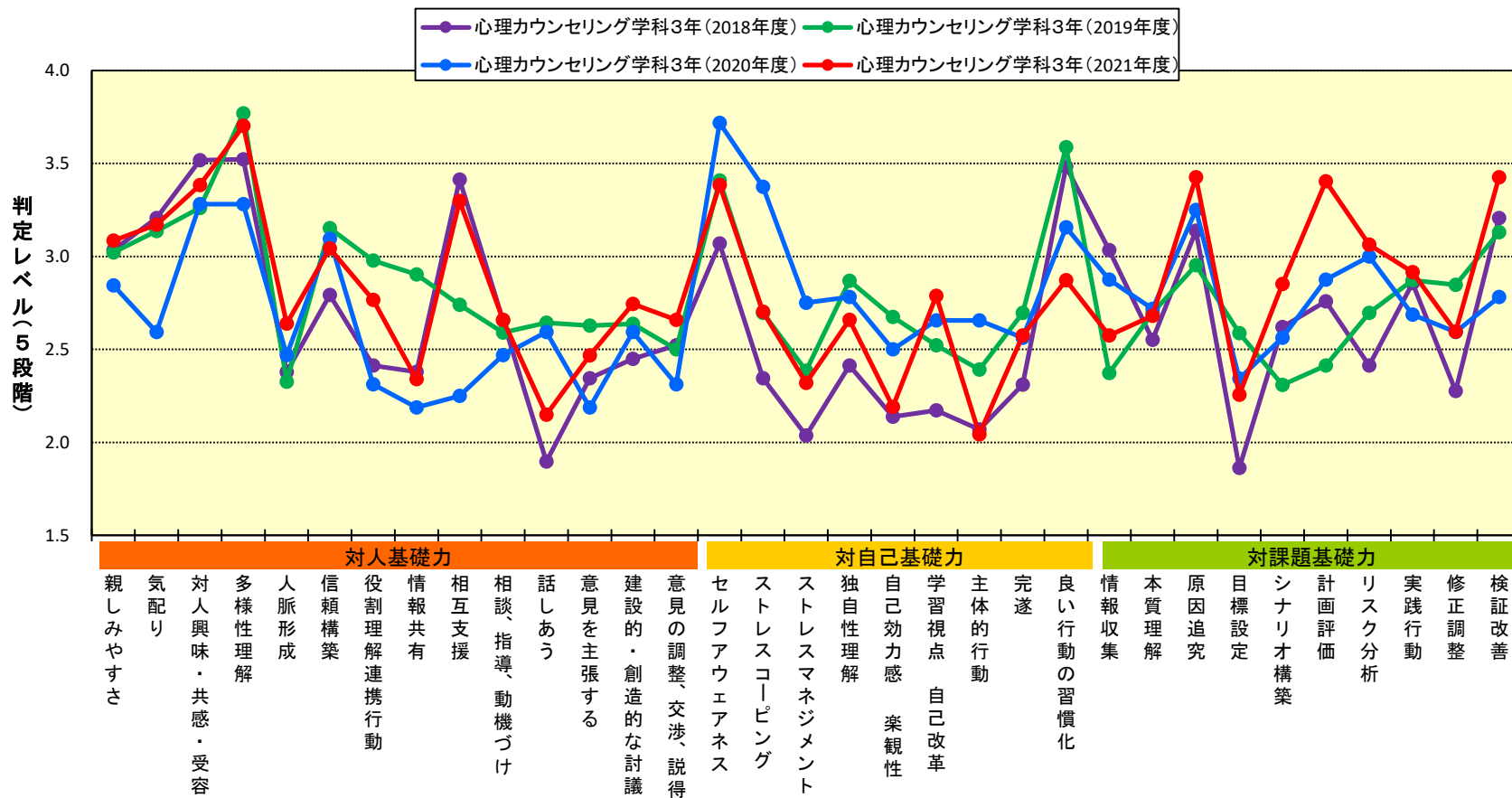


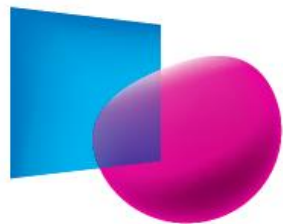
コンピテンシー小分類要素





コンピテンシー小分類要素





PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.8

3年生

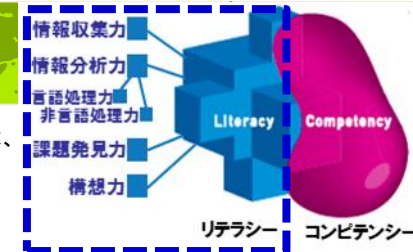
成長分析

受験者プロフィール

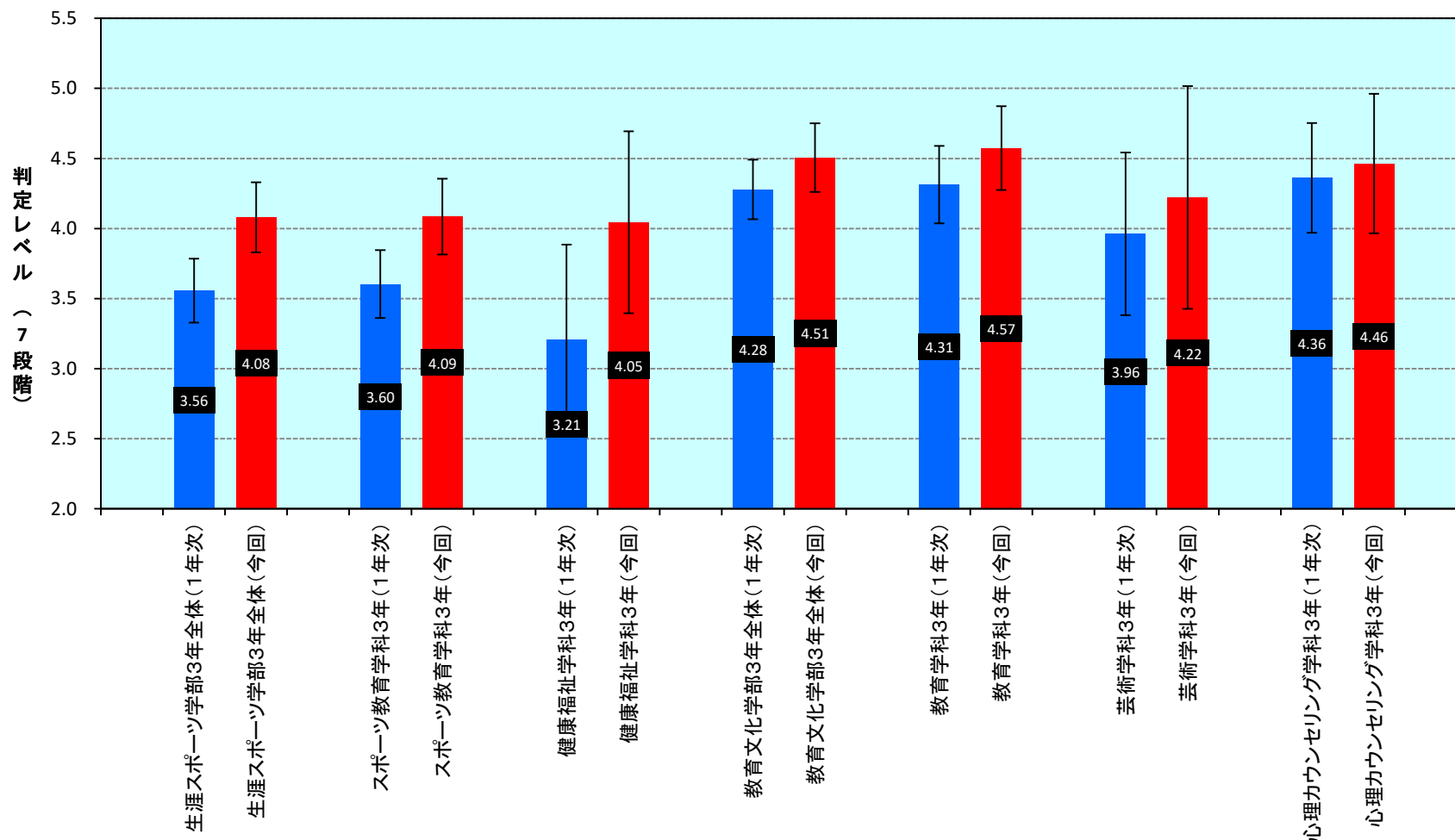
学部	学科	1年次 2019年4月 受験	3年次(今回) 2021年11月～ 2022年2月受験	集計対象者 (1年次・3年次 いずれも受験)
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	216	178	177
	健康福祉学科	34	24	24
		250	202	201
教育文化学部	教育学科	149	130	121
	芸術学科	37	27	26
	心理カウンセリング学科	54	47	47
		240	204	194
合計		490	406	395

リテラシー総合（成長分析）

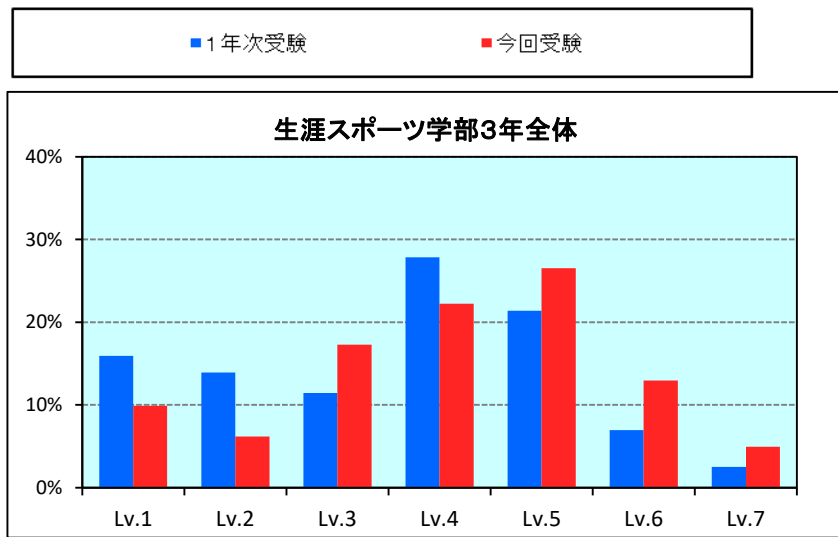
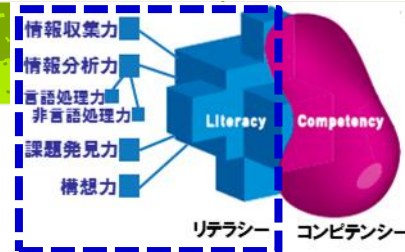
- 生涯スポーツ学部3年全体、スポーツ教育学科3年、健康福祉学科3年、教育文化学部3年全体、教育学科3年、芸術学科3年、心理カウンセリング学科3年は、1年次受験のスコアを上回る。



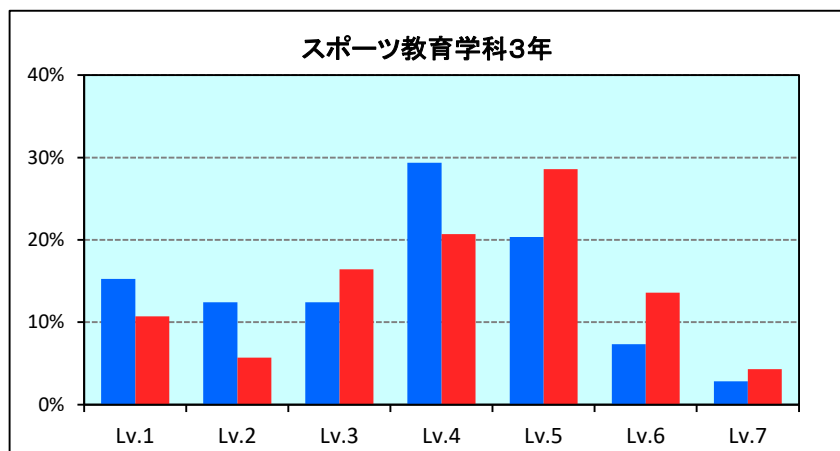
リテラシー総合



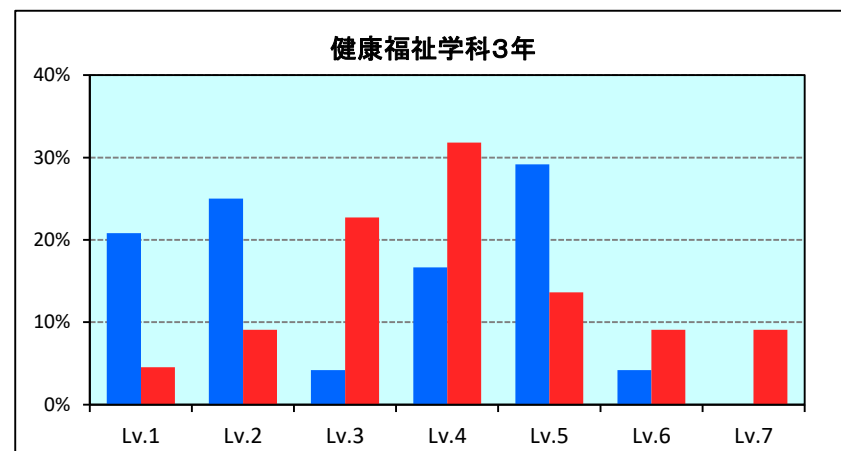
リテラシー総合 判定レベルの分布（成長分析）①



1年次受験に比べて、レベル1～2、レベル4のボリュームが小さく、レベル3、レベル5～6のボリュームが大きい。

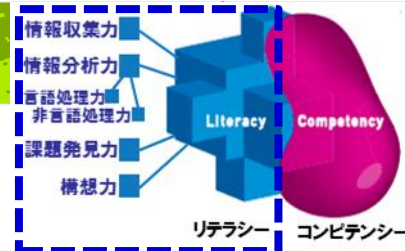


1年次受験に比べて、レベル1～2、レベル4のボリュームが小さく、レベル3、レベル5～6のボリュームが大きい。



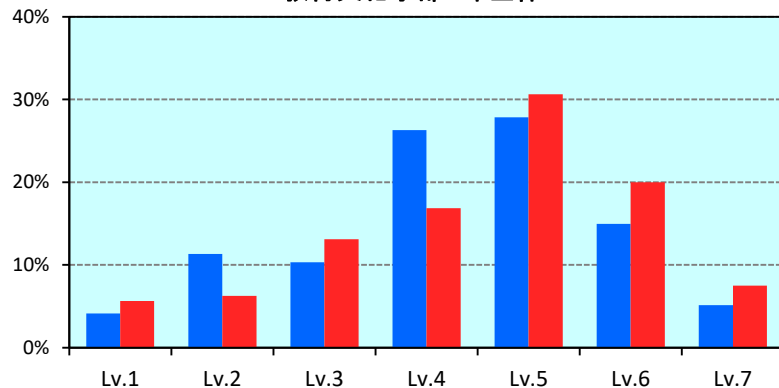
1年次受験に比べて、レベル1～2、レベル5のボリュームが小さく、レベル3～4、レベル6～7のボリュームが大きい。

リテラシー総合 判定レベルの分布（成長分析）②



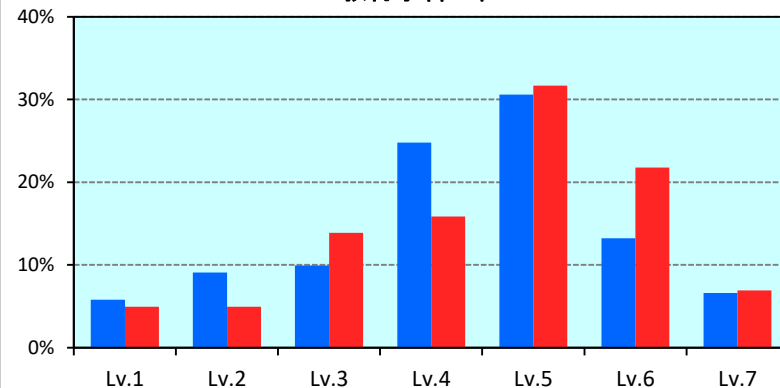
■ 1年次受験 ■ 今回受験

教育文化学部3年全体



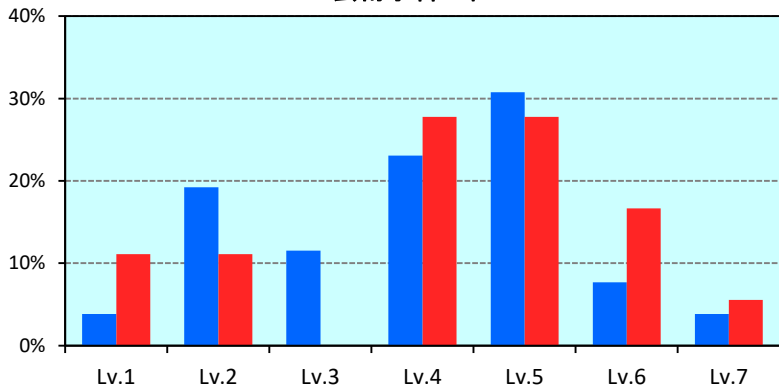
1年次受験に比べて、レベル2、レベル4の割合が小さく、レベル6の割合が大きい。

教育学部3年



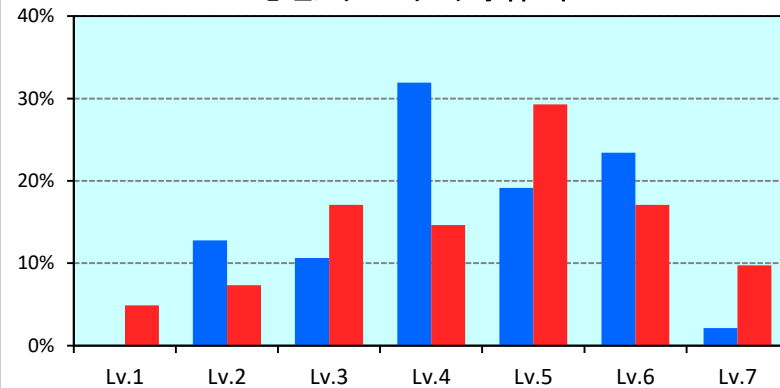
1年次受験に比べて、レベル2、レベル4の割合が小さく、レベル3、レベル6の割合が大きい。

芸術学部3年



1年次受験に比べて、レベル2～3のボリュームが小さく、レベル1、レベル4、レベル6の割合が大きい。

心理カウンセリング学科3年



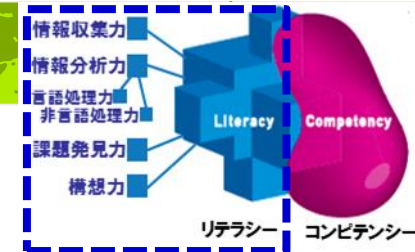
1年次受験に比べて、レベル2、レベル4、レベル6の割合が小さく、レベル1、レベル3、レベル5、レベル7の割合が大きい。

リテラシー要素（成長分析）①

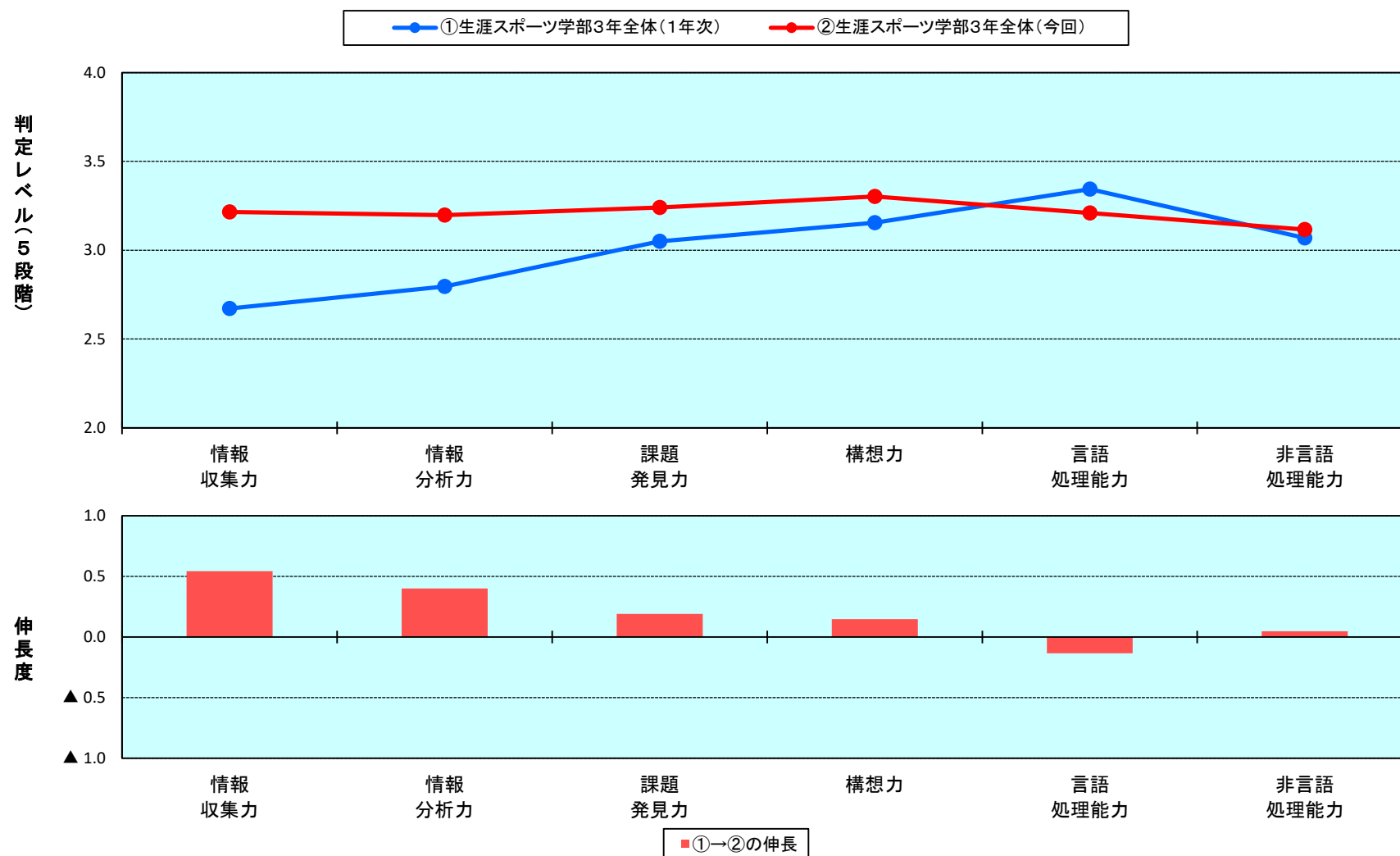
【生涯スポーツ学部3年全体】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。



リテラシー要素 の伸長

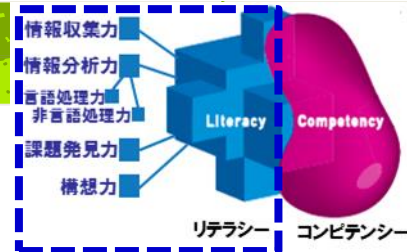


リテラシー要素（成長分析）②

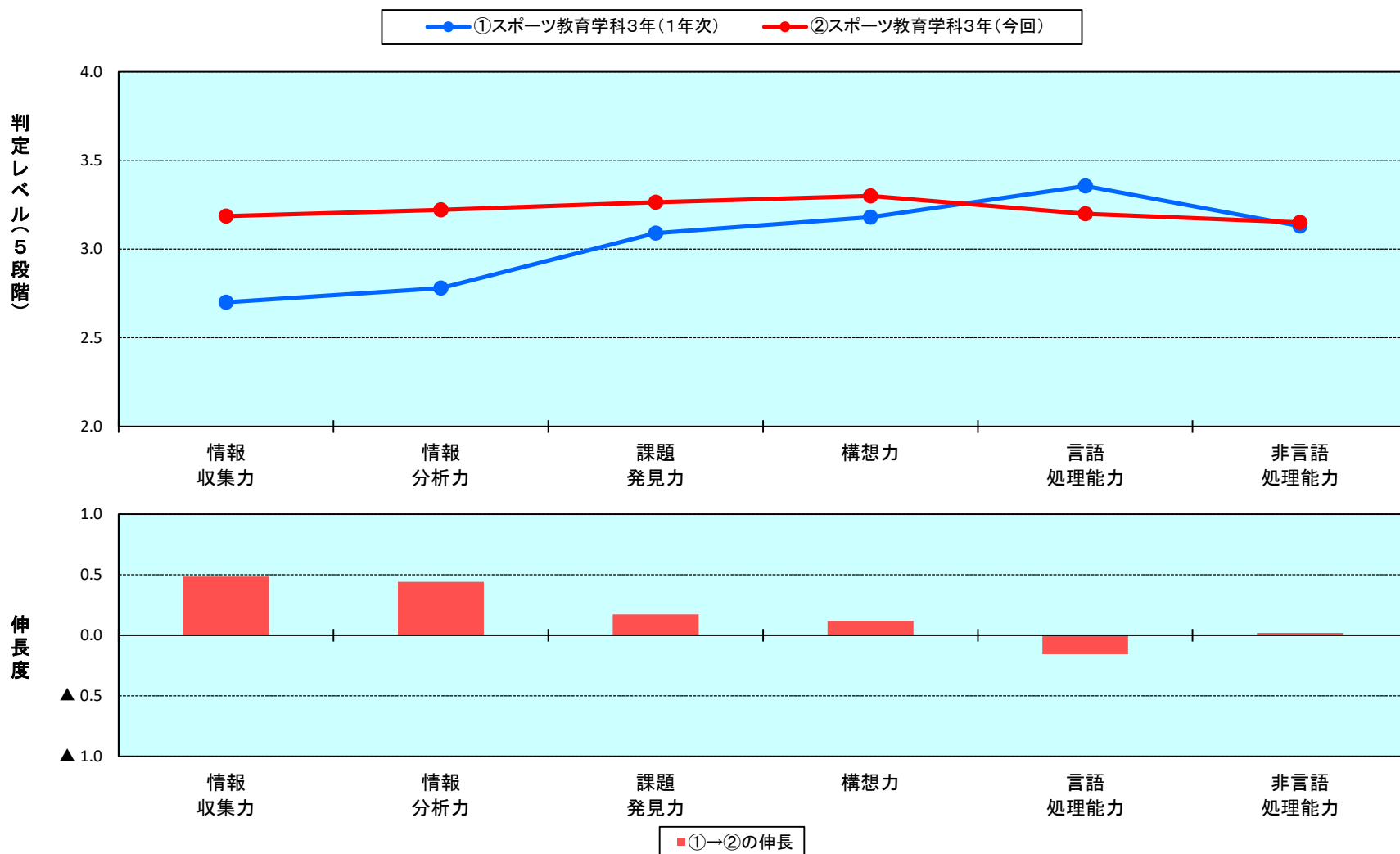
【スポーツ教育学科3年】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。



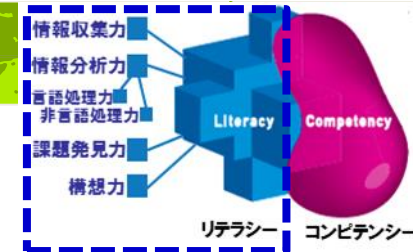
リテラシー要素 の伸長



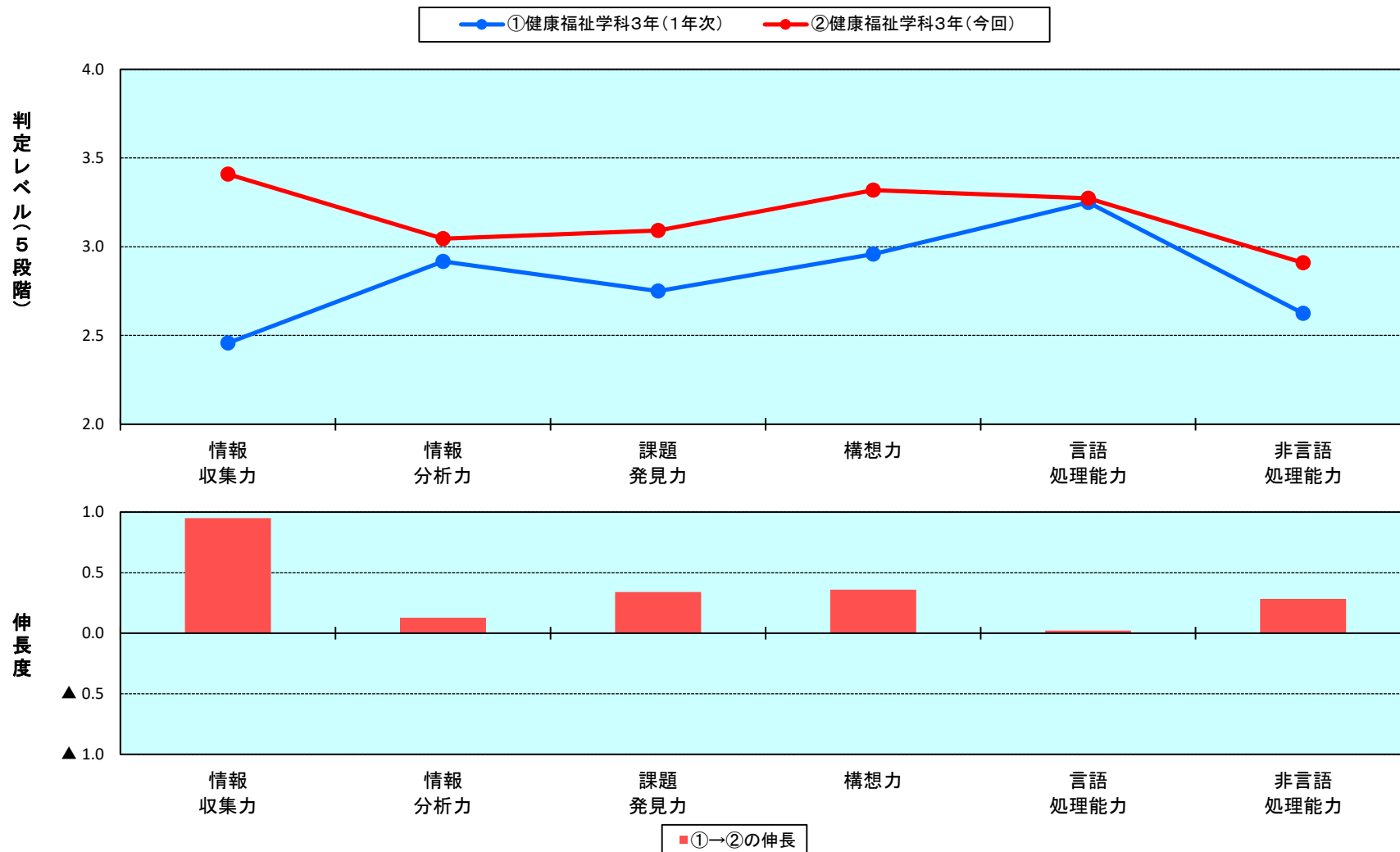
リテラシー要素（成長分析）③

【健康福祉学科3年】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。



リテラシー要素 の伸長

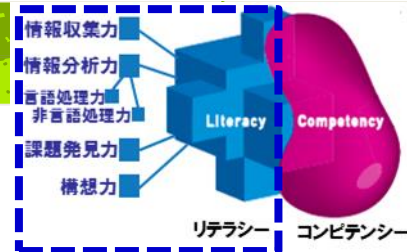


リテラシー要素（成長分析）④

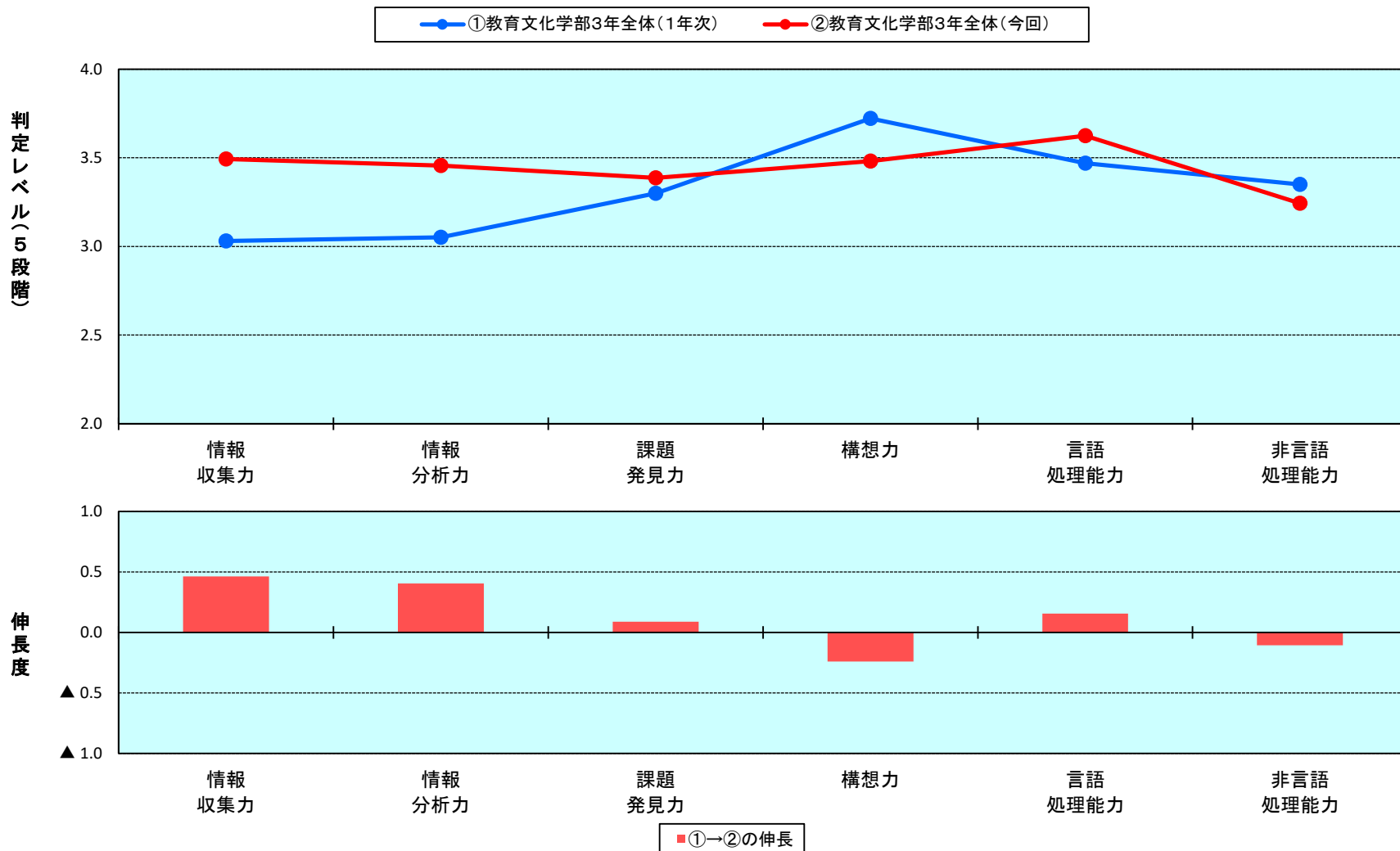
【教育文化学部3年全体】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、構想力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。



リテラシー要素 の伸長

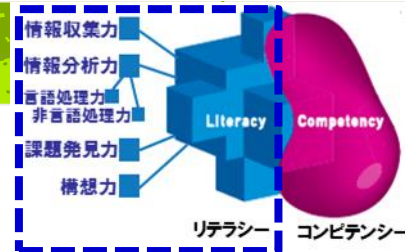


リテラシー要素（成長分析）⑤

【教育学科3年】

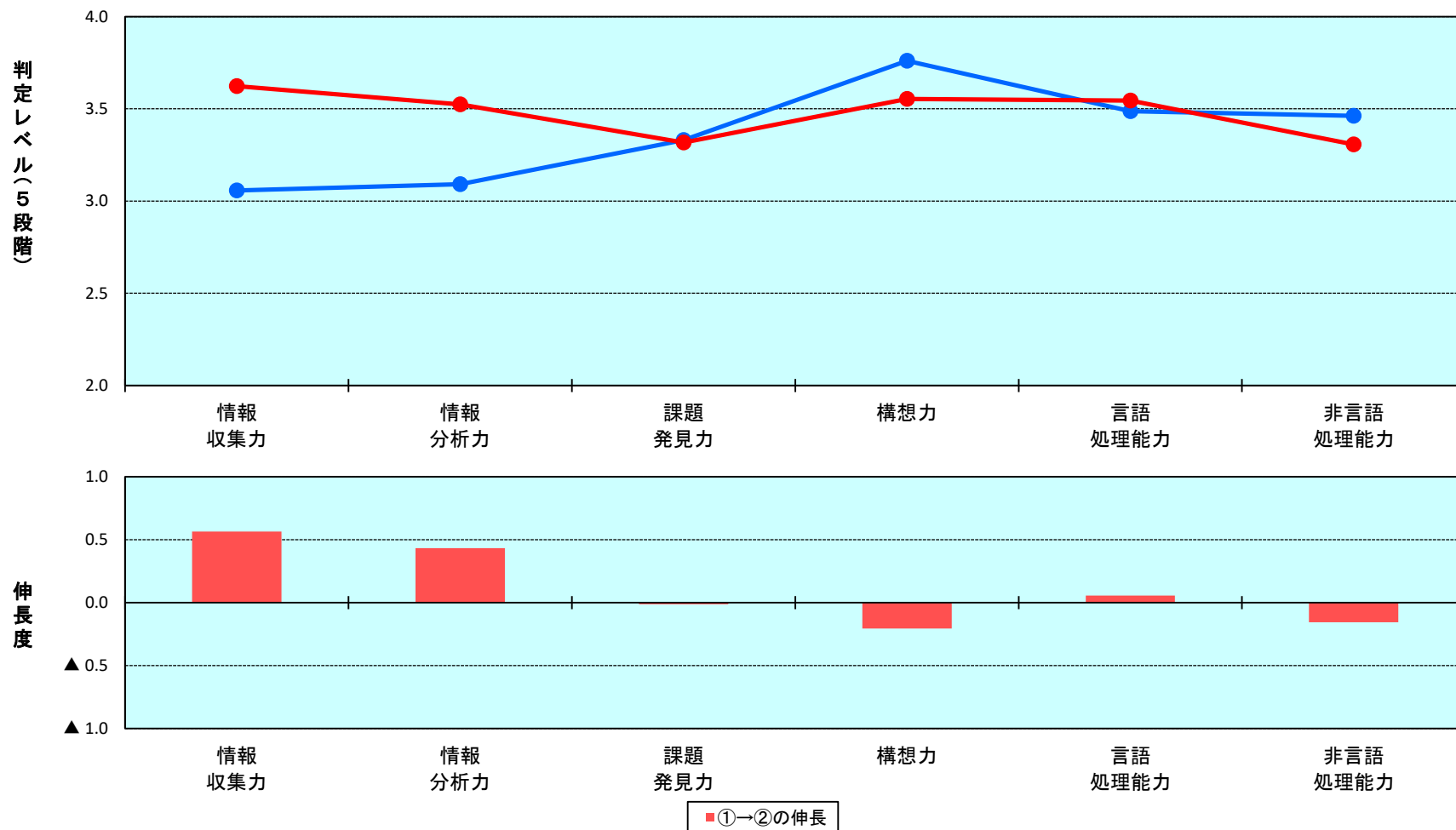
情報収集力、情報分析力、言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、課題発見力、構想力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。



リテラシー要素 の伸長

①教育学科3年(1年次) ②教育学科3年(今回)

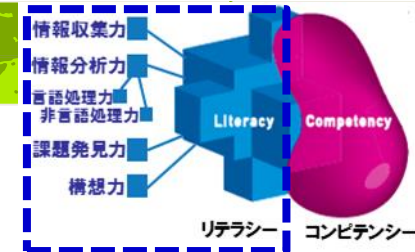


リテラシー要素（成長分析）⑥

【芸術学科3年】

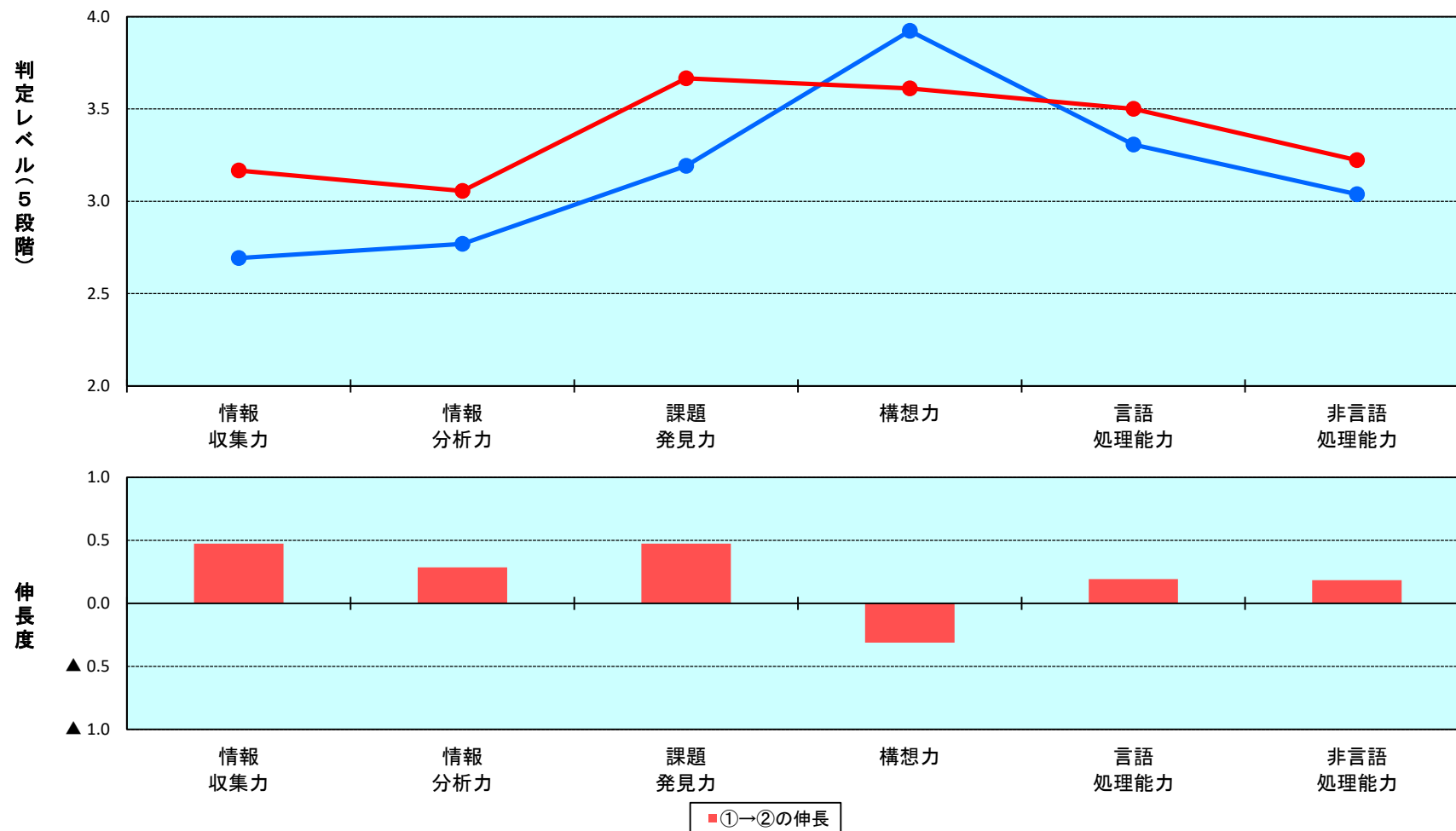
情報収集力、情報分析力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、構想力は、1年次受験のスコアを下回る。



リテラシー要素 の伸長

①芸術学科3年(1年次) ②芸術学科3年(今回)

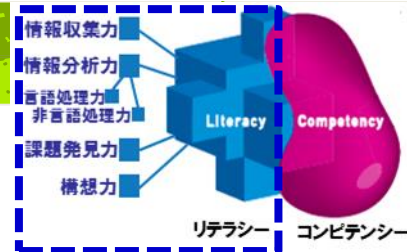


リテラシー要素（成長分析）⑦

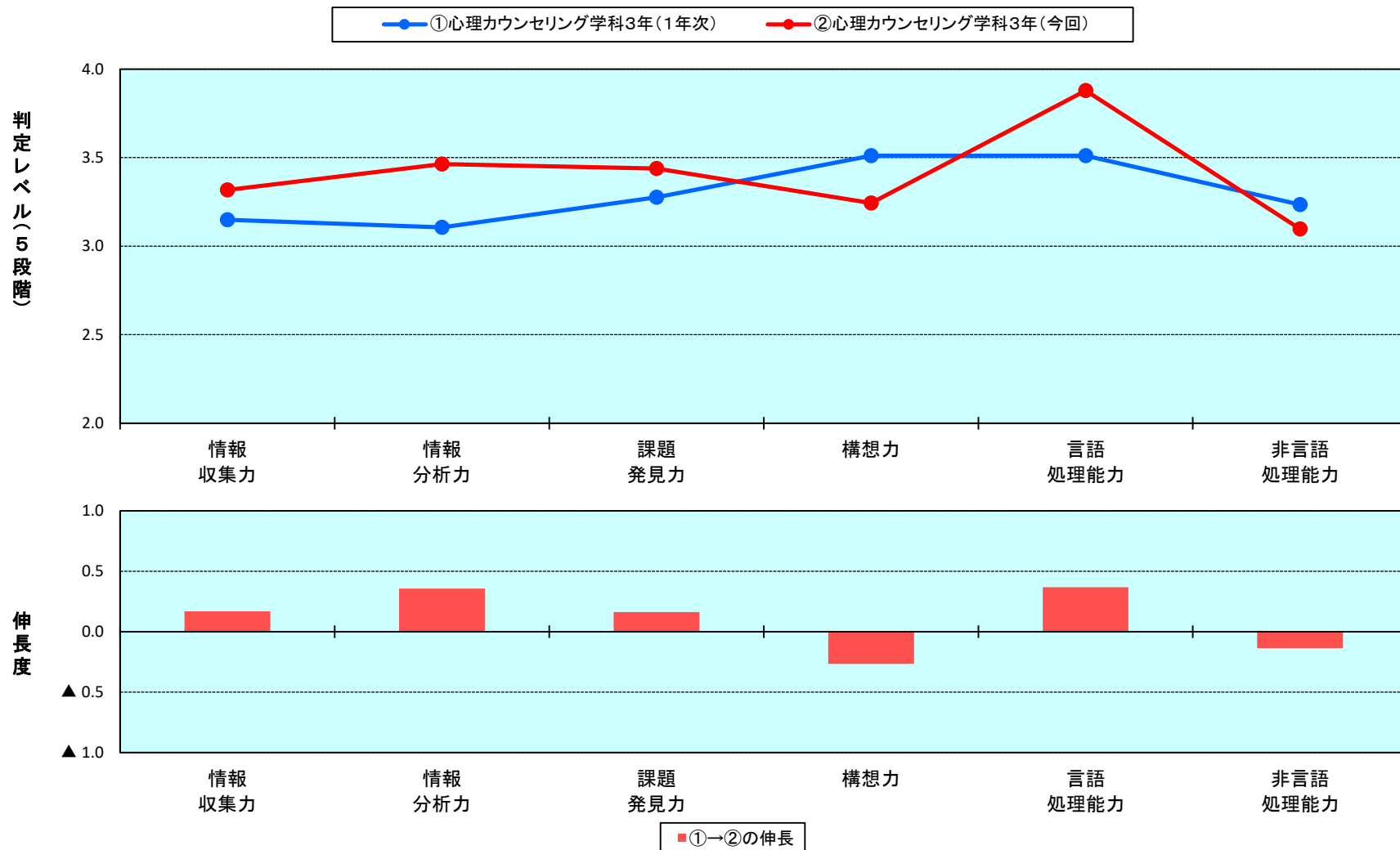
【心理カウンセリング学科3年】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。

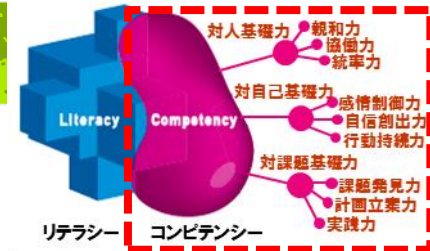
一方、構想力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。



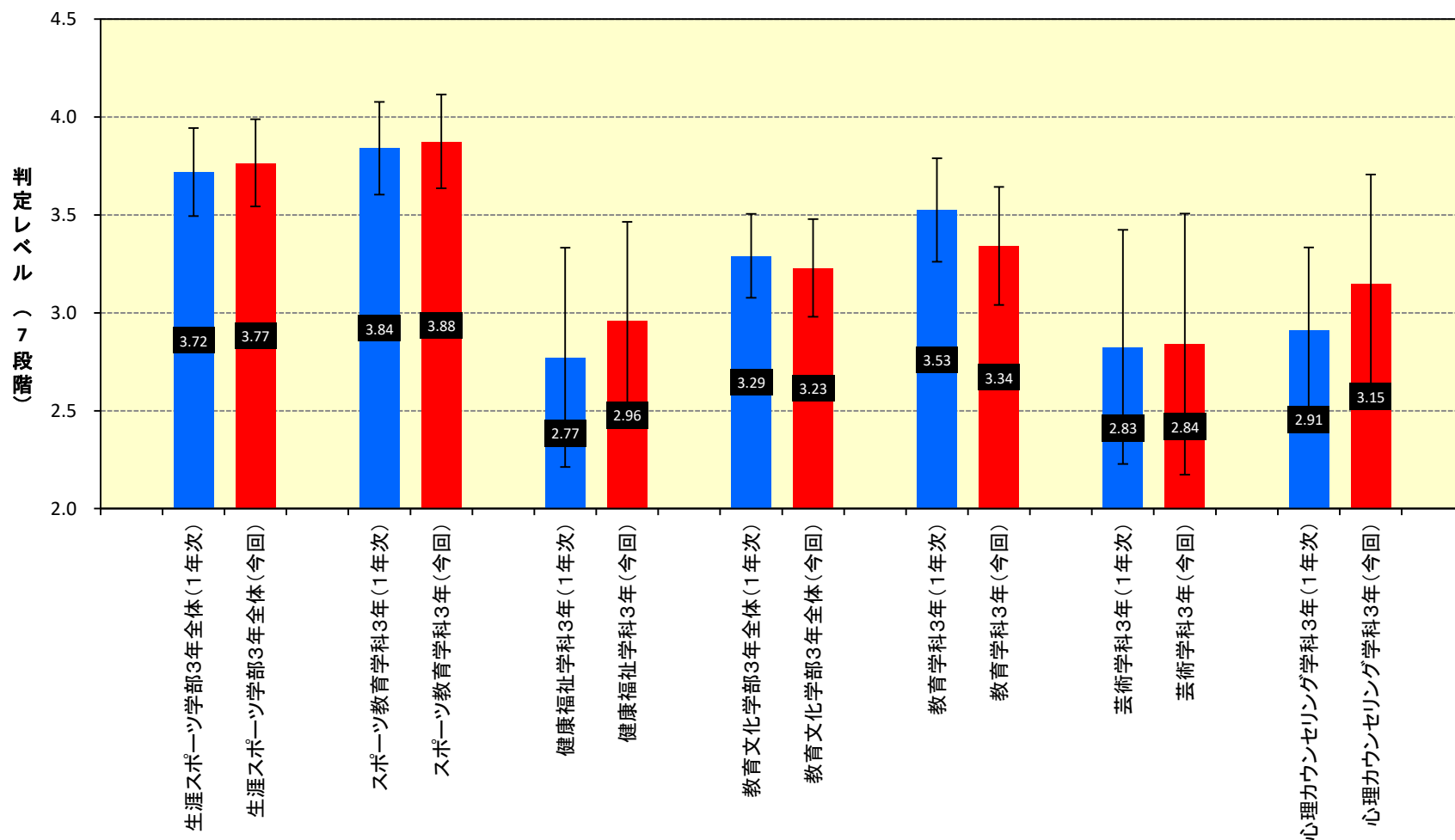
リテラシー要素 の伸長

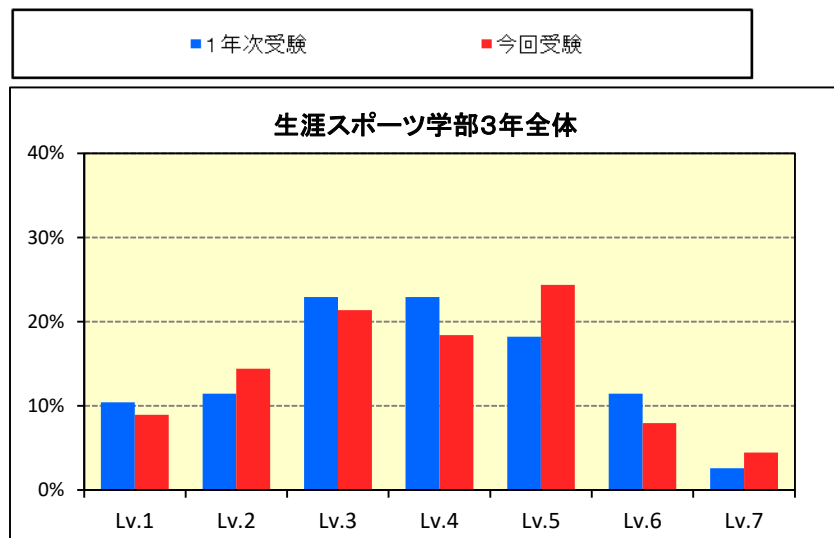
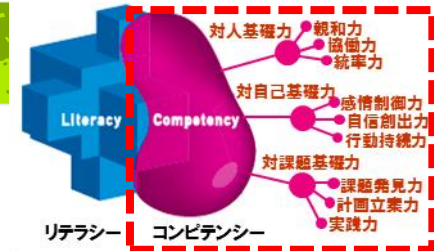


- 生涯スポーツ学部3年全体、スポーツ教育学科3年、健康福祉学科3年、芸術学科3年、心理カウンセリング学科3年は、1年次受験のスコアを上回る。
- 教育文化学部3年全体、教育学科3年は、1年次受験のスコアを下回る。

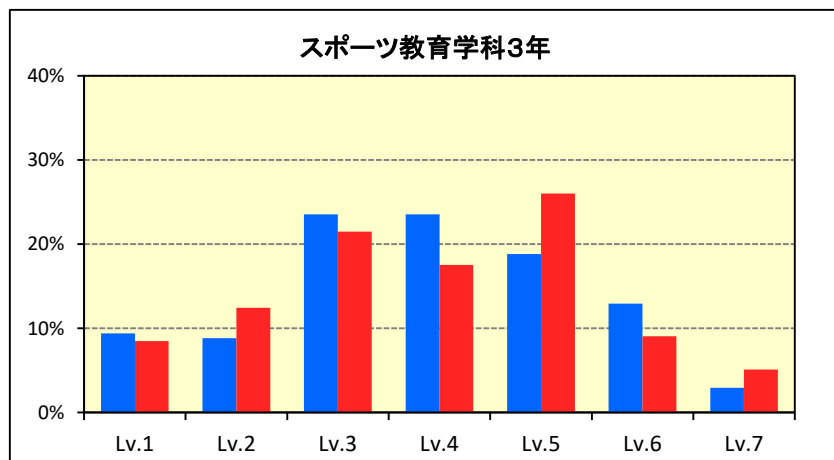


コンピテンシー総合

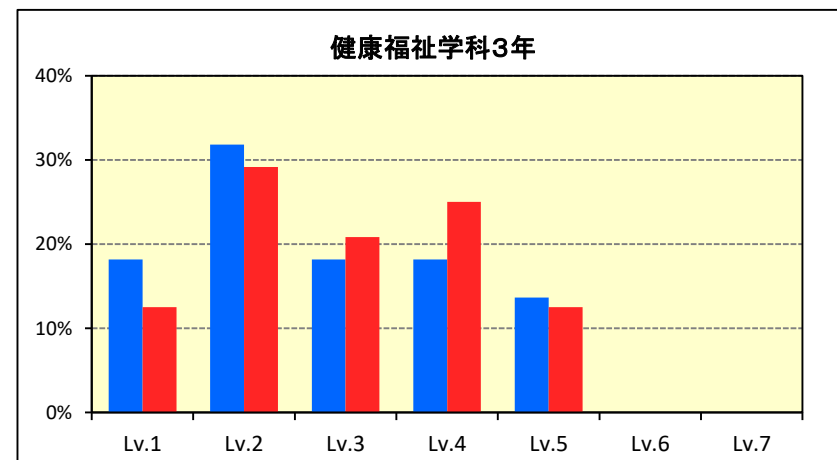




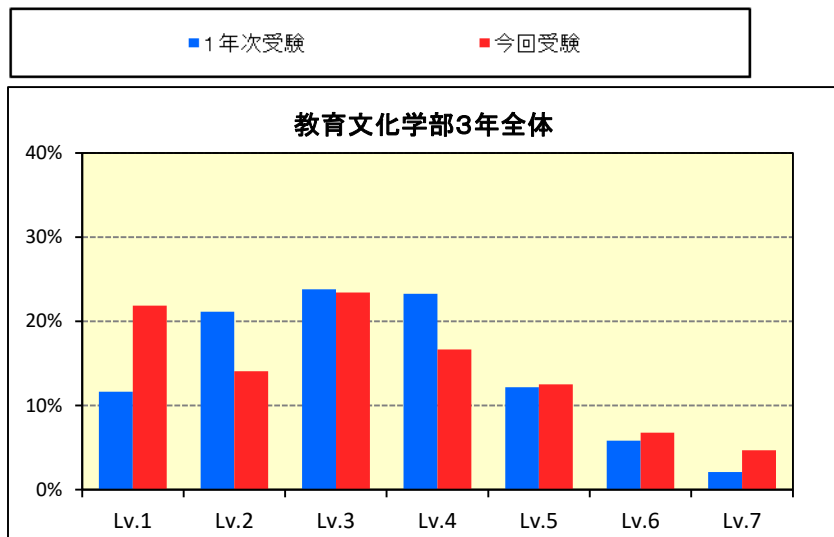
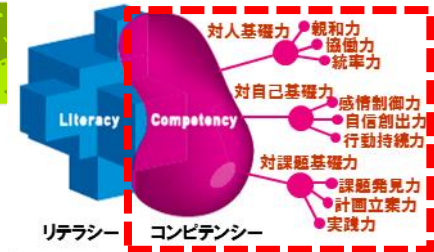
1年次受験に比べて、レベル4、レベル6の割合が小さく、レベル5の割合が大きい。



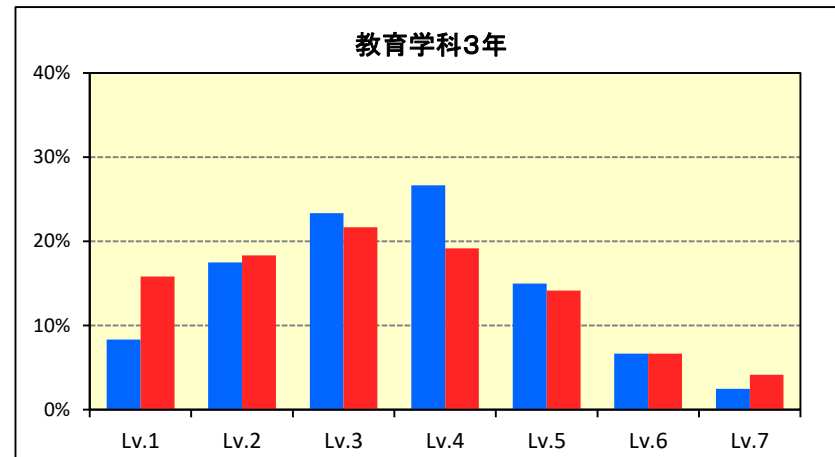
1年次受験に比べて、レベル4、レベル6の割合が小さく、レベル2、レベル5の割合が大きい。



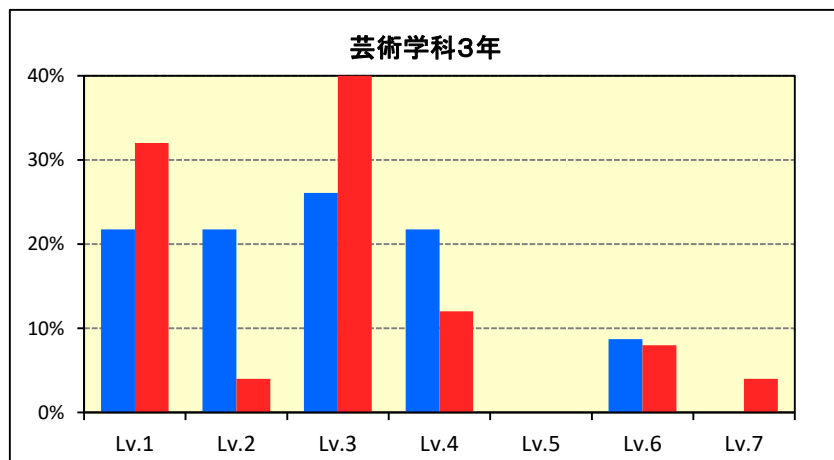
1年次受験に比べて、レベル1の割合が小さく、レベル4の割合が大きい。



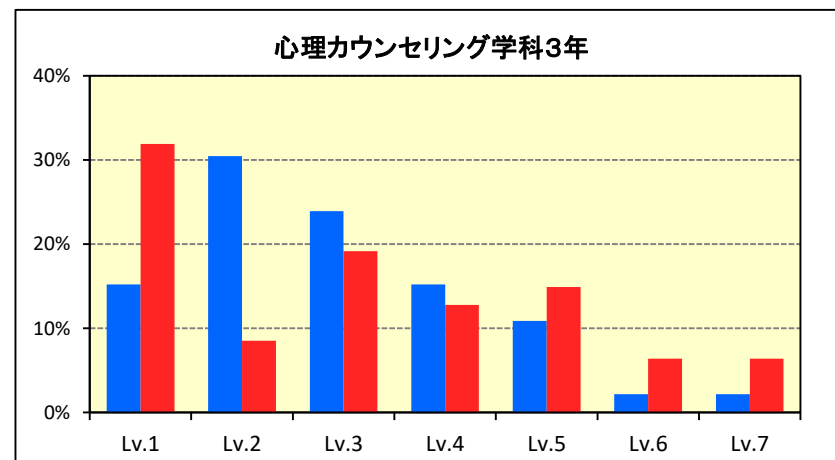
1年次受験に比べて、レベル2、レベル4の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。



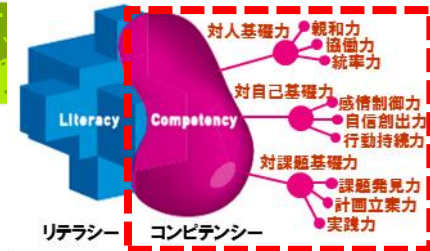
1年次受験に比べて、レベル4の割合が小さく、レベル1の割合が大きい。



1年次受験に比べて、レベル2、レベル4の割合が小さく、レベル1、レベル3、レベル7の割合が大きい。



1年次受験に比べて、レベル2～3のボリュームが小さく、レベル1、レベル5～7のボリュームが大きい。

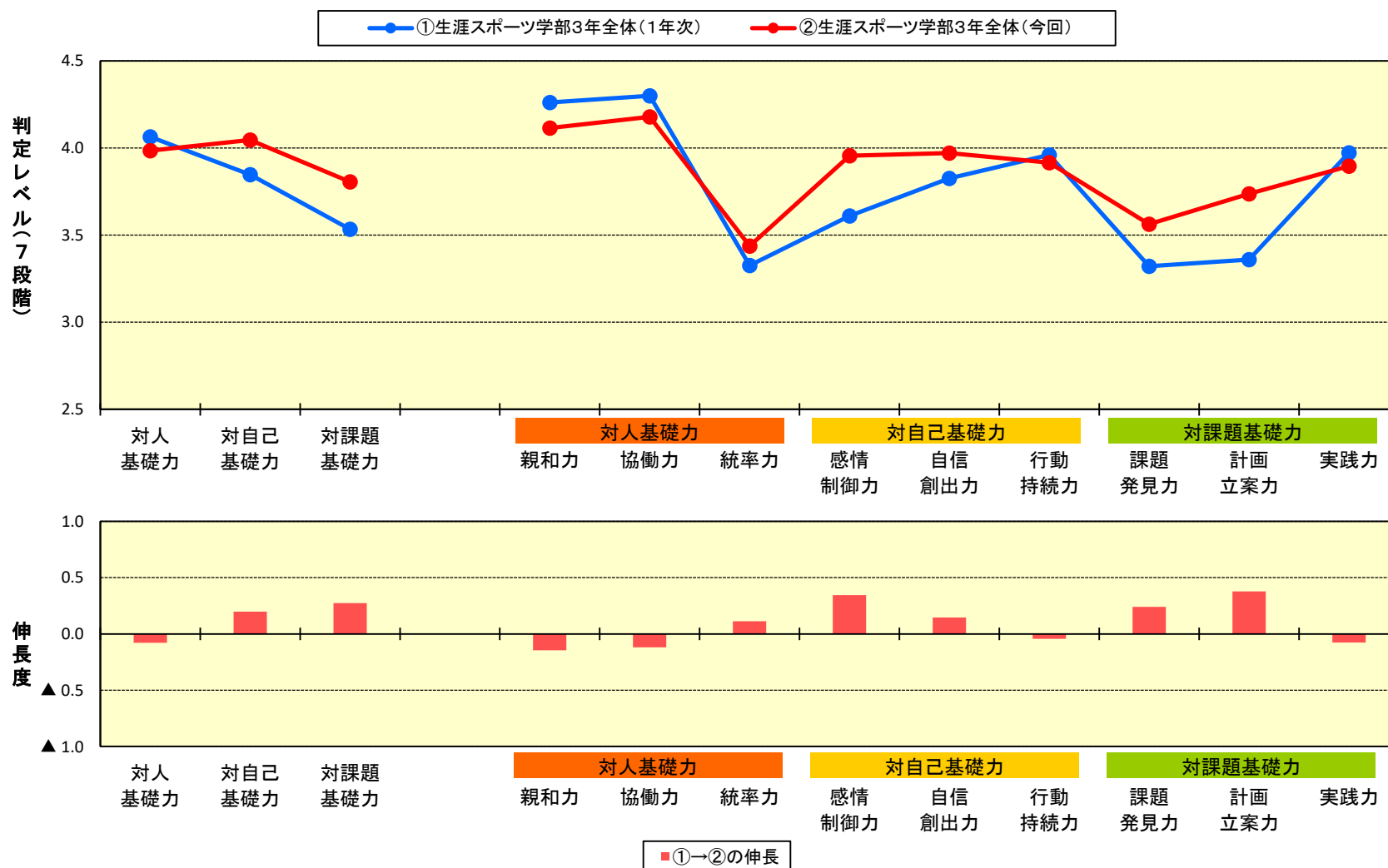


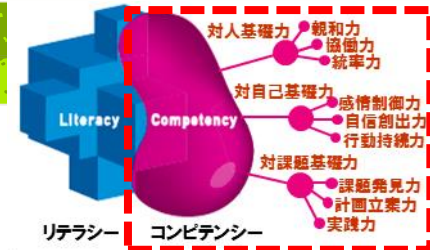
【生涯スポーツ学部3年全体】

統率力、感情制御力、自信創出力、課題発見力、計画立案力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働性、行動持続力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



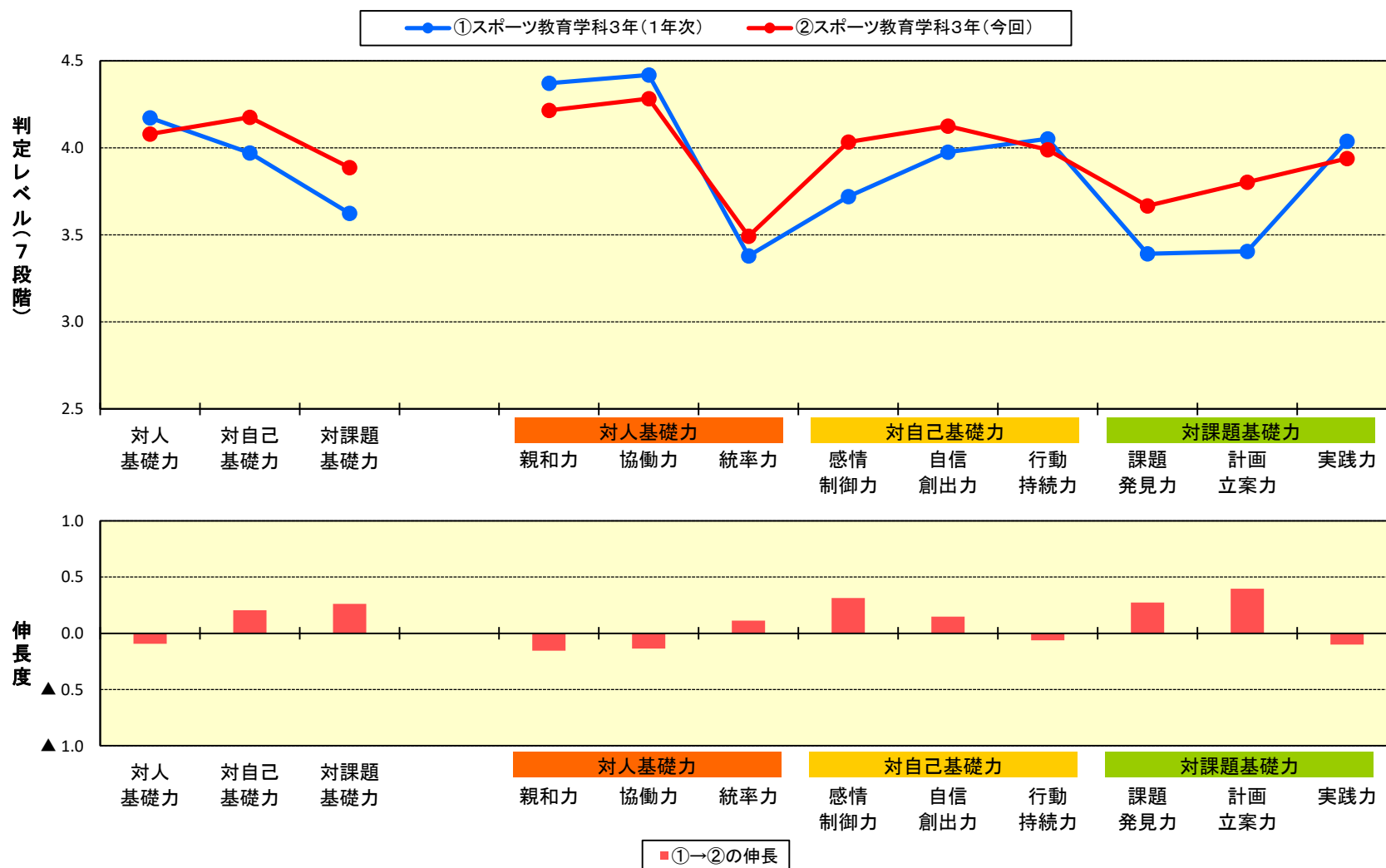


【スポーツ教育学科3年】

統率力、感情制御力、自信創出力、課題発見力、計画立案力は、1年次受験のスコアを上回る。

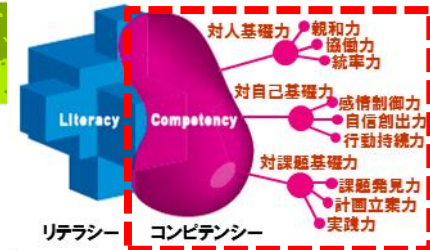
一方、親和力、協働力、行動持続力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

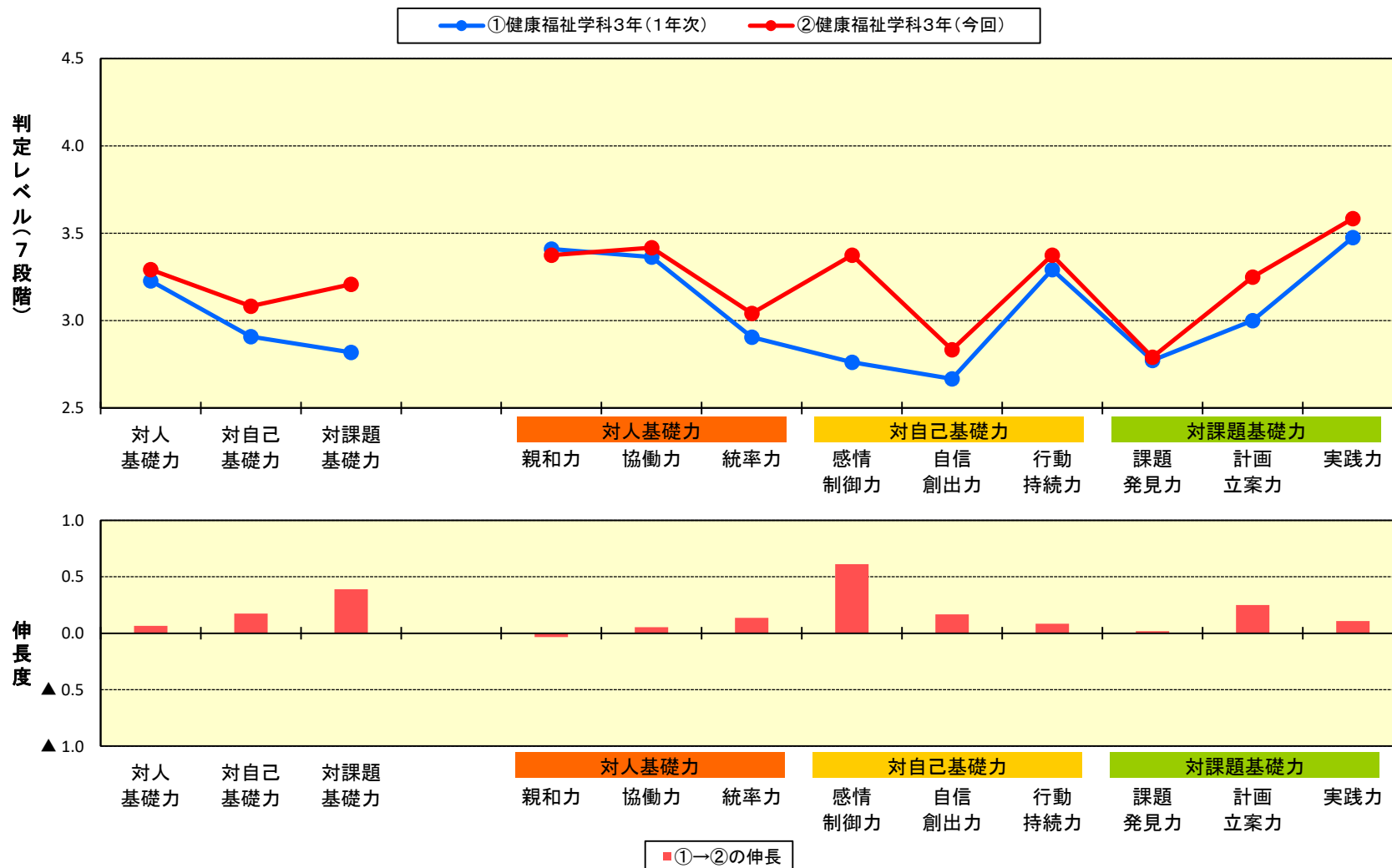


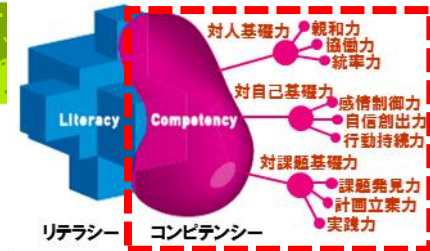
【健康福祉学科3年】

協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。
一方、親和力は、1年次受験のスコアを下回る。



コンピテンシー要素の伸長



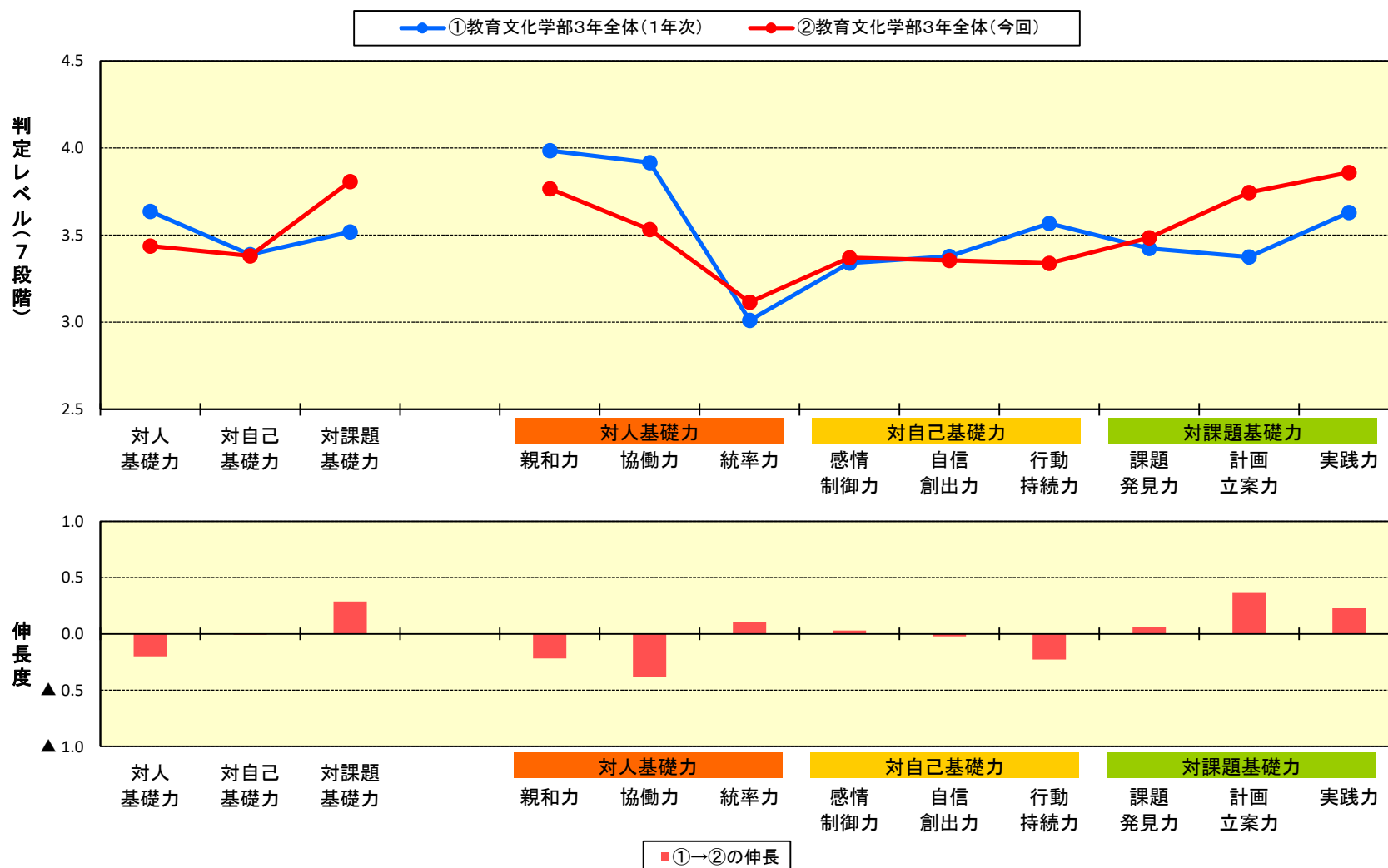


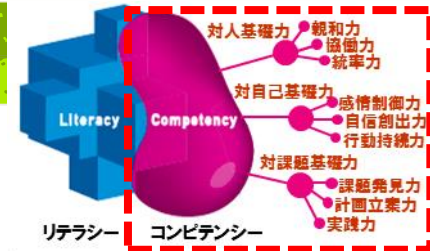
【教育文化学部3年全体】

統率力、感情制御力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、自信創出力、行動持続力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



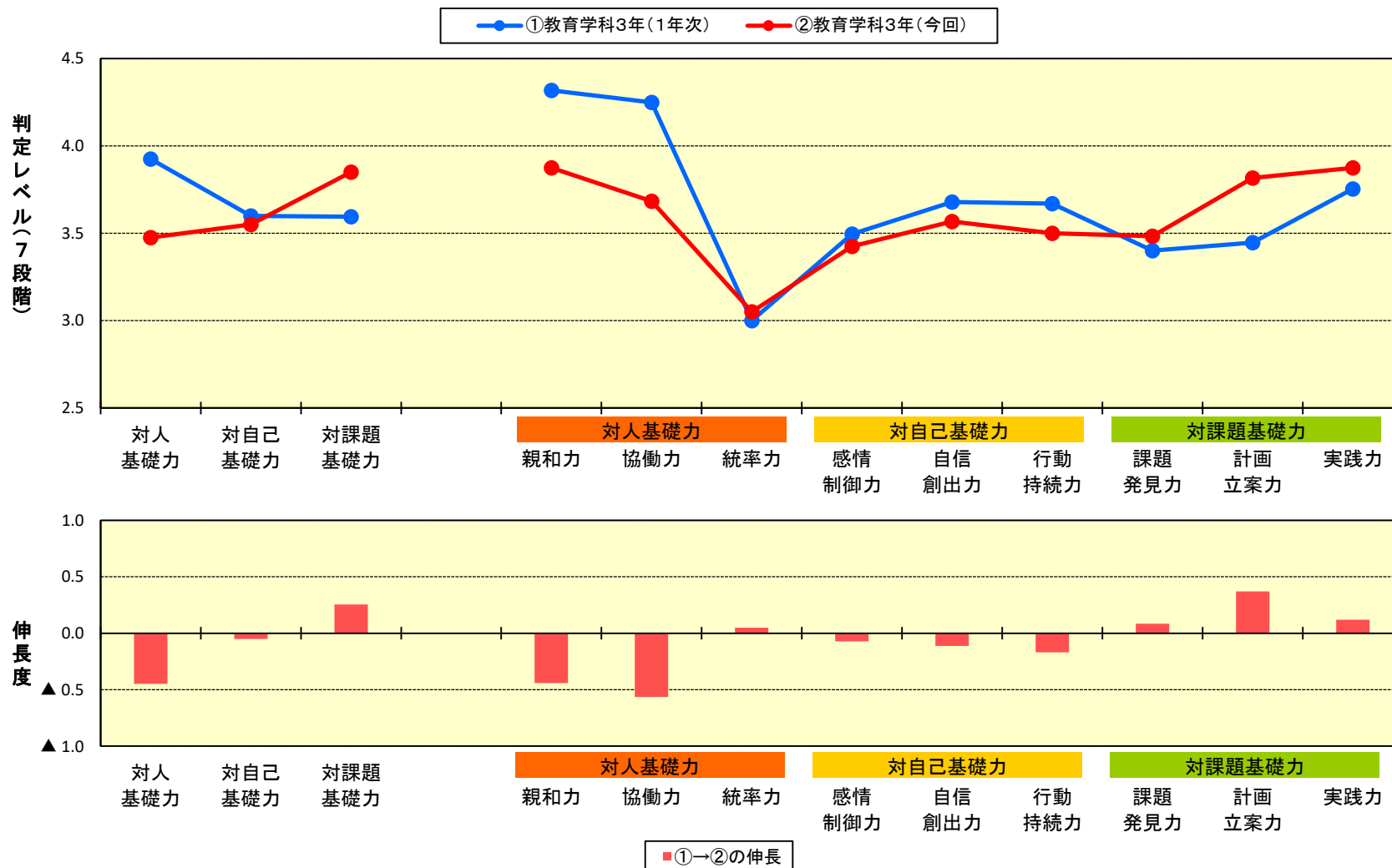


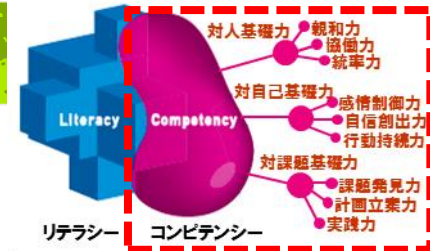
【教育学科3年】

統率力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長



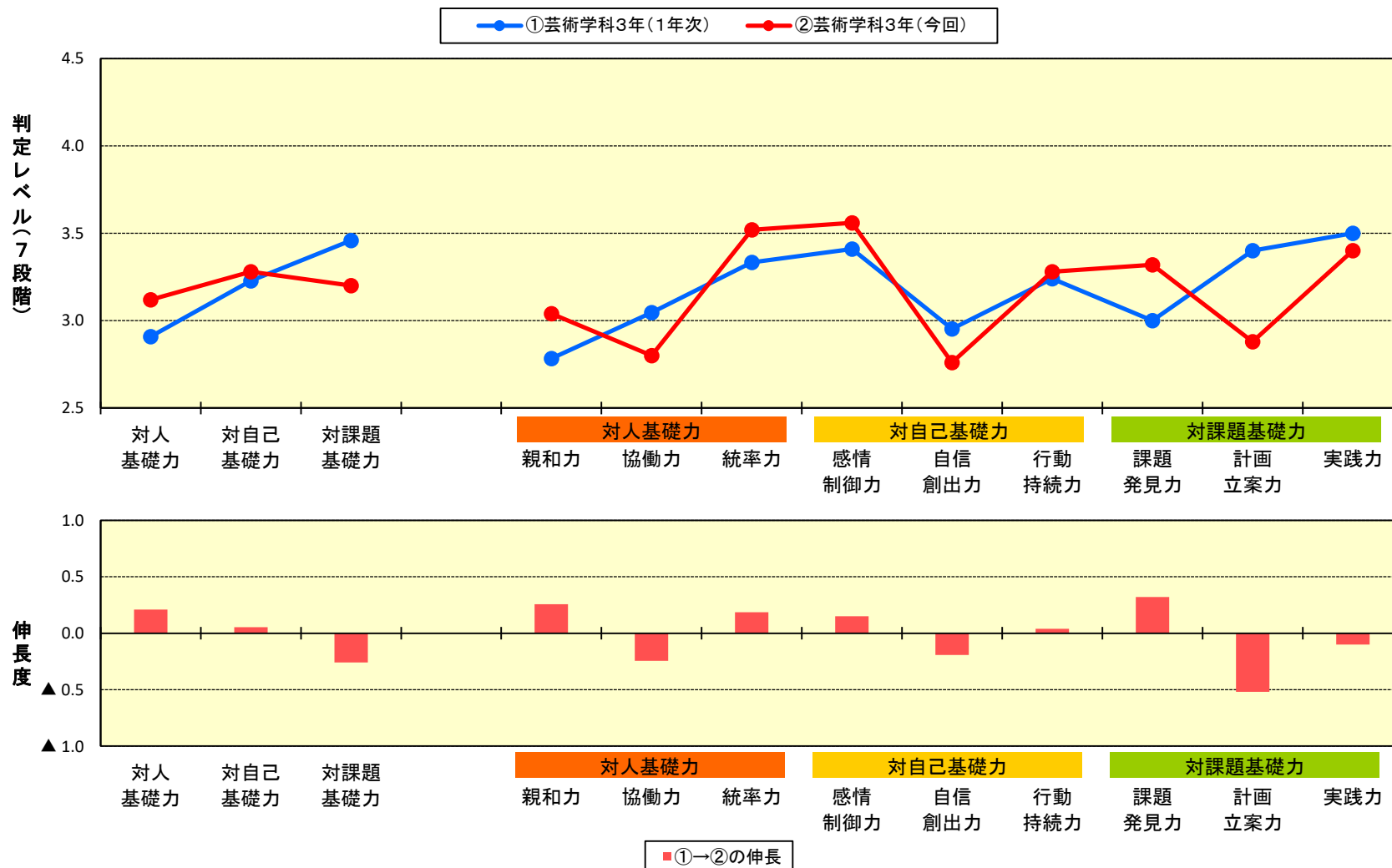


【芸術学科3年】

親和力、統率力、感情制御力、行動持続力、課題発見力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、協働力、自信創出力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを下回る。

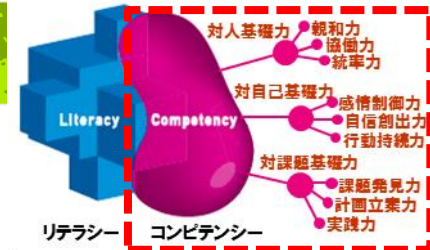
コンピテンシー要素の伸長



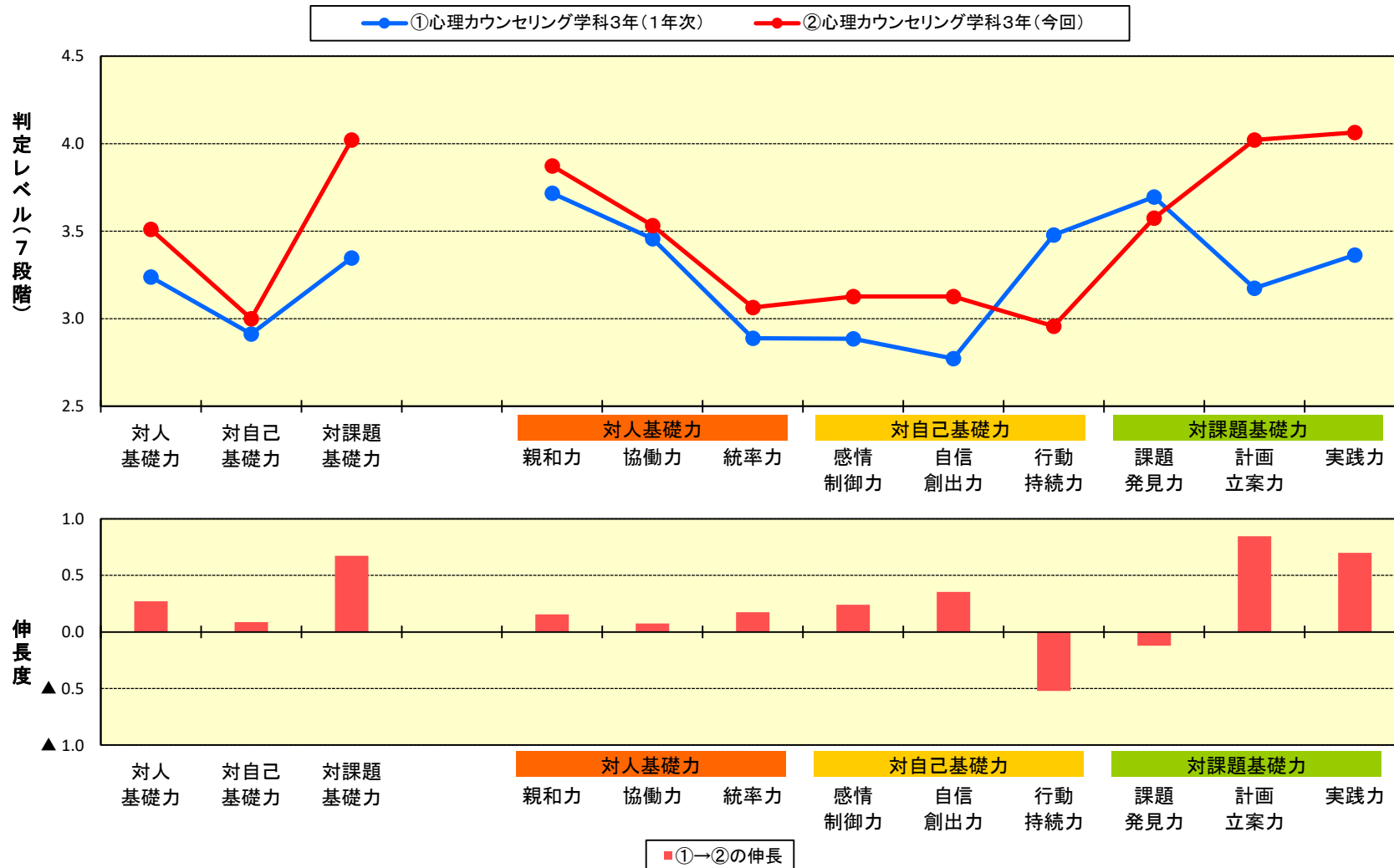
【心理カウンセリング学科3年】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。

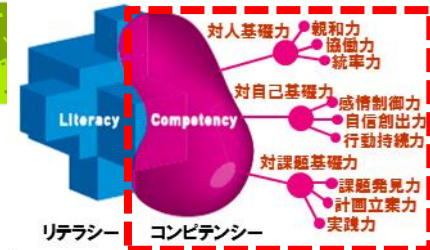
一方、行動持続力、課題発見力は、1年次受験のスコアを下回る。



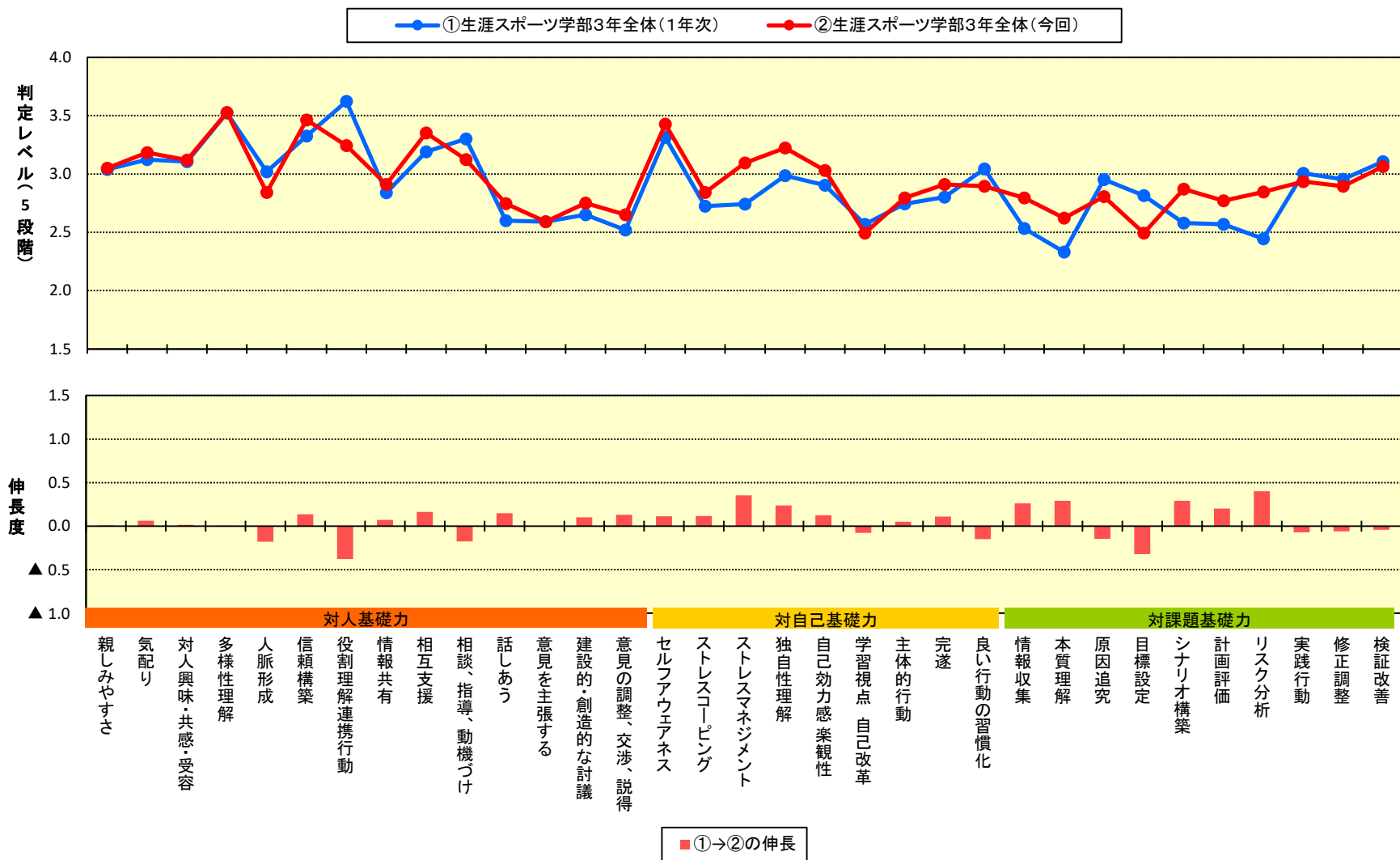
コンピテンシー要素の伸長



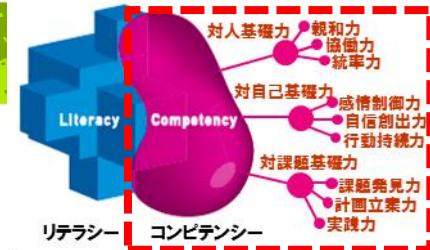
【生涯スポーツ学部3年全体】



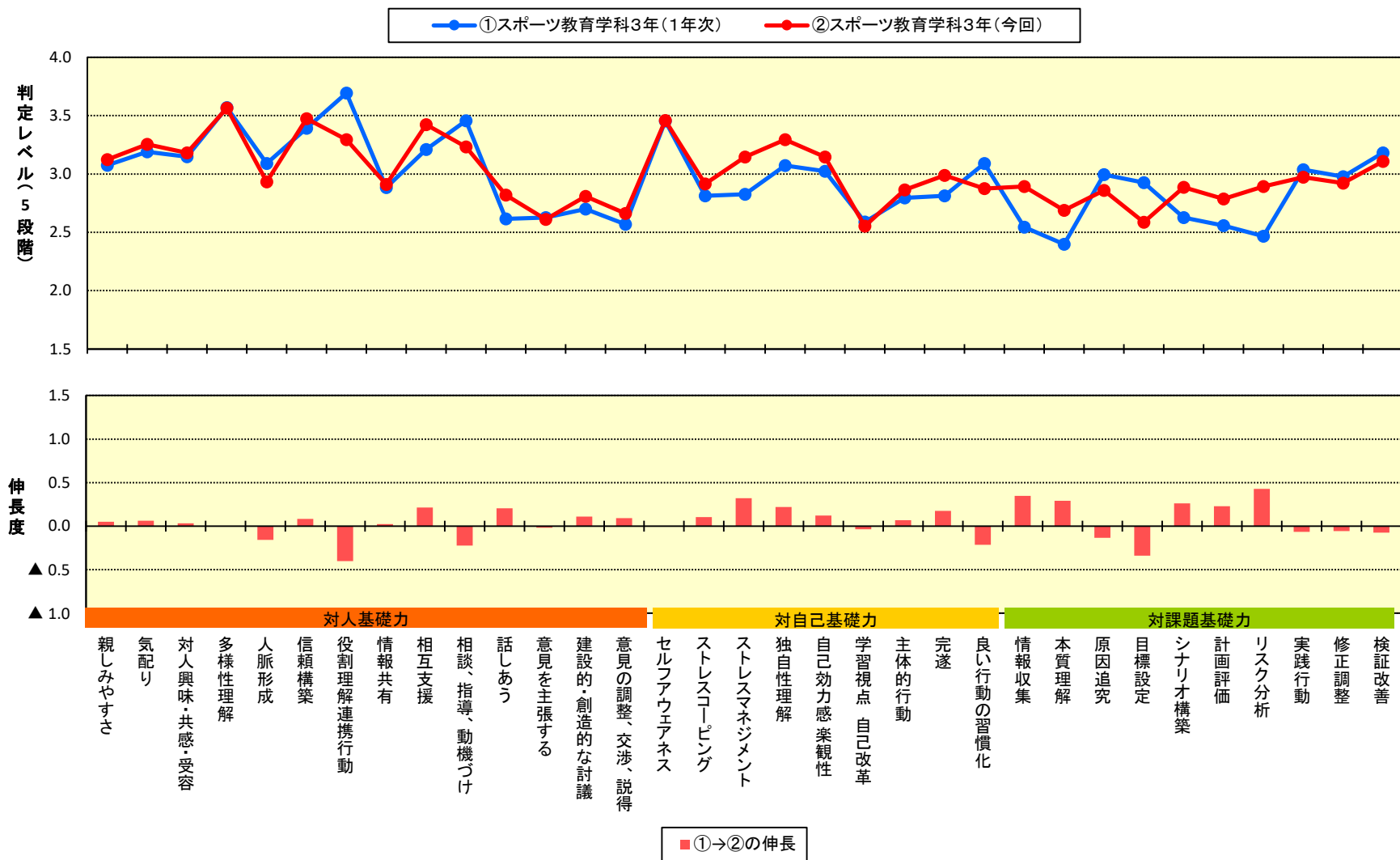
コンピテンシー小分類要素

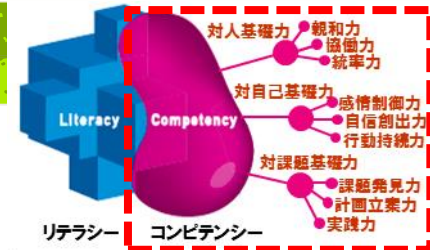


【スポーツ教育学科3年】

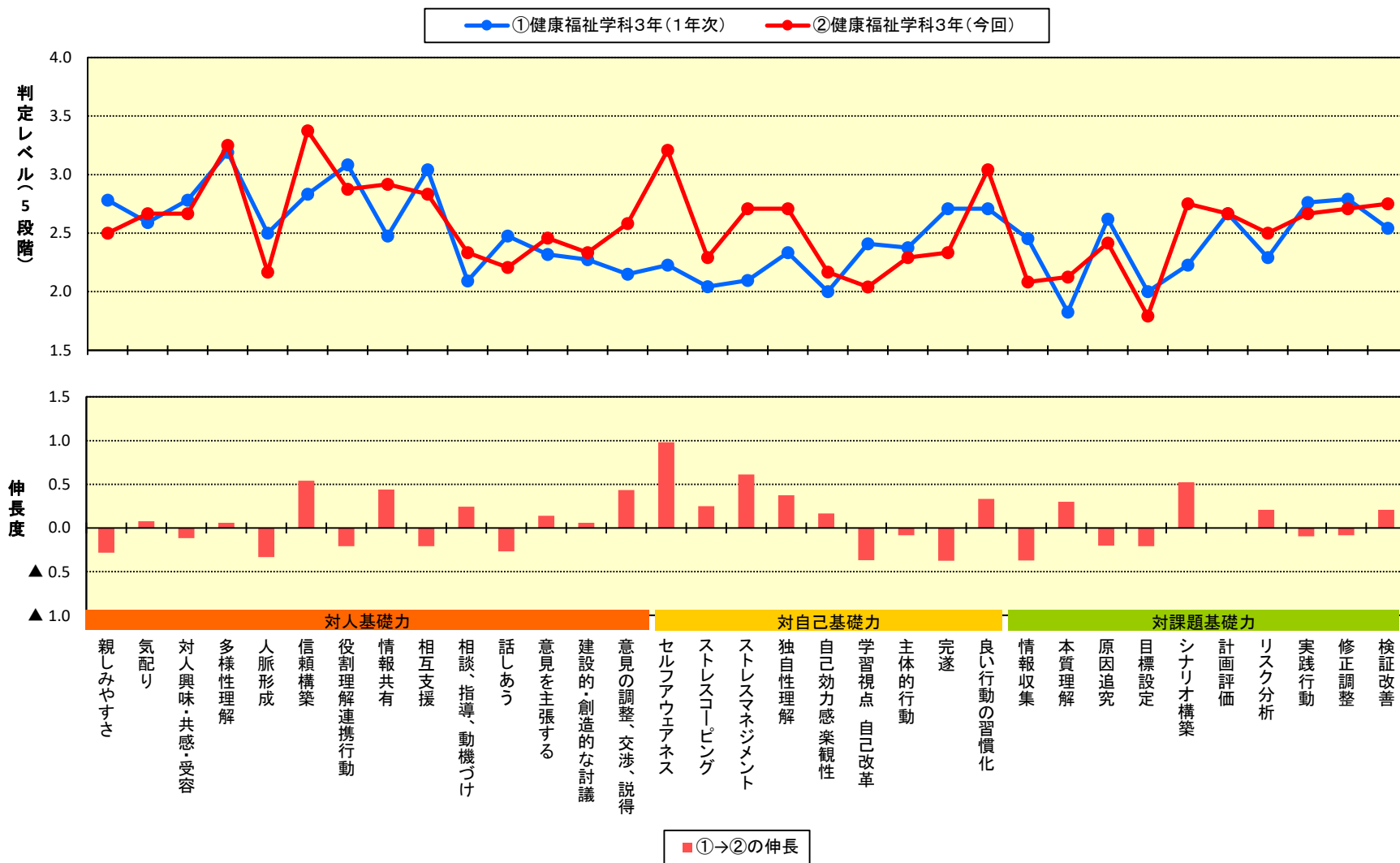


コンピテンシー小分類要素

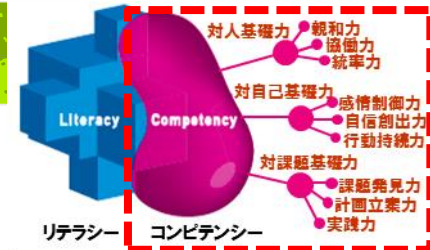




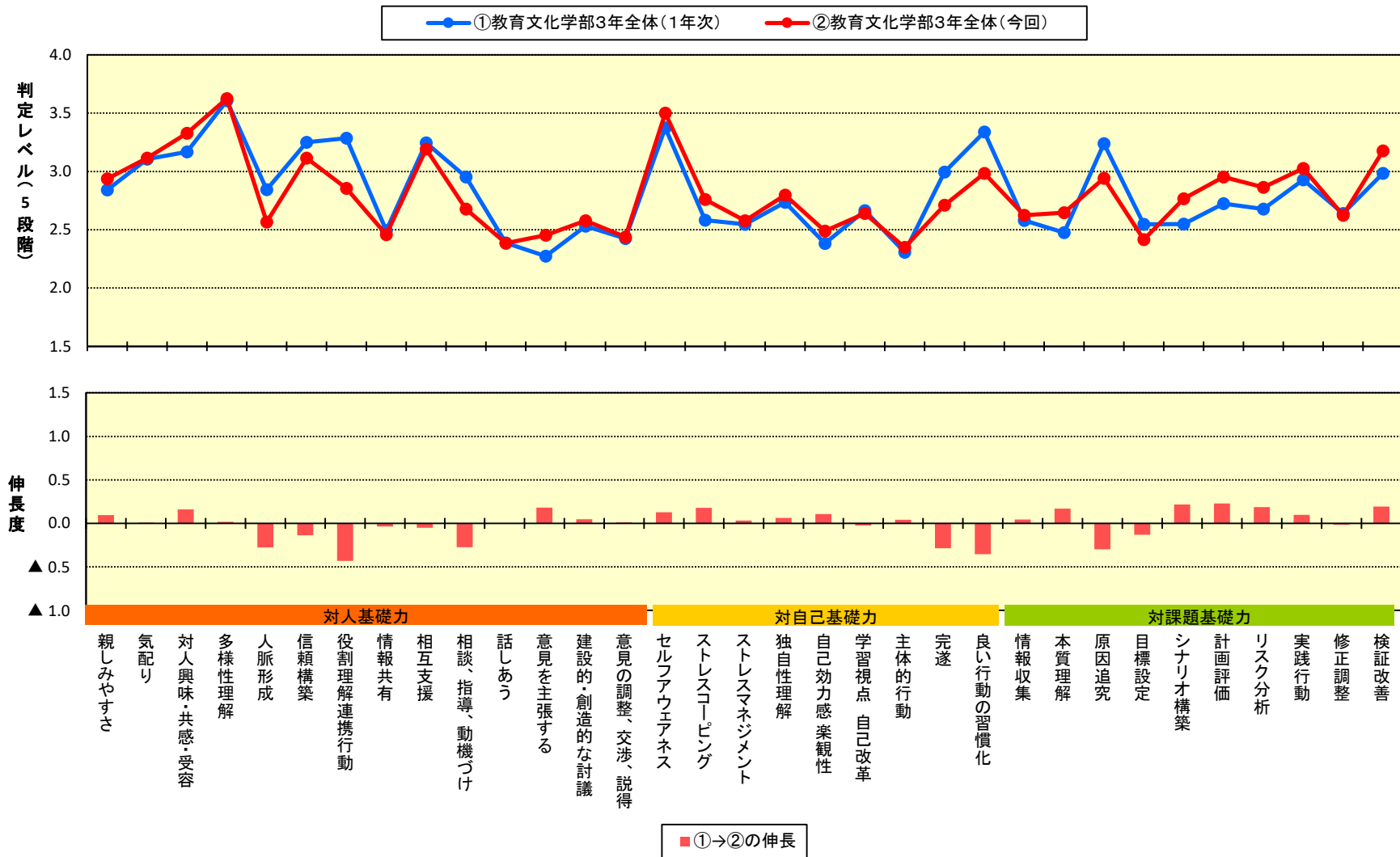
コンピテンシー小分類要素

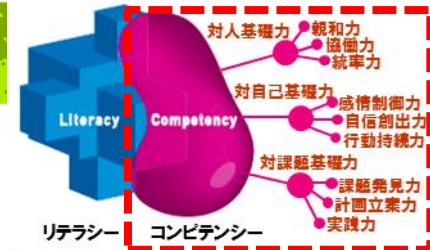


【教育文化学部3年全体】

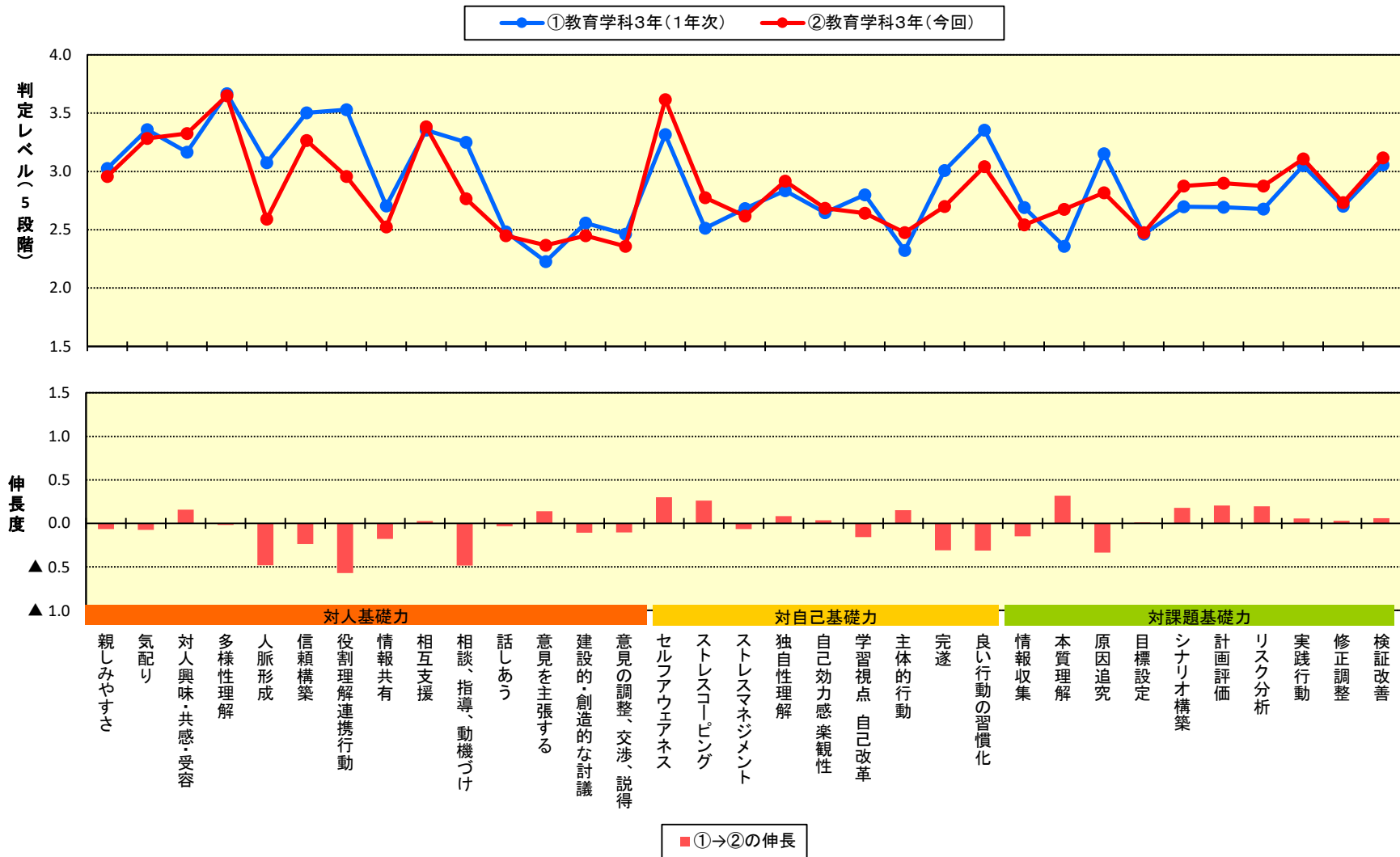


コンピテンシー小分類要素

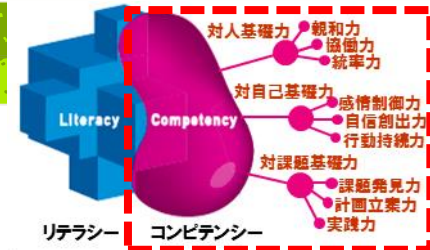




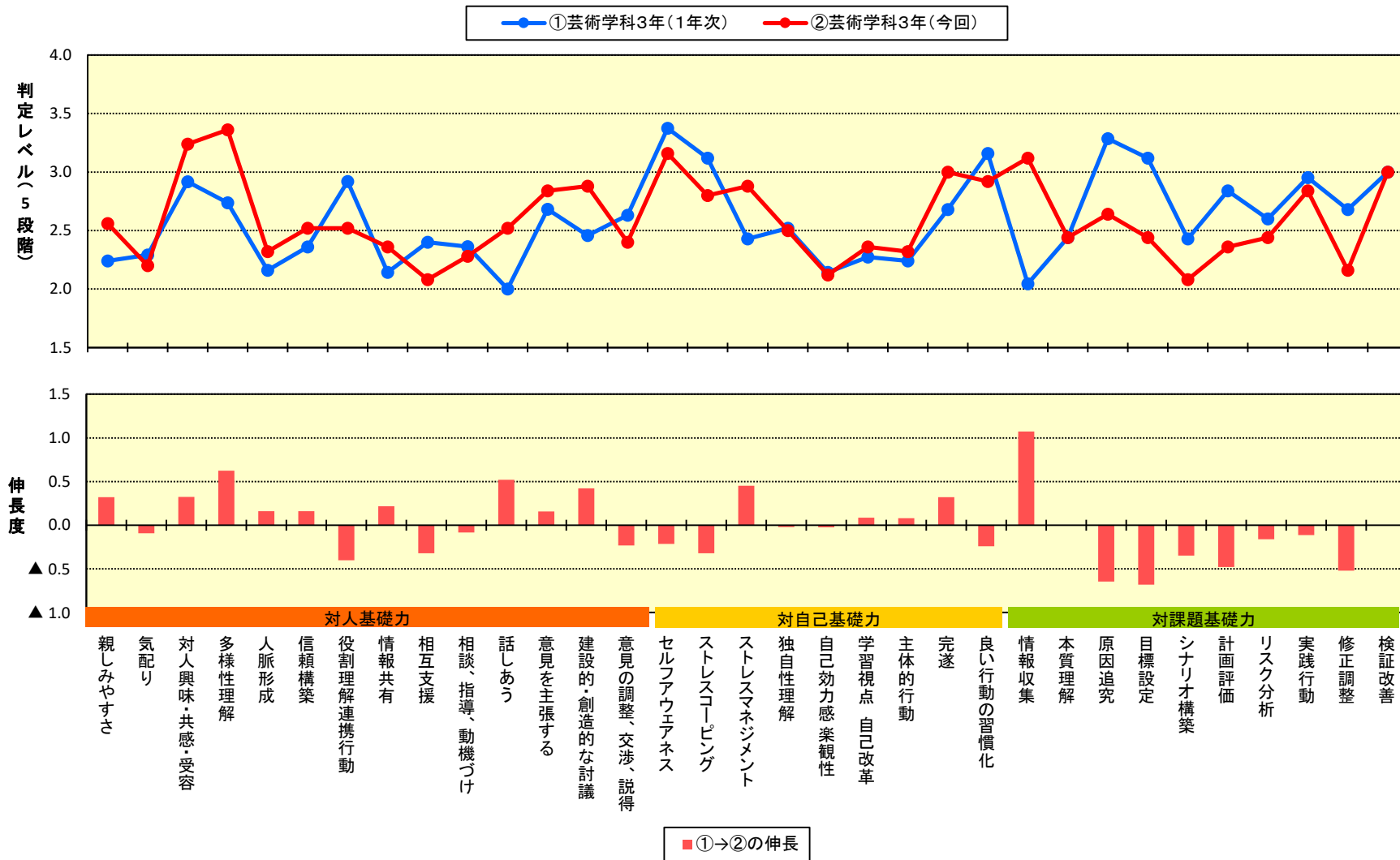
コンピテンシー小分類要素

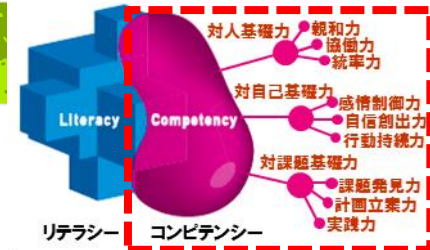


【芸術学科3年】

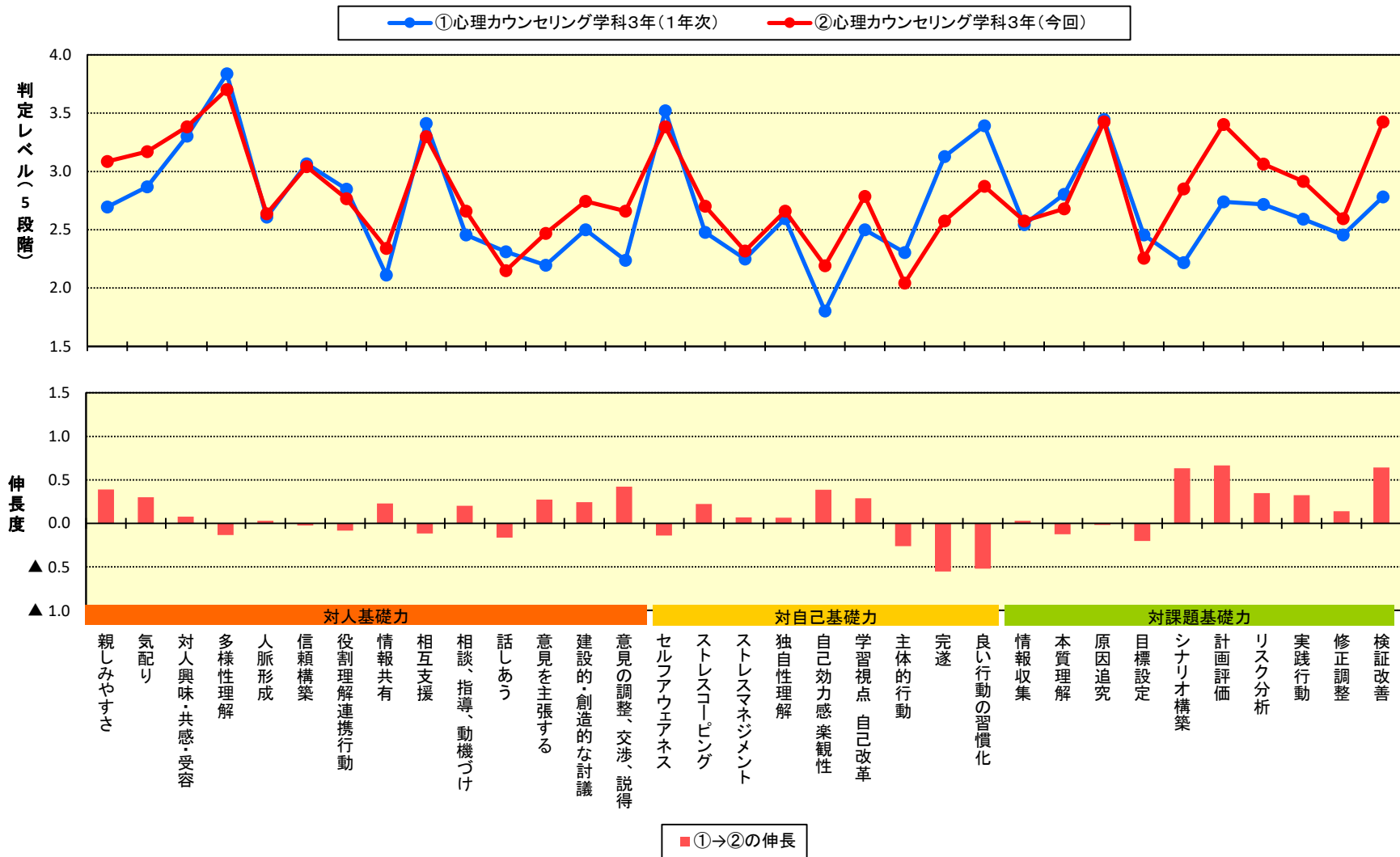


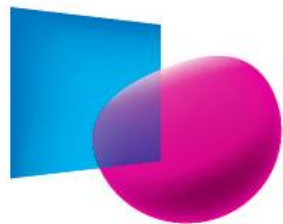
コンピテンシー小分類要素





コンピテンシー小分類要素





PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

PROG分析報告書

学生アンケートと基礎力の関連分析

<2021年度1年生・3年生>

●集計対象者：

＜2021年度1年生＞

PROG受験者を受験し、アンケートに回答している 467名
(受験時期：2021年6月～22年8月)

※ただし、アンケート回答については無効回答者がいる場合、N数は設問によって異なる。

＜2021年度3年生＞

PROG受験者のうち2回受験を行いPI値スコアを算出でき、かつアンケートに回答している 396名
(受験時期：1回目2019年4月、2回目2021年11月～22年2月)

※ただし、アンケート集計は3年次のPROG受験者を受験し、アンケートに回答している406名を対象とした。
(アンケート回答については無効回答者がいる場合、N数は設問によって異なる)

●相関係数とは

2群のデータの関連性を示す指標のことで、-1.0～1.0の範囲に値を取り、1に近いほど関連性が強いといえます。一般的には0.5以上で強い相関、0.2以上で弱い相関があるとしています。

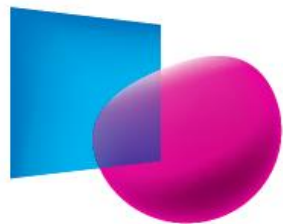
●有意確率とは

2群のデータの偏りが偶然生じる、たまたま得られたものであるという確率。0.05以下であれば5%有意とし、95%の確率で生じる確率ということになります。

0.01以下であれば1%有意とし、99%の確率で生じる確率ということになります。

※各設問の加重平均値

設問	4点	3点	2点	1点	0点
Q2.新型コロナウイルスによるマイナスの影響についてお伺いします。あなたの生活で新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響があったと思いますか	1.とてもそう思う	2.まあそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	
Q4.部活・サークル活動について	1.とても熱心に取り組んでいる	2.熱心に取り組んでいる	3.あまり熱心には取り組んでいない	4.所属していない	
Q5.ボランティア活動について	1.とても熱心に取り組んでいる	2.熱心に取り組んでいる	3.あまり熱心には取り組んでいない	4.ボランティア活動をしたことがない	
Q6.アルバイトについて	1.とても熱心に取り組んでいる	2.熱心に取り組んでいる	3.あまり熱心には取り組んでいない	4.アルバイトをしていない	
Q7.学費の支払いについて不安はありますか	1.全く不安はない	2.あまり不安はない	3.少し不安である	4.とても不安である	
Q8.あなたは卒業後の進路（就職・公務員・教員・進学・留学など）について、現在どのような考えを持っていますか	1.はっきりとした考えがある	2.これから考える	3.考えているがはっきりしていない	4.まったく考えていない	
Q9.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか	1.とても楽しみだ	2.まあ楽しみだ	3.あまり楽しみでない	4.全く楽しみでない	
Q10.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか	1.大変満足している	2.満足している	3.あまり満足していない	4.満足していない	
Q11.北翔大学の教育内容について	1.大変満足している	2.満足している	3.あまり満足していない	4.満足していない	
Q12.あなたは授業にどのように取り組んでいますか	1.とても熱心に取り組んでいる	2.熱心に取り組んでいる	3.あまり熱心に取り組んでいない	4.熱心に取り組んでいない	
Q13.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか	1.3時間以上	2.2時間～3時間	3.1時間～2時間	4.1時間程度	5.していない
Q14.あなたは教員に親近感を感じますか	1.とても感じている	2.やや感じている	3.あまり感じていない	4.まったく感じない	
Q15.大学生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか	1.とてもそう思う	2.まあそう思う	3.あまりそう思わない	4.全くそう思わない	



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

1. 基礎力関連分析 (1年生)

1-1. 基礎力スコアとの相関係数一覧

まず、アンケート回答別に1年次の基礎力との相関関係をみた。各設問について、相関係数が+0.2以上または-0.2以下、かつ有意確率5%未満の基礎力名を抽出。

- Q4.部活・サークル活動熱心度：【リテラシー総合】【構想力】（※逆相関。熱心に取り組んでいる学生ほどこれらの基礎力が低い）
- Q5.ボランティア活動熱心度：【コンピテンシー総合】【対人基礎力】【親和力】
- Q6.アルバイト熱心度：【対人基礎力】
- Q8.あなたは卒業後の進路についての考え：【コンピテンシー総合】【対人基礎力】【對自己基礎力】【協働力】【自信創出力】
- Q9.卒業後、社会人になることへの楽しみ感：【コンピテンシー総合】【対人基礎力】【對自己基礎力】【親和力】【協働力】【感情制御力】【自信創出力】【行動持続力】【課題発見力】

相関係数

【全体】N=467（ただし各設問無回答は除く）

** 相関係数は1%水準で有意
* 相関係数は5%水準で有意

0.2以上
0.3未満

0.3以上
0.35未満

0.35以上

1年生		リテラシー							コンピテンシー												
		総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	言語 処理能力	非言語 処理能力	総合	対人 基礎力	對自己 基礎力	対課題 基礎力	対人基礎力			對自己基礎力			対課題基礎力		
													親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
1	Q2.新型コロナウイルスによるマイナスの影響についてお伺いします。あなたの生活で新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響があったと思いますか	-0.05	-0.03	-0.05	-0.06	-0.01	0.00	-0.01	0.15**	0.16**	0.11*	0.03	0.11*	0.14**	0.14**	0.13**	0.1*	0.08	0.05	0.04	0.03
2	Q4.部活・サークル活動について	-0.22**	-0.12**	-0.05	-0.18**	-0.24**	-0.15**	-0.05	0.11*	0.06	0.2**	0.01	0.01	0.03	0.1*	0.17**	0.17**	0.17**	0.03	0.01	0.04
3	Q5.ボランティア活動について	-0.03	-0.08	0.00	0.02	-0.01	-0.03	0.03	0.24**	0.24**	0.16**	0.17**	0.22**	0.17**	0.17**	0.11*	0.07	0.16**	0.16**	0.12**	0.19**
4	Q6.アルバイトについて	0.01	-0.03	0.00	0.05	0.03	0.02	0.00	0.17**	0.2**	0.15**	0.04	0.18**	0.19**	0.13**	0.09*	0.12*	0.15**	0.08	0.02	0.05
5	Q7.学費の支払いについて不安はありますか	-0.03	-0.03	-0.06	-0.04	0.00	-0.02	-0.03	0.05	0.01	0.1*	0.06	0.03	0.01	0.04	0.08	0.1*	0.09	0.07	0.00	0.05
6	Q8.あなたは卒業後の進路（就職・公務員・教員・進学・留学など）について、現在どのような考えを持っていますか	0.05	-0.02	0.06	0.01	0.07	0.11*	0.1*	0.27**	0.22**	0.23**	0.18**	0.19**	0.2**	0.16**	0.19**	0.26**	0.16**	0.18**	0.1*	0.16**
7	Q9.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか	-0.06	-0.08	-0.03	-0.01	-0.05	-0.02	0.01	0.3**	0.24**	0.33**	0.16**	0.24**	0.21**	0.15**	0.3**	0.26**	0.21**	0.24**	0.08	0.16**
8	Q10.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか	0.00	0.01	0.02	-0.01	0.02	0.07	0.05	0.04	0.05	0.06	0.05	0.11*	0.05	-0.05	0.00	0.08	-0.02	0.07	0.01	0.07
9	Q11.北翔大学の教育内容について	-0.06	0.01	-0.03	-0.06	-0.02	0.01	0.05	0.01	0.02	0.04	-0.06	0.06	0.01	-0.06	0.02	0.05	0.01	-0.03	-0.07	-0.04
10	Q12.あなたは授業にどのように取り組んでいますか	-0.06	-0.07	0.01	-0.06	-0.03	0.00	0.01	0.11*	0.07	0.14**	0.12*	0.09	0.05	0.03	0.13**	0.1*	0.1*	0.11*	0.07	0.14**
11	Q13.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか	0.08	0.13**	-0.02	0.05	0.02	0.05	-0.02	0.00	-0.02	-0.04	0.01	0.05	-0.03	-0.04	0.00	-0.05	-0.06	0.02	0.03	0.00
12	Q14.あなたは教員に親近感を感じますか	-0.07	-0.05	-0.05	-0.1*	0.01	-0.03	-0.07	0.13**	0.14**	0.11*	0.04	0.16**	0.12**	0.05	0.08	0.07	0.13**	0.07	0.02	0.06
13	Q15.大学生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか	0.03	0.01	0.09	-0.01	0.01	0.07	0.06	0.09	0.05	0.09	0.1*	0.11*	0.05	-0.03	0.09*	0.07	0.05	0.11*	0.05	0.11*

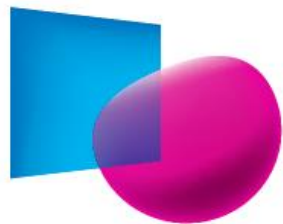
1-2. 基礎力スコアの回答別平均値一覧

同様に、アンケート回答別に1年次の基礎力の違いをみた。

- Q1.入試形態：【共通テスト利用入試】でリテラシー全般、対課題力およびその中分類の基礎力の水準が他属性よりも高い。
- Q3.コロナ禍でのマイナス影響：サンプル数が少ないため参考に留めるが【ボランティア活動】【学費の支払い】へ影響が最も大きい学生でリテラシー全般の水準が高い。【学費の支払い】はコンピテンシーの水準も全般に高い。逆に【卒業後の進路】と回答した学生はリテラシー情報分析力とコンピテンシーが全般に低い傾向であった。

N≥10の場合： 全体+0.5以上
全体-0.5以下

設問	選択肢	N数	リテラシー								コンピテンシー											
			総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	言語処 理能力	非言語 処理能力	総合	対人 基礎力	対自己 基礎力	対課題 基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
1年生	全体	467	4.13	3.40	3.25	3.20	3.22	3.24	3.15	3.48	3.80	3.60	3.52	4.07	4.08	3.26	3.45	3.56	3.72	3.34	3.43	3.72
Q1.入試形式について 教えてください	1.（2021年度入学生）学校推薦型入試	259	3.99	3.34	3.18	3.14	3.17	3.12	3.12	3.49	3.86	3.58	3.44	4.10	4.15	3.24	3.45	3.48	3.71	3.26	3.40	3.69
	2.（2021年度入学生）総合型入試	119	3.74	3.16	2.97	3.13	3.04	3.05	2.83	3.59	3.97	3.69	3.41	4.21	4.21	3.51	3.49	3.65	3.99	3.25	3.26	3.61
	3.（2021年度入学生）一般入試	43	4.70	3.70	3.63	3.44	3.58	3.56	3.58	3.30	3.49	3.51	3.63	3.72	3.88	3.09	3.19	3.53	3.70	3.58	3.65	3.77
	4.（2021年度入学生）共通テスト利用入試	42	5.48	4.17	3.98	3.62	3.79	4.17	3.69	3.33	3.31	3.60	4.29	3.95	3.55	2.76	3.55	3.74	3.21	4.05	4.00	4.24
	5.（2021年度入学生）その他	4	4.50	3.75	4.00	2.75	2.75	3.50	3.75	2.75	3.00	3.50	2.50	2.50	3.00	3.50	3.75	4.00	2.25	1.50	2.25	3.50
Q3.あなたが思う新型 コロナウイルス感染症に よるマイナスの影響とし て、最も大きいものは 次のどれですか	1.授業への取り組み意欲	223	4.28	3.44	3.29	3.36	3.32	3.36	3.13	3.44	3.79	3.46	3.51	4.08	4.08	3.22	3.21	3.41	3.72	3.36	3.43	3.68
	2.部活・サークル活動	152	3.76	3.16	3.22	2.90	3.01	2.97	3.07	3.52	3.83	3.83	3.44	4.06	4.05	3.30	3.82	3.75	3.78	3.32	3.33	3.66
	3.ボランティア活動	14	5.50	4.36	3.79	3.43	3.79	3.64	4.14	3.50	3.71	3.36	4.00	4.71	4.07	2.64	3.07	3.50	3.57	3.36	3.86	4.07
	4.アルバイト	43	3.95	3.33	3.09	3.00	3.26	3.33	3.16	3.79	4.12	3.63	3.60	4.35	4.51	3.67	3.49	3.67	3.79	3.28	3.63	4.12
	5.学費の支払い	11	5.00	4.27	3.73	4.18	3.73	3.82	3.82	3.82	4.36	4.09	3.73	4.55	4.91	3.00	4.00	4.09	3.82	3.91	3.55	3.82
	6.卒業後の進路	13	4.15	3.85	2.69	3.00	3.15	3.54	2.69	2.69	3.00	3.00	3.00	2.92	3.23	3.23	3.23	3.15	2.92	2.38	3.23	3.15
	7.Q2で「全くそう思わない」を選択した方はこちらに チェックしてください	10	4.30	3.80	3.00	3.80	3.10	2.90	3.30	2.90	2.60	3.50	4.20	2.80	2.70	2.80	3.10	3.30	3.50	4.10	3.80	4.20
	無回答	1	3.00	1.00	3.00	5.00	3.00	3.00	1.00	4.00	4.00	5.00	4.00	5.00	4.00	3.00	4.00	4.00	5.00	3.00	3.00	4.00



PROG

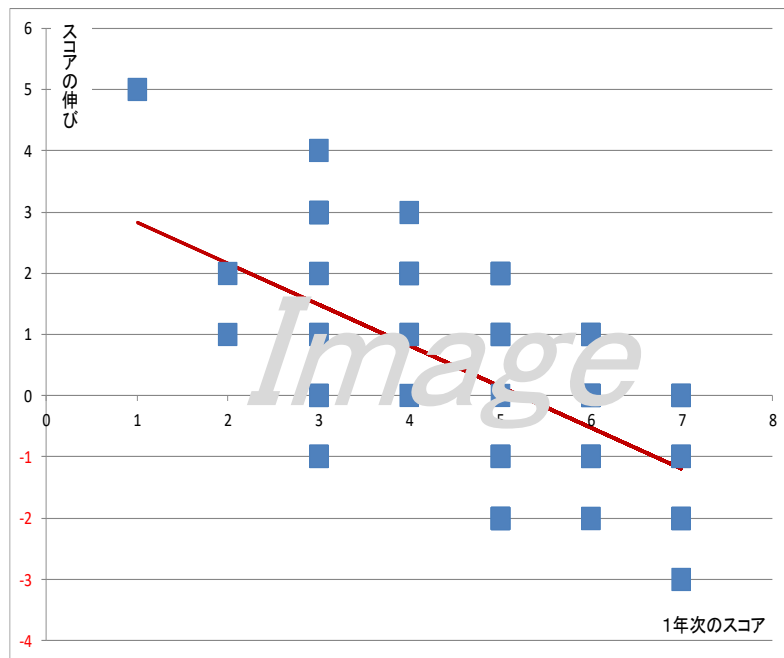
PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

2. 基礎力伸長分析 (3年生)

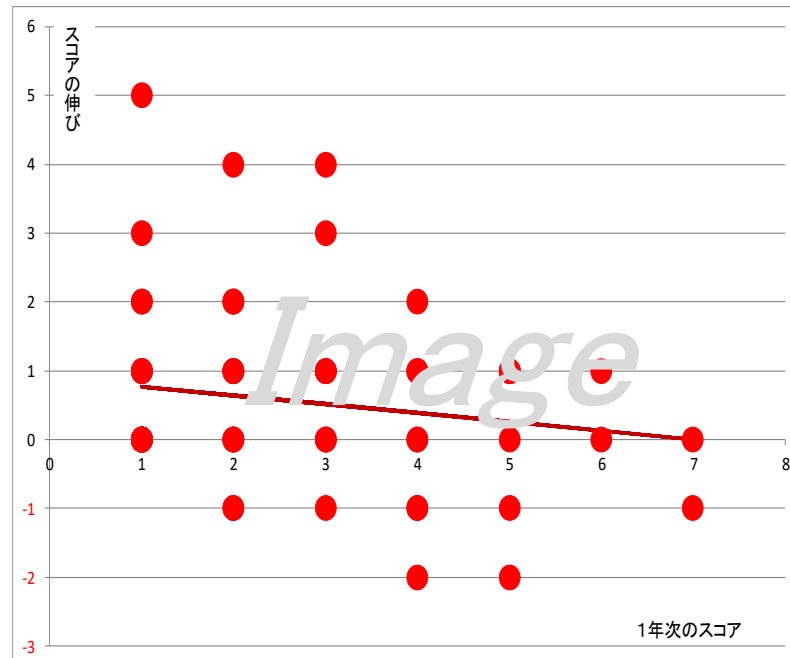
分析の前提 —PI値[Progress Index]の導入—

リテラシー、コンピテンシーとも、事前（初期値）のスコアが低いほど、事後の伸び幅が大きい。
変化量の分析の際には、この初期値の影響を除去して考える必要がある。

■リテラシー総合



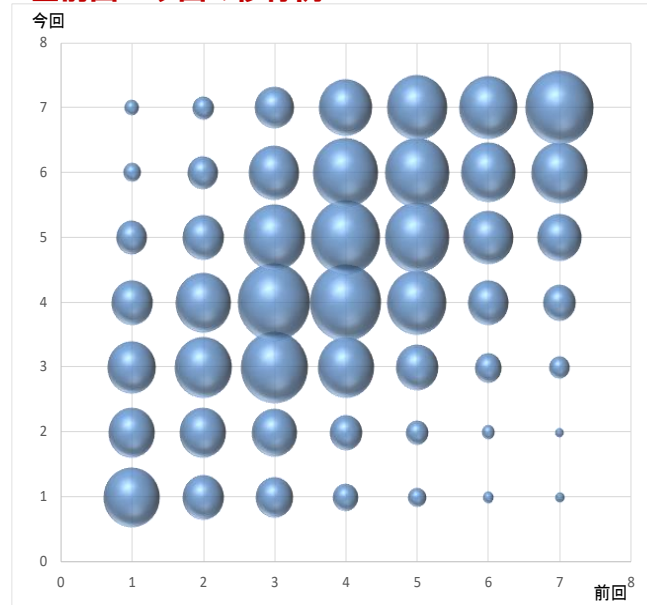
■コンピテンシー総合



分析の前提 —PI値[Progress Index]の導入—

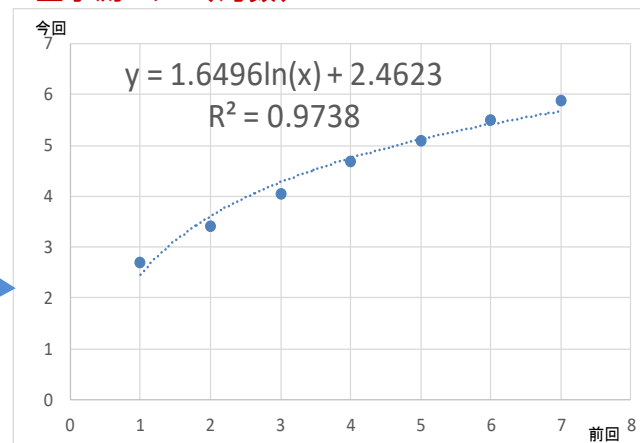
初期値の影響を除く方法として、PROGの経年変化のデータから、前回レベルから今回レベルを予測するモデルを作成し、各レベル間の変化量（実測値）と、モデルから求められる想定変化量の差を、「望ましさ」と考えて各レベル間のウェイトを設定した。このウェイトを[Progress Index]と呼ぶこととし、以下ではPI値と記す。

■ 前回→今回の移行例

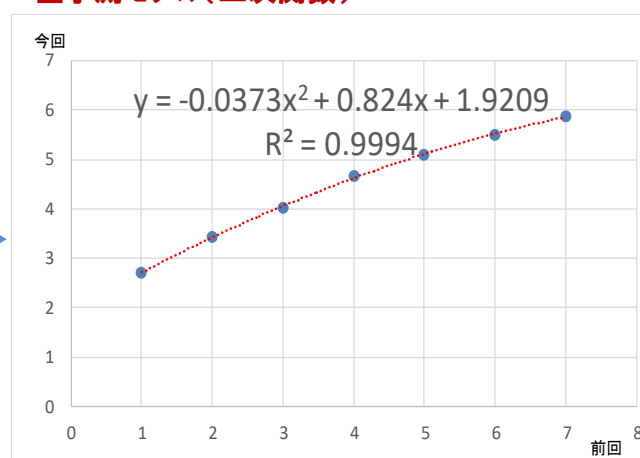


リテラシー／コンピテンシーの
要素ごとに、フィッティングの
良い方を採用

■ 予測モデル(対数)



■ 予測モデル(二次関数)



分析の前提 —PI値[Progress Index]の導入—

各レベル間の変化量（実測値）と、モデルから求められる
想定変化量の差を、「望ましき指標」として想定

前回 今回 レベル	①実測値 (前回)	②実測値 (今回)	③想定値 (今回)	望ましき指標 ②-③ 実測値-想定値 (今回)
11	1	1	2.71	-1.71
12	1	2	2.71	-0.71
13	1	3	2.71	0.29
14	1	4	2.71	1.29
15	1	5	2.71	2.29
16	1	6	2.71	3.29
17	1	7	2.71	4.29
21	2	1	3.42	-2.42
22	2	2	3.42	-1.42
23	2	3	3.42	-0.42
24	2	4	3.42	0.58
25	2	5	3.42	1.58
26	2	6	3.42	2.58
27	2	7	3.42	3.58
31	3	1	4.06	-3.06
32	3	2	4.06	-2.06
33	3	3	4.06	-1.06
34	3	4	4.06	-0.06

...	...	...	...	...
57	5	7	5.11	1.89
61	6	1	5.52	-4.52
62	6	2	5.52	-3.52
63	6	3	5.52	-2.52
64	6	4	5.52	-1.52
65	6	5	5.52	-0.52
66	6	6	5.52	0.48
67	6	7	5.52	1.48
71	7	1	5.86	-4.86
72	7	2	5.86	-3.86
73	7	3	5.86	-2.86
74	7	4	5.86	-1.86
75	7	5	5.86	-0.86
76	7	6	5.86	0.14
77	7	7	5.86	1.14

「望ましき指標」を大きさ順に並べ、
ハンドリングのし易さを考慮して1～100点に変換

順位 (降順)	移動	望ましき 指標		100点 変換
49	1⇒7	4.29	→	100
48	2⇒7	3.58	→	98
47	1⇒6	3.29	→	96
46	3⇒7	2.94	→	94
45	2⇒6	2.58	→	92
44	4⇒7	2.38	→	90
43	1⇒5	2.29	→	88
42	3⇒6	1.94	→	86
41	5⇒7	1.89	→	84
40	2⇒5	1.58	→	81
39	6⇒7	1.48	→	79
38	4⇒6	1.38	→	77
37	1⇒4	1.29	→	75
36	7⇒7	1.14	→	73
35	3⇒5	0.94	→	71
34	5⇒6	0.89	→	69
33	2⇒4	0.58	→	67
32	6⇒6	0.48	→	65

...	...	...	...	...
15	7⇒4	-1.86	→	30
14	3⇒2	-2.06	→	28
13	5⇒3	-2.11	→	26
12	2⇒1	-2.42	→	24
11	6⇒3	-2.52	→	22
10	4⇒2	-2.62	→	20
9	7⇒3	-2.86	→	18
8	3⇒1	-3.06	→	15
7	5⇒2	-3.11	→	13
6	6⇒2	-3.52	→	11
5	4⇒1	-3.62	→	9
4	7⇒2	-3.86	→	7
3	5⇒1	-4.11	→	5
2	6⇒1	-4.52	→	3
1	7⇒1	-4.86	→	1

分析の前提 —PI値[Progress Index]の導入—

今回の分析には、2ヶ年の変化量指標として、以下のPI値を用いた。

★2学年変化

リテラシー総合

		最新値						
		1	2	3	4	5	6	7
初期値	1	26	40	55	69	84	96	100
	2	18	32	46	61	75	90	98
	3	9	22	36	51	65	79	94
	4	7	20	34	48	63	77	92
	5	5	15	30	44	59	73	88
	6	3	13	28	42	57	71	86
	7	1	11	24	38	53	67	81

リテラシー中分類

		最新値				
		1	2	3	4	5
初期値	1	26	46	67	88	100
	2	13	34	55	75	96
	3	9	30	51	71	92
	4	5	22	42	63	84
	5	1	18	38	59	79

コンピテンシー

		最新値						
		1	2	3	4	5	6	7
初期値	1	40	55	69	81	90	96	100
	2	28	42	57	71	84	92	98
	3	20	32	46	61	75	86	94
	4	11	22	34	48	63	77	88
	5	7	15	26	38	53	67	79
	6	3	9	18	30	44	59	73
	7	1	5	13	24	36	51	65

2-1. 基礎力伸長との相関係数一覧

アンケート回答別に基礎力伸長度合い（PI値）との相関関係をみたが、各設問について、相関係数が+0.2以上または-0.2以下、かつ有意確率5%未満の基礎力はなかった。
ただし+0.15以上または-0.15以下、有意水準1%未満のものを参考に挙げると下記の通りであった。

- Q4.部活・サークル活動熱心度：【コンピテンシー総合】【対人基礎力】【對自己基礎力】【協働力】【感情制御力】
- Q5.ボランティア活動熱心度：【リテラシー課題発見力】（逆相関）、【コンピテンシー総合】
- Q6.アルバイト熱心度：【リテラシー課題発見力】（逆相関）
- Q9.卒業後、社会人になることへの楽しみ感：【言語処理力】（逆相関）、【對自己基礎力】【感情制御力】【課題発見力】

相関係数

【全体】N=396（ただし各設問無回答は除く）

** 相関係数は1%水準で有意
* 相関係数は5%水準で有意

0.2以上 0.3未満	0.3以上 0.35未満	0.35以上
----------------	-----------------	--------

3年生		リテラシー							コンピテンシー												
		総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	言語 処理能力	非言語 処理能力	総合	対人 基礎力	對自己 基礎力	対課題 基礎力	対人基礎力			對自己基礎力			対課題基礎力		
													親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
1	Q2.新型コロナウイルスによるマイナスの影響についてお伺いします。あなたの生活で新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響があったと思いますか	-0.04	-0.07	0.01	-0.03	0.00	-0.01	0.01	0.07	0.07	-0.03	0.08	0.03	0.02	0.06	-0.09	0.02	0.02	0.02	0.11*	-0.06
2	Q4.部活・サークル活動について	-0.03	-0.01	0.00	0.01	-0.10	-0.07	0.00	0.18**	0.19**	0.2**	0.02	0.11*	0.15**	0.13*	0.14**	0.12*	0.07	0.02	0.01	0.01
3	Q5.ボランティア活動について	-0.03	0.04	-0.02	-0.15**	-0.04	-0.08	-0.01	0.13**	0.09	0.05	0.09	0.07	0.04	0.11*	0.06	0.03	0.08	0.05	0.07	0.07
4	Q6.アルバイトについて	-0.07	-0.02	0.02	-0.16**	-0.04	-0.03	0.03	0.10	0.11*	0.12*	0.01	0.1*	0.06	0.09	0.05	0.08	0.10	0.06	0.03	-0.09
5	Q7.学費の支払いについて不安はありますか	0.08	0.05	0.04	0.09	0.08	0.06	0.00	-0.02	-0.03	0.02	-0.05	-0.05	0.05	-0.05	0.05	0.03	-0.02	-0.01	-0.02	-0.02
6	Q8.あなたは卒業後の進路（就職・公務員・教員・進学・留学など）について、現在どのような考えを持っていますか	0.02	0.04	0.04	-0.03	0.04	-0.03	0.03	0.09	0.08	0.09	0.05	0.04	-0.04	0.10	0.09	0.11*	0.03	0.10	0.03	0.02
7	Q9.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか	-0.09	-0.08	-0.02	-0.05	-0.03	-0.15**	0.01	0.12*	0.13*	0.15**	0.04	0.11*	0.04	0.10	0.14**	0.11*	0.11*	0.16**	0.06	-0.1*
8	Q10.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか	0.05	0.02	0.02	0.1*	0.03	0.06	-0.01	-0.01	-0.03	-0.01	0.04	0.01	-0.02	-0.06	0.02	0.03	-0.06	0.04	0.03	0.07
9	Q11.北翔大学の教育内容について	0.04	0.03	0.00	0.04	0.03	0.07	-0.01	-0.06	-0.07	-0.05	-0.04	-0.04	-0.05	-0.07	-0.01	0.04	-0.07	-0.05	-0.03	-0.01
10	Q12.あなたは授業にどのように取り組んでいますか	0.03	0.01	-0.03	0.04	0.03	-0.02	0.06	0.01	0.00	0.01	0.10	-0.03	-0.01	0.03	0.02	0.01	0.01	0.09	0.11*	-0.01
11	Q13.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか	0.00	-0.01	-0.04	0.00	-0.01	-0.01	0.00	0.02	0.05	-0.04	0.10	0.00	0.09	0.07	-0.02	-0.06	0.02	0.01	0.06	0.10
12	Q14.あなたは教員に親近感を感じますか	0.05	0.01	0.03	0.02	0.05	0.07	-0.03	0.01	0.03	-0.01	0.01	-0.03	0.03	0.03	-0.02	0.04	-0.06	-0.01	-0.02	0.01
13	Q15.大学生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか	0.06	0.02	0.01	0.02	0.06	0.10	0.02	0.09	0.04	0.04	0.07	-0.04	0.04	0.07	0.05	0.08	0.01	0.05	0.04	0.05

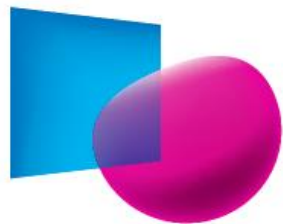
2-2. 基礎力伸長度の回答別平均値一覧

アンケート回答別に基礎力の1年次からの伸長度合い（PI値）の違いをみた。

- Q1.入試形態：【センター入試】でのリテラシー全般の伸長幅が他属性よりも大きい。サンプル数が少ないため参考だが、【センター入試】では情報収集力、言語処理力の伸長幅が大きい。
- Q3.コロナ禍でのマイナス影響：いずれもサンプル数が少ないため参考に留めるが、【ボランティア活動】へ影響が最も大きいという学生で構想力、対課題基礎力、行動持続力、計画立案力、実践力の伸長幅が大きい。【アルバイト】は構想力、課題発見力の伸長幅が大きい。【卒業後の進路】のマイナス影響を挙げる学生は対課題基礎力領域を除き全般に伸長度が低い傾向がみられる。

N≥10の場合：全体+5.0以上
全体-5.0以下

設問	選択肢	N数	PI値_リテラシー							PI値_コンピテンシー												
			総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	言語処 理能力	非言語 処理能 力	総合	対人 基礎力	対自己 基礎力	対課題 基礎力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
														親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力
3年生	全体	396	49.1	53.7	54.8	51.8	50.6	50.9	49.6	48.2	47.8	50.1	52.1	48.5	47.6	48.8	50.8	50.4	46.9	50.1	52.5	50.6
Q1.入試形式について 教えてください	6.（2020年度以前の入学生）推薦入試	147	45.1	49.8	52.4	50.1	47.3	48.1	46.0	49.1	48.2	51.9	51.8	50.2	47.8	49.8	52.8	51.7	49.0	49.9	53.0	50.0
	7.（2020年度以前の入学生）AO入試	136	47.1	50.4	53.5	50.4	50.7	47.9	49.2	48.9	48.3	50.1	52.6	47.6	47.8	49.9	52.2	49.6	47.5	50.9	53.0	50.4
	8.（2020年度以前の入学生）一般入試	28	52.5	60.7	57.7	45.1	51.9	60.6	48.5	46.8	44.9	48.2	51.0	42.8	48.2	44.3	43.7	50.1	49.0	48.8	50.4	51.1
	9.（2020年度以前の入学生）センター入試	57	61.3	68.6	61.8	57.9	58.9	58.7	59.9	46.3	46.8	48.7	52.6	48.7	47.4	45.7	48.3	50.6	44.0	50.9	51.5	51.8
	10.（2020年度以前の入学生）その他	28	51.6	53.0	57.3	61.5	49.6	55.1	50.5	45.0	48.6	45.3	52.1	49.4	46.1	49.3	45.8	47.0	37.4	46.6	51.6	51.5
Q3.あなたが思う新型 コロナウイルス感染症に よるマイナスの影響とし て、最も大きいものは 次のどれですか	1.授業への取り組み意欲	160	51.2	53.8	54.9	54.8	53.3	54.7	51.4	48.7	48.4	49.2	51.4	49.2	47.5	49.7	49.2	50.8	47.2	49.0	51.5	50.1
	2.部活・サークル活動	120	48.9	53.9	57.9	50.2	47.1	50.2	49.6	48.6	48.4	52.3	50.6	46.9	48.8	49.5	54.9	52.1	47.6	47.8	52.0	49.4
	3.ボランティア活動	12	49.0	53.9	51.9	52.3	57.8	49.5	54.4	44.6	40.0	47.2	60.5	49.8	36.6	39.3	46.8	41.8	55.7	51.8	63.6	56.3
	4.アルバイト	52	48.3	52.1	50.4	53.0	56.6	45.2	43.2	49.7	49.5	51.4	56.4	53.5	50.2	47.9	50.5	52.4	45.6	55.3	53.6	53.2
	5.学費の支払い	32	47.1	55.3	58.8	44.6	45.6	44.9	54.3	44.8	44.6	47.0	49.5	44.4	45.3	48.3	46.3	46.8	44.4	52.6	51.6	47.9
	6.卒業後の進路	16	38.4	52.6	40.7	47.2	41.4	50.3	40.7	43.6	44.9	45.2	55.6	45.2	44.6	42.5	47.9	41.2	43.7	52.1	55.6	53.2
	7.Q2で「全くそう思わない」を選択した方はこちらに	4	42.3	62.0	49.8	36.3	27.8	50.5	45.5	52.0	48.0	51.0	55.5	47.0	47.8	58.8	55.3	42.8	42.5	55.8	56.3	58.8

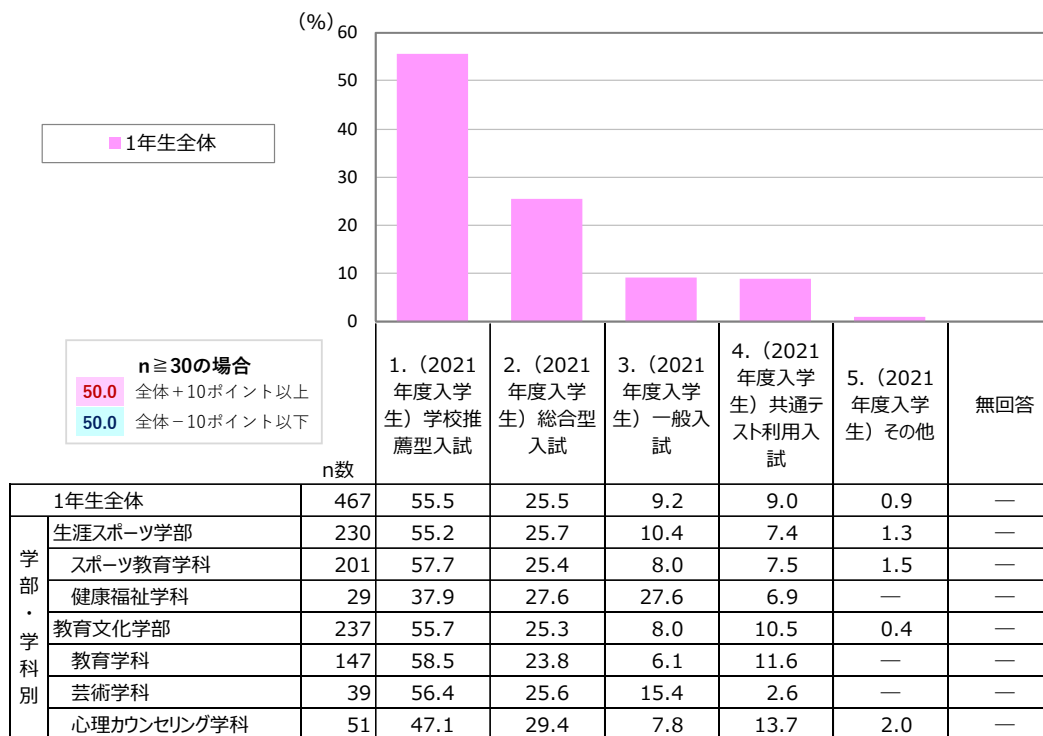


PROG

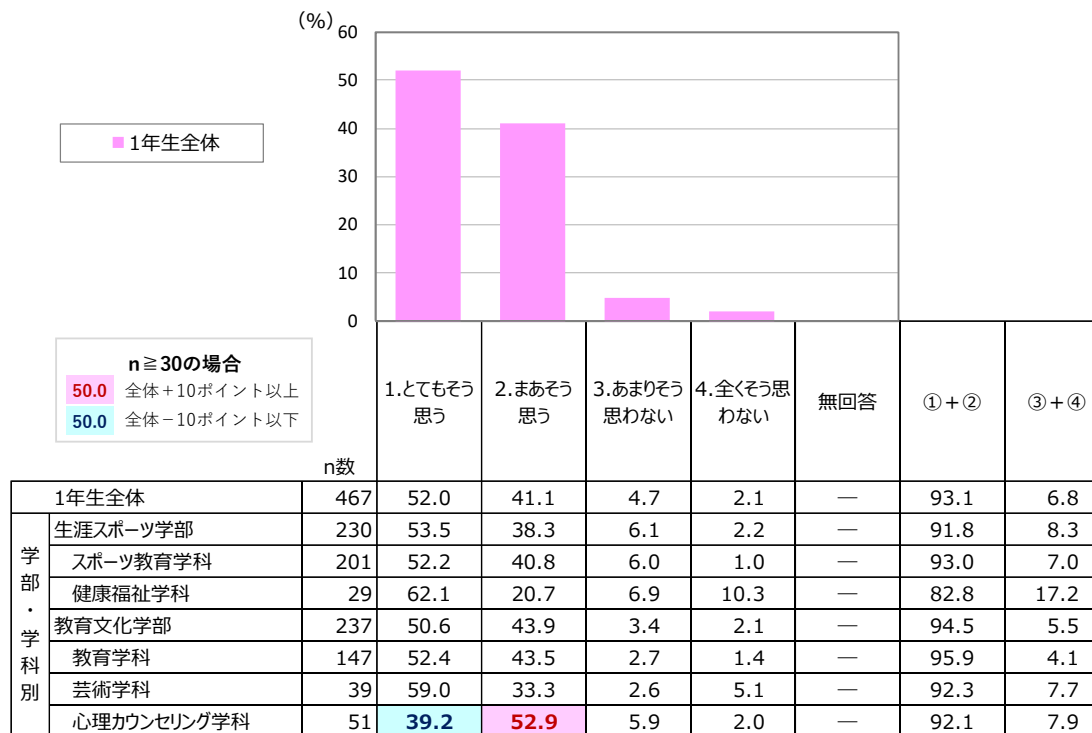
PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

3. アンケート集計

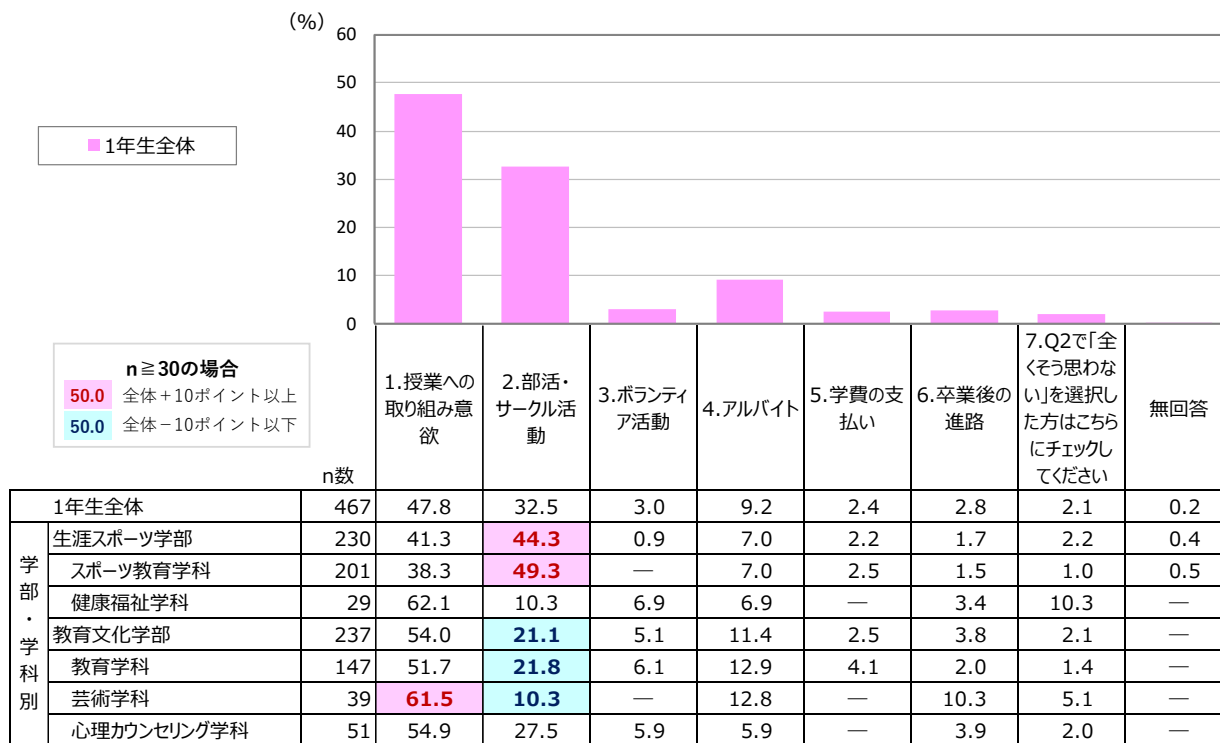
Q1.入試形式について教えてください（全体／単一回答）



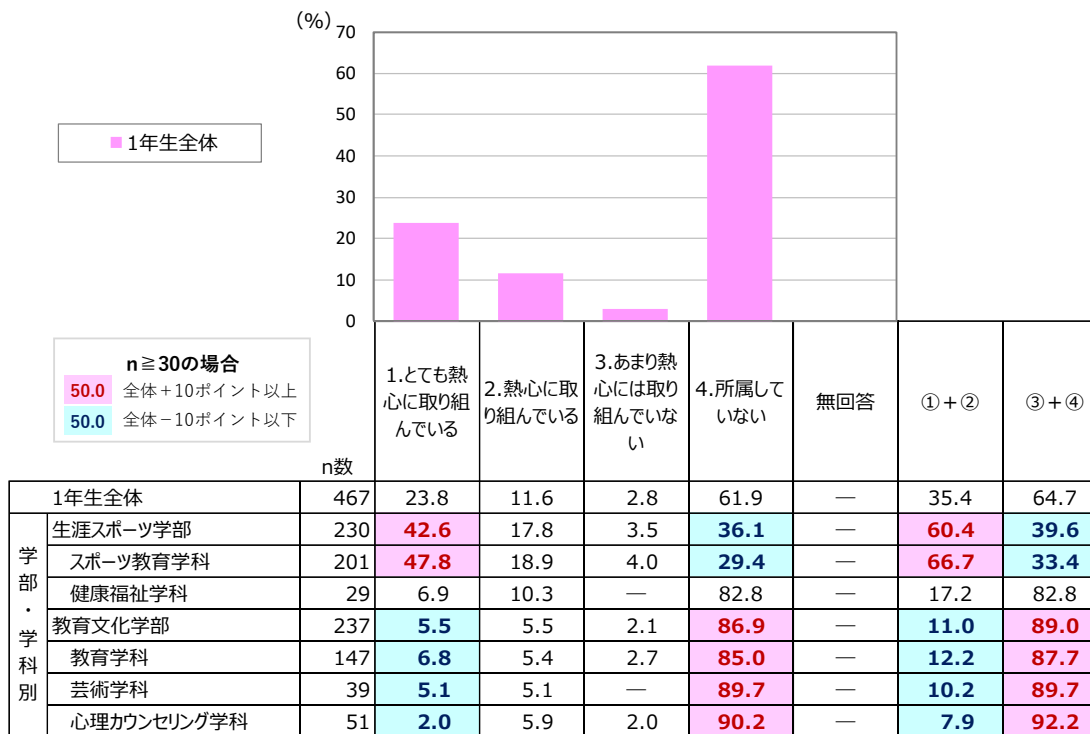
Q2.新型コロナウイルスによるマイナスの影響についてお伺いします。あなたの生活で新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響があったと思いますか（全体／単一回答）



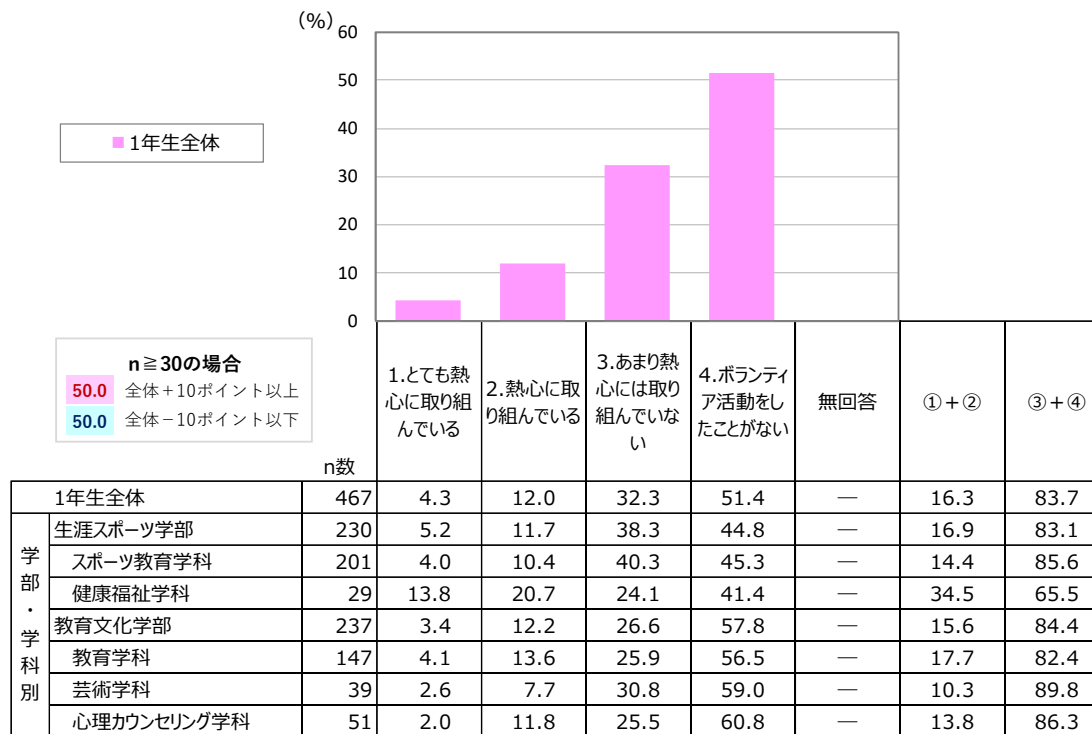
Q3.あなたが思う新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響として、最も大きいものは次のどれですか（全体／単一回答）



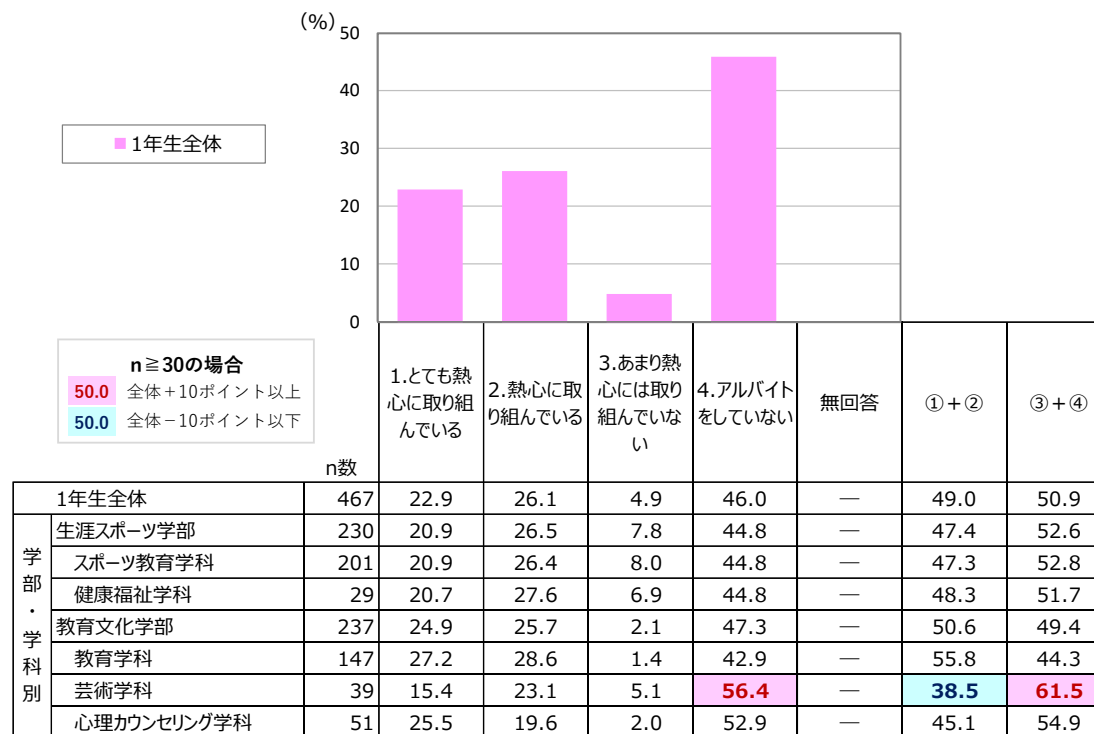
Q4.部活・サークル活動について（全体／単一回答）



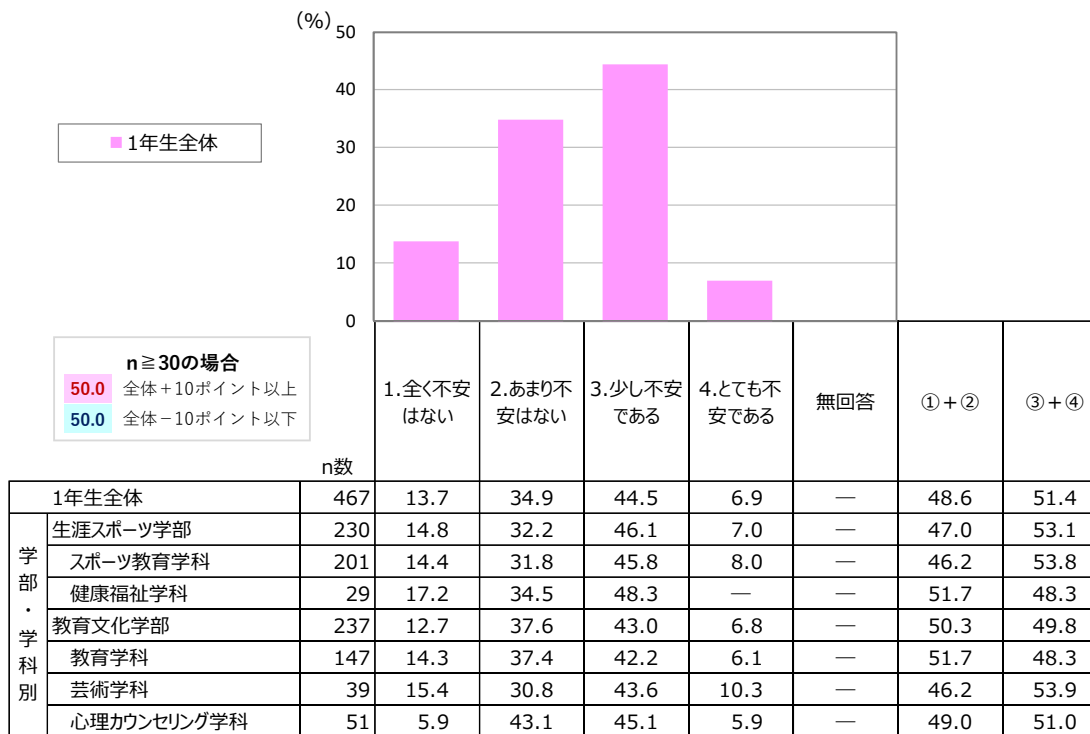
Q5.ボランティア活動について（全体／単一回答）



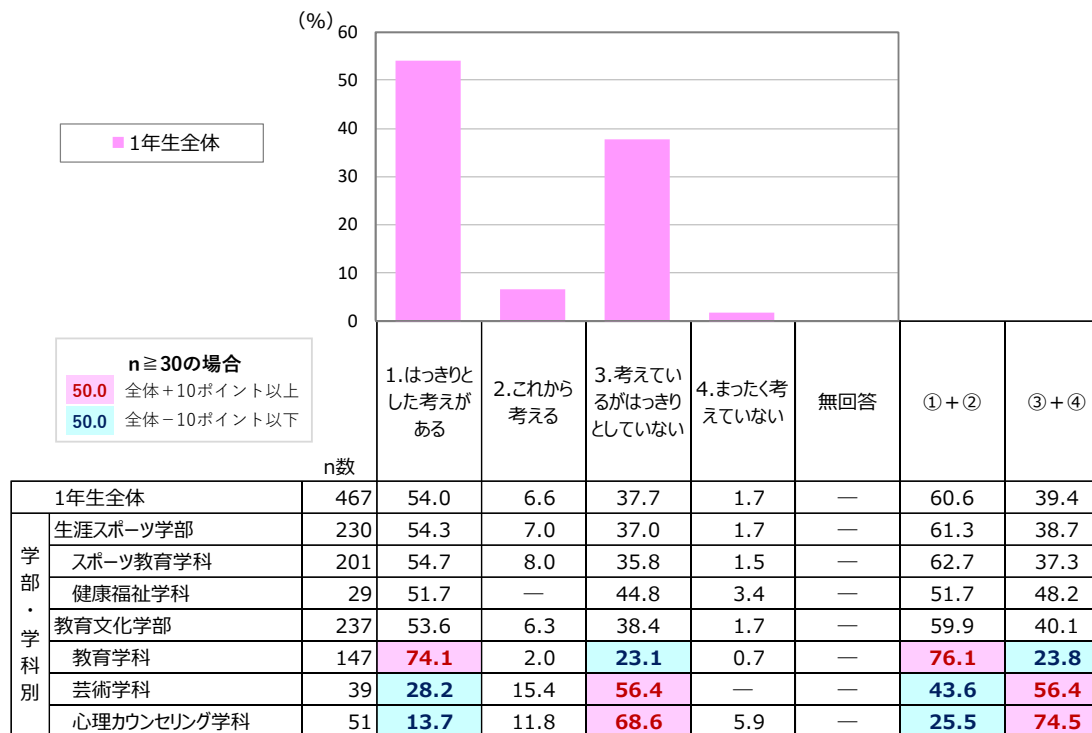
Q6.アルバイトについて（全体／単一回答）



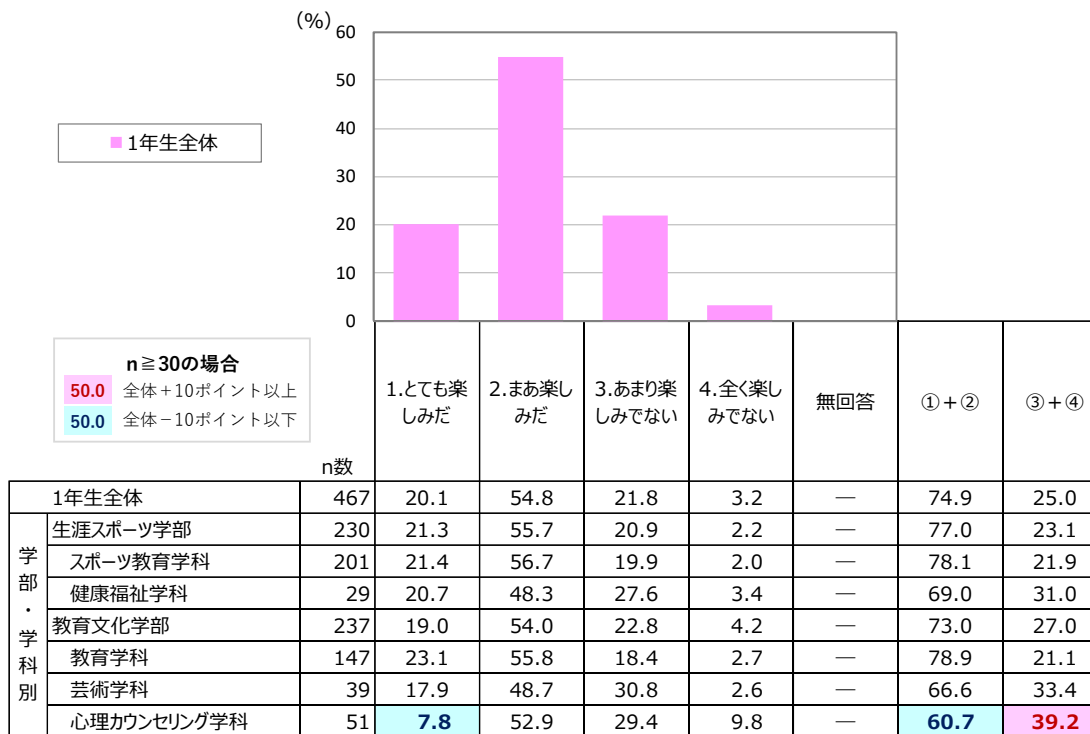
Q7.学費の支払いについて不安はありますか（全体／単一回答）



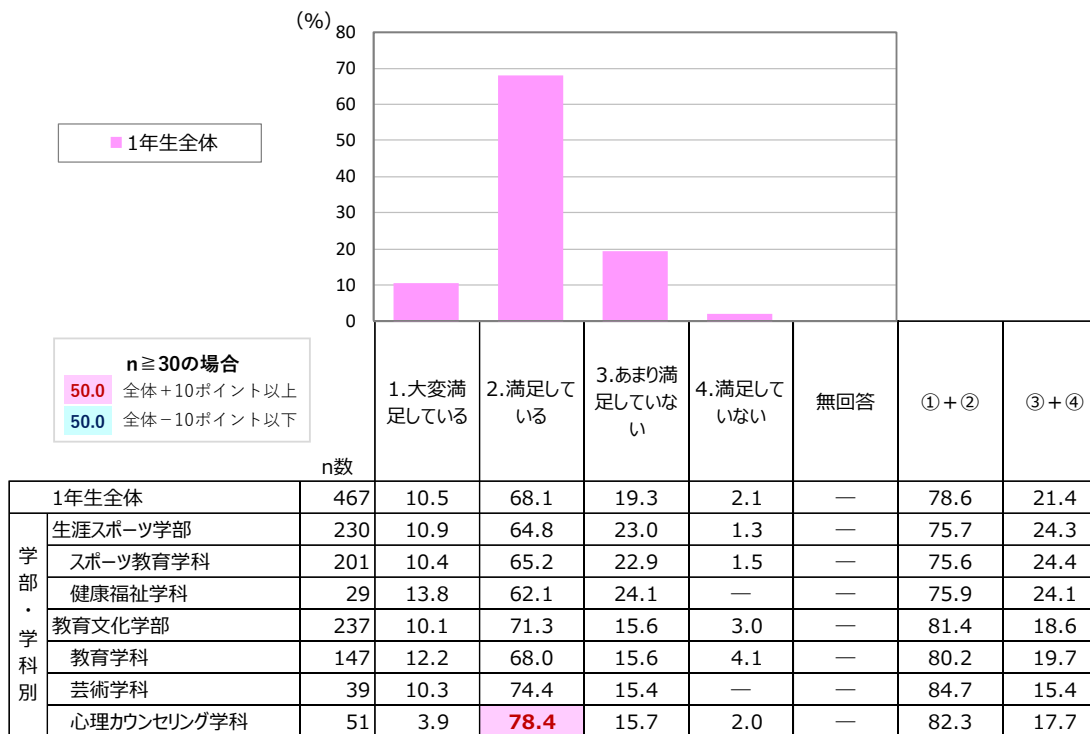
Q8.あなたは卒業後の進路（就職・公務員・教員・進学・留学など）について、現在どのような考えを持っていますか（全体／単一回答）



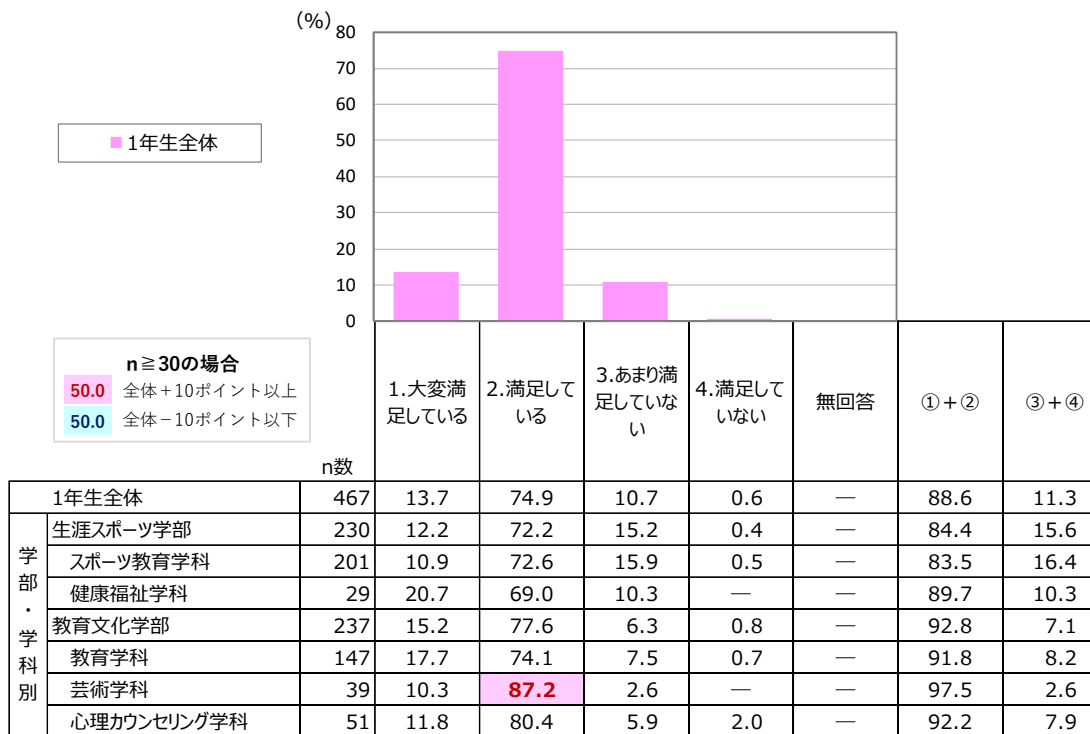
Q9.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか（全体／単一回答）



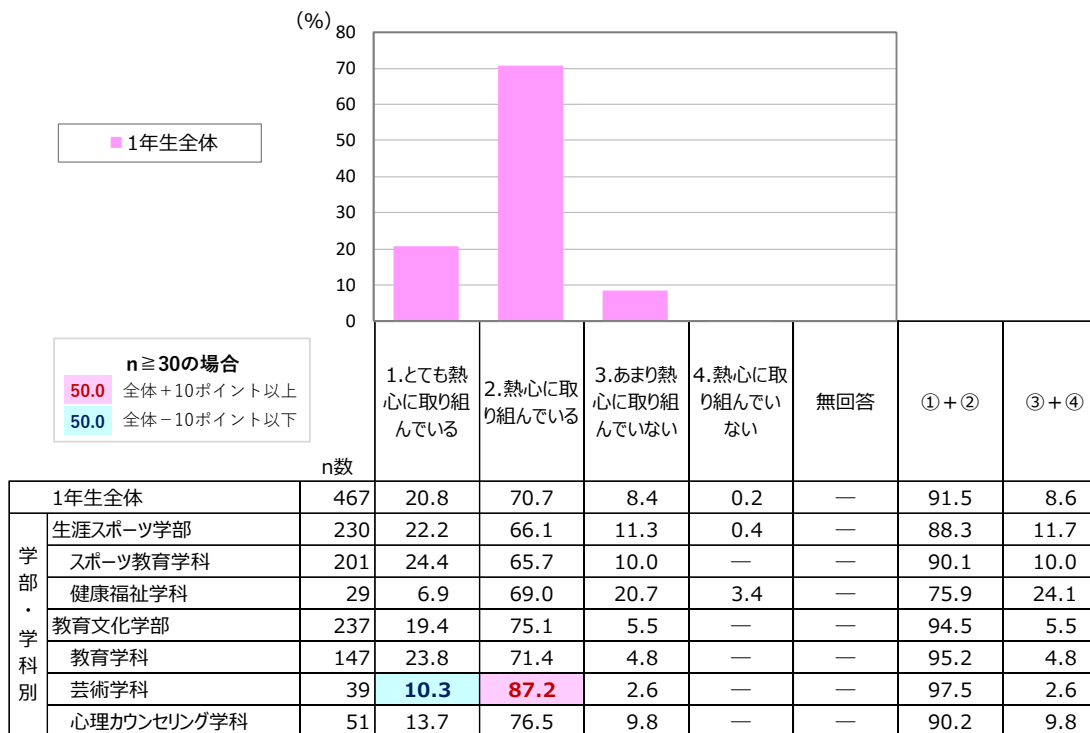
Q10.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか（全体／単一回答）



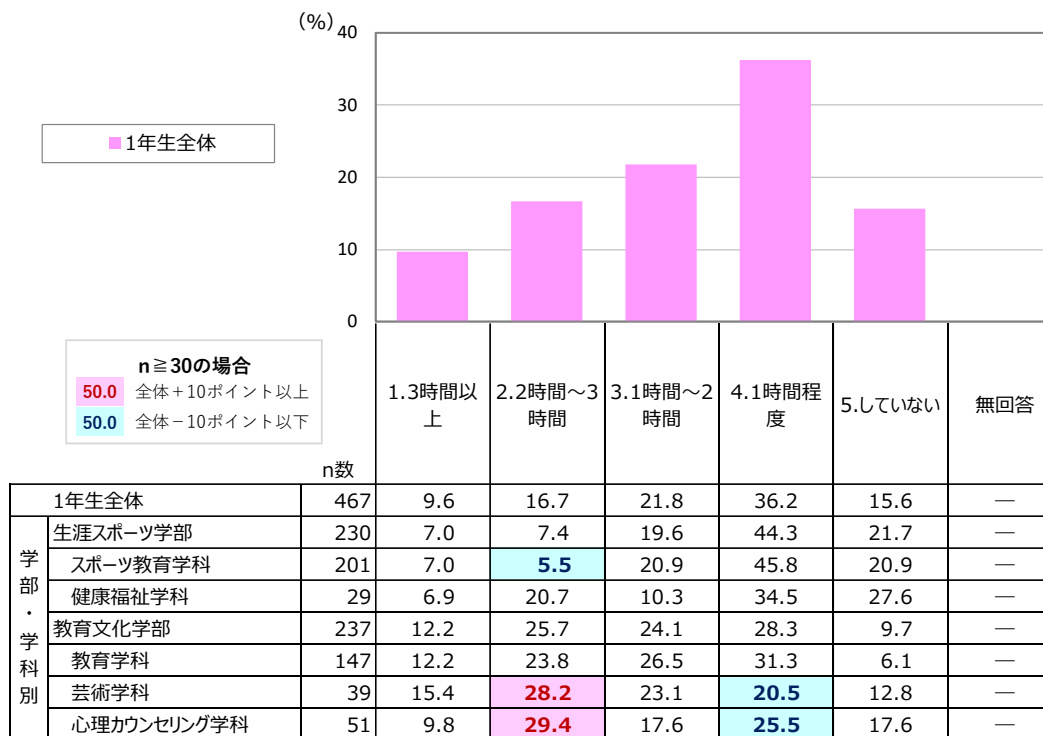
Q11.北翔大学の教育内容について（全体／単一回答）



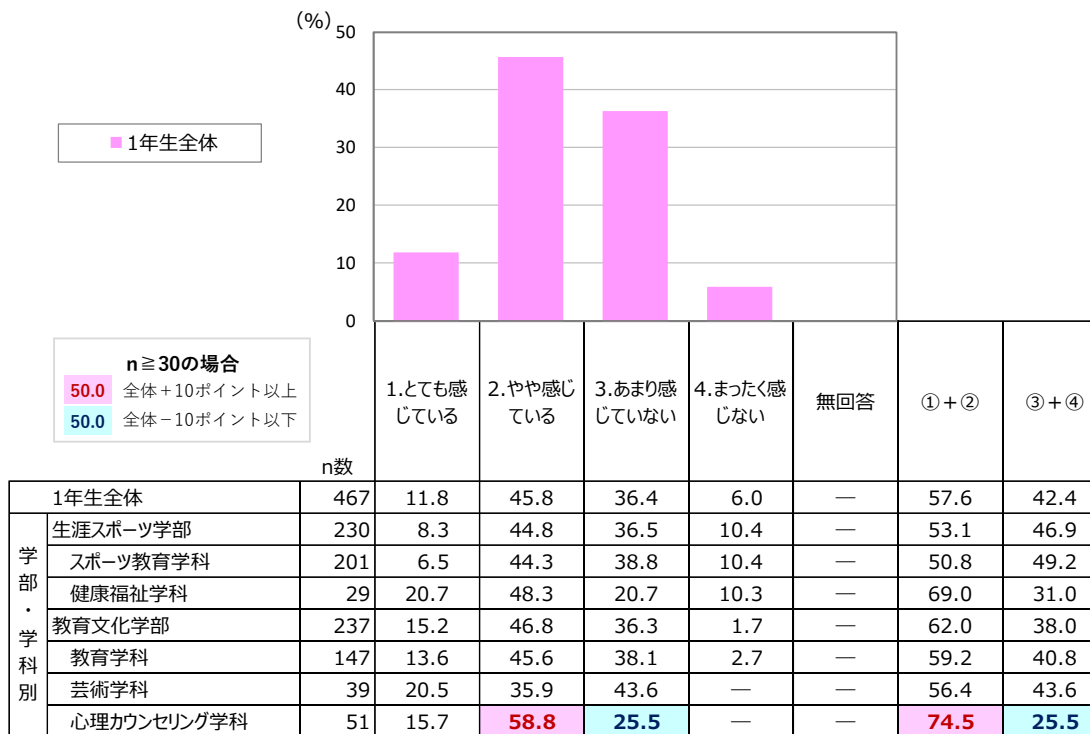
Q12.あなたは授業にどのように取り組んでいますか（全体／単一回答）



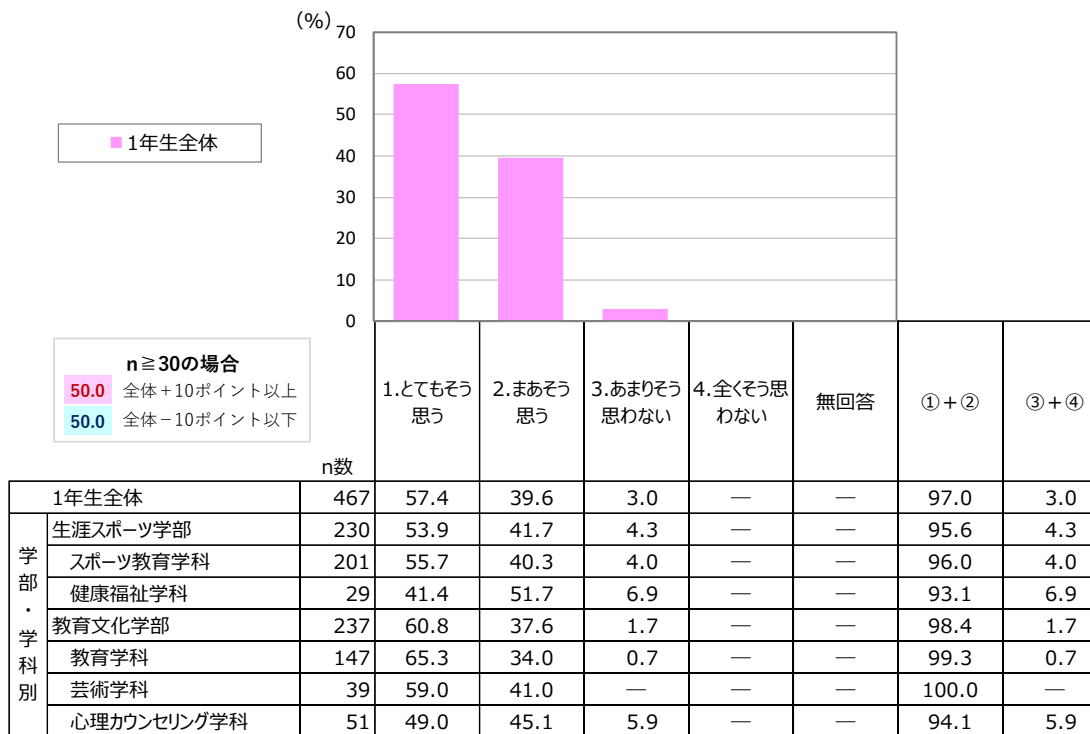
Q13.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか（全体／単一回答）



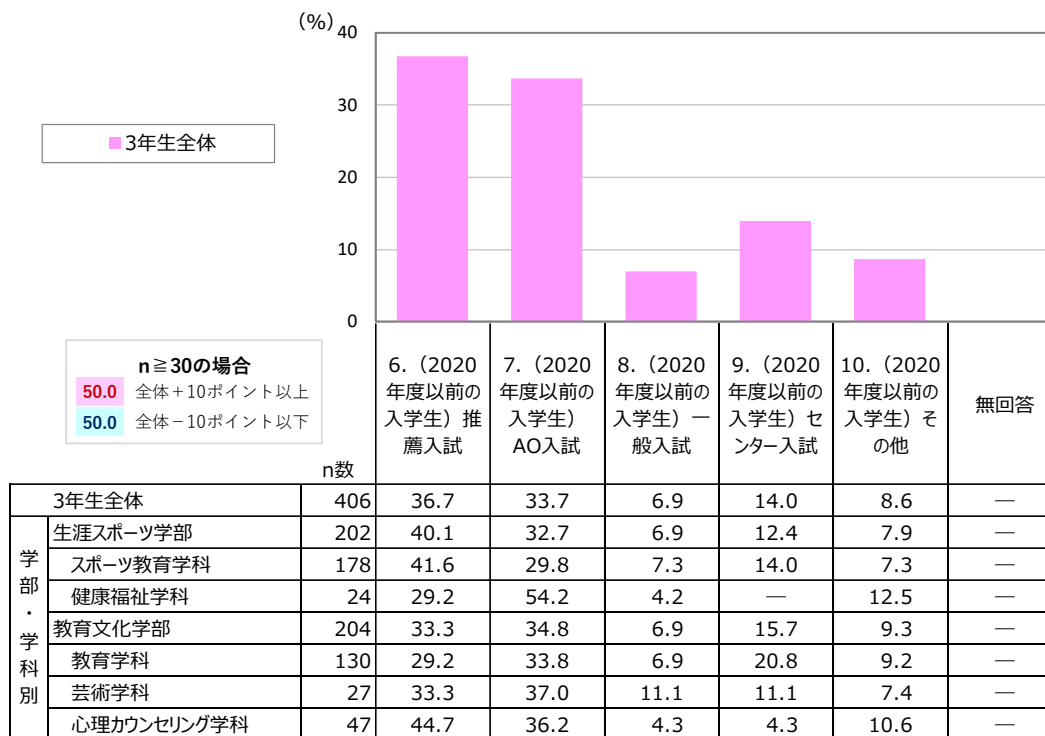
Q14.あなたは教員に親近感を感じますか（全体／単一回答）



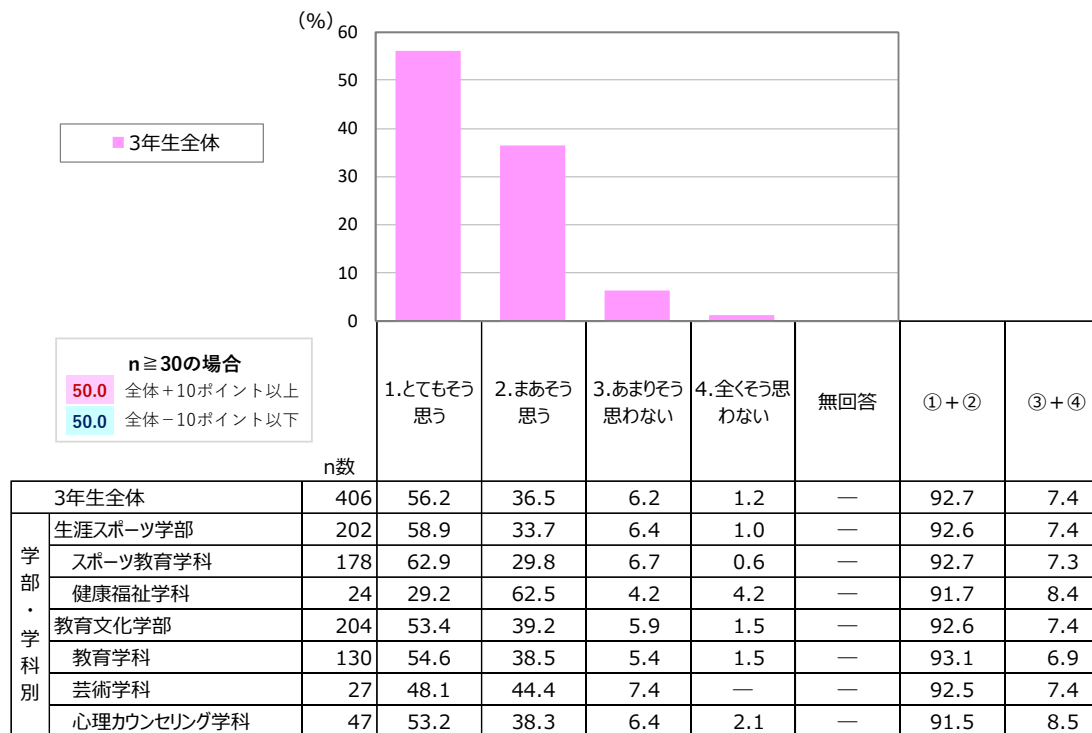
Q15.大学生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか（全体／単一回答）



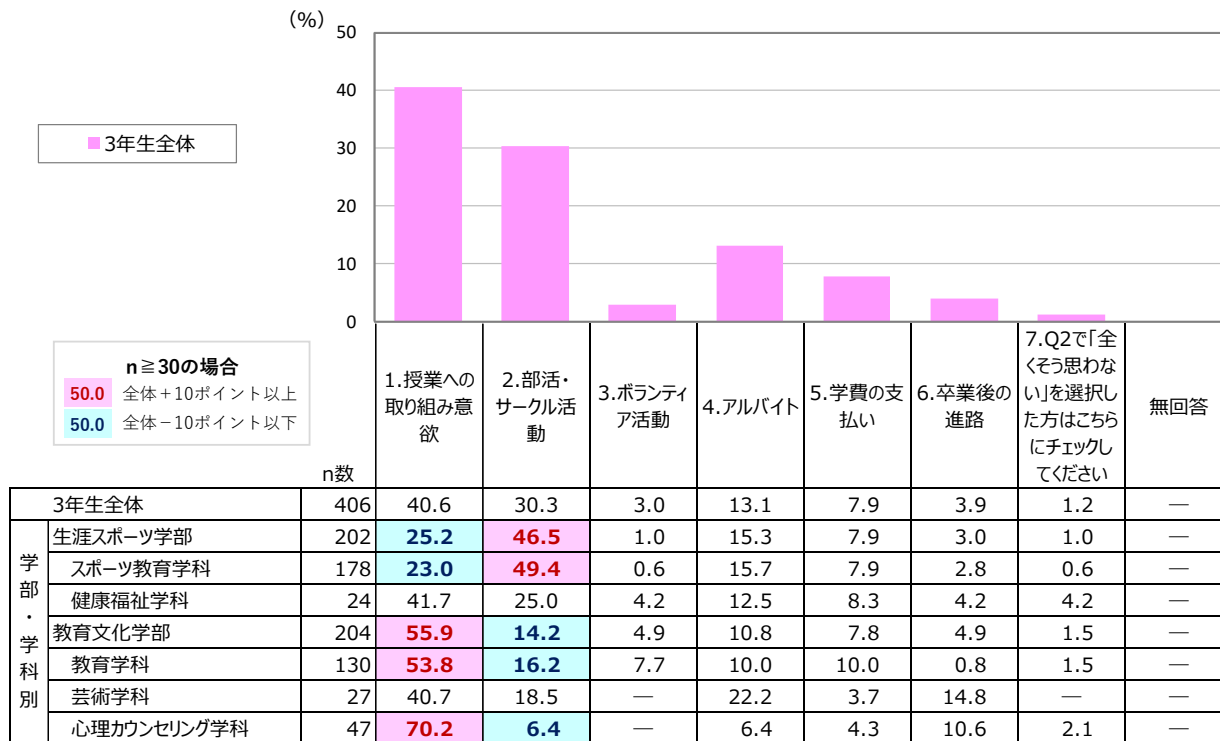
Q1.入試形式について教えてください（全体／単一回答）



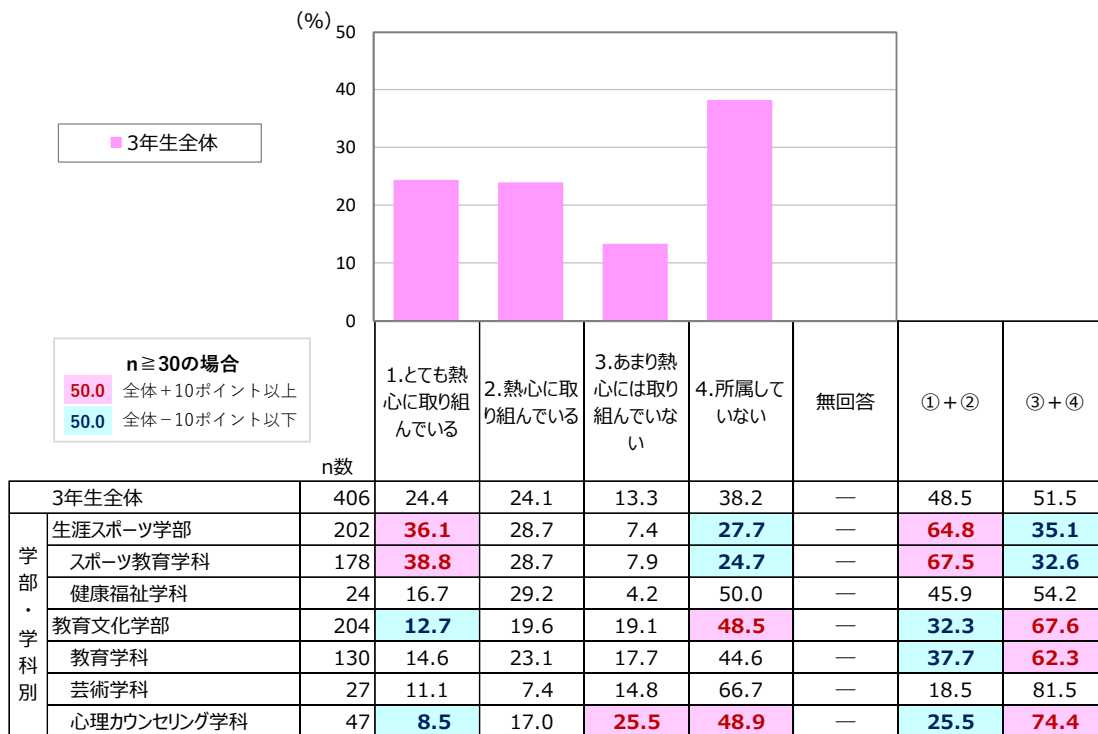
Q2.新型コロナウイルスによるマイナスの影響についてお伺いします。あなたの生活で新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響があったと思いますか（全体／単一回答）



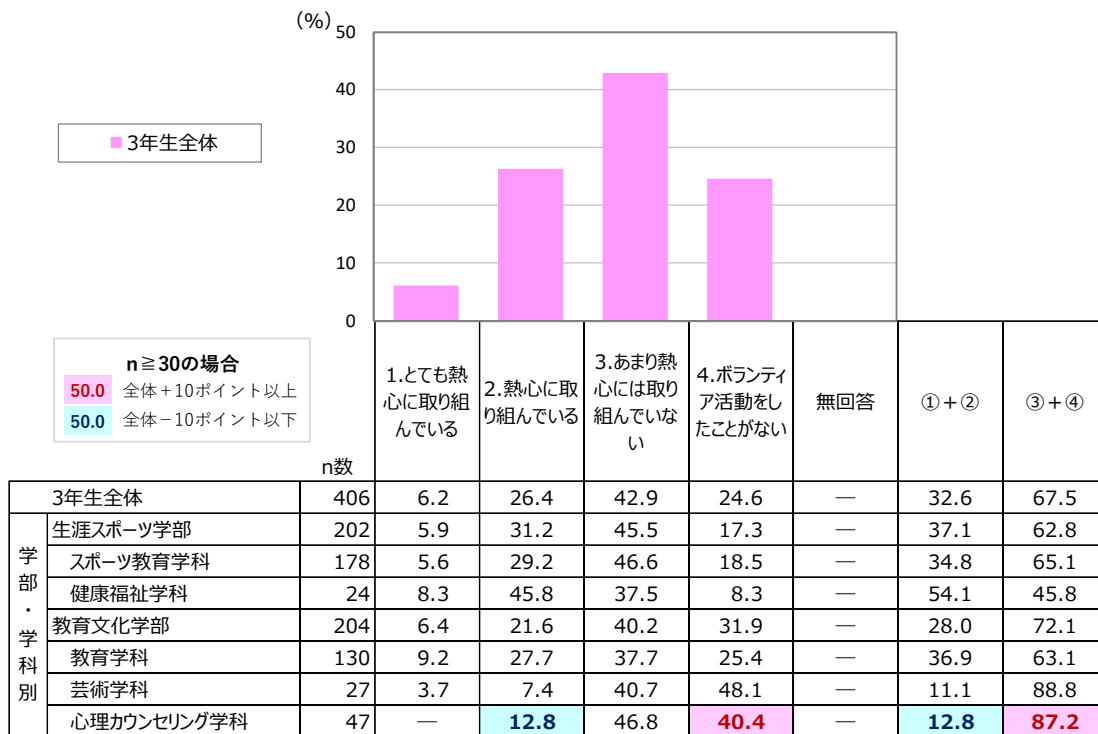
Q3.あなたが思う新型コロナウイルス感染症によるマイナスの影響として、最も大きいものは次のどれですか（全体／単一回答）



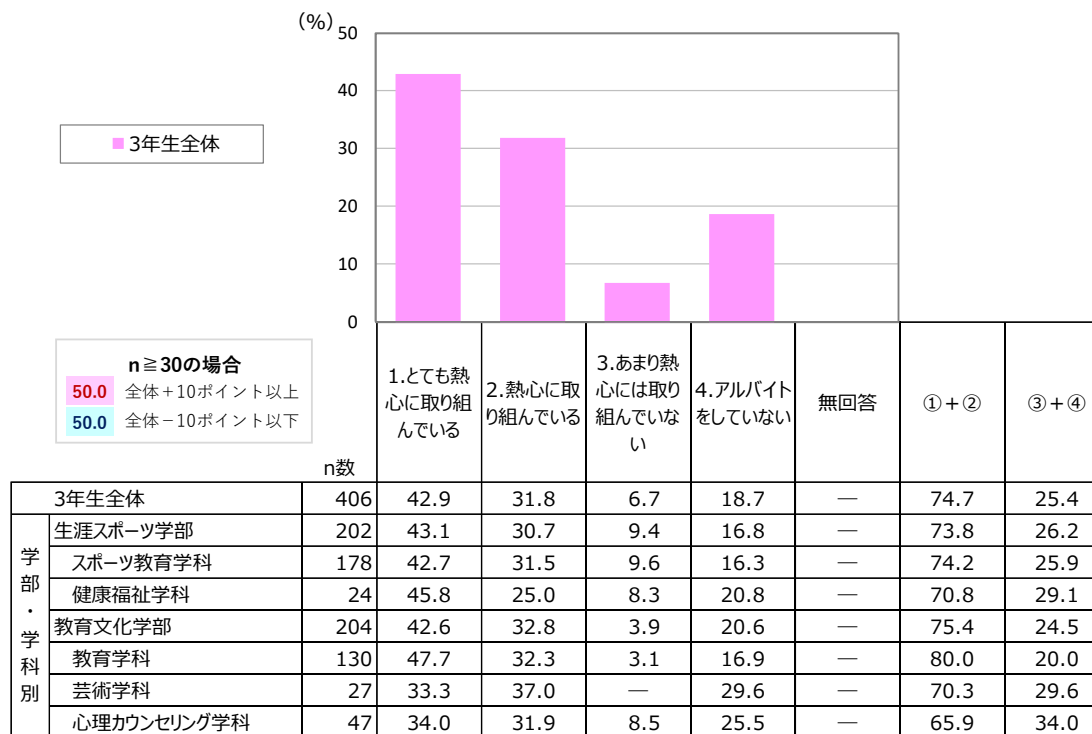
Q4.部活・サークル活動について（全体／単一回答）



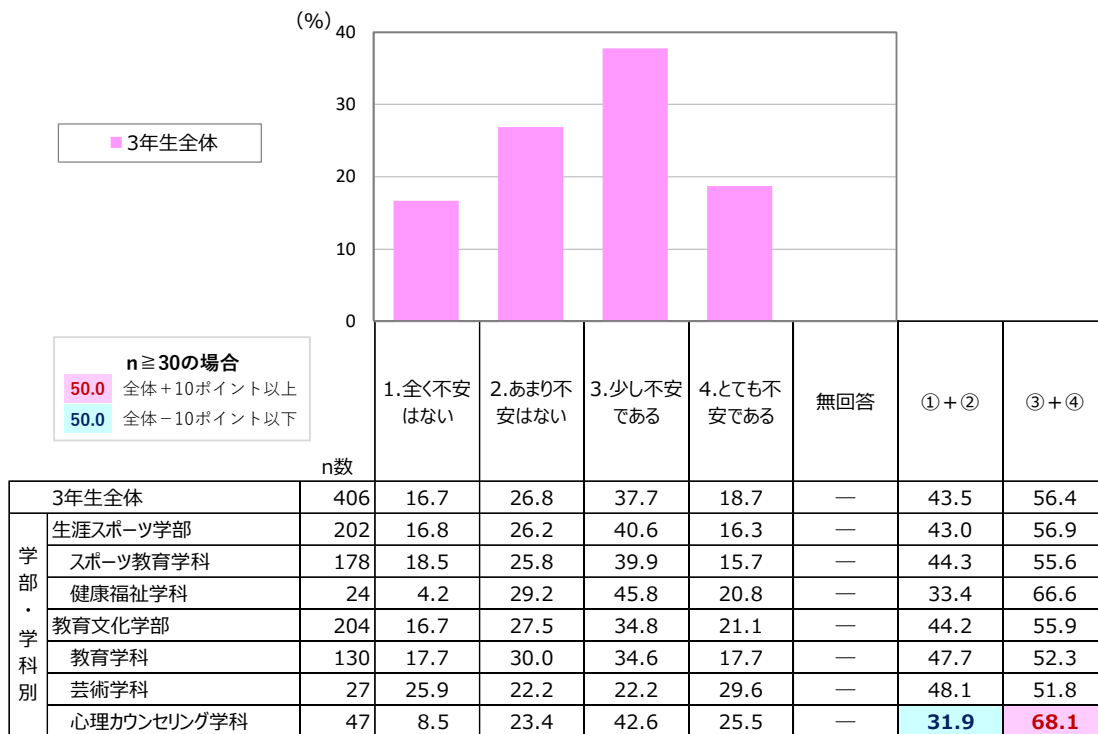
Q5. ボランティア活動について（全体／単一回答）



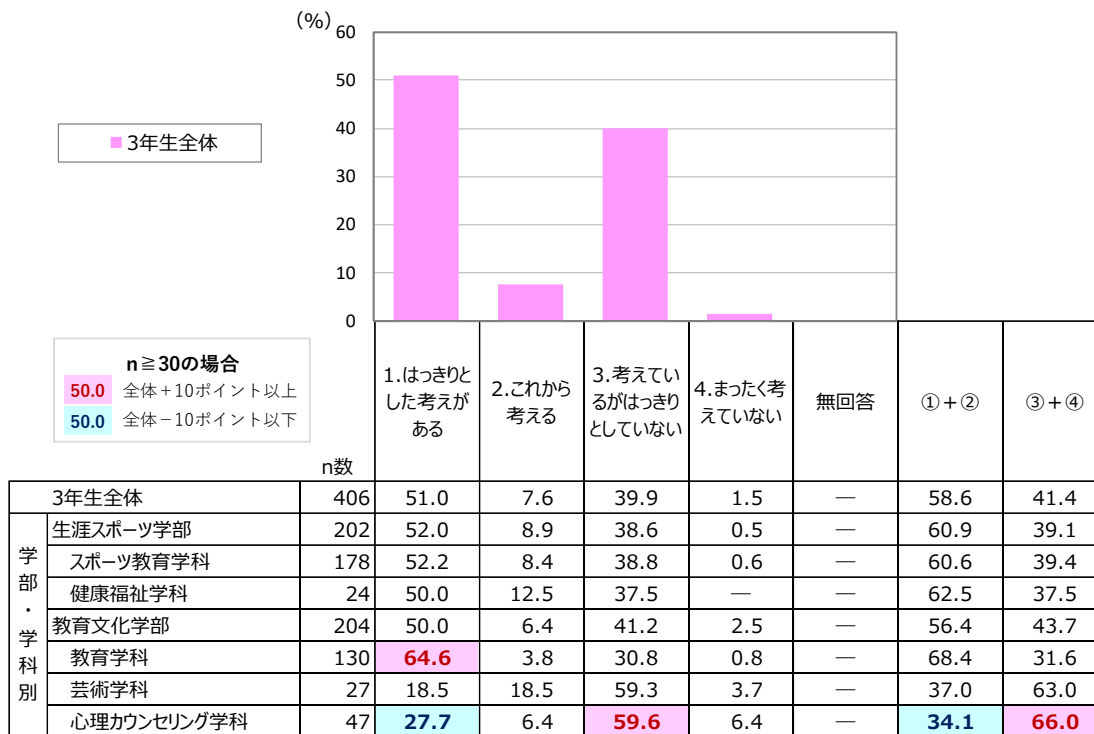
Q6.アルバイトについて（全体／単一回答）



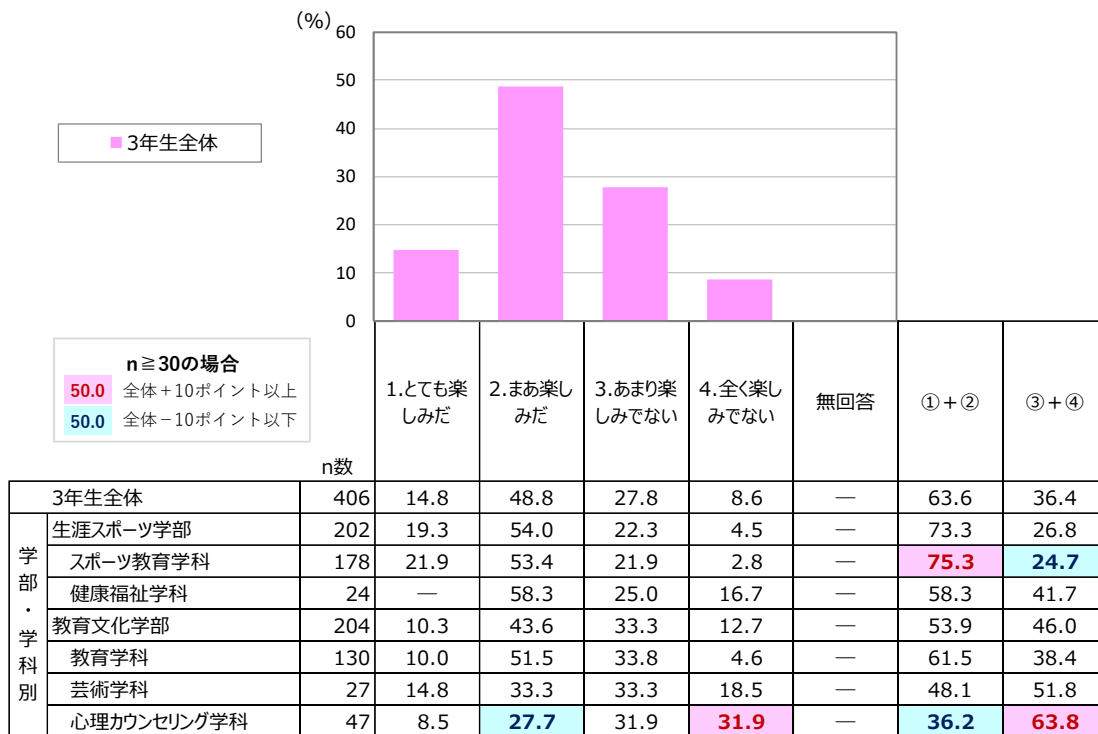
Q7.学費の支払いについて不安はありますか（全体／単一回答）



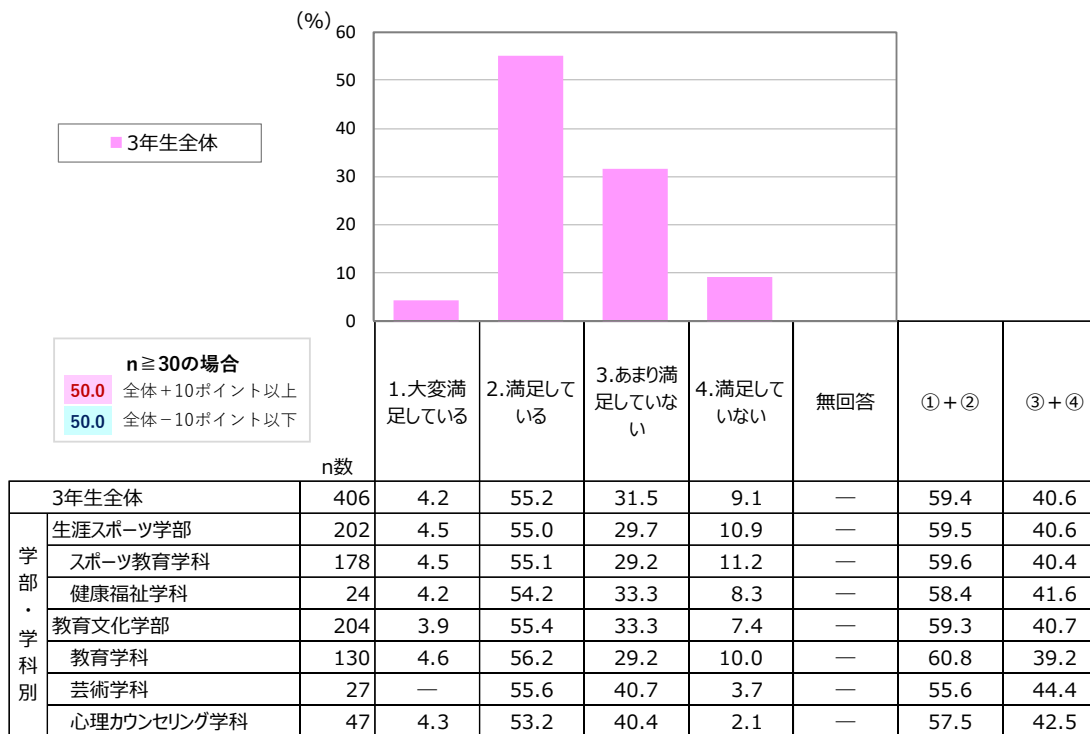
Q8.あなたは卒業後の進路（就職・公務員・教員・進学・留学など）について、現在どのような考えを持っていますか（全体／単一回答）



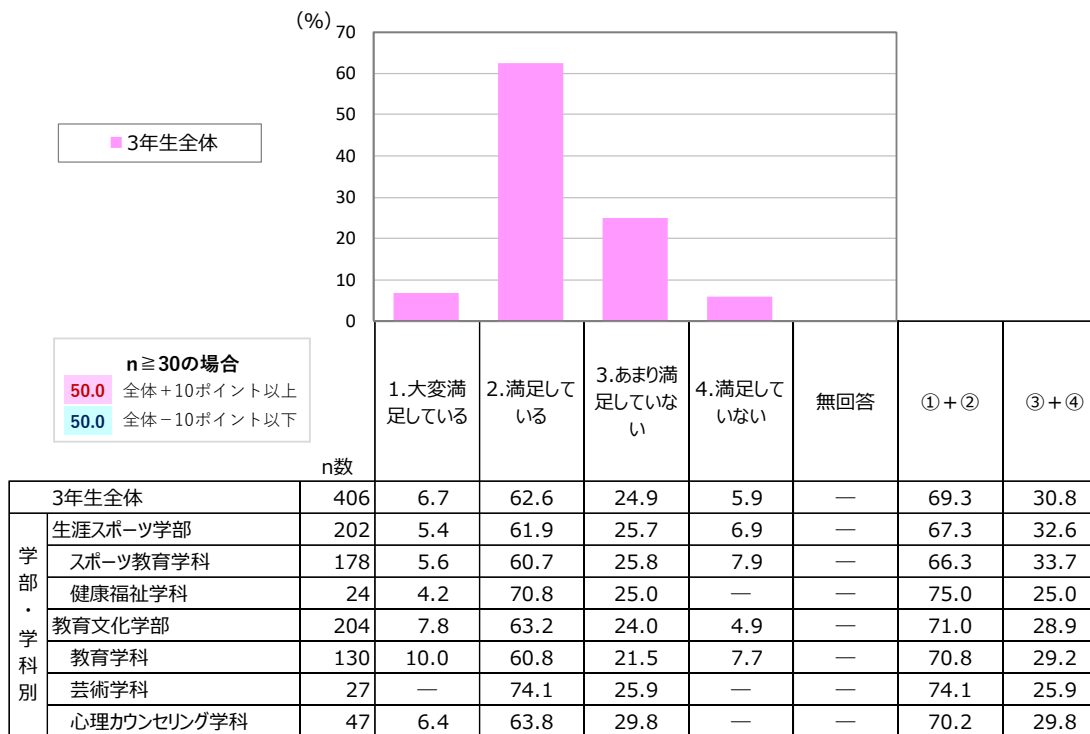
Q9.卒業後、社会人になることについてどのように感じますか（全体／単一回答）



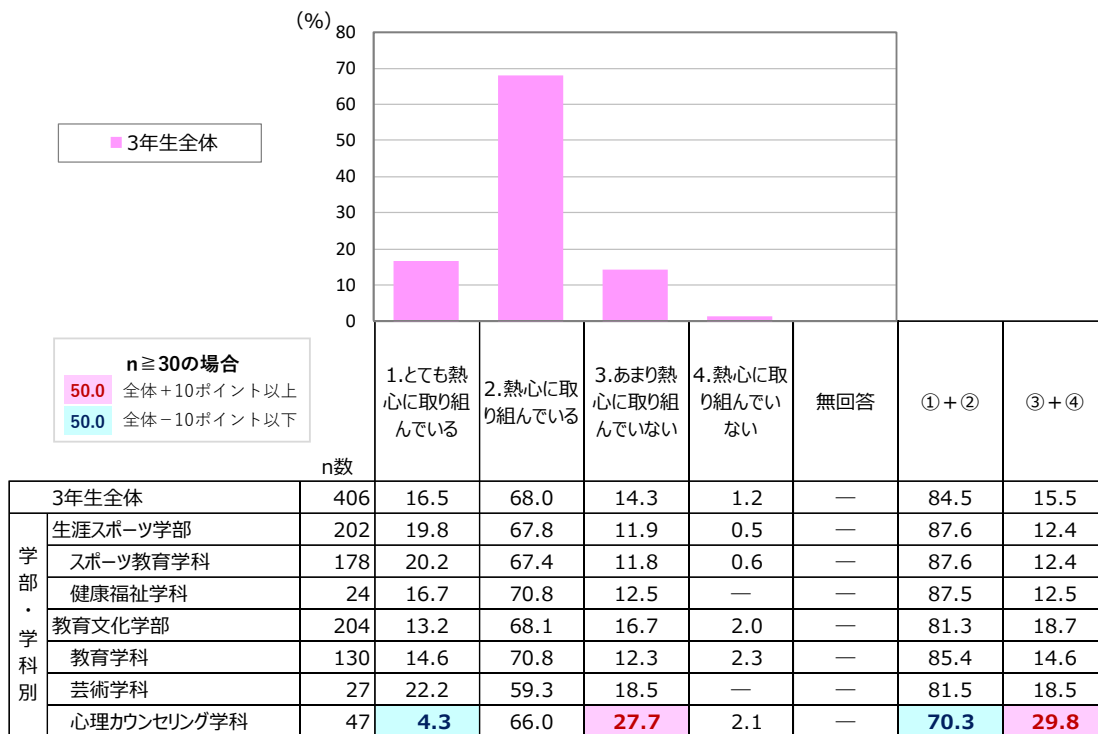
Q10.あなたは現在、全体として北翔大学に満足していますか（全体／単一回答）



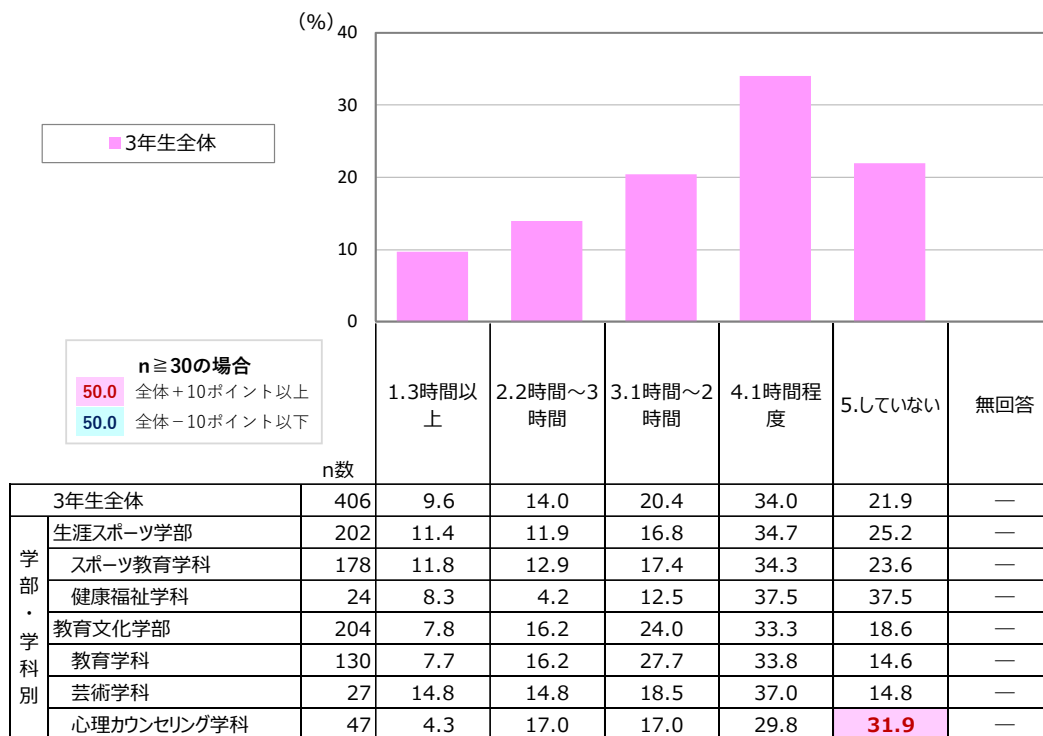
Q11.北翔大学の教育内容について（全体／単一回答）



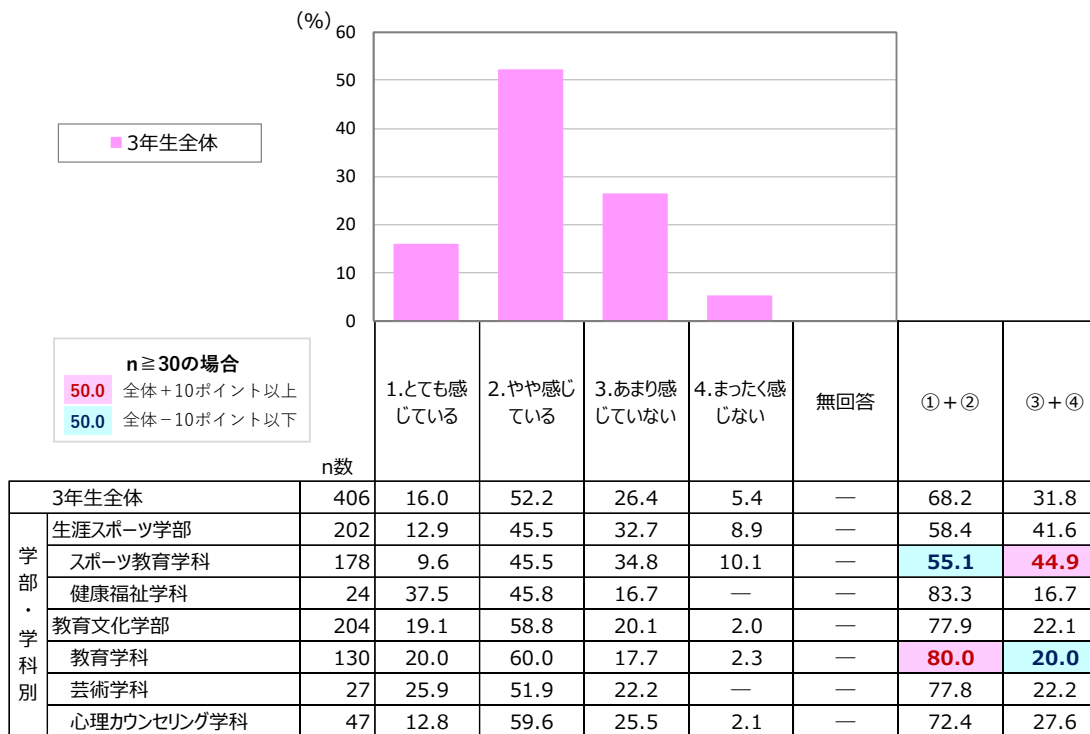
Q12.あなたは授業にどのように取り組んでいますか（全体／単一回答）



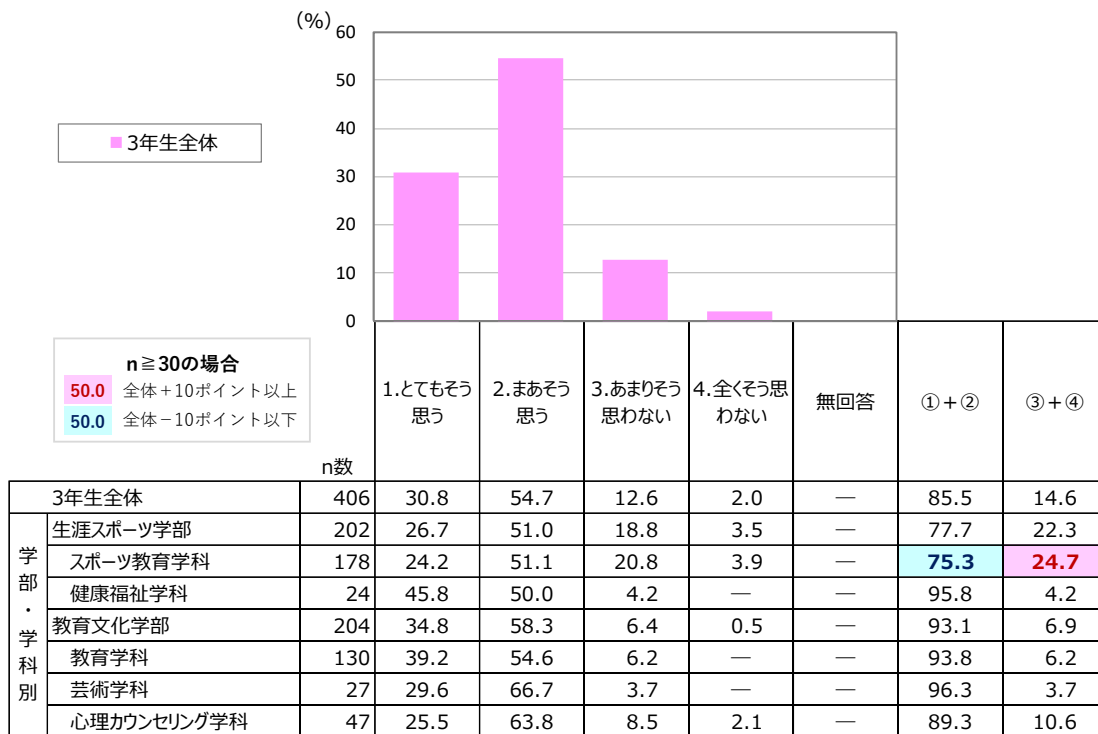
Q13.あなたは授業以外に一日平均でどのくらい学習していますか（全体／単一回答）

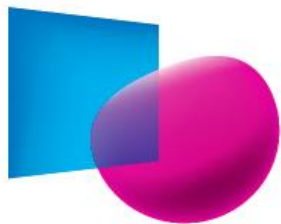


Q14.あなたは教員に親近感を感じますか（全体／単一回答）



Q15.大学生での学びが将来仕事をしていくうえで必要な能力向上につながっていると思いますか（全体／単





PROG

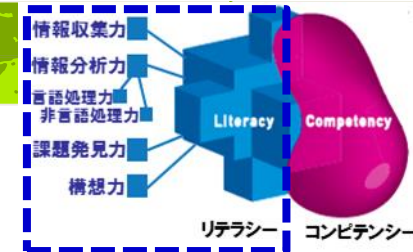
PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

**<参考>
コロナ前後の
四年制大学 成長分析**

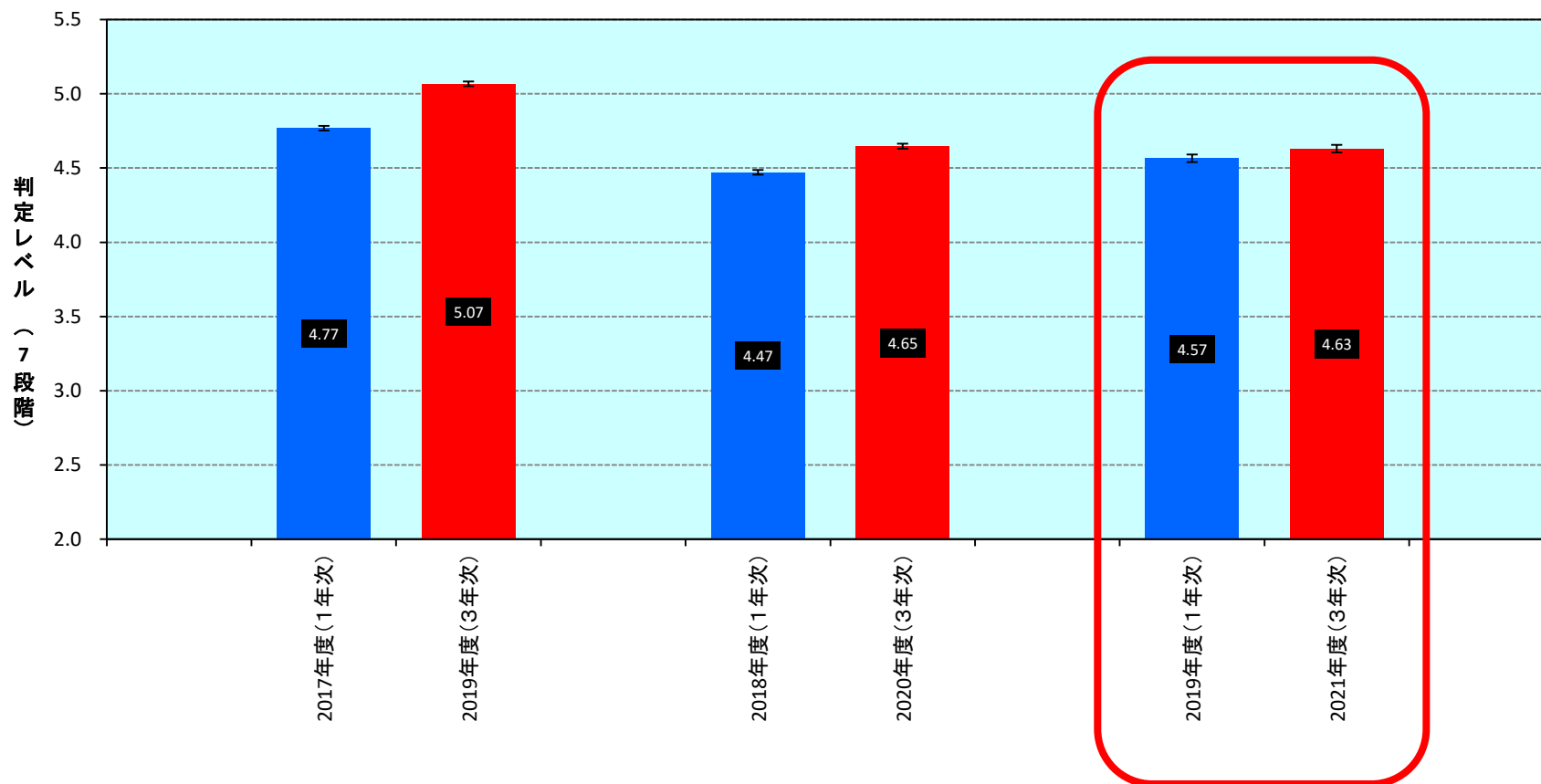
区分	集計対象者 (1年次・3年次 いずれも受験)
2017年度 1年 → 2019年度 3年	34,007 名 (104 校)
2018年度 1年 → 2020年度 3年	47,061 名 (119 校)
2019年度 1年 → 2021年度 3年	18,779 名 (48 校)

リテラシー総合（成長分析）

●2019年度（3年次）、2020年度（3年次）、2021年度（3年次）は、1年次受験のスコアを上回る。



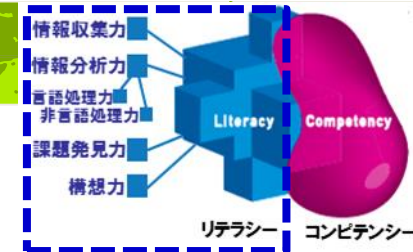
リテラシー総合



リテラシー要素（成長分析）①

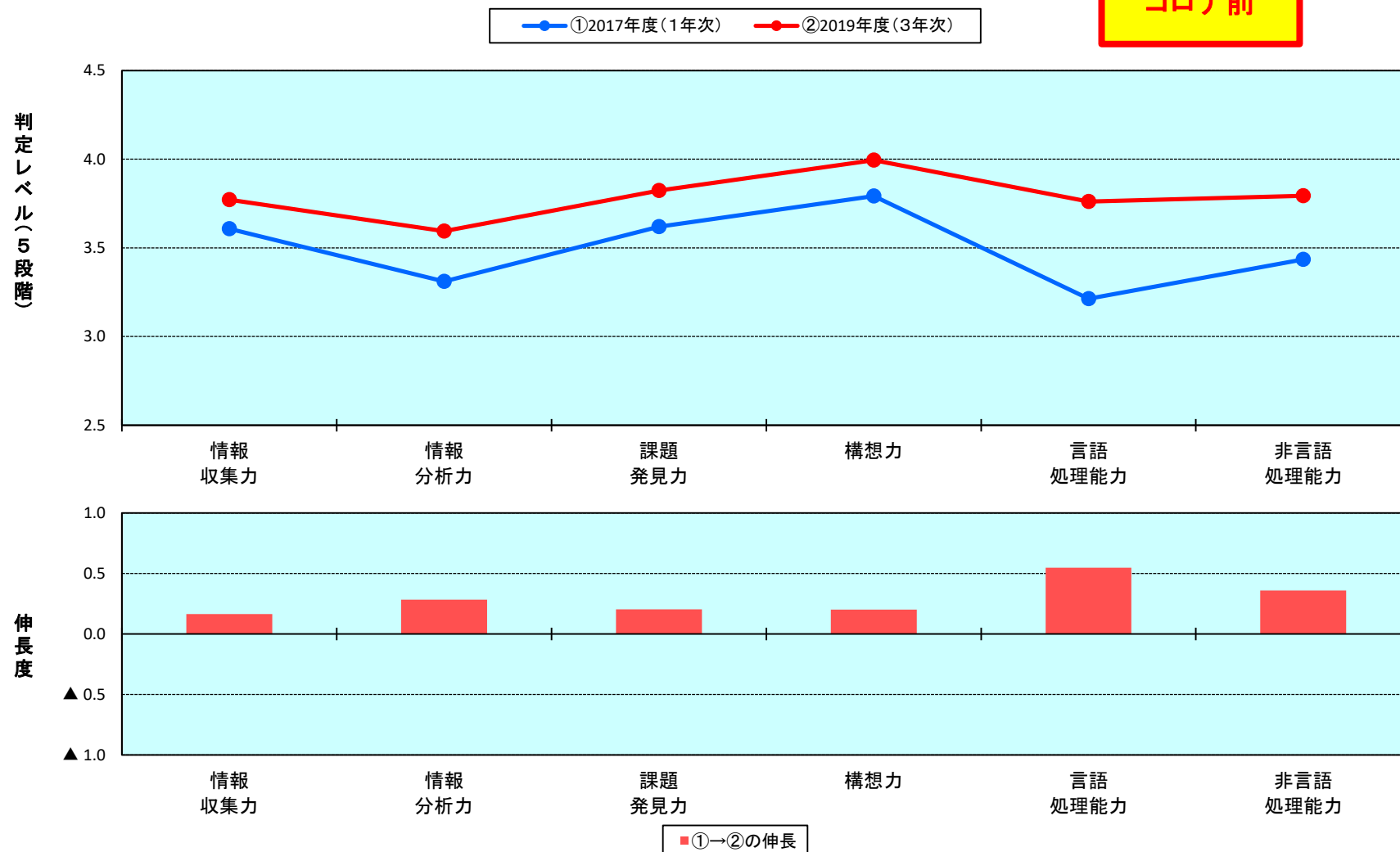
【2019年度3年】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。



リテラシー要素 の伸長

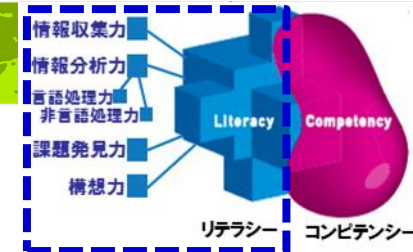
コロナ前



リテラシー要素（成長分析）②

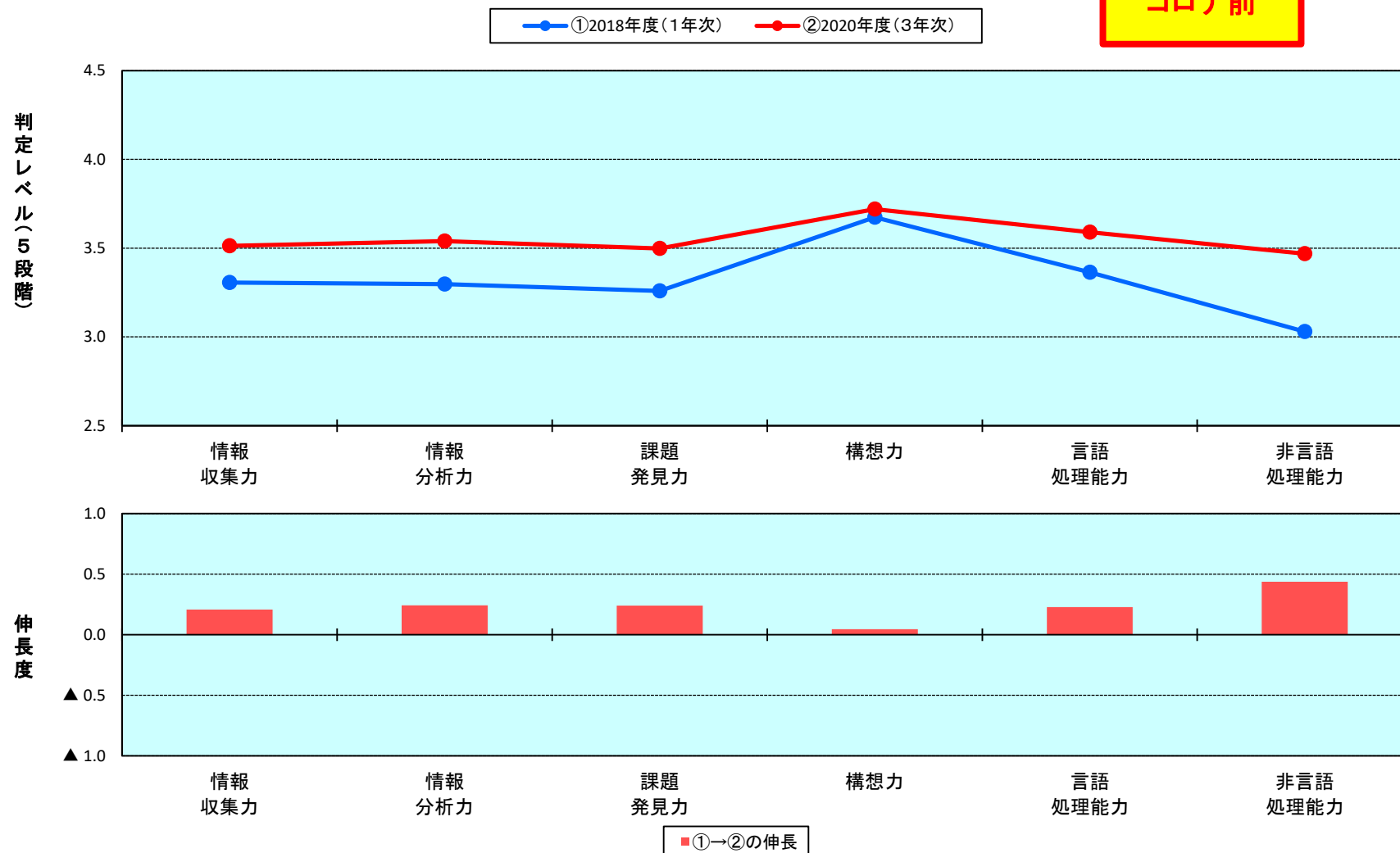
【2020年度3年】

情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを上回る。



リテラシー要素 の伸長

コロナ前

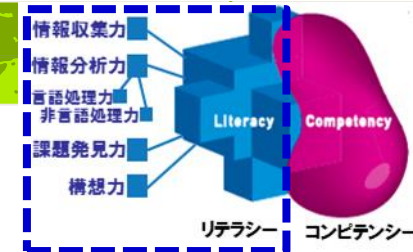


リテラシー要素（成長分析）③

【2021年度3年】

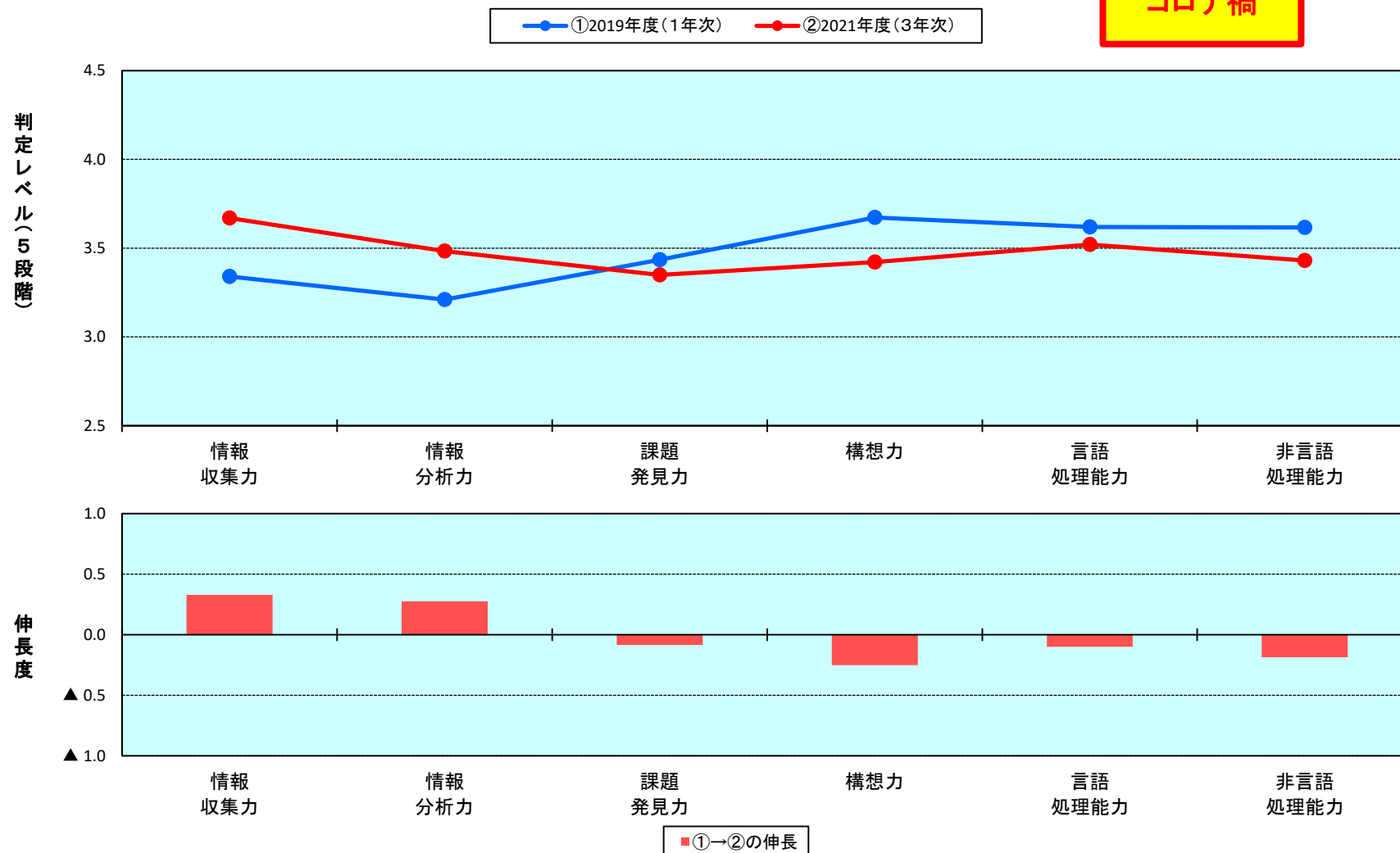
情報収集力、情報分析力は、1年次受験のスコアを上回る。

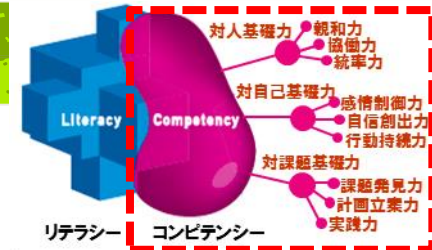
一方、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力は、1年次受験のスコアを下回る。



リテラシー要素 の伸長

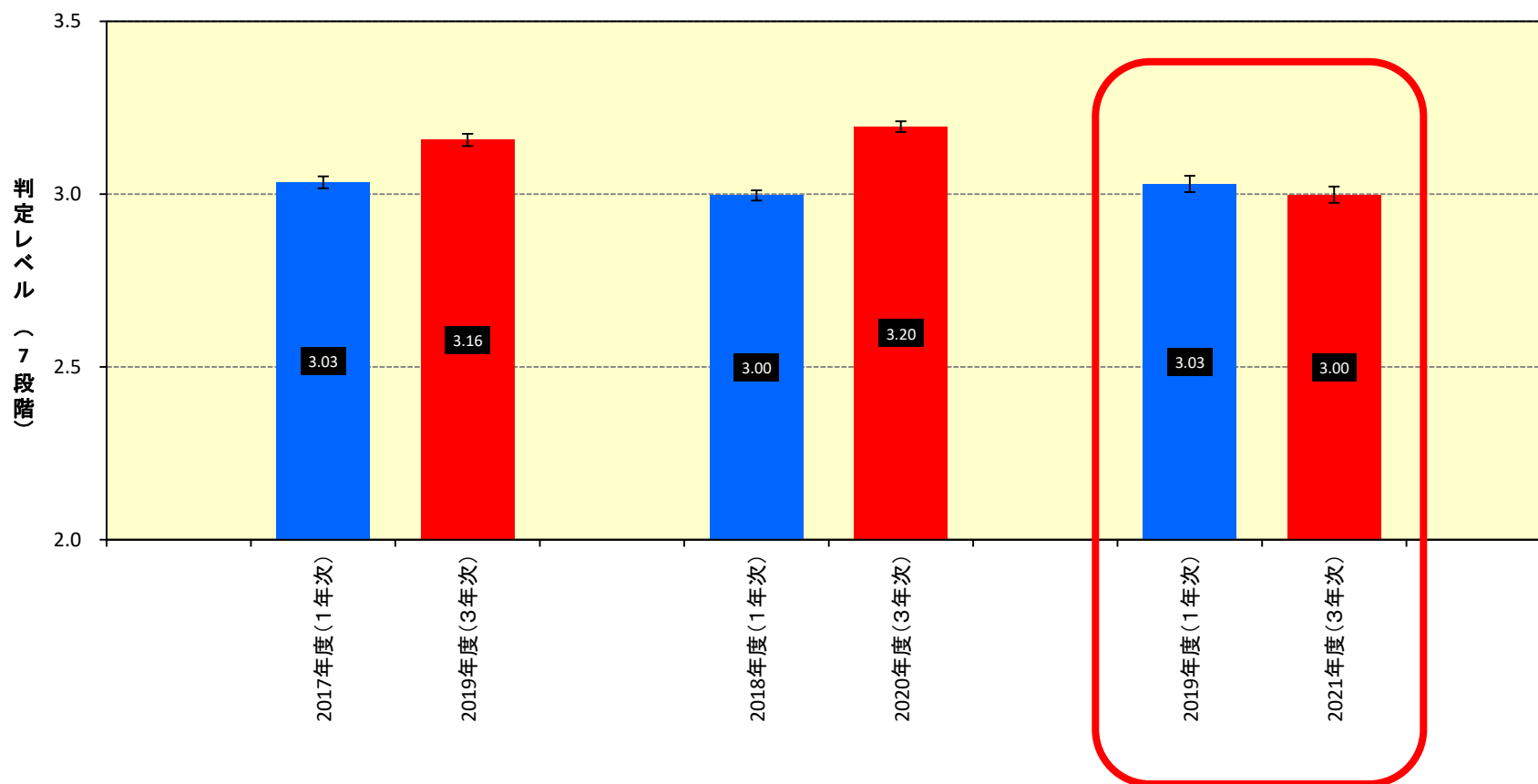
コロナ禍





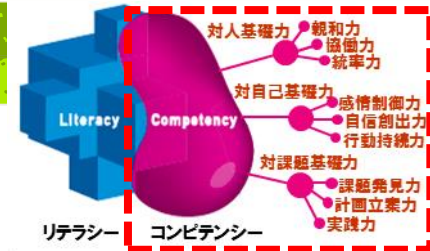
- 2019年度(3年次)、2020年度(3年次)は、1年次受験のスコアを上回る。
- 2021年度(3年次)は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー総合



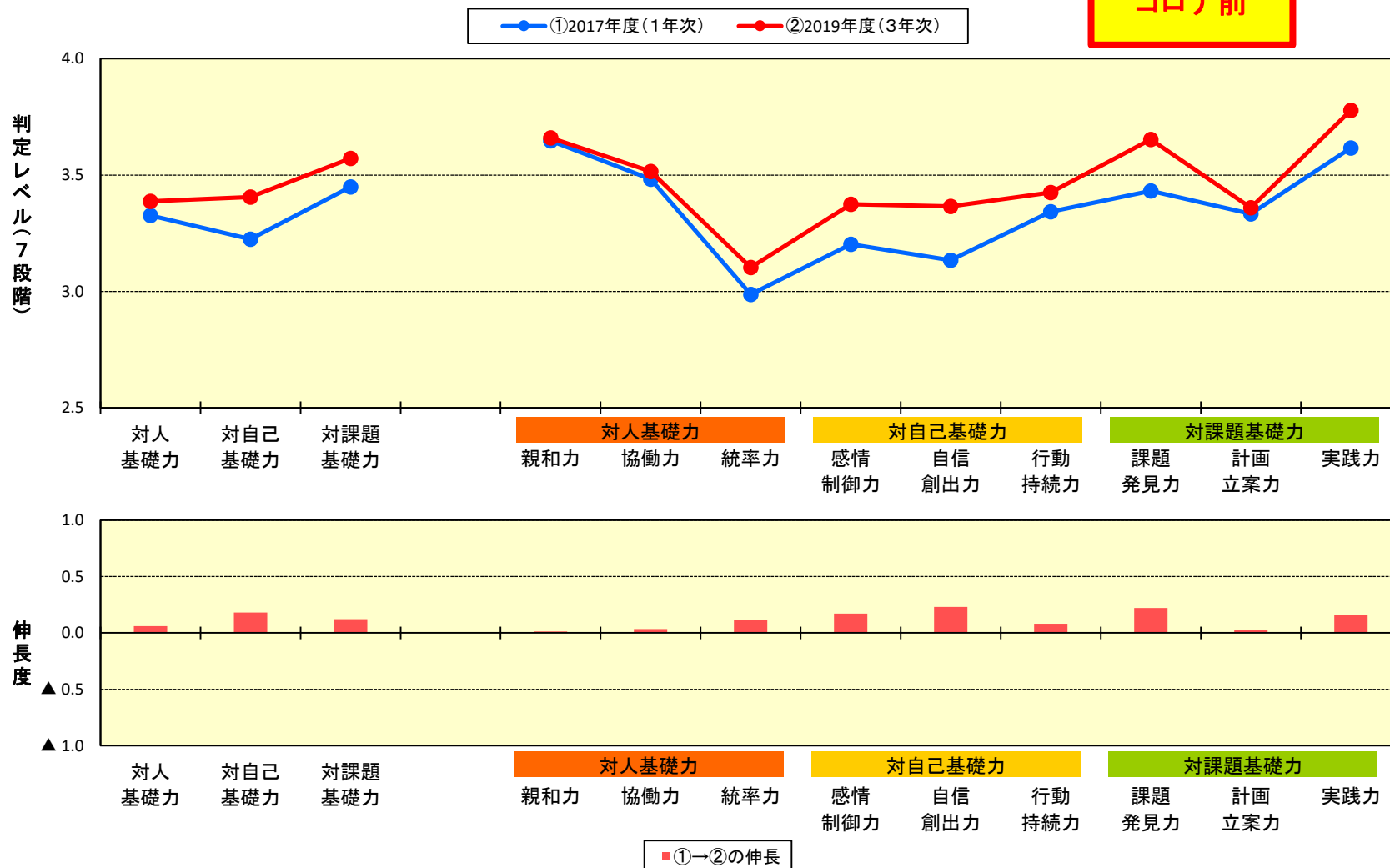
【2019年度3年】

親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。



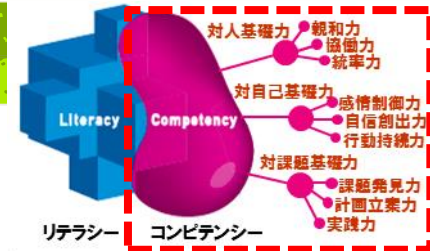
コンピテンシー要素の伸長

コロナ前



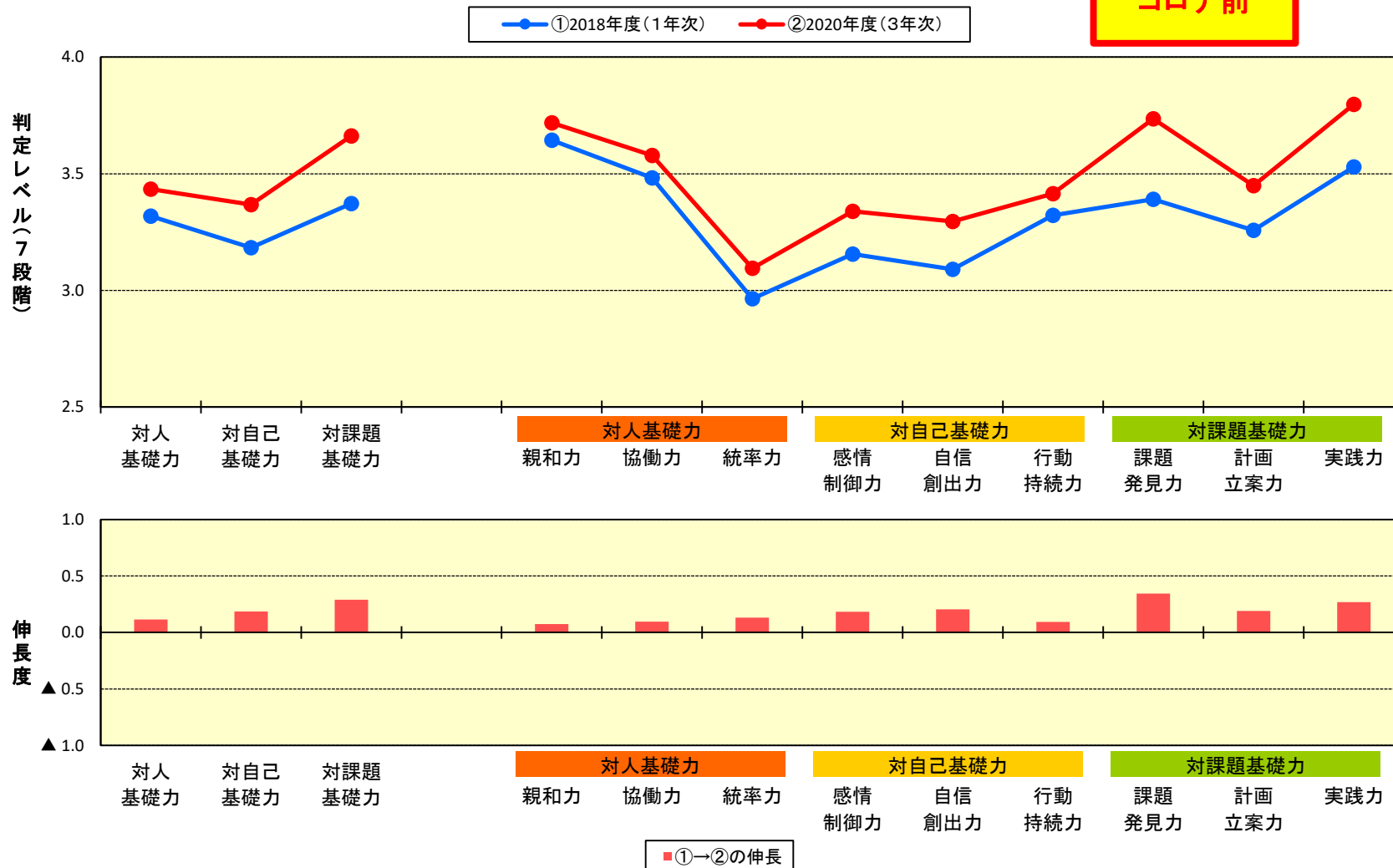
【2020年度3年】

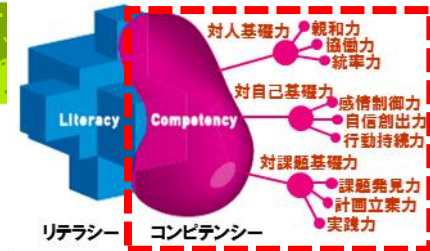
親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。



コンピテンシー要素の伸長

コロナ前





【2021年度3年】

感情制御力、課題発見力、計画立案力、実践力は、1年次受験のスコアを上回る。

一方、親和力、協働力、統率力、自信創出力、行動持続力は、1年次受験のスコアを下回る。

コンピテンシー要素の伸長

コロナ禍

